

Interstage List Creator V1 powered by Windows Azure (1.1.0)

PDF変換機能編

Windows

B1WD-3026-02Z0(00)
2012年5月

まえがき

本書は、PDF 変換機能の概要、および前提となる事柄について説明しています。

本書の内容は、各オペレーティングシステムで共通となっています。

本書の構成

本書は、次の構成になっています。

第 1 章 PDF 変換機能とは

PDF 変換機能の概要について説明します。

第 2 章 PDF 変換機能の利用手順

PDF 変換機能の運用形態と、その設定について説明します。

第 3 章 運用上の注意

PDF 変換機能の運用上の注意について説明します。

付録 A PDF 変換機能一覧

PDF 変換を行う機能範囲について説明します。

付録 B PDF 手元非表示印刷機能 Web サーバサンプルプログラム

PDF 手元非表示印刷機能 Web サーバサンプルプログラムについて説明します。

付録 C V9.0.1 以前の PDF 手元非表示印刷クライアント環境設定ツール

V9.0.1 以前の PDF 手元非表示印刷クライアント環境設定ツールについて説明します。

著作権

Microsoft Corporation のガイドラインに従って画面写真を使用しています。

Copyright 2033-2012 FUJITSU LIMITED

© PFU LIMITED 2033-2012

マニュアルの体系と読み方

本書をお読みにする前に、オンラインマニュアル“マニュアル体系と読み方”をお読みください。

オンラインマニュアル“マニュアル体系と読み方”には、List Creator のマニュアル体系、マニュアルの読み方、表記上の規則、対象読者と前提知識、用語の対応表、および商標などについて記載されています。

目次

第 1 章 PDF 変換機能とは	7
1.1 機能概要	8
1.1.1 独自の PDF 生成エンジン	9
1.1.2 既存の帳票資産の活用	10
1.1.3 帳票設計時のフォントが使えます	10
1.1.4 高精度なバーコード生成	11
1.1.5 PDF ファイルのセキュリティ / 暗号化	12
1.1.6 PDF 閲覧制限機能	12
1.1.7 PDF 手元非表示印刷	14
1.1.8 PDF リモート印刷	17
1.1.9 PDF 自動印刷機能	19
1.1.10 PDF メール配信	20
1.1.11 PDF ファイル操作	22
1.1.12 MeFt との連携	23
1.1.13 メインフレーム帳票データの PDF 変換	24
1.1.14 List Works との連携	25
1.1.15 Charset Manager との連携	26
1.2 動作環境	27
第 2 章 PDF 変換機能の利用手順	29
2.1 基本運用形態	30
2.1.1 List Creator 単体での PDF ファイルの出力	30
2.1.1.1 PDF ファイル出力を行う	30
2.1.1.2 PDF メール配信を行う	31
2.1.2 帳票設計時のフォントを PDF 中に使用する	36
2.1.3 PDF 手元非表示印刷を行う	42
2.1.4 PDF リモート印刷を行う	42
2.1.5 セキュアなメール配信を行う	43
2.1.6 MeFt と連携した PDF ファイルの出力	48
2.1.7 Server2000 ホスト連携プレミアムと連携した PDF ファイルの出力 ..	49
2.1.8 List Works と連携した PDF ファイルの出力	50
2.1.9 外字を使用した PDF の出力方法	51
2.2 細かな PDF の設定が必要な運用形態	55
2.2.1 帳票出力時に使用する PDF 文書情報ファイルの指定方法	55
2.2.2 PDF 文書情報ファイルの書式	56
2.2.3 帳票出力時に使用する PDF 文書情報ファイルのキーワード一覧	57
2.2.4 帳票出力時に使用する PDF 文書情報ファイルのキーワード説明	59
2.2.5 帳票出力時に使用する PDF 文書情報ファイルの記述例	80

2.2.6	PDF メール配信情報ファイル/PDF メール環境設定ファイルの 指定方法.....	81
2.2.7	PDF メール配信情報ファイル/PDF メール環境設定ファイルの書式..	81
2.2.8	PDF メール配信情報ファイルのキーワード一覧.....	83
2.2.9	PDF メール配信情報ファイルのキーワード説明.....	85
2.2.10	PDF メール環境設定ファイルのキーワード一覧.....	93
2.2.11	PDF メール環境設定ファイルの説明.....	94
2.2.12	PDF メール配信情報ファイル/PDF メール環境設定ファイルの 記述例.....	104
2.3	PDF ファイル操作コマンド.....	105
2.3.1	pmfmerge (PDF ファイルの結合).....	106
2.3.2	pmfsplit (PDF ファイルからページの抽出).....	108
2.3.3	pmdocinf (PDF ファイルの文書情報操作).....	112
2.3.4	pmsecinf (PDF ファイルのセキュリティ操作).....	114
2.3.5	pmpagcnt (PDF ファイルのページ数取得).....	117
2.3.6	pmexteff (PDF ファイルの添付ファイル操作).....	118
2.3.7	PDF 操作コマンドで使用する PDF 文書情報ファイル.....	122
2.3.8	PDF 操作コマンドで使用する PDF 文書情報ファイルの キーワード一覧.....	122
2.3.9	PDF 操作コマンドで使用する PDF 文書情報ファイルの キーワード説明.....	123
2.3.10	PDF 操作コマンドで使用する PDF 文書情報ファイルの記述例.....	133
2.3.10.1	PDF 操作コマンドで設定を行う PDF 文書情報ファイルの 記述例.....	133
2.3.10.2	PDF 操作コマンドで取得した PDF 文書情報ファイルの インストール.....	133
2.3.11	PDF 操作コマンドエラーメッセージ一覧.....	134
2.4	証明書管理環境定義ファイル/証明書管理コマンド.....	138
2.4.1	証明書管理環境定義ファイルのキーワード一覧.....	138
2.4.2	証明書管理コマンドの一覧.....	142
2.4.3	証明書管理コマンドの説明.....	142
2.4.3.1	lcsetenv (証明書管理環境作成コマンド).....	142
2.4.3.2	lcrmenv (証明書管理環境削除コマンド).....	144
2.4.3.3	lcaddcert (証明書追加コマンド).....	145
2.4.3.4	lrmcert (証明書削除コマンド).....	146
2.4.3.5	lclistcert (CA 局証明書一覧表示コマンド).....	147
2.4.3.6	lcchpasswd (証明書パスワード変更コマンド).....	147
2.5	PDF 手元非表示印刷の環境設定.....	150
2.5.1	PDF 手元非表示印刷の環境設定概要.....	150
2.5.2	Web サーバの環境設定.....	150
2.5.3	Web クライアントの環境設定.....	151
2.5.3.1	PDF 手元非表示印刷クライアント環境設定プログラムの インストール.....	151

2.5.3.2	PDF 手元非表示印刷クライアント環境設定プログラムの 設定	151
2.5.4	Web ブラウザに PDF ファイルをダウンロードさせるしくみ	153
2.5.5	注意事項	154
2.6	PDF リモート印刷の環境設定	156
2.6.1	PDF リモート印刷の環境設定概要	156
2.6.2	クライアントの環境設定	156
2.6.2.1	PDF リモート印刷プログラムのインストール	156
2.6.2.2	PDF リモート印刷プログラムの設定手順	156
2.6.2.3	PDF リモート印刷プログラムの監視フォルダ構成	156
2.6.2.4	PDF リモート印刷プログラムの監視画面	157
2.6.2.5	PDF リモート印刷プログラムの監視フォルダ設定画面	159
2.6.2.6	PDF リモート印刷プログラムの環境設定画面	161
2.6.2.7	PDF リモート印刷プログラムの注意事項	163
2.6.2.8	PDF リモート印刷プログラムのエラーメッセージ	163
第 3 章 運用上の注意		166
3.1	帳票設計時の注意事項	167
3.1.1	帳票様式情報設計時の注意事項	167
3.1.2	帳票業務情報設定時の注意事項	169
3.2	アプリケーション作成時の注意事項	171
3.2.1	文字の表示	171
3.2.1	文字の表示	171
3.2.2	作業ファイルの生成	171
3.2.3	フルスクリーン表示	172
3.3	Adobe Reader の注意事項	173
3.3.1	Adobe Reader の版数	173
3.3.2	PDF ファイルの制限	174
3.3.3	PDF ファイルの検索	174
3.3.4	網がけパターン	174
3.3.5	破線パターン	174
3.3.7	PDF ファイルの印刷	175
3.3.8	ファイル添付機能	175
3.3.9	イメージ透過機能	176
3.3.10	Acrobat JavaScript の設定	176
3.3.11	帳票業務情報と Acrobat 製品画面の対応	176
3.4	オーバーレイに関する注意事項	179
3.5	バーコードに関する注意事項	181
3.6	PDF メール配信時の注意事項	183
3.6.1	作業ファイルの作成について	183
3.6.2	帳票業務情報と電子メールソフトウェア機能の対応	183

付録 A	PDF 変換機能一覧.....	184
A.1	ListCreator デザイナーによる帳票設計時のサポート一覧	185
A.1.1	帳票様式情報のサポート一覧.....	185
A.1.2	帳票業務情報のサポート一覧.....	193
A.1.3	出力できる文字について	194
A.1.3.1	帳票に指定できる文字	194
A.1.3.2	帳票の文字コード変換	195
A.1.3.3	入力データに指定できる文字	195
A.1.4	その他の留意事項.....	197
A.2	PDF 変換機能一覧	198
付録 B	PDF 手元非表示印刷機能 Web サーバサンプルプログラム	204
B.1	Java インタフェース版サンプルプログラム.....	205
B.2	CFX カスタムタグインタフェース (ColdFusion MX) 版のサンプル	209
付録 C	V9.0.1 以前の PDF 手元非表示印刷クライアント環境設定ツール	212
C.1	V9.0.1 以前の PDF 手元非表示印刷を行う	213
C.2	V9.0.1 以前の PDF 手元非表示印刷の環境設定.....	213
C.2.1	V9.0.1 以前の PDF 手元非表示印刷の環境設定概要	213
C.2.2	Web サーバの環境設定	214
C.2.3	V9.0.1 以前の PDF 手元非表示印刷クライアント環境設定ツール	214
C.2.4	Web クライアントの環境設定	216
C.2.4.1	ファイルタイプの設定	217
C.2.5	Web ブラウザに PDF ファイルをダウンロードさせるしくみ.....	218
C.2.6	注意事項	219
索引	221

第 1 章

PDF 変換機能とは

ここでは、PDF 変換機能の概要について説明します。

1.1 機能概要

List Creator PDF 変換機能（以降、PDF 変換機能と表記します）は、オープン帳票データ、またはメインフレーム帳票データをコンパクトなファイルサイズの PDF ファイルへ高速に変換することが可能です。

【機能】

- PDF ファイル生成機能
- PDF メール配信機能
- PDF 手元非表示印刷機能
- PDF リモート印刷機能
- PDF ファイルの結合 / 抽出等の操作機能

【特長】

- 独自の PDF 生成エンジンにより高速な変換ができます。
- 独自の PDF 生成エンジンの技術により、コンパクトな PDF ファイルが生成でき、インターネット配信時の回線負荷を軽減できます。
- Acrobat で表示するときに、しおりの表示、フルスクリーン表示、メニューバーやツールバーなどを非表示にするなど、様々な設定ができます。
- 帳票設計時に使用したフォントを、そのまま PDF に使用することができます。
- 富士通フォームオーバーレイ形式をサポートしており、既存の帳票資産を活用することができます。
- 出力装置を問わず精度の高いバーコードの出力が可能です。
- 暗号化 / セキュリティ機能によって、インターネット上でのセキュリティも万全です。
- SecurePackage との連携で、メール配信時のセキュリティや送達確認が行えます。
- Web クライアントに特別な Plug-in をインストールしなくても自動的に印刷することができます。
- 遠隔拠点に配信された PDF を指定されたプリンタに自動的に印刷することができます。
- MeFt で作成した帳票データを PDF に変換することができます。
- メインフレーム帳票データを PDF に変換することができます。
- List Works と連携することで、電子帳票データを PDF に変換することができます。
- 外字（利用者定義文字と JEF 拡張文字）フォントがクライアントにインストールされていなくても、アウトラインフォントで美しく表示 / 印刷することができます。
- PDF に関覧期限 / 閲覧期間、閲覧可能な URI などを設定し、閲覧制限を設定することができます。
- EAN-128（コンビニエンスストア向け）バーコードに対して、バーコードのモジュール幅を調整することができます。
モジュール幅の調整は、List Creator デザイナの「バーコード項目」の [プロパティ] タブで調整できます。詳細については、デザイナーヘルプを参照してください。
- List Creator で生成した既存の PDF ファイルを結合したり、所定のページを抽出したりするファイル操作が可能です。



備考

- 機能範囲には、動作環境による違いがあります。詳細は以下を参照してください。
⇒ “付録 A PDF 変換機能一覧”

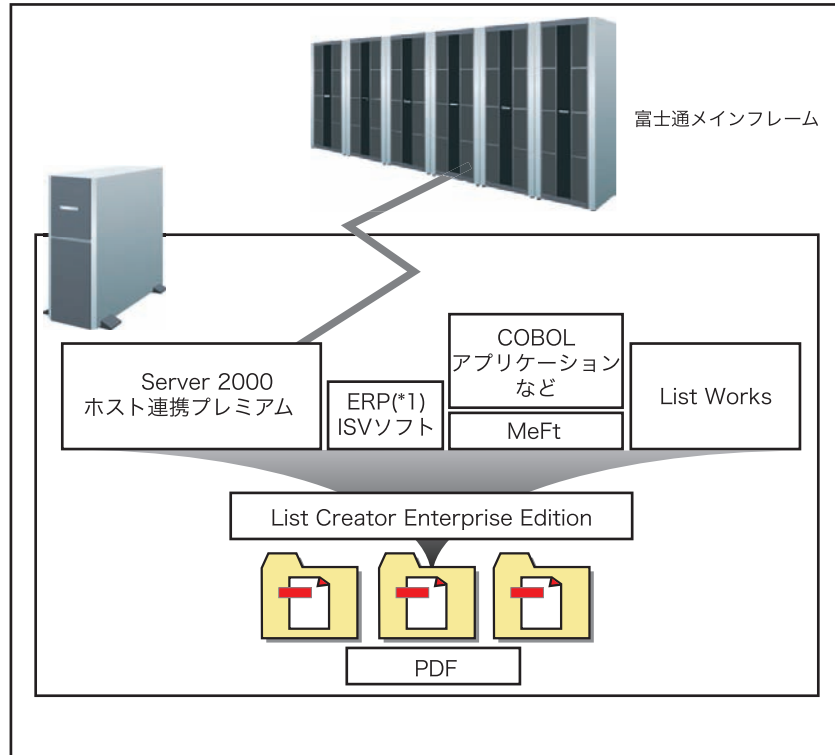


図 1.1 機能概要

1.1.1 独自の PDF 生成エンジン

帳票ミドルウェアとのシームレスな連携により、コンパクトで高速な PDF 生成を実現しています。

また、PDF ファイル情報としてタイトル/サブタイトル/作成者の設定が行えるため、作成した PDF ファイルの用途や目的を明確にしておくことができます。

しおりの作成、しおりの表示により、大量ページの PDF ファイルの検索性が向上されます。

Acrobat のツールバー/メニューバー/タイトルバーの表示/非表示機能や、初期表示ページの指定やページ表示倍率の指定など、運用に応じた Acrobat の表示スタイルをあらかじめ PDF 中に指定することが可能です。

PDF ファイルの出力を目的とする場合、印刷アプリケーションから List Creator を呼び出すことによって、「PDF 変換機能」を利用することができます。

図 1.2 に List Creator としての PDF 変換機能の基本運用形態を示します。

次に、基本運用形態について具体的に説明します。

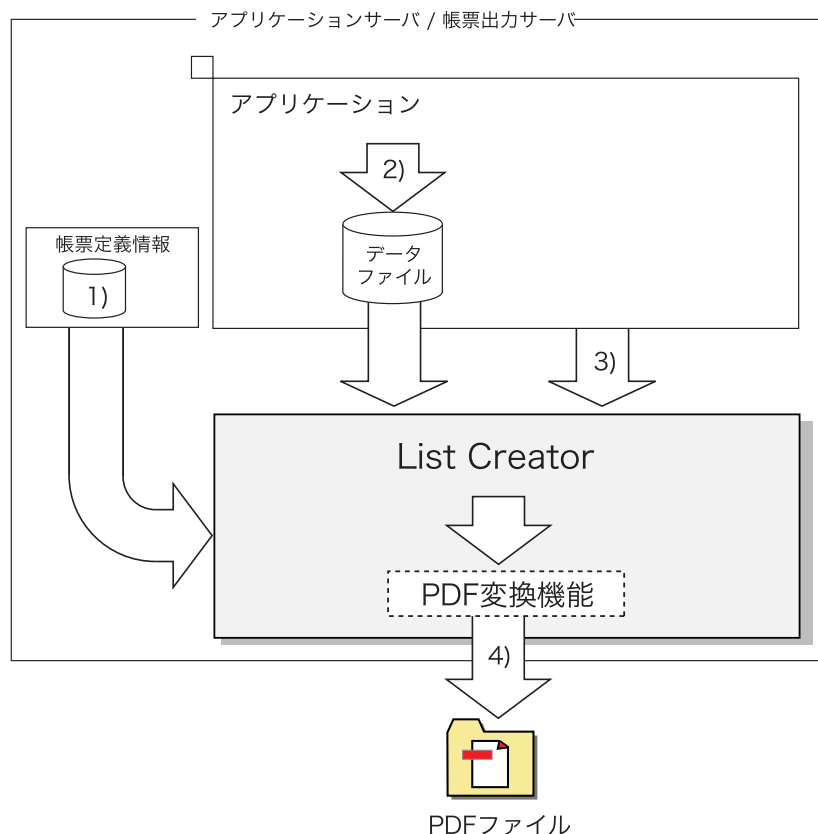


図 1.2 基本運用形態による PDF ファイル出力の具体例

- 1) 帳票定義情報をアプリケーションサーバ/帳票出力サーバ上に配置します。
- 2) アプリケーションを実行すると、データファイルに List Creator の入力となるデータが作成されます。
- 3) アプリケーションは、List Creator の帳票出力を実行します。
List Creator の帳票出力については、以下のマニュアルを参照してください。
 - List Creator 帳票出力インタフェース使用時
オンラインマニュアル "アプリケーション作成ガイド"
 - COBOL アプリケーション連携機能使用時
オンラインマニュアル "COBOL アプリケーション連携機能編"
- 4) List Creator は、2) の入力データを 1) で配置した帳票定義情報にしたがって出力 (PDF ファイル出力) します。

1.1.2 既存の帳票資産の活用

オーバーレイを使用した帳票を PDF に変換できます。PDF ファイル内でオーバーレイデータを一元管理することによりコンパクトな PDF ファイルを実現しています。

オーバーレイは、新規作成したオーバーレイ、および既存のオーバーレイを使用することができます。富士通オーバーレイ形式 (KOL1、KOL5、KOL6) をサポートします。

1.1.3 帳票設計時のフォントが使えます

Windows などでお使いの TrueType フォントを List Creator に登録することで、同一フォントの利用が可能になります。フォントの登録方法については、以下を参照してください。

⇒ [“2.1.2 帳票設計時のフォントを PDF 中に使用する”](#)

1.1.4 高精度なバーコード生成

以下のバーコードをベクトル形式で表現するため、出力装置を問わず、高精度に PDF 変換することができます。

- 標準物流
- 拡張物流
- JAN 標準
- JAN 短縮
- Code 3 of 9
- Code 3 of 9 (EIAJ 準拠)
- Code 3 of 9 (EIAJ 準拠) で出力できる様式は、様式 C-3 ラベル、様式 D ラベル、標準納品書、および標準返品伝票の 1 段表記です。
- Code 3 of 9 (EIAJ 準拠) は、「EIAJ 準拠 2001 年版」に準拠しています。
- Industrial 2 of 5
- Interleaved 2 of 5
- NW-7
- カスタマバーコード
- Code 128
- EAN-128
- EAN-128 (コンビニエンスストア向け)
- 「UCC/EAN-128 による標準料金代理収納ガイドライン」に準拠しています。
- UPC バージョン A
- UPC バージョン E
- EAN-13
- U.S. POSTNET (Delivery Point Code)
- U.S.POSTNET (ZIP+4 Code)
- U.S.POSTNET (5-Digit ZIP Code)
- QR Code (モデル 1)
- QR Code (モデル 2)
- QR Code (マイクロ QR)
- PDF417
- MaxiCode
- FIM A (U.S. Postal FIM)
- FIM B (U.S. Postal FIM)
- FIM C (U.S. Postal FIM)
- Intelligent Mail Barcode
- GS1 DataBar Omnidirectional
- GS1 DataBar Stacked
- GS1 DataBar Stacked Omnidirectional
- GS1 DataBar Truncated
- GS1 DataBar Limited
- GS1 DataBar Expanded
- GS1 DataBar Expanded Stacked

バーコードを PDF 変換する場合の注意事項に関しては、以下を参照してください。

⇒ [“3.5 バーコードに関する注意事項”](#)

1.1.5 PDF ファイルのセキュリティ / 暗号化

取引伝票などの改ざん防止のため、コピー & ペースト抑止機能、印刷抑止機能、およびパスワードによるファイルのセキュリティを行うことができます。また、機密漏洩を防止するために、PDF 変換機能は PDF ファイルを生成するときに暗号化します。そのため、インターネット上でのセキュリティが保てます。

暗号化には、40bit 暗号化と強度の高い 128bit 暗号化を選択することができます。

128bit 暗号化では、細かなセキュリティオプションを設定することができます。

設定内容については、以下を参照してください。

⇒ “2.2.1 帳票出力時に使用する PDF 文書情報ファイルの指定方法”

1.1.6 PDF 閲覧制限機能

List Creator デザイナで作成した帳票定義を元に、入力データから作成した帳票を PDF 変換機能を使って出力した PDF ファイルに、URI（閲覧可能なサイト）、閲覧期限 / 閲覧期間などを設定し、PDF ファイルの閲覧を制限できます。

また、動作条件に合致しないときに白紙のページで PDF ファイルの内容を隠すことができます。



備考

- PDF 閲覧制限機能は、List Creator デザイナで帳票設計時に閲覧制限を設定した帳票のみ使用できます。
PDF 閲覧制限機能は List Creator デザイナの「文書情報設定画面」で設定します。「文書情報設定画面」の詳細については、オンラインマニュアル“帳票設計編”の「文書情報設定画面」についての記載を参照してください。
なお、閲覧可能なサイト（URI）は、PDF 文書情報ファイルのキーワードで設定できます。詳細については、以下を参照してください。
⇒ “2.2.3 帳票出力時に使用する PDF 文書情報ファイルのキーワード一覧”
また、閲覧期限、閲覧期間は、帳票出力時に指定可能です。詳細については、オンラインマニュアル“アプリケーション作成ガイド”を参照してください。
- PDF 閲覧制限機能を使用する場合には、PDF ファイルのセキュリティオプションおよびセキュリティオプション変更パスワードを設定してください。設定を行わないと、閲覧者が PDF 文書の変更を行うことが可能になるため、閲覧者に閲覧制限機能を無効にされる場合があります。
PDF ファイルのセキュリティオプションおよびセキュリティオプション変更パスワードの詳細については、以下を参照してください。
 - ・ “2.2.3 帳票出力時に使用する PDF 文書情報ファイルのキーワード一覧”
 - ・ オンラインマニュアル“アプリケーション作成ガイド”
- PDF 自動印刷機能との併用はできません。PDF 閲覧制限機能と PDF 自動印刷機能を同時に指定した場合、PDF 自動印刷機能は無効となります。
PDF 自動印刷機能の詳細については、以下を参照してください。
⇒ “1.1.9 PDF 自動印刷機能”
- PDF 閲覧制限機能は Acrobat の Acrobat JavaScript 機能を使用しているため、Acrobat JavaScript が無効になっている場合、閲覧可能な場合でも閲覧ができない、閲覧制限の設定条件にかかわらず白紙ページが表示される、など、正しく動作しない場合があります。PDF 閲覧制限機能を使用する場合は、必ず Acrobat JavaScript を有効にしてください。
Acrobat JavaScript の設定については、以下を参照してください。
⇒ “3.3.10 Acrobat JavaScript の設定”

● URI 閲覧制限設定

URI 閲覧制限設定とは、Web ブラウザで PDF ファイルを表示する場合に、URI（閲覧可能なサイト）を設定し、設定した URI 以外からの PDF ファイル閲覧を制限する設定です。

また、設定した URI 以外から PDF ファイルを閲覧しようとしたとき、Acrobat 上にダイアログメッセージが表示されます。ダイアログメッセージに表示する文字列は、任意に設定できます。

URI 閲覧制限設定は、List Creator デザイナの「文書情報設定画面（閲覧制限）」でおこないます。文書情報設定画面（閲覧制限）の詳細は、オンラインマニュアル“帳票設計編”の「文書情報設定画面」についての記載を参照してください。



注意

- URI パスにアルファベット以外の文字が含まれる場合、使用する Acrobat の版数によって URI 閲覧制限機能が正しく動作しない場合があります。そのため、Web サーバ上の PDF ファイルの配置パスは、アルファベット以外の文字が含まれない場所へ格納してください。
- URI の指定に使用できる文字は、半角英数字、記号、および半角空白です。なお、半角空白はパーセントエンコーディングを使用して「%20」と指定してください。
- URI に、半角空白「%20」以外のパーセントエンコーディング（「%XX」）を指定した場合、使用する Acrobat の版数により正しく動作しない場合があります。
- http、および https スキームが対象となります。

● 閲覧期限設定 / 閲覧期間設定

閲覧期限設定とは、設定された期限（閲覧開始日から閲覧終了日まで）に該当しない場合に、PDF ファイルの閲覧を制限する設定です。閲覧期限は、年月日および時分秒で設定できます。

閲覧期間設定とは、PDF 作成日時から設定した期間を過ぎた場合に、PDF ファイルの閲覧を制限する設定です。閲覧期間は日数で設定するため、閲覧制限は、設定した日数×24 時間となります。24 時間を 1 日として扱うため、閲覧制限により参照できなくなるのは、日付が変わるタイミングではありません。

また、閲覧期限 / 閲覧期間による閲覧制限に該当したときに、ダイアログメッセージが表示されます。ダイアログメッセージに表示する文字列は、任意に設定できます。

閲覧期限設定 / 閲覧期間設定は、List Creator デザイナの「文書情報設定画面（閲覧制限）」でおこないます。文書情報設定画面（閲覧制限）の詳細は、オンラインマニュアル「帳票設計編」の「文書情報設定画面」についての記載を参照してください。



注意

- Acrobat 上に表示する任意のダイアログメッセージは、List Creator デザイナの「文書情報設定画面（閲覧制限）」でのみ設定できます。

● ページマスク機能

ページマスク機能とは、URI 閲覧制限、および閲覧期限 / 閲覧期間で設定した閲覧制限に該当したとき、白紙のページで PDF ファイルの内容を隠す機能です。白紙ページの上に任意のメッセージを表示することができるため、PDF ファイルの内容が閲覧制限のために隠れていることを知らせることができます。

ページマスク機能は、List Creator デザイナの「文書情報設定画面（動作）」でおこないます。文書情報設定画面（動作）の詳細は、オンラインマニュアル「帳票設計編」の「文書情報設定画面」についての記載を参照してください。



注意

- 「PDF 文書情報設定画面（動作）」で「ページをマスクする」を指定し、白紙のページで PDF ファイルの内容を隠した状態でも、隠された内容を選択して抽出 / コピーすることが可能です。そのため、セキュリティオプション（PDF-SELECT）で「テキストとグラフィックスの選択の許可」を「許可しない」に設定することを推奨します。この指定により、内容の抽出 / コピーを防止できるため、よりセキュアな PDF ファイルを生成できます。セキュリティオプションの詳細については、以下を参照してください。
⇒ “2.2.3 帳票出力時に使用する PDF 文書情報ファイルのキーワード一覧”

1.1.7 PDF 手元非表示印刷

PDF 変換機能を使って出力した PDF ファイルを、Web クライアントで自動的に印刷することが可能です。これを、PDF 手元非表示印刷と呼びます。

PDF 手元非表示印刷では、Adobe Reader の機能を使用して印刷を実行するため、Web クライアント側にプラグインなどをインストールしなくても、Adobe Reader がインストールされていれば、手元非表示印刷が行えます。



注意

- PDF 手元非表示印刷する場合、以下のように PDF ファイルを生成してください。
 - ・ 印刷の許可を設定して PDF ファイルを生成してください。
PDF 文書情報ファイルの場合、セキュリティオプション (PDF-PRINT) で印刷の許可を設定してください。
List Creator デザイナの場合、List Creator デザイナの帳票業務情報のプロパティ画面の [ファイル] タブの文書情報設定画面で印刷の許可を設定してください。
 - ・ PDF ファイルを開く際に必要なパスワードを設定せずに PDF ファイルを生成してください。
PDF 文書情報ファイルの場合、セキュリティオプション (PDF-OPENPWD) を設定しないでください。
帳票出力時に、PDF ファイルを開くパスワードを設定しないでください。
PDF 文書情報ファイルのキーワードについては、以下を参照してください。
⇒ “2.2.3 帳票出力時に使用する PDF 文書情報ファイルのキーワード一覧”
List Creator デザイナの文書情報設定画面の詳細については、オンラインマニュアル“帳票設計編”の「文書情報設定画面」についての記載を参照してください。
帳票出力時に指定する PDF ファイルを開くパスワードについては、オンラインマニュアル“アプリケーション作成ガイド”を参照してください。



備考

- Web クライアントには Adobe Acrobat 7.0 以降または Adobe Reader 7.0 以降がインストールされている必要があります。

PDF 手元非表示印刷では、次の 2 種類の印刷が可能です。

- サイレント印刷
Web クライアントで通常使うプリンタとして定義されたプリンタに、プレビューせずに印刷します。
- プリンタ選択ダイアログ表示印刷
印刷実行前にプリンタ選択ダイアログボックスを表示し、ユーザが出力先プリンタを選択してから印刷を実行します。

これらの印刷方法の指定は、PDF ファイルの拡張子によって行います。サイレント印刷を行う場合は、PDF ファイル名の拡張子に「.pd1」を、プリンタ選択ダイアログ表示印刷を行う場合は、PDF ファイル名の拡張子に「.pd2」を設定することによって、印刷方法を指定できます。

PDF 手元非表示印刷を行うためには、Web サーバと Web クライアントの環境設定が必要です。また、Web クライアントに PDF ファイルを復帰するため、Web サーバにアプリケーションを作成する必要があります。

これらの詳細については、以下を参照してください。

⇒ “2.5 PDF 手元非表示印刷の環境設定”

以下に、PDF 手元非表示印刷の流れについて説明します。

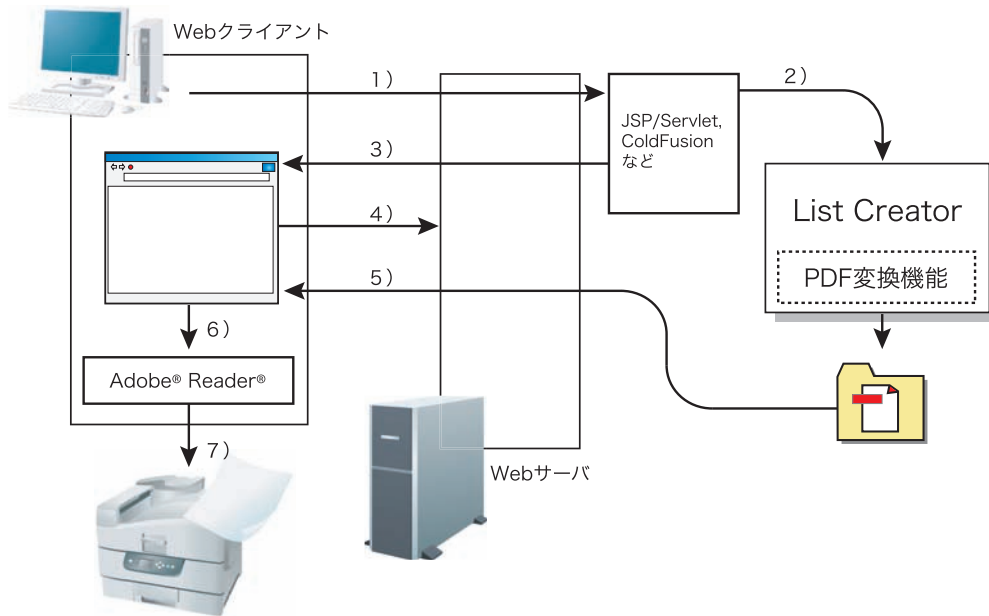


図 1.3 PDF 手元非表示印刷の流れ

- 1) Web クライアントが、Web サーバのアプリケーションを呼び出し、手元非表示印刷を行う PDF ファイルを Web サーバに要求します。
- 2) Web サーバのアプリケーションでは List Creator を起動し、PDF ファイルを出力します。このとき、手元非表示印刷用の PDF ファイルであることを示すため、ファイル名の拡張子に印刷方法に対応する文字列を指定して、PDF ファイルを保存します。この PDF ファイルは、Web クライアントからダウンロードできるように、URL で参照できるようにする必要があります。

List Creator は、帳票出力インターフェースを提供しており、これらの帳票出力インターフェースを使って PDF ファイルを出力するアプリケーションを作成することが可能です。帳票出力インターフェースの詳細については、オンラインマニュアル“アプリケーション作成ガイド”を参照してください。

- 3) Web サーバのアプリケーションが、Web クライアントに手元非表示印刷を行う PDF ファイルの URL を通知し、この URL のファイルをダウンロードするよう Web クライアントに指示します。
- 4) Web クライアントは、Web サーバから通知された URL のファイルのダウンロード要求を、Web サーバに行います。
- 5) Web サーバは、PDF ファイルの URL を Web クライアントに通知し、Web クライアントはファイルをダウンロードします。
- 6) Web クライアントは、ダウンロードした PDF ファイルの拡張子（または、MIME タイプ）を参照し、サイレント印刷か、プリンタ選択ダイアログ表示印刷かを判断します。そして、印刷方法に対応した方法で Adobe Reader を起動します。
- 7) Adobe Reader が、指定された印刷指示にしたがい、サイレント印刷、またはプリンタ選択ダイアログ表示印刷を実行します。

PDF 手元非表示印刷を行うためには、以下の環境が必要です。

Web サーバ

動作可能な Web サーバの制限はありません。ただし、MIME タイプの定義が可能である必要があります。

Web ブラウザ

以下の Web ブラウザをサポートしています。

- Microsoft Internet Explorer 4.01 以降 (Windows 版)


Adobe Acrobat または Adobe Reader

Web クライアントには、Adobe Acrobat 7.0 以降または Adobe Reader 7.0 以降があらかじめインストールされ、かつ印刷が実行できるよう設定されている必要があります。


1.1.8 PDF リモート印刷

PDF 変換機能を使って出力した PDF ファイルを、遠隔地にあるクライアントの所定フォルダに送信することで、自動的に印刷することが可能です。これを、PDF リモート印刷機能と呼びます。

PDF リモート印刷では、クライアントにて PDF リモート印刷プログラムと Adobe Reader の機能を使用して印刷するため、クライアントの動作言語等の環境に依存せずに PDF ファイルのリモート印刷が可能です。

 **注意**

- PDF リモート印刷する場合、以下のように PDF ファイルを生成してください。
 - ・ 印刷の許可を設定して PDF ファイルを生成してください。
PDF 文書情報ファイルの場合、セキュリティオプション (PDF-PRINT) で印刷の許可を設定してください。
List Creator デザイナの場合、List Creator デザイナの帳票業務情報のプロパティ画面の [ファイル] タブの文書情報設定画面で印刷の許可を設定してください。
 - ・ PDF ファイルを開く際に必要なパスワードを設定せずに PDF ファイルを生成してください。
PDF 文書情報ファイルの場合、セキュリティオプション (PDF-OPENPWD) を設定しないでください。
帳票出力時に、PDF ファイルを開くパスワードを設定しないでください。
PDF 文書情報ファイルのキーワードについては、以下を参照してください。
⇒ [“2.2.3 帳票出力時に使用する PDF 文書情報ファイルのキーワード一覧”](#)
List Creator デザイナの文書情報設定画面の詳細については、オンラインマニュアル“帳票設計編”の「文書情報設定画面」についての記載を参照してください。
帳票出力時に指定する PDF ファイルを開くパスワードについては、オンラインマニュアル“アプリケーション作成ガイド”を参照してください。

 **備考**

- Web クライアントには Adobe Acrobat 9.0 以降または Adobe Reader 9.0 以降がインストールされている必要があります。

なお、PDF ファイルをクライアントに配置するには Windows によるファイル共有や FTP サーバの機能を使用してください。

これらの詳細については、以下を参照してください。

⇒ [“2.6 PDF リモート印刷の環境設定”](#)

以下に、PDF リモート印刷の流れについて説明します。

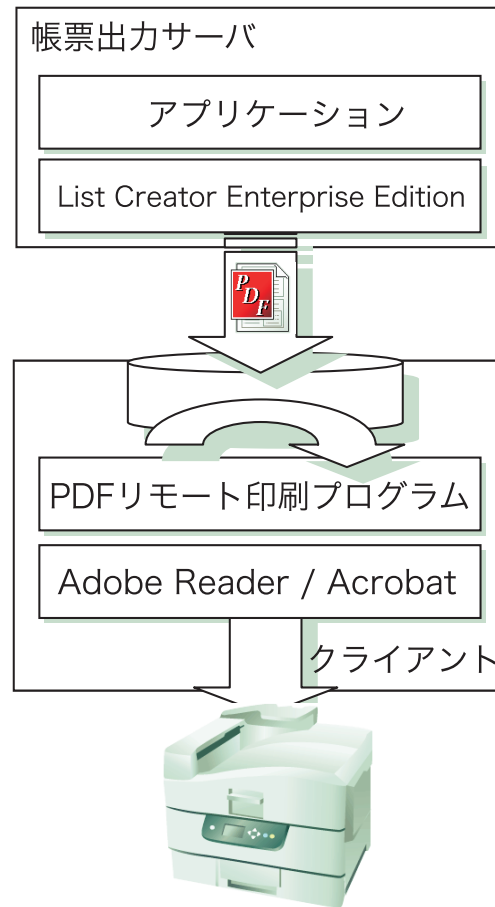


図 1.4 PDF リモート印刷の流れ

- 1) 帳票出力サーバにて PDF ファイルを出力し、ファイル共有や FTP などを利用してクライアントに転送します。
- 2) クライアントの PDF リモート印刷プログラムにて、PDF ファイルの到着を監視し、Adobe Acrobat または Adobe Reader を起動します。
- 3) Adobe Acrobat または Adobe Reader にて、指定された印刷指示にしたがい印刷を実行します。

PDF リモート印刷を行うためには、以下の環境が必要です。

帳票出力サーバからクライアントへのファイル転送

帳票出力サーバにて出力した PDF ファイルをクライアントに転送する仕組みが必要です。

Adobe Acrobat または Adobe Reader

クライアントには、Adobe Acrobat 9.0 以降または Adobe Reader 9.0 以降があらかじめインストールされ、かつ印刷が実行できるよう設定されている必要があります。

1.1.9 PDF 自動印刷機能

PDF 中に印刷を行うスクリプトを埋め込むことにより Acrobat で PDF ファイルを開いたときに、自動的に印刷を行うことができます。

PDF 自動印刷機能 (PDF-AUTOPRINT) の設定内容については、以下を参照してください。

- “2.2.1 帳票出力時に使用する PDF 文書情報ファイルの指定方法”
- オンラインマニュアル“アプリケーション作成ガイド”



注意

- PDF 自動印刷機能は、Acrobat の Acrobat JavaScript 機能を使用しているため、Acrobat JavaScript が無効になっている場合、PDF 自動印刷は機能しません。PDF 自動印刷機能を使用する場合は、必ず Acrobat JavaScript を有効にしてください。Acrobat JavaScript の設定については、以下を参照してください。
⇒ “3.3.10 Acrobat JavaScript の設定”
- PDF 閲覧制限機能と同時に使用することはできません。PDF 閲覧制限機能と同時に指定した場合、PDF 自動印刷機能は無効となります。PDF 閲覧制限機能の詳細については、以下を参照してください。
⇒ “1.1.6 PDF 閲覧制限機能”
- PDF 自動印刷機能を使用する場合、以下のように PDF ファイルを生成してください。
 - ・印刷の許可を設定して PDF ファイルを生成してください。
PDF 文書情報ファイルの場合、セキュリティオプション (PDF-PRINT) で印刷の許可を設定してください。
List Creator デザイナの場合、List Creator デザイナの帳票業務情報のプロパティ画面の [ファイル] タブの文書情報設定画面で印刷の許可を設定してください。
 - ・PDF ファイルを開く際に必要なパスワードを設定せずに PDF ファイルを生成してください。
PDF 文書情報ファイルの場合、セキュリティオプション (PDF-OPENPWD) を設定しないでください。
帳票出力時に、PDF ファイルを開くパスワードを設定しないでください。
PDF 文書情報ファイルのキーワードについては、以下を参照してください。
⇒ “2.2.3 帳票出力時に使用する PDF 文書情報ファイルのキーワード一覧”
List Creator デザイナの文書情報設定画面の詳細については、オンラインマニュアル“帳票設計編”の「文書情報設定画面」についての記載を参照してください。
帳票出力時に指定する PDF ファイルを開くパスワードについては、オンラインマニュアル“アプリケーション作成ガイド”を参照してください。

1.1.10 PDF メール配信

PDF 変換機能を使って出力した PDF ファイルを、電子メールの添付ファイルとして送信することができます。

PDF メール配信では、基本的な電子メールの機能を使用したメール配信が可能のため、以下のようなことができます。

- 宛先、カーボンコピー (CC)、ブラインドカーボンコピー (BCC) の送り先へ送信する
- メールごとにメッセージを変更する

また、以下の機能を使用して、セキュアに PDF ファイルを配信できます。

- 証明書を使用
署名付きメールや暗号化メールによる PDF メール配信ができます。
- SecurePackage と連携
インターネット上での重要情報の交換が可能な環境を提供する「SecurePackage」と連携し、安全性の高い PDF ファイルのメール配信運用が行えます。

● 証明書を使用した PDF メール配信

証明書を使用して、電子メールの暗号化や電子署名を添付した PDF メール配信ができます。これにより、インターネット環境における PDF メール配信の安全性を高めることができます。

証明書を発行するには認証局 (証明書発行局) が必要です。List Creator では、以下で発行された証明書をサポートしています。

- SystemWalker PkiMGR (富士通株式会社)
- ベリサインサーバ ID (日本ベリサイン株式会社)
- Web サーバ用証明書 (日本認証サービス株式会社)

なお、上記以外の場合、X.509 または RFC2459 に準拠していれば扱うことができますが、証明書の入手環境から PDF メール閲覧環境までの動作確認を行った上で使用してください。



備考

- List Creator では、CRL (無効証明リスト) の運用は行えません。
- List Creator では、Oracle を使用した証明書管理環境は使用できません。
- List Creator では、Windows 版は UTF8String エンコードには対応していません。

● SecurePackage を使用したファイル配信

SecurePackage とは、インターネットをビジネスに活用するために不可欠なセキュアな情報交換、到達確認、大容量データ送受信を実現した電子データ配信サービスです。

「IT 書面一括法」が施行され、これまで紙による郵送しか認められていなかった重要文書を電子的に送ることが認められました。しかし、インターネットを利用すると、なりすましや改ざん、盗聴といった様々な脅威が存在するため、請求書や領収書などの重要な書類を単に電子メールで送ることは安全とはいえません。


SecurePackage を使用することで、これらの重要な文書を安全・確実に配信することができ、さらに、電子化によるコストダウンやスピードアップのメリットも得られます。

SecurePackage の特長を以下に示します。

- 通信保証
送信者と受信者のやりとりは、すべて SSL で暗号化します。
- 配送状況の確認
受信者がドキュメントをダウンロードしたか確認できます。
- 蓄積・保管
センターに保存されたファイルはすべて暗号化されて安全に保管します。
- ASP サービス
サーバの設置や管理コストが不要で、すぐにご利用いただけます。

SecurePackage 配信サービスは、以下のポータルサイトから申込みができます。

SecurePackage のポータルサイト：<https://www.secpac.jp/>

 - SecurePackage V2.6 以降と連携できます。
備考

セキュアに PDF ファイルを配信する方法については、以下を参照してください。

⇒“2.1.5 セキュアなメール配信を行う”

その他の PDF メール配信の詳細な機能については、以下を参照してください。

⇒“2.2.6 PDF メール配信情報ファイル/PDF メール環境設定ファイルの指定方法”

以下に、PDF メール配信の流れを示します。

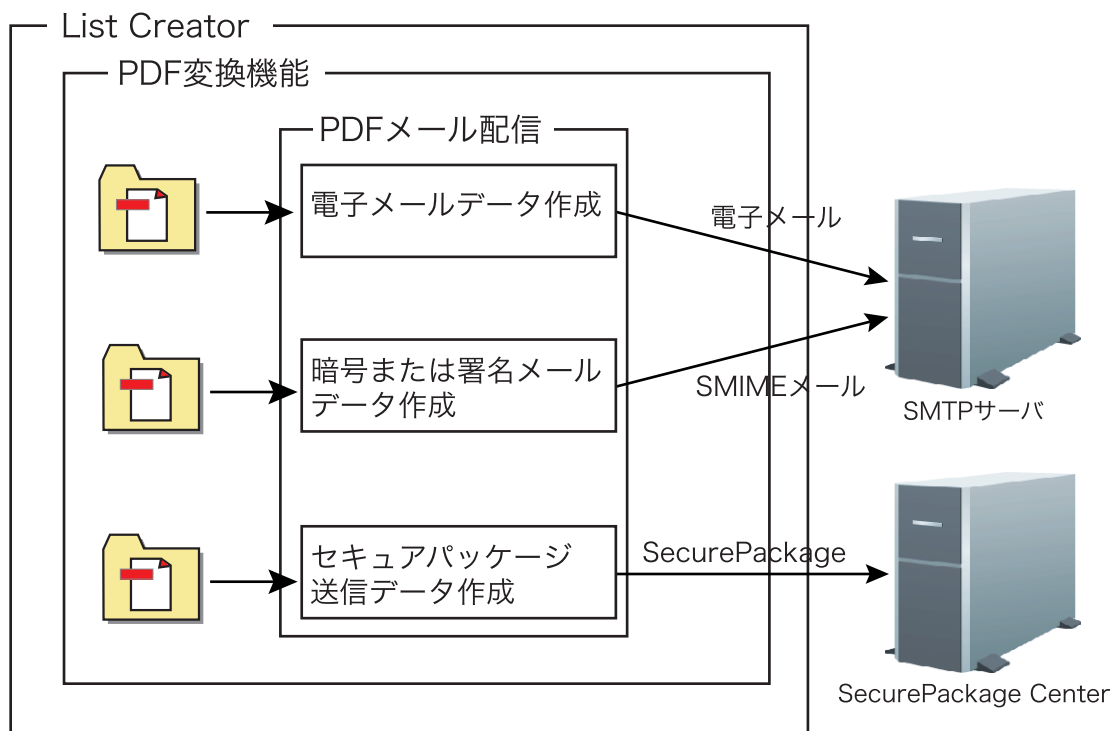



図 1.5 PDF メール配信の流れ

 - 認証が必要な SMTP サーバを使用した PDF メール配信は行えません。
備考 - PDF メール配信は 10 多重以上の同時実行は行えません。

1.1.11 PDF ファイル操作

PDF 操作コマンドを使用することによって、List Creator で生成した既存の PDF ファイルを結合したり、所定のページを抽出したりするファイル操作が可能です。

さらに、セキュリティオプションの変更や PDF ファイルの総ページ数の取得など、PDF ファイルを使った上位アプリケーションとの連携に必要なコマンドが用意されています。

PDF 操作コマンドの詳細については、以下を参照してください。

⇒“2.3 PDF ファイル操作コマンド”

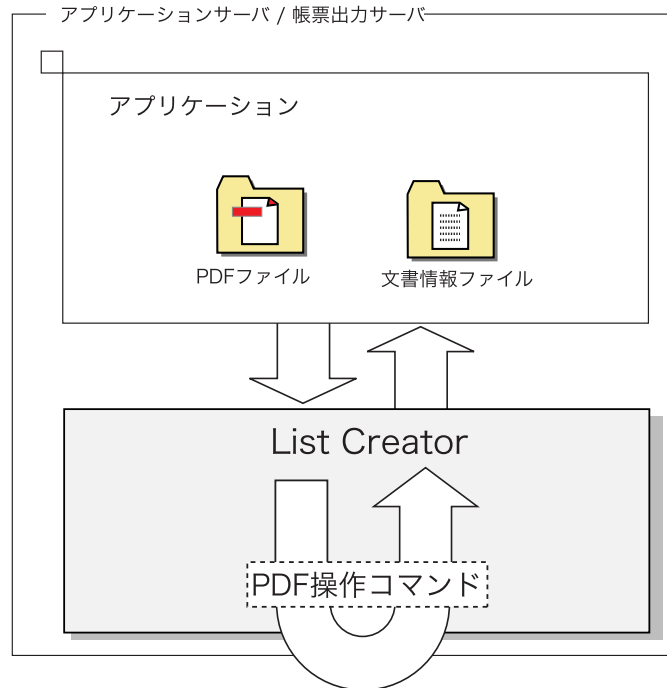


図 1.6 PDF ファイル操作の流れ

1.1.12 MeFt との連携

MeFt と連携することにより、MeFt をお使いの上位アプリケーションから簡単に PDF を生成することができます。

MeFt と連携して PDF を生成するためには、あらかじめ FORM によって帳票定義体・オーバーレイ定義体を作成する必要があります。

MeFt 連携時の設定内容については、MeFt に添付のオンラインマニュアルの“帳票の電子化”および以下を参照してください。

⇒“2.1.6 MeFt と連携した PDF ファイルの出力”

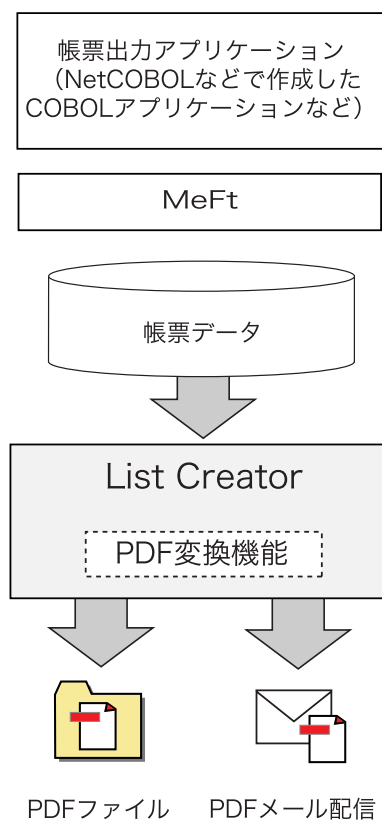


図 1.7 MeFt 連携による PDF ファイル出力



備考

- 【Linux for Intel64 版】の場合は、Linux for Intel64 版 NetCOBOL の MeFt コンポーネントとの連携となります。
- 【Linux for Itanium 版】の場合は、Linux for Itanium 版 NetCOBOL の MeFt コンポーネントとの連携となります。

1.1.13 メインフレーム帳票データの PDF 変換

Server2000 ホスト連携プレミアムと連携することにより、メインフレーム帳票の PDF 変換が可能になります。

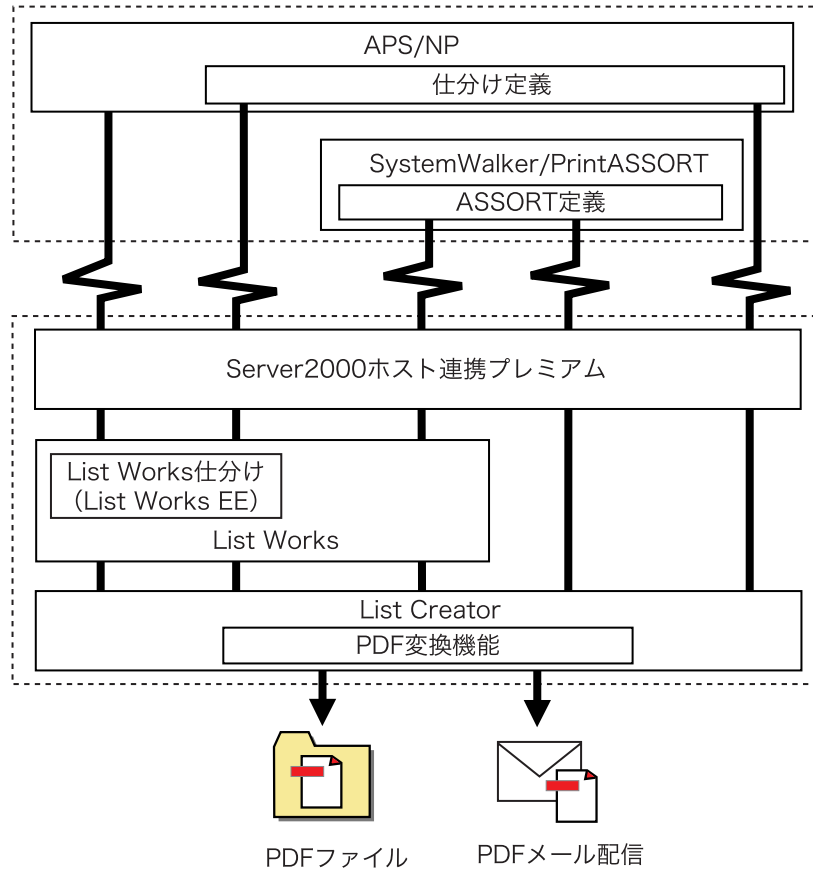


図 1.8 メインフレーム帳票の PDF ファイル出力

ASSORT 定義や仕分け定義などで設定する仕分け情報には、PDF 文書情報ファイルの内容を設定します。

仕分け情報の設定は、メインフレーム側で PrintASSORT を使って仕分け処理を行う場合と、オープンシステム側で List Works を使って仕分けを行う場合の 2 つの方法があります。

List Works を使って仕分け処理を行う場合の詳細については、List Works のマニュアル“帳票仕分け管理手引書”を参照してください。

Server2000 ホスト連携プレミアム連携時の設定内容については、Server2000 ホスト連携プレミアムに添付のマニュアルおよび以下を参照してください。

⇒“2.1.7 Server2000 ホスト連携プレミアムと連携した PDF ファイルの出力”

PrintASSORT を使って仕分け処理を行う場合の詳細については、OSIV SystemWalker/PrintASSORT に添付のマニュアルを参照してください。

1.1.14 List Works との連携

List Works と連携することにより、List Works 電子帳票データから簡単に PDF を生成することができます。詳細については、List Works オンラインマニュアル“運用手引書”および以下を参照してください。

⇒ “2.1.8 List Works と連携した PDF ファイルの出力”

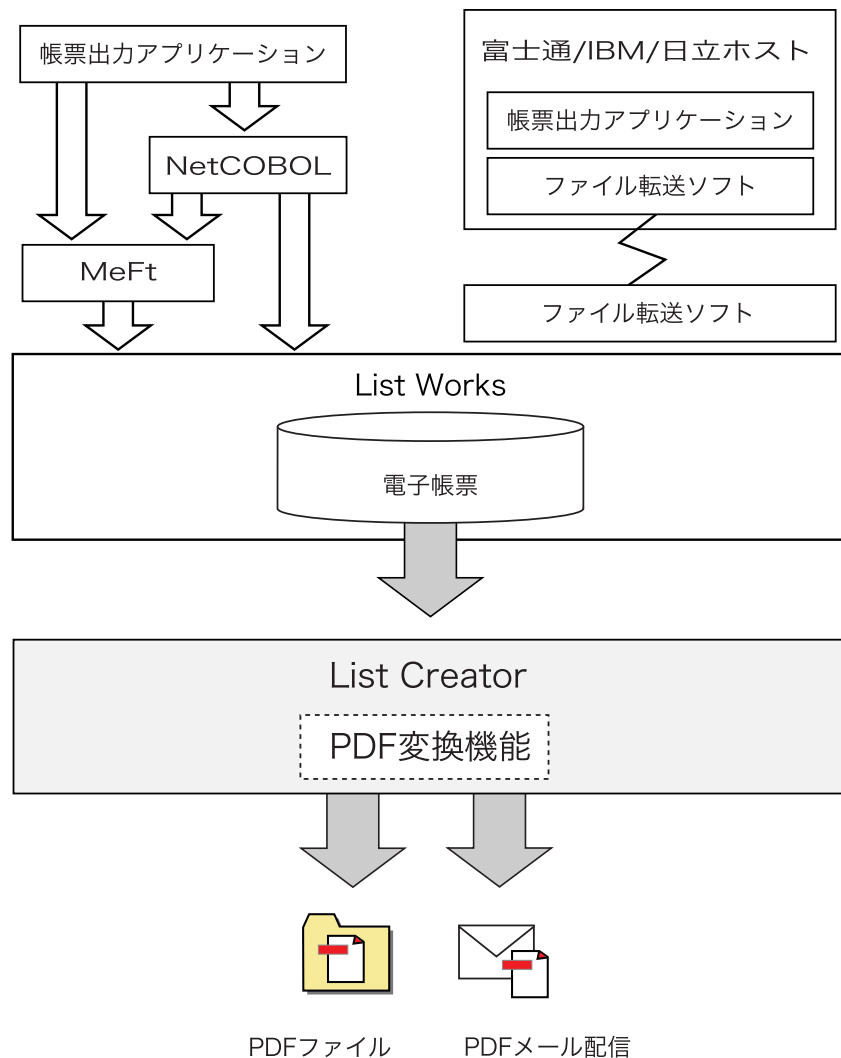


図 1.9 List Works 連携による PDF ファイル出力

1.1.15 Charset Manager との連携

PDF 変換機能で使用できるフォントは、JIS 第一水準 / 第二水準です。外字（利用者定義文字と JEF 拡張文字）を PDF 変換する場合は、Charset Manager との連携により、サーバにインストールされているフォントをエンベッド（貼り付け）することによって、クライアントシステムに外字（利用者定義文字と JEF 拡張文字）フォントがインストールされていなくても、アウトラインフォントで美しく表示 / 印刷することが可能になります。

また、外字（利用者定義文字と JEF 拡張文字）のエンベッド（貼り付け）指定方法については、以下のマニュアルを参照してください。

- “[2.1.9 外字を使用した PDF の出力方法](#)”
- オンラインマニュアル“アプリケーション作成ガイド”
- オンラインマニュアル“帳票設計編”
- MeFt に添付のオンラインマニュアル
- Server2000 ホスト連携プレミアムのオンラインマニュアル
- “Charset Manager 使用手引書 標準コード変換機能編”



注意

- 外字（利用者定義文字と JEF 拡張文字）を PDF 変換する場合は、必ずフォントのエンベッドを行ってください。

1.2 動作環境

PDF 変換機能は、以下のオペレーティングシステムで動作します。

- 【Windows 版】の場合
 - ・ Microsoft Windows Server 2003, Standard Edition、Microsoft Windows Server 2003, Enterprise Edition
 - ・ Microsoft Windows Server 2003, x64 Editions (*1)
 - ・ Microsoft Windows Server 2008 Foundation、Microsoft Windows Server 2008 Standard、Microsoft Windows Server 2008 Enterprise、Microsoft Windows Server 2008 R2 Foundation、Microsoft Windows Server 2008 R2 Standard、Microsoft Windows Server 2008 R2 Enterprise
- *1 : Windows 64 ビット OS の WOW64 サブシステム上で、32 ビットアプリケーションとして動作します。
- 【Windows(x64) 版】の場合
 - ・ Microsoft Windows Server 2003, Standard x64 Edition Service Pack 2 以降
 - ・ Microsoft Windows Server 2003, Enterprise x64 Edition Service Pack 2 以降
 - ・ Microsoft Windows Server 2003 R2, Standard x64 Edition Service Pack 2 以降
 - ・ Microsoft Windows Server 2003 R2, Enterprise x64 Edition Service Pack 2 以降
 - ・ Microsoft Windows Server 2008 Foundation(x64) Service Pack 2 以降
 - ・ Microsoft Windows Server 2008 Standard(x64) Service Pack 2 以降
 - ・ Microsoft Windows Server 2008 Standard without Hyper-V(x64) Service Pack 2 以降
 - ・ Microsoft Windows Server 2008 Enterprise(x64) Service Pack 2 以降
 - ・ Microsoft Windows Server 2008 Enterprise without Hyper-V(x64) Service Pack 2 以降
 - ・ Microsoft Windows Server 2008 R2 Foundation
 - ・ Microsoft Windows Server 2008 R2 Standard
 - ・ Microsoft Windows Server 2008 R2 Enterprise



備考

- 【Windows(x64) 版】の場合、以下の機能は、Windows 64 ビット OS の WOW64 サブシステム上で、32 ビットアプリケーションとして動作します。
 - ・ PDF 手元非表示印刷機能
 - ・ PDF リモート印刷機能

- 【Solaris 版】の場合
 - ・ Solaris 9、Solaris 10、Solaris11
- 【Linux for Intel64 版】の場合
 - ・ Red Hat Enterprise Linux 5 (for Intel64)
 - ・ Red Hat Enterprise Linux 6 (for Intel64)
- 【Linux for x86 版】の場合
 - ・ Red Hat Enterprise Linux AS(v.3)
 - ・ Red Hat Enterprise Linux ES(v.3)
- 【Linux for Itanium 版】の場合
 - ・ Red Hat Enterprise Linux AS (v.4 for Itanium)
 - ・ Red Hat Enterprise Linux 5 (for Itanium)

PDF 変換機能により作成された PDF は、以下のアプリケーションで利用できます。

- Acrobat Reader 4.0 以降
- Adobe Reader 6.0 以降
- Acrobat 4.0 以降

以下の機能は、Acrobat 5.0 または Acrobat Reader 5.0 以降で利用できます。

- 128 bit 暗号化機能
(文書情報ファイルのキーワード PDF-KEY128=ON、

PDF-MODIFY=ASMONLY|FFFILL|ADDANNOT、PDF-PRINT=LOWRESO、
PDF-SELECT=ACCESSIBILITY|COPY+EXTRACT)

- データファイルの埋め込み機能
(文書情報ファイルのキーワード PDF-DATAFILE)
- ファイル名のタイトルバー表示機能
(文書情報ファイルのキーワード PDF-DOCTITLE=ON)

文書情報ファイルのキーワードの詳細については、以下を参照してください。
⇒ [“2.2.4 帳票出力時に使用する PDF 文書情報ファイルのキーワード説明”](#)

第2章

PDF 変換機能の利用手順

ここでは、PDF 変換機能の運用形態と、その設定について説明します。

2.1 基本運用形態

2.1.1 List Creator 単体での PDF ファイルの出力

List Creator 単体での PDF ファイルの出力には、以下の方法があります。

- PDF ファイル出力を行う
- PDF メール配信を行う

以下に、それぞれについて説明します。

2.1.1.1 PDF ファイル出力を行う

List Creator 帳票出力インタフェースを使用して PDF 変換を行う場合には、以下の方法があります。

- 帳票出力時にコマンド、またはユーザアプリケーションで指定する方法
- 帳票設計時に List Creator デザイナで指定する方法

さらに、COBOL アプリケーション連携機能の初期化ファイルを使用して PDF 変換を行う方法もあります。COBOL アプリケーション連携機能および、初期化ファイルの詳細については、オンラインマニュアル "COBOL アプリケーション連携機能編" を参照してください。

● 帳票出力時にコマンドまたはユーザアプリケーションで指定する方法

- コマンドインタフェースの場合 (prprint/prprintx)
以下のコマンドオプションを指定します。
 - 1) -atdirect または -atmethod オプションで「file」を指定します。
 - 2) -keeppdf (PDF ファイル名) オプションを指定します。
- Java インタフェースの場合
PrintProperties クラスの setProperty メソッドで、以下のパラメータを指定します。
 - 1) 定数 ID_DIRECTMETHOD または ID_OUTPUTMODE の値に「PDF」を指定します。
 - 2) 定数 ID_KEEPPDF に PDF ファイル名を指定します。
- .NET インタフェースの場合
PrintProperties クラスの以下のプロパティを指定します。
 - 1) DirectMethod プロパティまたは OutputMode プロパティの値に「OUTPUTMODE_PDF」を指定します。
 - 2) KeepPdf プロパティに、生成する PDF ファイル名を指定します。
- カスタムコントロールの場合
カスタムコントロール PrctrlEx Control の、以下のプロパティの設定を行います。
 - 1) DirectMethod または OutputMode に「TRUE」を指定します。
 - 2) OutputFile に「TRUE」を指定します。
 - 3) KeepPdf に PDF ファイル名を指定します。
- CFX カスタムタグインタフェース (ColdFusion MX) の場合
CFX_OAST_OUTPUTQUERY タグ、または CFX_OAST_CONNECT タグの、以下の属性の設定を行います。
 - 1) DIRECT_METHOD または METHOD の値に「PDF」を指定します。
 - 2) PDF_KEEPFILE に PDF ファイル名を指定します。
 - 3) KeepPdf に PDF ファイル名を指定します。



備考

- コマンド、またはユーザアプリケーションで指定する方法の詳細については、オンラインマニュアル "アプリケーション作成ガイド" を参照してください。

● 帳票設計時に List Creator デザイナで指定する方法

- 1) List Creator デザイナの帳票定義一覧画面で出力対象の帳票定義情報を選択し、[ファイル] – [プロパティ] を選択します。
帳票業務情報のプロパティ画面が表示されます。
- 2) [ファイル] タブを選択し、「ファイル保存する」チェックボックスをチェックします。
- 3) 格納先ファイル名を指定します。



- 帳票設計時の指定の詳細については、オンラインマニュアル“帳票設計編”を参照してください。

2.1.1.2 PDF メール配信を行う

PDF 変換機能を使って出力した PDF ファイルを、電子メールの添付ファイルとして送信することができます。これを PDF メール配信と呼びます。

以下に、PDF メール配信を行う基本的な手順を示します。

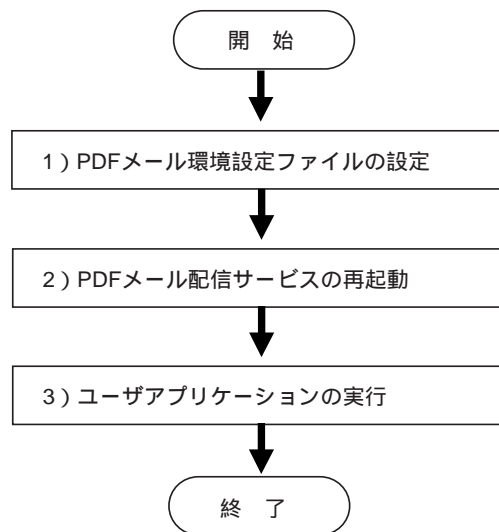


図 2.1 PDF メール配信を行う基本的な手順

- 1) PDF メール環境設定ファイルを設定します。
PDF メール環境設定ファイルを編集し、使用する SMTP サーバのアドレス、および送信者のアドレスを指定します。
PDF メール環境設定ファイルとは、電子メール送信に関する環境を定義するファイルです。テキストエディタで編集してください。
PDF メール環境設定ファイルは、以下に格納されています。
 - 帳票出力サーバが Windows の場合
List Creator インストールディレクトリ ¥swmailenv.ini
 - 帳票出力サーバが UNIX 系 OS の場合
/etc/opt/FJSVedoc/swmailenv.dat
 以下の項目を設定します。
 - SMTP サーバのアドレス
[MLF_SMTPServer-default] セクション – MLF_SMTPServerAddress (設定項目名) で指定します。
 - 送信者のアドレス
[MLF_Default] セクション – MLF_EnvelopeFromAddress (設定項目名) で指定します。

例) swmailenv.ini (帳票出力サーバが UNIX 系 OS の場合は swmailenv.dat)

```

. . . . .
[MLF_Default]
. . . . .
MLF_EnvelopeFromAddress=lowner@xxx.yyy.zzz.co.jp
. . . . .
[MLF_SMTPServer-default]
MLF_SMTPServerAddress=lserver@xxx.yyy.zzz.co.jp
. . . . .

```

その他の PDF メール環境設定ファイルの設定方法については、以下を参照してください。

- ⇒ “2.2.10 PDF メール環境設定ファイルのキーワード一覧”
- ⇒ “2.2.11 PDF メール環境設定ファイルの説明”
- ⇒ “2.2.6 PDF メール配信情報ファイル /PDF メール環境設定ファイルの指定方法”
- ⇒ “2.2.7 PDF メール配信情報ファイル /PDF メール環境設定ファイルの書式”
- ⇒ “2.2.12 PDF メール配信情報ファイル /PDF メール環境設定ファイルの記述例”

2) PDF メール配信サービスを再起動します。

設定した PDF メール環境設定ファイルの内容を PDF メール配信サービスに反映させるため、PDF メール配信サービスの再起動を行います。

以下の手順で PDF メール配信サービスを再起動します。

- ・ 帳票出力サーバが Windows の場合

「ListCREATOR SendMaid Service」を起動します。

- a) Administrators 権限を持つユーザでログオンし、[コントロールパネル] – [管理ツール] – [サービス] を選択します。
サービス一覧画面が表示されます。

- b) 「ListCREATOR SendMaid Service」を選択します。

- c) 「再起動」を選択してサービスを再起動します。

- ・ 帳票出力サーバが UNIX 系 OS の場合

システム管理者権限でログオンし、以下のコマンドを実行して、PDF メール配信デーモンを再起動します。

```
/opt/FJSVedoc/etc/SKFJSVedocmail restart
```

3) ユーザアプリケーションを実行します。

- ・ List Creator 帳票出力インタフェースを使用する場合

帳票出力時に送信先のアドレスを指定 (prprint コマンドの場合は -gpdfmailtoaddr オプションで指定) すると、PDF メール配信が行えます。

例) 帳票出力サーバが Windows の場合で、prprint コマンドを使用する場合

```

prprint
-assetsdir "C:¥data¥sample" ..... ①
-atdirect file ..... ②
-f "C:¥data¥sample¥LC.dat" ..... ③
"LC" ..... ④
-keeppdf "C:¥tmp¥LC.pdf" ..... ⑤
-gpdfmailtoaddr lcuser@xxx.yyy.zzz.co.jp ..... ⑥

```

- ①: 帳票格納ディレクトリを指定
- ②: 出力方法を指定
- ③: 入力データファイルを指定
- ④: 帳票名を指定
- ⑤: PDF ファイルの格納先を指定
- ⑥: メールの送信先アドレスを指定

アプリケーションの作成方法の詳細については、オンラインマニュアル“アプリケーション作成ガイド”を参照してください。

- COBOL アプリケーション連携機能を使用する場合
PDF メール配信は、PDF 変換する指定に加え、PDF 文書情報ファイル ([MLF_Mail] セクション) に送信先メールアドレスを指定することで行えます。
例) PDF 文書情報ファイルへの記述例

```
[MF-PDF]
. . . . .
[MLF_Mail]
. . . . .
MLF_ToAddress=lcuser@xxx.yyy.zzz.co.jp
. . . . .
```

PDF 変換の指定方法の詳細については、オンラインマニュアル "COBOL アプリケーション連携機能編" を参照してください。

- その他の電子メール機能を使用する場合は以下を参照してください。
- ⇒ “2.2.1 帳票出力時に使用する PDF 文書情報ファイルの指定方法”
 - ⇒ “2.2.2 PDF 文書情報ファイルの書式”
 - ⇒ “2.2.8 PDF メール配信情報ファイルのキーワード一覧”
 - ⇒ “2.2.9 PDF メール配信情報ファイルのキーワード説明”
 - ⇒ “2.2.10 PDF メール環境設定ファイルのキーワード一覧”
 - ⇒ “2.2.11 PDF メール環境設定ファイルの説明”
- セキュリティを設定してメール配信を行う場合は、以下を参照してください。
- ⇒ “2.1.5 セキュアなメール配信を行う”

● PDF メール配信のメール subject、メール本文を作成する

PDF メール配信を行うメールにメール Subject やメール本文を作成して配信する場合、PDF メール環境設定ファイルに加えて、以下のファイルが必要です。

- PDF メールテンプレートファイル
- PDF メール配信情報ファイル (PDF 文書情報ファイル)
COBOL アプリケーション連携機能使用時は、PDF 文書情報ファイルに PDF メール配信情報ファイルのキーワードを記載します。

また、PDF メールテンプレートファイルに、メール本文の雛形と変数を組み合わせることで、宛先ごとに異なったメールを送信することができます。

以下に、PDF メールテンプレートファイルと PDF メール配信情報ファイル (PDF 文書情報ファイル) を使用した設定手順を示します。

- PDF メールテンプレートファイル
PDF メールのメール subject、メール本文の雛形を定義するファイルです。
テキストエディタで編集してください。
- PDF メール配信情報ファイル (PDF 文書情報ファイル)
[MLF_Message] セクションに変数定義を行うことで、PDF メールテンプレートファイルで定義したメール本文の雛形に、文字列を設定できます。
テキストエディタで作成してください。
PDF メール配信コマンド実行時に作成した PDF メール配信情報ファイルパス (PDF 文書情報ファイルパス) を指定します。

PDF メールテンプレートファイルのサンプルは、以下に格納されています。

- 帳票出力サーバが Windows の場合
List Creator インストールディレクトリ ¥mail_template.txt
- 帳票出力サーバが UNIX 系 OS の場合
/etc/opt/FJSVedoc/mail_template.txt

以下に、PDF メール配信のメール subject、メール本文を作成する手順を示します。

- 1) PDF メールテンプレートファイルを編集します。

- PDF メールテンプレートファイルは、<HEAD> と <BODY> の2つのセクションに分かれています。
<HEAD> に書かれた内容はメールヘッダとして、<BODY> に書かれた内容はメール本文として使われます。
- 記号 \$ で囲んだ文字列は、変数として扱われます。PDF メール配信情報ファイルの [MLF_Message] セクションで、変数の内容を記載してください。変数に使用できる文字は、半角英数字の小文字です。
- 文書中に「\$」、「<」、「>」、「¥」を含める場合は、「¥\$」、「¥<」、「¥>」、「¥¥」のように、「¥」を付加して記述します。
- <HEAD> に以下のフィールド名を記述しても無視されます。
Date、From、To、CC、BCC、Message-ID、MIME-Version、Content-Type、Envelope-ID、Disposition-Notification-To
- メールの題名を指定する場合は、<HEAD> に「subject:」を必ず指定してください。また、PDF メールテンプレートファイルには1行の文字数が半角英数で3072文字を超えないようにしてください。3072文字を超える文字は無視されます。
- <HEAD>、<BODY> の行には、これ以外に何も記述しないでください。また、同じメールヘッダを複数指定しても無視されます。
- 空行を追加する場合は、半角空白または全角空白を追加してください。

以下に PDF メールテンプレートファイルの例を示します。

例) List Creator インストールディレクトリ ¥mail_template.txt

```
<HEAD>
subject: $subject$
<BODY>
$message$
-----
連絡先 : ○○ □□
メール : lcuser@xxx.yyy.zzz.co.jp
```

- PDF メール配信情報ファイル (PDF 文書情報ファイル) を作成します。
PDF メール配信情報ファイル (COBOL アプリケーション連携機能を使用する場合は PDF 文書情報ファイル) を、テキストエディタなどで作成し、任意のディレクトリに作成します。
PDF メール配信情報ファイル (PDF 文書情報ファイル) で [MLF_Message] セクションを定義し、テンプレートで定義した変数に文字列を設定します。
以下に、PDF メール配信情報ファイルの例を示します。

例) C:¥tmp¥listcreator.conf

```
[MLF_Message]
subject= これはテストメール
message= ○○株式会社 様
message= いつもお世話になっております。
message= 先日 ご依頼いただいた機器のお見積書です。
```



備考

- COBOL アプリケーション連携機能を使用する場合は PDF 文書情報ファイルに、[MF-PDF] セクションの定義以降に [MLF_Message] セクションを定義します。

- ユーザアプリケーションを実行します
 - List Creator 帳票出力インタフェースを使用する場合
帳票出力時に帳票出力 (prprint コマンドの場合は -gpdfmailtoaddr オプション、および -gpdfmailconf file オプション) で、送信先のアドレス、PDF メール配信情報ファイルを指定すると、メール本文の設定が反映された PDF メール配信ができます。

例) 送信先のアドレス、PDF メール配信情報ファイルの指定例

```

prprint
-assetsdir "C:¥data¥sample" ..... ①
-atdirect file ..... ②
-f "C:¥data¥sample¥LC.dat" ..... ③
"LC" ..... ④
-keeppdf "C:¥tmp¥LC.pdf" ..... ⑤
-gpdfmailtoaddr lcuser@xxx.yyy.zzz.co.jp ..... ⑥
-gpdfmailconf file "C:¥tmp¥listcreator.conf" ..... ⑦

```

- ① : 帳票格納ディレクトリを指定
- ② : 出力方法を指定
- ③ : 入力データファイルを指定
- ④ : 帳票名を指定
- ⑤ : PDF ファイルの格納先を指定
- ⑥ : メールの送信先アドレスを指定
- ⑦ : PDF メール配信情報ファイルを指定

- COBOL アプリケーション連携機能を使用する場合

PDF メール配信を行うメールにメール Subject やメール本文を作成して配信するには、PDF メール配信をする指定に加え、ユーザアプリケーション実行時に PDF メールテキストテンプレートファイルを指定し、2) で作成した PDF 文書情報ファイルを指定することで行えます。

PDF 変換、および PDF メールテンプレートファイルの指定方法の詳細については、オンラインマニュアル "COBOL アプリケーション連携機能編" を参照してください。

例) 受信メッセージの例

```

〇〇株式会社 様
いつもお世話になっております。
先日ご依頼いただいた機器のお見積書です。
-----
連絡先 : 〇〇 □□
メール : lcuser@xxx.yyy.zzz.co.jp

```

2.1.2 帳票設計時のフォントを PDF 中に使用する

帳票を設計したときに使用したフォントをそのまま PDF ファイル上に使用することが可能です。使用できるフォントは以下の TrueType フォントファイルです。

- **.ttf

True Type Font 形式のファイルです。

- **.ttc

True Type Collection 形式のファイルです。

- **.tte

True Type 標準外字形式のファイルです。



備考

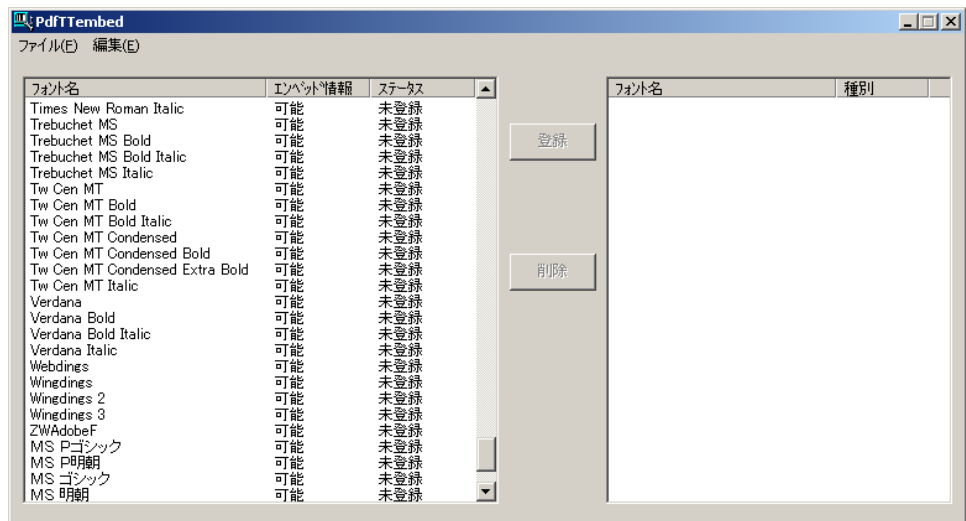
- 使用するフォントの外字があらかじめ定義されている場合、その外字データも使用できます。なお、外字を作成した外字エディタによっては、正しく動作しない場合があります。
- 使用できる True Type フォントは、Unicode CMap テーブルを実装しているフォントです。使用したいフォントが Unicode CMap テーブルを実装しているフォントかどうかについては、お使いになるフォントの提供元にご確認ください。
- JIS2004 基準フォントを使用した場合、JIS X 0208:1990 から JIS X 0213:2004 にて追加された文字は正しく出力できないことがあります。ただし、PDF フォント登録機能で登録したフォントに関しては、フォントをエンベッドすることで UCS2 範囲の文字を使用することが可能です。Windows の場合には " ●帳票出力サーバが Windows の場合 " も参照してください。

以下の手順にしたがって、List Creator にフォントの登録を行ってください。

●帳票出力サーバが Windows の場合

= 操作手順 =

- 1) 帳票設計時に使用したフォントを、List Creator が動作しているシステムにインストールします (C:\WINNT\FONTS など)。
- 2) Administrators 権限をもつユーザでログオンし、PDF 変換機能が使用されていないことを確認後、[スタート] - [プログラム] - [List Creator] - [環境設定] - [PDF ファイルフォント登録] を選択してください。以下のようなウィンドウが表示されます。



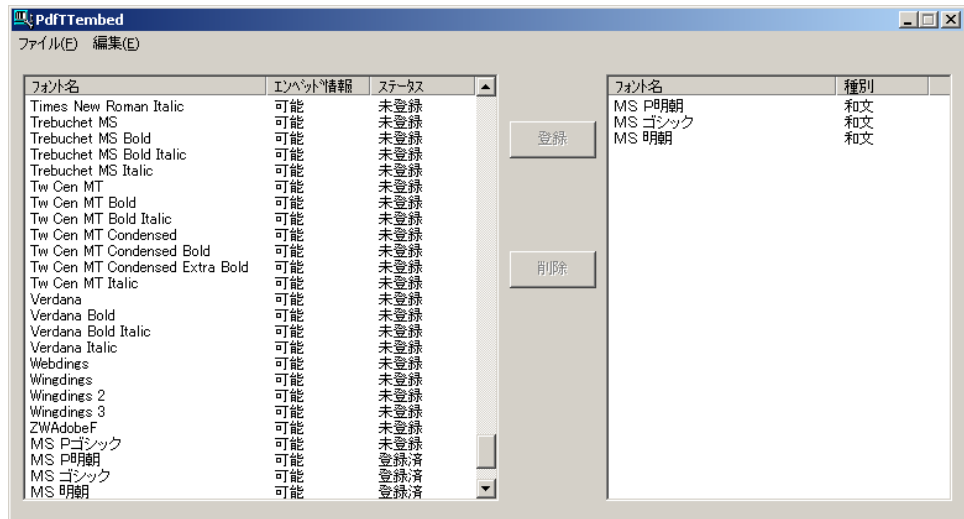
左側のウィンドウに、現在システムにインストールされている PDF で使用することが可能なフォントの一覧が表示されます。それぞれのフォント名に対してエンベッドの可否に関する情報と、List Creator への登録状況に関するステータスが表示されます。

エンベッド情報

- 可能 : エンベッドすることが可能なフォントです。List Creator の PDF フォント登録後、List Creator デザイナの帳票定義情報の設定による指定、帳票出力時の指定、PDF 文書情報ファイルで指定されたフォントのエンベッド指定にしています。
PDF フォント登録を行ったフォントのエンベッドされる文字範囲の詳細は、以下の「PDF-EMBED」の項目を参照してください。
⇒「2.2.4 帳票出力時に使用する PDF 文書情報ファイルのキーワード説明」
- 不可 : エンベッドすることができないフォントです。

ステータス

- 登録済 : List Creator の PDF フォント登録処理が完了しているフォントです。
- 未登録 : List Creator の PDF フォント登録処理が行われていないか、正しく登録が行われていません。
- 要再登録 : List Creator の PDF フォント登録処理後に、フォントファイルの置き換えや外字データの作成が行われた可能性があります。フォントを選択し、再度登録処理を行ってください。
- 3) 帳票設計時に使用したフォントを選択し、[登録] ボタンをクリックしてください。登録が完了すると、右側のウィンドウに登録済みのフォント名とフォントの種別（欧文・和文）の一覧が表示されます。



- 4) フォントに関する詳しい情報を知りたい場合は、右側のフォント一覧中で該当フォントをダブルクリックします。フォントの詳細情報が表示されます。



エンベッド指定

- 選択 : List Creator デザイナの設定や帳票出力時の指定（PDF 文書情報ファイルの指定、または PDF ファイルの文字埋め込み指定）にしています。
詳しくは、以下の「PDF-EMBED」の項目を参照してください。
⇒「2.2.4 帳票出力時に使用する PDF 文書情報ファイルのキーワード説明」

- 必須 : 和文フォントの場合、使用された文字のエンベッドを行います。ただし、List Creator デザイナの設定や、帳票出力時の指定に NONE/FONT/JEF/FONT+JEF が指定されている場合は、外字はエンベッドされません。それ以外の場合は、使用されたすべての文字がエンベッドされます。欧文フォントの場合は、List Creator デザイナの設定や、帳票出力時の指定にかかわらず、すべての文字がエンベッドされます。詳しくは、以下の「PDF-EMBED」の項目を参照してください。
⇒“2.2.4 帳票出力時に使用する PDF 文書情報ファイルのキーワード説明”
- 不可 : 和文フォントの場合、指定した文字のエンベッドを行いません。ただし、List Creator デザイナの設定や、帳票出力時の指定に ALL/USER/FONT+USER/JEF+USER が指定されている場合は、外字のみエンベッドされます。それ以外の場合は、文字がエンベッドされません。欧文フォントの場合は、List Creator デザイナの設定や、帳票出力時の指定にかかわらず、文字がエンベッドされません。詳しくは、以下の「PDF-EMBED」の項目を参照してください。
⇒“2.2.4 帳票出力時に使用する PDF 文書情報ファイルのキーワード説明”

なお、List Creator 帳票出力インタフェースを使用する場合、帳票出力時の指定（文書情報ファイルの指定、または PDF ファイルの文字埋め込み指定）、および List Creator デザイナの設定は、以下の優先順序で有効となります（1）の優先順序が高く、3）になるにしたがって優先順序が低くなります）。

- 1) 帳票出力時の PDF 文書情報ファイルの指定（prprint コマンドの場合は、-in5 オプション）
- 2) 帳票出力時の PDF ファイルの文字埋め込み指定（prprint コマンドの場合は、-gpdfembed オプション）
- 3) List Creator デザイナでの設定



備考

- Windows システム上で該当のフォントに外字が関連づけられている場合、自動的に外字フォントファイルも登録されます。登録された外字フォントは FontMap 情報画面の「外字フォントファイル名」で参照可能です。
- 「MS 明朝」「@MS 明朝」「MS ゴシック」「@MS ゴシック」を PDF フォント登録して帳票出力する場合、置換フォントの設定が必要となります。
帳票設計時に設定する場合：List Creator デザイナの「帳票業務情報のプロパティ」の [印刷] タブの「置換フォント設定」にて、「定義フォント」名と「置換フォント」名に（全角/半角文字の違いに注意し）同じフォント名を設定してください。
置換フォントの設定は、オンラインマニュアル「帳票設計編」を参照してください。
帳票出力時に設定する場合：置換フォント情報ファイルを帳票出力インタフェースで指定します。
置換フォント情報ファイルについては、オンラインマニュアル「環境設定・帳票運用編」の置換フォント情報ファイルについての記載を参照してください。

● 帳票出力サーバが UNIX 系 OS の場合

= 操作手順 =

- 1) 帳票設計時に使用したフォントファイル (**.ttf、**.ttc、**.tte) を、List Creator が動作している環境へファイル転送します。
- 2) システム管理者権限でログオンし、PDF 変換機能が使用されていないことを確認後、以下のコマンドで登録・登録削除・参照処理を行ってください。

<フォントを登録するとき>

以下のコマンドを実行します。

```
/opt/FJSVedoc/bin/entt -f ttfpath [-x N] [-e ttepath] [-v] -o S
```

- f ttfpath** : 「*.ttf」または「*.ttc」ファイルへのフルパスを指定します。
- x N** : 「*.ttc」ファイルを指定したとき、ttc ファイル内の何番目の書体を登録するかを指定します (先頭: N=1)。
「*.ttc」を登録するときには必ず、指定してください (必須)。
なお、このオプションを指定しなかった場合は、エラーメッセージとともに「*.ttc」ファイル内のすべての書体名と番号が表示されます。再度、いずれかの番号を指定して登録してください。
- e ttepath** : 対応する「*.tte」ファイルへのフルパスを指定します。
- v** : 和文フォントを縦書き書体として登録するときに指定します。
- o S** : フォントごとに、エンベッドの設定を行うときに指定します (S=0|1|2)。フォントごとに、エンベッドの有無を変更できます。
- 0 (不可) : 和文フォントの場合、指定した文字のエンベッドは行いません。ただし、List Creator デザイナーの設定や、帳票出力時の指定に ALL/USER/FONT+USER/JEF+USER を指定した場合、外字のみエンベッドされます。それ以外の場合は、文字がエンベッドされません。
欧文フォントの場合、List Creator デザイナーの設定や、帳票出力時の指定にかかわらず、文字がエンベッドされません。
詳しくは、以下の「PDF-EMBED」の項目を参照してください。
⇒ [“2.2.4 帳票出力時に使用する PDF 文書情報ファイルのキーワード説明”](#)
- 1 (選択) : List Creator デザイナーの設定や、帳票出力時の指定 (PDF 文書情報ファイルの指定、または PDF ファイルの文字埋め込み指定) にしたがいま (デフォルト)。
詳しくは、以下の「PDF-EMBED」の項目を参照してください。
⇒ [“2.2.4 帳票出力時に使用する PDF 文書情報ファイルのキーワード説明”](#)
- 2 (必須) : 和文フォントの場合、使用された文字のエンベッドを行います。ただし、List Creator デザイナーの設定や、帳票出力時の指定に NONE/FONT/JEF/FONT+JEF を指定した場合、外字はエンベッドされません。それ以外の場合は、使用したすべての文字がエンベッドされます。
欧文フォントの場合、List Creator デザイナーの設定や、帳票出力時のオプションの指定にかかわらず、使用された文字がエンベッドされます。詳しくは、以下の「PDF-EMBED」の項目を参照してください。

⇒ “2.2.4 帳票出力時に使用する PDF 文書情報ファイルのキーワード説明”

なお、List Creator 帳票出力インタフェースを使用する場合、帳票出力時の指定（PDF 文書情報ファイルの指定、または PDF ファイルの文字埋め込み指定）、および List Creator デザイナの設定は、以下の優先順序で有効となります（1）の優先順序が一番高く、3）になるにしたがって優先順序が低くなります）。

- 1) 帳票出力時の PDF 文書情報ファイルの指定（prprint コマンドの場合は、-in5 オプション）
- 2) 帳票出力時の PDF ファイルの文字埋め込み指定（prprint コマンドの場合は、-gpdfembed オプション）
- 3) List Creator デザイナでの設定

<フォントの登録状態を表示するとき>

以下のコマンドを実行します。

```
/opt/FJSVedoc/bin/lstt
```

画面上には、フォントごとに以下の情報が出力されます。

フォント番号：言語：PDF フォント名：エンベッド方針：フォント名：外字
フォント名

以下に、表示例を示します。

```
# /opt/FJSVedoc/bin/lstt  
4:jp:FUJ-MinchoTai:1:/tmp/f3baujm3.ttf:  
5:jp:FUJ-GothicTai:1:/tmp/f3baujg4.ttf:
```

<フォントの登録を削除するとき>

以下のコマンドを実行します。

```
/opt/FJSVedoc/bin/rmtt fontIndex
```

fontIndex : 登録を削除するフォント番号を指定します。フォント番号は
lstt コマンドによって、行の先頭に表示される番号です。



注意

- 帳票に縦書きフォントを使用したときには、フォント名に「@****」となっているフォントを登録してください。
- フォントを多く登録すると PDF 変換性能が劣化する場合があります。帳票中に使用したフォントのみ登録してください。
- Windows システムの外字エディタなどによって作成された外字を使用する場合は、List Creator の動作システムにも外字フォントファイル (*.tte) をインストールしてください。ただし、FUJ 明朝体、および FUJ ゴシック体を使用して Charset Manager 連携による外字連携機能を使用する場合には、外字フォントファイルのインストールの必要はありません（[“2.1.9 外字を使用した PDF の出力方法”](#)の外字の登録処理を行ってください）。
- 登録したフォントファイルの移動や削除（アンインストール）は、List Creator の PDF フォント登録機能における削除処理を実行後に行ってください。
- フォント自体にエンベットの許可がされていないフォントに関しては、PDF ファイル上にフォントをエンベッドすることができません。
- Symbol や Wingdings などの欧文記号フォントを使用した場合には、エンベッドを行わないと文字ピッチなどがずれる場合があります。
- 太字や斜体などの文字修飾を行った場合、固定リテラル、テキスト項目の文字デザインが、プレビュー画面と異なる場合があります。
- フォント登録を行った場合、List Creator デザイナの「帳票業務情報のプロパティ」の「文書情報設定画面」で、フォントのエンベットの指定が「文字の埋め込み：埋め込まない」以外のときは、使用された文字がエンベッドされます。
- PDF ファイルへのフォントのご利用条件については、お使いのフォントの使用許諾にしてください。
- List Creator の帳票出力コマンド（prprint コマンドなど）や各種インタフェース（Java インタフェースなど）から帳票出力を行う場合、フォントの登録の有無にかかわらず、以下のようにマッピングして出力されます。

MS 明朝	: MS 明朝（エンベッド時：FUJ 明朝体）
MS ゴシック	: MS ゴシック（エンベッド時：FUJ ゴシック体）
@MS 明朝	: @MS 明朝（エンベッド時：@FUJ 明朝体）
@MS ゴシック	: @MS ゴシック（エンベッド時：@FUJ ゴシック）
- 登録されていないフォントを使用した場合、以下のように出力されます。

日本語文字	: MS 明朝（エンベッド時：FUJ 明朝体）
日本語文字（縦書き）	: MS 明朝（エンベッド時：@FUJ 明朝体）
	ただし、オーバーレイ文字は、@MS 明朝
	（エンベッド時：@FUJ 明朝体）
- 半角英数字 : 帳票出力サーバが Windows の場合
MS 明朝（エンベッド時：FUJ 明朝体）
帳票出力サーバが UNIX 系 OS の場合
MS ゴシック（エンベッド時：FUJ ゴシック体）
- PDF フォント登録を行ったサーバ上で、List Creator を再インストールまたはアップグレードする場合は、旧製品をアンインストールする前に PDF フォント登録機能を使用して PDF フォントを削除し、List Creator を再インストールまたはアップグレードした後に、再度 PDF フォント登録を行ってください。

2.1.3 PDF 手元非表示印刷を行う

PDF 変換機能を使って出力した PDF ファイルを、Web クライアントで自動的に印刷することが可能です。次の2種類の印刷を行うことができます。

- サイレント印刷
Web クライアントで通常使うプリンタとして定義されたプリンタに非表示で印刷します。
- プリンタ選択ダイアログ表示印刷
印刷実行前にプリンタ選択ダイアログボックスを表示し、ユーザが出力先プリンタを選択してから印刷を実行します。

以下の手順で PDF 手元非表示印刷の設定を行います。

- 1) Web サーバの環境設定
 - ・ MIME タイプの関連付けを行います。
設定の詳細については、以下を参照してください。
⇒“2.5.2 Web サーバの環境設定”
- 2) Web クライアントの環境設定
 - ・ PDF 手元非表示印刷の環境設定を行います。
設定の詳細については、以下を参照してください。
⇒“2.5.3 Web クライアントの環境設定”

2.1.4 PDF リモート印刷を行う

PDF 変換機能を使って出力した PDF ファイルを、遠隔拠点のクライアントで自動的に印刷することが可能です。

PDF リモート印刷を行うには、あらかじめ遠隔拠点のクライアントにて PDF ファイルを格納するフォルダを設定する必要があります。このフォルダは複数設定することができます。各フォルダごとに PDF ファイルを印刷するプリンタを指定することができるので、PDF ファイルを格納するフォルダを使い分けることで PDF ファイルを印刷するプリンタを切り替えることができます。

以下の手順で PDF リモート印刷の設定を行います。

- 1) 遠隔拠点のクライアントに PDF リモート印刷の環境設定を行います。
設定の詳細については、以下を参照してください。
⇒“2.6 PDF リモート印刷の環境設定”
- 2) PDF リモート印刷の環境設定を行ったフォルダを共有する設定を行います。
共有する方法の例として次の2種類があります。
 - ・ Windows によるフォルダ共有
 - ・ FTP によるフォルダ共有設定方法については、Windows のマニュアル、または、FTP サーバのマニュアルなどを参照してください。

2.1.5 セキュアなメール配信を行う

PDF 変換機能を使用して出力した PDF ファイルを、S/MIME を使用した PDF メール配信または SecurePackage を使用することで、セキュアに配信することができます。

セキュアに PDF ファイルを配信する場合の手順は、それぞれ以下のようになります。

● S/MIME を使用した署名付き暗号化メール配信を行う

以下に、S/MIME を使用した署名付き暗号化メール配信を行う場合の基本的な手順を示します。

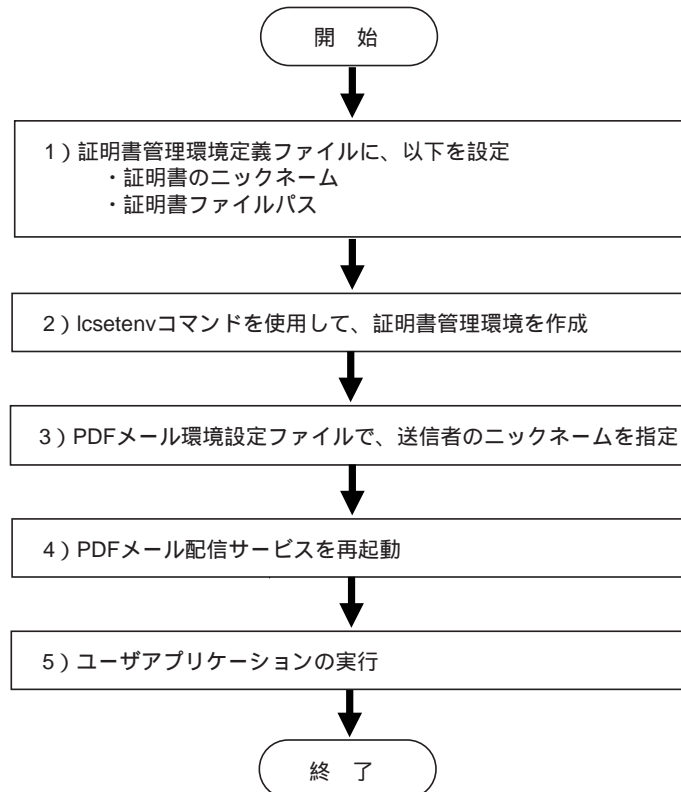


図 2.2 S/MIME を使用した署名付き暗号化メール配信を行う基本的な手順

- 1) 証明書管理環境定義ファイルに、証明書のニックネーム、および証明書ファイルパスを設定します。テキストエディタで編集してください。
証明書管理環境定義ファイルは、以下に格納されています。

- 帳票出力サーバが Windows の場合
List Creator インストールディレクトリ ¥lcrtmgr.def
- 帳票出力サーバが Solaris の場合
/etc/opt/FJSVedoc/lcrtmgr.def

以下の項目を設定します。

a) 送信者の証明書設定

- 送信者の証明書が PKCS#12 の場合
[ENV] セクション – OWN-CERTTYPE=1 を指定します。
[OWN-CERTFILE] セクション – FILETYPE=1 を指定します。
- 送信者の証明書のニックネーム
[OWN-CERTFILE] セクション – NICKNAME= (送信者の証明書ニックネーム) で指定します。
なお、暗号化メールの場合、この指定は不要です。
- 証明書ファイルパス
[OWN-CERTFILE] セクション – FILENAME= (送信者の証明書ファイルパス) で指定します。
なお、暗号化メールの場合、この指定は不要です。

- b) CA 局の証明書設定
- CA 局の証明書のニックネーム
[CA-CERTFILE-0001] セクション– NICKNAME= (CA 局の証明書ニックネーム) で指定します。
 - 証明書ファイルパス
[CA-CERTFILE-0001] セクション– FILENAME= (CA 局の証明書ファイルパス) で指定します。
- c) 受信者 (宛先) の証明書設定
- 受信者 (宛先) の証明書のニックネーム
[CERTFILE-0001] セクション– NICKNAME= (受信者の証明書ニックネーム) で指定します。
なお、署名付きメールの場合、この指定は不要です。
 - 証明書ファイルパス
[CERTFILE-0001] セクション– FILENAME= (受信者の証明書ファイルパス) で指定します。
なお、署名付きメールの場合、この指定は不要です。



備考

- 宛先を複数設定する場合は、セクション名 [CERTFILE-XXXX] の XXXX 4 桁が一意となるよう設定します。詳細については、以下を参照してください。
⇒ “2.4.1 証明書管理環境定義ファイルのキーワード一覧”

証明書管理環境定義ファイルの設定例を以下に示します。

例) 帳票出力サーバが Windows の場合

```
[ENV]
OWN-CERTTYPE=1
[OWN-CERTFILE]
NICKNAME=lowner@xxx.yyy.zzz.co.jp
FILENAME=C:%own.pfx
FILETYPE=1
[CA-CERTFILE-0001]
NICKNAME=ca@xxx.yyy.zzz.co.jp
FILENAME=C:%ca.cer
[CERTFILE-0001]
NICKNAME=luser@xxx.yyy.zzz.co.jp
FILENAME=C:%other1.cer
```

その他、詳細な設定については以下を参照してください。

⇒ “2.4.1 証明書管理環境定義ファイルのキーワード一覧”

- 2) lcsetenv コマンドを使用して証明書管理環境を作成します。
- 帳票出力サーバが Windows の場合
lcsetenv -s -f "List Creator インストールディレクトリ %ccrtmgr.def"
 - 帳票出力サーバが Solaris の場合
/opt/FJSVedoc/bin/lcsetenv -s -f /etc/opt/FJSVedoc/ccrtmgr.der



注意

- -f オプションでは、証明書管理環境定義ファイルのフルパスを指定してください。

その他の証明書管理コマンドについては、以下を参照してください。

⇒ “2.4.2 証明書管理コマンドの一覧”

- 3) PDF メール環境設定ファイルで送信者のニックネームを指定します。テキストエディタで編集してください。
- PDF メール環境設定ファイルは、以下に格納されています。
- 帳票出力サーバが Windows の場合
List Creator インストールディレクトリ %swmailenv.ini

- 帳票出力サーバが Solaris の場合
/etc/opt/FJSVedoc/swmailenv.dat

以下の項目を設定します。

- 送信者のニックネーム
[MLF_Default] セクション – MLF_FromNickname (設定項目名) で指定します。

例)

```

. . . . .
[MLF_Default]
. . . . .
MLF_FromNickname=lowner@xxx.yyy.zzz.co.jp
. . . . .
    
```

- 4) PDF メール配信サービスを再起動します。
設定した PDF メール環境設定ファイルの内容を PDF メール配信サービスに反映させるため、PDF メール配信サービスの再起動を行います。
以下の手順で PDF メール配信サービスを再起動します。

- 帳票出力サーバが Windows の場合
「ListCREATOR SendMaild Service」を起動します。
 - a) Administrators 権限を持つユーザでログオンし、[コントロールパネル] – [管理ツール] – [サービス] を選択します。
サービス一覧画面が表示されます。
 - b) 「ListCREATOR SendMaild Service」を選択します。
 - c) 「再起動」を選択して、サービスを再起動します。

- 帳票出力サーバが Solaris の場合
以下のスクリプトを実行して、PDF メール配信デーモンを再起動します。
/opt/FJSVedoc/etc/SKFJSVedocmail restart

- 5) ユーザアプリケーションを実行します。
- List Creator 帳票出力インタフェースを使用する場合
帳票出力時に帳票出力 (prprint コマンドの場合は -gpdfmailtoaddr オプション) で送信先のアドレス指定項目にニックネームを追加すると、PDF メール配信が行えます。

例) 帳票出力サーバが Windows の場合

```

prprint
-assetsdir "C:¥data¥sample" ..... ①
-atdirect file ..... ②
-f "C:¥data¥sample¥LC.dat" ..... ③
"LC" ..... ④
-keeppdf "C:¥tmp¥LC.pdf" ..... ⑤
-gpdfmailtoaddr lcuser@xxx.yyy.zzz.co.jp <lcuser@xxx.yyy.zzz.co.jp> ..... ⑥
-gpdfmailconffile "C:¥tmp¥LCmail.conf" ..... ⑦
    
```

- ①: 帳票格納ディレクトリを指定
- ②: 出力方法を指定
- ③: 入力データを指定
- ④: 帳票名を指定
- ⑤: PDF ファイルの格納先を指定
- ⑥: メールの送信先アドレスと証明書のニックネームを指定
- ⑦: PDF メール配信情報ファイルを指定

アプリケーションの作成方法の詳細については、オンラインマニュアル“アプリケーション作成ガイド”を参照してください。

- COBOL アプリケーション連携機能を使用する場合
署名付きの暗号化したメールで PDF ファイルを配信するには、PDF 変換をする指定に加え、PDF 文書情報ファイルの ([MLF_Mail] セクション) に MLF_ToAddress (送信先

メールアドレス) で、送信先メールアドレスと証明書のニックネームを指定することで行えます。

例) PDF 文書情報ファイルの記述例

```
[MF-PDF]
. . . . .
[MLF_Mail]
. . . . .
MLF_ToAddress=lcuser@xxx.yyy.zzz.co.jp< lcuser@xxx.yyy.zzz.co.jp>
. . . . .
```

PDF 変換の指定方法の詳細については、オンラインマニュアル "COBOL アプリケーション連携機能編" を参照してください。

● SecurePackage を使用した PDF メール配信を行う

以下に、SecurePackage を使用した PDF メール配信を行う場合の手順を示します。

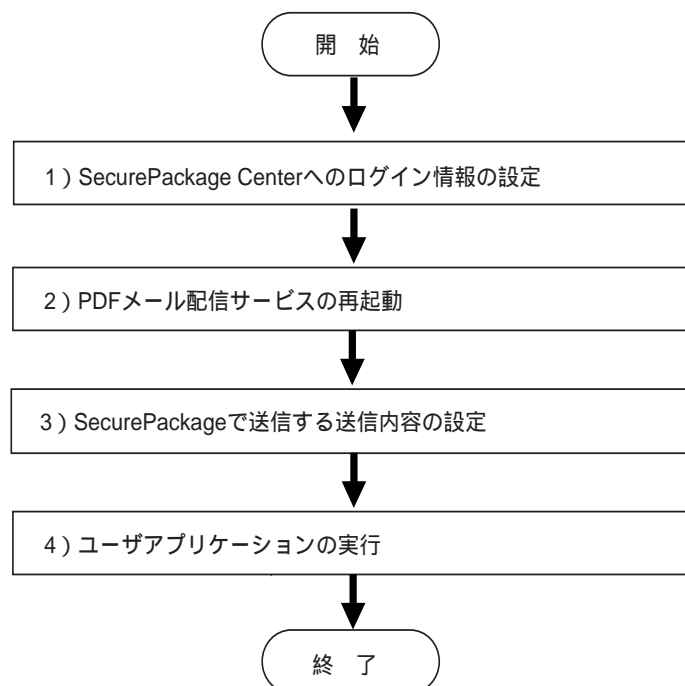


図 2.3 SecurePackage を使用した PDF メール配信を行う基本的な手順

- 1) PDF メール環境設定ファイルで、SecurePackage Center にログインする設定を行います。PDF メール環境設定ファイルは、電子メール送信に関する環境を定義するファイルです。テキストエディタで編集してください。

PDF メール環境設定ファイルは、以下に格納されています。

List Creator インストールディレクトリ ¥swmailenv.ini

以下の項目を設定します。

- SecurePackage を使用したメール配信の宣言
[MLF_Default] セクションー MLF_UseSecurePack=1 を指定します。
- SecurePackage Center の URL
[MLF_Default] セクションー MLF_SecurePackURL= (SecurePackage Center の URL) で指定します。
- 送信者の SecurePackage ログイングループ ID
[MLF_Default] セクションー MLF_SecurePackGroupID= (送信者の SecurePackage ログイングループ ID) で指定します。
- 送信者の SecurePackage ログインユーザ ID
[MLF_Default] セクションー MLF_SecurePackUserID= (送信者の SecurePackage ログインユーザ ID) で指定します。

- 送信者の SecurePackage ログインパスワード
[MLF_Default] セクション – MLF_SecurePackPasswd= (送信者の SecurePackage ログインパスワード) で指定します。
例)

```
[MLF_Default]
MLF_UseSecurePack=1
MLF_SecurePackURL=http://xxx.yyy.zzz.co.jp/securepack/
MLF_SecurePackGroupID=ListCreatorUsers
MLF_SecurePackUserID=LCSender001
MLF_SecurePackPasswd=LC001
```

- PDF メール配信サービスを再起動します。
以下の手順で PDF メール配信サービスを再起動します。
「ListCREATOR SendMaid Service」を起動します。
 - [コントロールパネル] – [管理ツール] – [サービス] を選択します。
サービス一覧画面が表示されます。
 - 「ListCREATOR SendMaid Service」を選択します。
 - 「再起動」を選択してサービスを再起動します。
- SecurePackage で送信する送信内容を設定します。
PDF メール配信情報ファイル (COBOL アプリケーション連携機能を使用する場合は PDF 文書情報ファイル) で送信先、送信ファイル、送信メッセージの設定を行います。
PDF メール配信情報ファイル (PDF 文書情報ファイル) を、テキストエディタなどで作成し、任意のディレクトリに作成します。送信メールごとに設定を変更することができます。

SecurePackage 使用時は、以下の項目を設定します。

- SecurePackage を使用したファイル配信の宣言
[MLF_Mail] セクション – MLF_UseSecurePack=1 を指定します。
- 受信者の SecurePackage ログイングループ ID
[MLF_Mail] セクション – MLF_SecurePackToGroupID= (受信者の SecurePackage ログイングループ ID) で指定します。
- 受信者の SecurePackage ログインユーザ ID
[MLF_Mail] セクション – MLF_SecurePackToUserID= (受信者の SecurePackage ログインユーザ ID) で指定します。
- SecurePackage ファイル配信の題名
[MLF_Mail] セクション – MLF_SecurePackSubject= (SecurePackage ファイル配信の題名) で指定します。
- SecurePackage ファイル配信のメッセージ
[MLF_Mail] セクション – MLF_SecurePackComment= (SecurePackage ファイル配信のメッセージ) で指定します。

例)

```
[MLF_Mail]
MLF_UseSecurePack=1
MLF_SecurePackToGroupID=ListCreatorRecievers
MLF_SecurePackToUserID=LCSeciever001
MLF_SecurePackSubject=SecurePackage テスト
MLF_SecurePackComment= これは SecurePackage のテストです。
```

- ユーザアプリケーションを実行します
 - List Creator 帳票出力インタフェースを使用する場合
帳票出力時に帳票出力 (prprint コマンドの場合は -gpdfmailconffile オプション) で PDF メール配信情報ファイルを指定すると、PDF メール配信が行えます。

ユーザアプリケーションの詳細については、オンラインマニュアル“アプリケーション作成ガイド”を参照してください。

- COBOL アプリケーション連携機能を使用する場合
SecurePackage を使用した PDF メール配信は、PDF 変換する指定に加え、3) で作成した PDF 文書情報ファイルを指定することで行えます。
PDF 変換の指定方法の詳細については、オンラインマニュアル“COBOL アプリケーション連携機能編”を参照してください。

例)

```
prprint
-assetsdir "C:¥data¥sample" ..... ①
-atdirect file ..... ②
-f "C:¥data¥sample¥LC.dat" ..... ③
"LC" ..... ④
-keeppdf "C:¥tmp¥LC.pdf" ..... ⑤
-gpdfmailconf "C:¥tmp¥LCmail.conf" ..... ⑥
```

- ①：帳票格納ディレクトリを指定
- ②：出力方法を指定
- ③：入力データファイルを指定
- ④：帳票名を指定
- ⑤：PDF ファイルの格納先を指定
- ⑥：PDF メール配信情報ファイルを指定

2.1.6 MeFt と連携した PDF ファイルの出力

MeFt で作成した帳票データを PDF 変換する場合、“1.1.12 MeFt との連携”の図 1.7 に示す構成で PDF ファイルを生成できます。

外字（利用者定義文字と JEF 拡張文字）を PDF ファイルに埋め込む場合については、以下を参照してください。

⇒“2.1.9 外字を使用した PDF の出力方法”

● 必要な製品

- 【Windows 版】を利用して PDF 出力する場合
 - MeFt V6.1L10 以降
- 【Solaris 版】を利用して PDF 出力する場合
 - MeFt 6.0 以降
- 【Linux for Intel64 版】を利用して PDF 出力する場合
 - Linux for Intel64 版 NetCOBOL Enterprise Edition V10.1.0 の MeFt コンポーネント
- 【Linux for x86 版】を利用して PDF 出力をする場合
 - MeFt V7.2L10 以降
- 【Linux for Itanium 版】を利用して PDF 出力する場合
 - Linux for Itanium 版 NetCOBOL Enterprise Edition V8.0L10 の MeFt コンポーネント

● MeFt の設定

以下の指定を行うことによって、PDF ファイルを生成することができます。

詳細については、プラットフォーム別に MeFt のオンラインマニュアル“MeFt 説明書”を参照してください。

帳票の PDF 変換

MeFt のプリンタ情報ファイルのストリーム種別に「PDF」を定義すると、PDF 変換機能が呼び出され、PDF 変換が行われます。

PDF ファイルの属性設定

MeFt のプリンタ情報ファイルに指定する PDF 変換機能の PDF 文書情報ファイルに、以下のパラメータを指定することができます。

- 文書情報の設定
PDF 文書に書き込む作成者、タイトル名、サブタイトル名、およびコメントを設定することができます。
- フォントのエンベッド（貼り付け）
外字（利用者定義文字と JEF 拡張文字）のエンベッド（貼り付け）を“する”、“しない”という設定を行います。
- 暗号パスワード
作成された PDF ファイルを開く際に必要となるパスワードとセキュリティレベルを設定するパスワードを記述します。
- セキュリティレベル
印刷の可否、文書変更の可否、テキストとグラフィックスの選択の可否を設定できます。暗号化には、従来の 40bit 暗号化と強度の高い 128bit 暗号化を選択することができます。128bit 暗号化では、MeFt の STREAMENV（管理情報ファイル名指定）に PDF 文書情報ファイルとして以下のキーワードを設定することによって細かなセキュリティオプションを設定することができます。
 - ・ PDF-KEY128
 - ・ PDF-PRINT
 - ・ PDF-MODIFY
 - ・ PDF-SELECT

PDF 文書情報ファイルの設定内容については、以下を参照してください。

⇒ “2.2.2 PDF 文書情報ファイルの書式”

MeFt のプリンタ情報ファイルの指定方法については、MeFt のオンラインマニュアル“MeFt 説明書”の“管理情報ファイル（STREAMENV）”を参照してください。

2.1.7 Server2000 ホスト連携プレミアムと連携した PDF ファイルの出力

メインフレームの帳票データを PDF 変換する場合、“1.1.13 メインフレーム帳票データの PDF 変換”の図 1.8 に示す構成で PDF ファイルを生成できます。

外字やオーバーレイを利用する場合については、以下を参照してください。

⇒ “2.1.9 外字を使用した PDF の出力方法”

●必要な製品

ホスト–サーバ間の通信プロトコル（TCP/IP、FNA）によって、以下のソフトウェアが必要です。

必要なソフトウェア	ホスト側	サーバ側
連携情報付加用ソフト	<ul style="list-style-type: none"> ・ SystemWalker/ PrintASSORT(*1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ List Works Enterprise Edition ・ 帳票仕分け管理 (*1)

必要なソフトウェア		ホスト側	サーバ側
データ 転送 ソフト	TCP/IP を使用する場合	<ul style="list-style-type: none"> ・ APS/NP ・ DTS(*2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Linkexpress ・ 帳票配信サービス (*3)
	FNA を使用する場合	<ul style="list-style-type: none"> ・ APS/NP(*4) ・ VTAM-G(*5) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 帳票制御サービス (*3) ・ 帳票管理サービス (*3) ・ 帳票配信サービス (*3)

*1：ホスト側に OS IV SystemWalker/PrintASSORT、またはサーバ側に List Works Enterprise Edition 帳票仕分け管理のどちらかが必要です。

*2：DTS を導入した場合に必要なソフトウェア構成の詳細については、OS IV DTS のマニュアルを参照してください。

*3：Server2000 ホスト連携プレミアムに包含されています。

- Server2000 ホスト連携プレミアム V1.1L30 以降 (Windows の場合)
- Server2000 ホスト連携プレミアム 1.1 以降 (Solaris の場合)

*4：Windows 版 Server2000 ホスト連携プレミアムと連携する場合のみ。

Solaris 版 Server2000 ホスト連携プレミアムと連携する場合は、AIM 出力のみとなります。

*5：VTAM-G を導入した場合に必要なソフトウェア構成の詳細については、OS IV VTAM-G マニュアルを参照してください。

Server2000 ホスト連携プレミアムと連携した運用形態では、ホストの印刷アプリケーションからの印刷指示で、PDF ファイルが作成されます (List Creator は直接実行する必要はありません)。したがって、上記連携によって作成された PDF を Web で閲覧したい場合は、お客様の方で Web サーバに登録し、運用することになります。

● Server2000 ホスト連携プレミアム、PrintASSORT の設定

以下の指定を行うことによって、PDF ファイルを生成することができます。

詳細については、以下を参照してください。

- OSIV SystemWalker/PrintASSORT に添付のマニュアル
- Server2000 ホスト連携プレミアム 帳票配信サービスの説明書
- オンラインマニュアル“解説編”の「帳票データの PDF 変換」についての記載を参照してください。

帳票の PDF 変換

Server2000 ホスト連携プレミアムの配信環境定義ファイルのノードに固定文字列 "!PDF" を指定することによって、PDF 変換機能が呼び出され、メインフレーム帳票データの PDF 変換が行われます。

PDF ファイルの属性設定

ホスト側 PrintASSORT の ASSORT 仕分け定義体に帳票情報を設定することによって、PDF ファイルの属性設定が行われます。

2.1.8 List Works と連携した PDF ファイルの出力

List Works の電子帳票データを PDF 変換する場合、“1.1.14 List Works との連携”の図 1.9 に示す構成で PDF ファイルを生成できます。

● 必要な製品

Windows 版 List Works の場合	: List Works V6.0L10 以降
Solaris 版 List Works の場合	: List Works 6.0 以降
Linux for Itanium 版 List Works の場合	: List Works 9.0.0 以降

2.1.9 外字を使用した PDF の出力方法

外字（利用者定義文字と JEF 拡張文字）としてシステムに定義された外字を PDF にエンベッドするためには、Charset Manager と連携する必要があります。

図 2.5 および図 2.4 のような手順で、Charset Manager 連携による外字（利用者定義文字と JEF 拡張文字）を利用できるようになります。



注意

- 外字（利用者定義文字と JEF 拡張文字）を PDF 変換する場合は、必ずフォントのエンベッドを行ってください。

●必要な製品

以下に、外字（利用者定義文字と JEF 拡張文字）としてシステムに定義された外字を PDF にエンベッドするために必要な製品を示します。

Windows 版 Charset Manager の場合、以下の製品が必要です。

- CharsetMGR-M V5.1 以降、または Charset Manager Standard Edition V6.0 以降

Windows(x64) 版 Charset Manager の場合、以下の製品が必要です。

- Charset Manager Standard Edition Agent V9.1.1 以降

Solaris 版 Charset Manager の場合、以下の製品が必要です。

- CharsetMGR-A V5.1 以降、または Charset Manager Standard Edition Agent V6.0 以降

Linux for Intel64 版 Charset Manager の場合、以下の製品が必要です。

- Charset Manager Standard Edition Agent V9.1.1 以降

Linux for x86 版 Charset Manager の場合、以下の製品が必要です。

- Charset Manager Standard Edition Agent V6.0L10 以降

Linux for Itanium 版 Charset Manager の場合、以下の製品が必要です。

- Charset Manager Standard Edition Agent V7.0L10 以降

また、Charset Manager で外字を作成する際に、Charset Manager Standard Edition がインストールされる資源管理サーバー上に下記製品が必要となります

- JEF 拡張漢字サポート V4.1L40 以降（明朝体の外字作成時に必要となります）
- JEF ゴシックフォント V2.1L10 以降（ゴシック体の外字作成時に必要となります）

●設定

Charset Manager 連携で外字を利用するには、以下の 2 種類の運用があります。

- 日本語資源管理から直接登録する運用
- 印刷資源管理での運用



備考

- 印刷資源管理での運用は、帳票出力サーバが Linux for Itanium の場合、および、Linux for Intel64 の場合は未サポートです。

【日本語資源管理から直接登録する運用（Charset Manager Standard Edition V7.0 以降の場合）】

Charset Manager Standard Edition V7.0 以降を使った場合、日本語資源管理から自動的に外字（利用者定義文字と JEF 拡張文字）を List Creator に登録することができます。

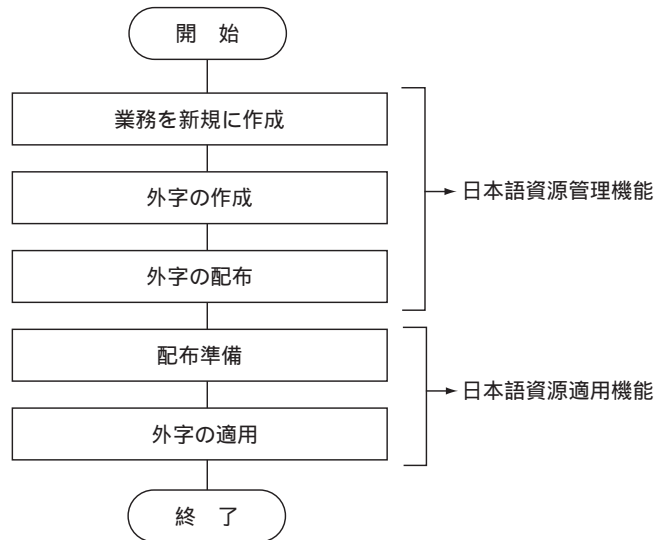


図 2.4 外字を利用する手順（日本語資源管理から直接登録する運用）

外字（利用者定義文字と JEF 拡張文字）の作成

業務を新規に作成し、外字を作成します。Charset Manager Standard Edition から Charset Manager Standard Edition Agent へ外字を配布してください。

詳細については、“Charset Manager オンラインマニュアル”の外字の配布に関する記述を参照してください。

日本語資源適用機能での操作

作成した外字の配布方法によって設定方法が異なります。

以下に、作成した外字の配布方法を示します。

- Charset Manager の資源配布機能で配布する場合
- Centric Manager で配布する場合
- オフラインで配布する場合

設定手順の詳細については、“Charset Manager オンラインマニュアル”の配布された外字の取り出しに関する記述を参照してください。

日本語資源運用では、List Creator での外字（利用者定義文字と JEF 拡張文字）登録のための操作はありません。

操作中に PDF 変換機能が動作していると、その文書中に文字が正しくエンベッドされない場合があります。操作完了後、再度 PDF 変換操作を実行してください。

【印刷資源管理での運用】

外字（利用者定義文字と JEF 拡張文字）の作成や登録手順の詳細については、“Charset Manager オンラインマニュアル”の外字の作成と登録に関する記述を参照してください。

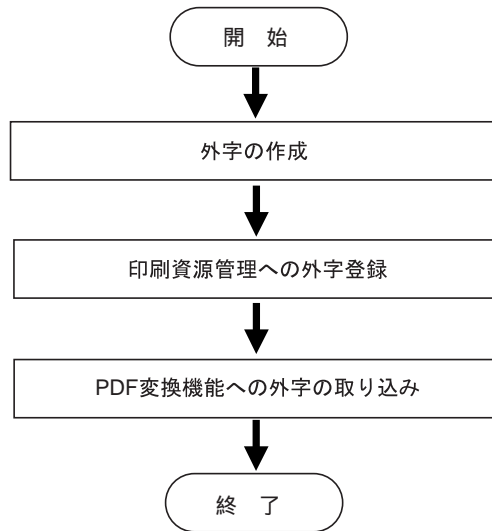


図 2.5 外字を利用する手順（印刷資源管理での運用）

Charset Manager 日本語資源管理機能によって作成された外字をエンベッドするために、PDF 変換機能の外字フォントファイルに登録する手順を以下に示します。

外字（利用者定義文字と JEF 拡張文字）の作成

外字を作成し、Charset Manager Standard Edition から Charset Manager Standard Edition Agent へ外字を転送してください。

詳細については、“Charset Manager オンラインマニュアル”の外字のセットアップに関する記述を参照してください。



備考

- 帳票出力サーバが Windows Server 2008 の場合、さらに Windows ファイアウォールの設定変更が必要です。以下の手順で設定を行ってください

- 1) 「コントロールパネル」→「Windows ファイアウォールの設定」を起動します。
- 2) 「例外」タブ欄で「プログラムの追加」を選択し、追加するプログラムを登録します。
- 3) 「参照」ボタンを押下し、以下を入力します。
[Windows システムディレクトリ]¥System32¥ftp.exe
(例：C:¥Windows¥System32¥ftp.exe)
- 4) 「OK」にて設定を完了します。

印刷資源への外字の登録

- 1) [スタート] – [プログラム] – [Charset Manager] – [印刷資源管理] を起動します。
- 2) “PATTERN” フォルダを選択し、[ファイル] メニューから [登録] を選択します。
- 3) 「登録フォントの選択」ダイアログボックスで、“Windows TrueType フォント”をチェックして、[OK] ボタンをクリックします。

以上の操作によって、登録資源一覧に“Windows TrueType フォント”が表示されます。

PDF 変換機能への外字（利用者定義文字と JEF 拡張文字）の取り込み

帳票出力サーバが Windows の場合

- Administrators 権限をもつユーザでログオンし、PDF 変換機能が使用されていないことを確認後、コマンドプロンプト画面上で以下のコマンドを実行してください。

(List Creator インストールディレクトリ) ¥bin¥edocudc

- 操作中に「PDF 変換機能」が動作していると、その文書中に文字が正しくエンベッドされない場合があります。操作完了後、再度 PDF 変換操作を実行してください。外字を登録

する場合は、あらかじめ Charset Manager Standard Edition で操作が必要となります。
Charset Manager Standard Edition の操作方法については、“Charset Manager 使用手引書 印刷資源運用編”を参照してください。

帳票出力サーバが UNIX 系 OS の場合

- システム管理者権限でログインし、PDF 変換機能が使用されていないことを確認後、以下のコマンドを実行してください。

```
/opt/FJSVedoc/bin/edocudc
```

- 操作中に PDF 変換機能が動作していると、その文書中に文字が正しくエンベッドされない場合があります。操作完了後、再度 PDF 変換操作を実行してください。

2.2 細かな PDF の設定が必要な運用形態

● PDF 文書情報ファイル (帳票出力時)

PDF ファイルに対して細かな設定を行う場合、PDF 文書情報ファイルに必要な定義を行うことで、多彩な機能を PDF ファイルに持たせることができます。

PDF 文書情報ファイルは、PDF ファイルの描画オブジェクトに関係しない、コメント、タイトル、作成者、および作成日付といったテキスト情報、パスワードキーや各種初期設定を、それぞれキーワードとして PDF 文書情報ファイルに定義することができます。

● PDF メール配信情報ファイル

PDF メール配信情報ファイルに必要な定義を行うことで、PDF メール配信に対して細かな設定が行えます。

PDF メール配信情報ファイルの設定は、宛先、メールメッセージ、添付ファイルなどをメールごとに変更することができます。

PDF メール配信情報ファイルは、PDF メール環境設定ファイルの設定値よりも優先順序が高く、同一キーワードを設定した場合、PDF メール配信情報ファイルの設定値が有効になります。

COBOL アプリケーション連携機能を使用する場合には、PDF メール配信情報ファイルの内容は PDF 文書情報ファイルに記述します。



- COBOL アプリケーション連携機能を使用する場合、PDF メール配信情報ファイルの内容を PDF 文書情報ファイルに、[MF-PDF] セクションの定義以降に [MLF_Message] セクションを定義します。

● PDF メール環境設定ファイル

PDF メール環境設定ファイルに必要な定義を行うことで、PDF メール配信に必要な基本設定が行えます。

PDF メール環境設定ファイルの設定変更後は、PDF メール配信 (UNIX 系 OS の場合はデーモン) の再起動が必要になります。

PDF メール配信情報ファイル (COBOL アプリケーション連携機能を使用する場合は PDF 文書情報ファイル) で同一のキーワードを指定した場合、PDF メール配信情報ファイル (PDF 文書情報ファイル) の設定値が有効になります。

2.2.1 帳票出力時に使用する PDF 文書情報ファイルの指定方法

● List Creator で帳票出力時の指定方法

List Creator の各インタフェースとして多くの機能が指定可能ですが、一部機能は PDF 文書情報ファイルを記述して、出力時に PDF 文書情報ファイルを指定する必要があります。

- List Creator 帳票出力インタフェースごとの指定方法は、以下のとおりです。

- コマンドの場合 (prprint/prprintx)
 - in5 オプションで PDF 文書情報ファイルパスを指定します。
- Java インタフェースの場合
 - PrintProperties クラスの setProperty メソッドで、定数 ID_PDF_DOCENVFILE の値に PDF 文書情報ファイルパスを指定します。
- .NET インタフェースの場合
 - PrintProperties クラスの PdfDocEnvFile プロパティで、PDF 文書情報ファイルパスを指定します。
- カスタムコントロールの場合
 - カスタムコントロール PrctrlExControl の PdfDocEnvFile に、PDF 文書情報ファイルパスを指定します。

- CFX カスタムタグインタフェース (ColdFusion MX) の場合
CFX_OAST_OUTPUTQUERY タグ、または CFX_OAST_CONNECT タグの
PDF_DOC_ENV_FILE の値に、PDF 文書情報ファイルパスを指定します。

なお、帳票出力インタフェースとの対応については、以下を参照してください。

⇒ “2.2.3 帳票出力時に使用する PDF 文書情報ファイルのキーワード一覧”

- COBOL アプリケーション連携機能を利用する場合の指定方法は、以下のとおりです。

PDF 文書情報ファイルは、ユーザアプリケーション実行時の環境変数などで指定します。

指定方法の詳細については、オンラインマニュアル “COBOL アプリケーション連携機能編” を参照してください。

● MeFt での指定方法

MeFt では、PDF 出力時にプリンタ情報ファイルとして出力先の情報を指定しますが、このプリンタ情報ファイルに PDF 文書情報ファイルの記述を設定します。

● Server2000 ホスト連携プレミアムでの指定方法

PrintASSORT の仕分け情報定義体に、PDF 文書情報ファイルの記述を設定します。

2.2.2 PDF 文書情報ファイルの書式

PDF 文書情報ファイルの書式は、以下のとおりです。

- PDF 文書情報ファイルに記述する文字コードは、以下のとおりです。
 - ・ 帳票出力サーバが Windows の場合
Shift-JIS コードで、改行コードは CR + LF (0x0d + 0x0a)
 - ・ 帳票出力サーバが Solaris の場合
Shift-JIS コード、EUC コード、または UNICODE (UTF8) コードで、改行コードは LF (0x0a)
ユーザアプリケーション実行時の文字コード系に合わせて以下のように記述します。

プラットフォーム	ロケール名	コード種別
Solaris	ja_JP.PCK	Shift-JIS
	ja/japanese/ja_JP.eucJP	EUC
	ja_JP.UTF-8	UNICODE (UTF8)

- ・ 帳票出力サーバが Linux の場合
EUC コードまたは UNICODE (UTF8) コードで、改行コードは LF (0x0a)
ユーザアプリケーション実行時の文字コード系に合わせて以下のように記述します。

プラットフォーム	ロケール名	コード種別
Linux	ja_JP.eucJP	EUC
	ja_JP.UTF-8	UNICODE (UTF8)

- [キーワード] + [=] + [値] + [改行コード] の順で、1つのコマンドを記述してください。使用できるキーワードについては、以下を参照してください。
⇒ “2.2.4 帳票出力時に使用する PDF 文書情報ファイルのキーワード説明”
- 値は、「=」文字の次から改行コードまでを指します。さらに使用できる文字種は全角/半角、日本語 (JIS 第一水準/第二水準) と英数字です。外字 (利用者定義文字と JEF 拡張文字) を使用した場合、PDF 変換機能がエラーとなることがあります。
- 値の指定がない場合、エラーとなります。
- キーワードにない文字列は、コメントとみなします。
- 複数回指定できないキーワードを複数回設定すると、最後に指定したキーワード名 = 設定値が有効になります。

- 帳票出力時に指定する場合には、[MF-PDF] キーワード以外は、省略が可能です。
- PDF 操作コマンドで指定する場合には、[PM-PDF] キーワード以外は、省略が可能です。
- 「#」を記述すると、以降の文字列はコメントとなります。
- 「=」以前の空白やタブは、キーワードが無効になります。「=」以降の空白やタブは、文字として扱います。
- キーワードは、大文字、小文字を区別して正しく記述してください。
- キーワードにファイルのパス名を指定する場合、半角数字、半角英字、半角記号と JIS 第一/第二水準漢字で 255 バイトまでです。

2.2.3 帳票出力時に使用する PDF 文書情報ファイルのキーワード一覧

以下に、PDF 文書情報ファイルの各キーワードと List Creator の帳票出力インタフェースで指定可能なパラメタとの対応について示します。


 備考 - COBOL アプリケーション連携機能使用時に指定可能なキーワードについては、オンラインマニュアル "COBOL アプリケーション連携機能編" を参照してください。

表 2.1 帳票出力時の PDF 文書情報ファイルのキーワード一覧 (1 / 3)

キーワード名	説明	帳票出力インタフェースでの指定
[MF-PDF]	PDF 変換機能用 PDF 文書情報ファイルの宣言です。	—
PDF-AES	値に ON を指定した場合、PDF を AES 暗号で暗号化します。	—
PDF-ANOTATE	PDF ファイルのセキュリティオプションとして、注釈、フォームフィールドの追加、変更の許可 / 不許可を設定します。	○ (*1)
PDF-AUTHOR	PDF ファイルの文書情報の作成者を記述します。	○ (*1)
PDF-AUTOPRINT	PDF ファイルに自動印刷方式を設定します。	○ (*1)
PDF-BARBOX	バーコード項目のサイズがデフォルトのバーコード幅より小さい場合、収まるように縮小して出力します。	— (*1)
PDF-CENTERWINDOW	値に ON を指定した場合、文書ウィンドウを画面の中央に表示します。	—
PDF-DATADIR	PDF ファイルにファイルを埋め込むときに、そのファイルが存在するべきフォルダのパスを指定することができます。	—
PDF-DATAFILE	PDF ファイルに埋め込む任意のデータファイルのパス名を指定します。	○ (*1)
PDF-DIRCREATE	PDF ファイルを生成するファイルパスに記述されたディレクトリが存在しないときは、ON の場合にディレクトリ生成を行います。OFF の場合は、“PDF 作成エラー”となります。	—
PDF-DOCTITLE	値に ON を指定した場合、PDF-TITLE で指定されている文字列を Adobe Reader のタイトルバーに表示します。OFF を指定すると PDF ファイル名が表示されます。	—
PDF-EMBED	PDF ファイルのエンベッドする文字範囲を設定します。	○ (*1)

表 2.1 帳票出力時の PDF 文書情報ファイルのキーワード一覧 (2 / 3)

キーワード名	説明	帳票出力 インタ フェース での指定
PDF-FITWINDOW	値に ON を指定した場合、最初に表示されるページのサイズに適合するように文書ウィンドウのサイズを変更します。	–
PDF-FULLSCREEN	ファイルオープン時に Adobe Reader の表示をフルスクリーンモードにすることができます。	○ (*1)
PDF-HIDEMENUBAR	ファイルオープン時に Adobe Reader のメニューバーの表示 / 非表示を設定できます。	○ (*1)
PDF-HIDETOOLBAR	ファイルオープン時に Adobe Reader のツールバーの表示 / 非表示を設定できます。	○ (*1)
PDF-HIDEWINDOWUI	値に ON を指定した場合、文書ウィンドウのユーザインタフェース要素 (スクロールバーやナビゲーション用コントロールなど) を隠し、文書の内容だけが表示されます。	–
PDF-INITLAYOUT	PDF ファイルを開いたときのページレイアウトを設定します。	–
PDF-INITPAGE	PDF ファイルを開いたときに表示されるページを指定します。	–
PDF-INITZOOM	PDF ファイルを開いたときの表示倍率を指定します。	–
PDF-JPEGMODE	JPEG データの変換方法を設定します。	–
PDF-JPEGQUALITY	JPEG 圧縮時の品質を設定します。	○ (*1)
PDF-KEY128	暗号化キー長を 128bit として PDF 変換を行います。	–
PDF-LAYOUT	PDF ファイルのページレイアウトを設定します。	– (*2)
PDF-LIMITURI	List Creator デザイナで URI 閲覧制限機能を設定した PDF ファイルの閲覧を許可する URI を設定します。	○ (*1)
PDF-LIMITURICANCEL	List Creator デザイナで設定した URI 閲覧制限機能を無効にします。	○
PDF-META	値に ON を指定した場合、文書情報からメタデータを生成して PDF ファイルに埋め込みます。OFF を指定した場合はメタデータを埋め込みません。	–
PDF-MMR	2 値データを MMR で圧縮します。	–
PDF-MODIFY	PDF ファイルのセキュリティオプションとして文書の変更の許可 / 不許可を設定します。	○ (*1)
PDF-NOENCMETA	値に ON を指定した場合、PDF ファイルに埋め込むメタデータを暗号化しません。OFF を指定した場合は埋め込むメタデータを暗号化します。	–
PDF-NOOCRБ	値に ON を指定した場合、PDF ファイル中で使用される OCR-B フォントのエンベッドを行いません。OFF を指定した場合は OCR-B フォントの埋め込みが行われます。	–
PDF-OPENPWD	Adobe Reader で PDF ファイルを開く際に必要なパスワードを記述します。	○
PDF-PAGEMODE	PDF ファイルを開く際のしおりやサムネイルイメージの表示方法を設定することができます。	–
PDF-PRINT	PDF ファイルのセキュリティ情報として印刷の許可 / 不許可を設定します。	○ (*1)

表 2.1 帳票出力時の PDF 文書情報ファイルのキーワード一覧 (3 / 3)

キーワード名	説明	帳票出力 インタ フェース での指定
PDF-RESOURCEPERPAGE	PDF ファイルの Resource 辞書をページごとに作成します。	—
PDF-SECUPWD	Acrobat で PDF ファイルのセキュリティオプションを変更する際に必要なパスワード (セキュリティオプション変更パスワード) を記述します。	○
PDF-SELECT	PDF ファイルのセキュリティオプションとしてテキストとグラフィックスの選択の許可 / 不許可を設定します。	○ (*1)
PDF-SUBTITLE	PDF ファイルの文書情報のサブタイトルを記述します。	○ (*1)
PDF-TITLE	PDF ファイルの文書情報のタイトルを記述します。	—
PDF-YENNONADJUST	値に ON を指定した場合、PDF ファイル中で使用される文字コード (Unicode) 「0x005C」を「0x00A5」に変換しません。OFF を指定した場合は変換します。	—

○：帳票出力インタフェースで指定可能

—：帳票出力インタフェースで指定不可

*1：List Creator デザイナの「文書情報設定画面」で指定可能です。

文書情報設定画面は、帳票業務情報のプロパティ画面の [ファイル] タブ内にある「文書情報」から表示されます。

*2：List Creator デザイナの [拡大／縮小印刷] タブで指定可能です。

[拡大／縮小印刷] タブは、帳票様式定義のプロパティ画面で表示されます。

2.2.4 帳票出力時に使用する PDF 文書情報ファイルのキーワード説明

[MF-PDF]

書式

[MF-PDF]

説明

PDF 変換機能用 PDF 文書情報ファイルの宣言です。

この宣言以降のキーワードとその定義が有効になります。したがって、PDF 変換時に使用するいずれのキーワードよりも先に宣言してください。

省略時

省略できません。

特記事項

このキーワードを複数回使用した場合は、最初の宣言以外は無効となります。

PDF-AES

書式

PDF-AES=ON | OFF

説明

PDF を AES 暗号で暗号化します。

ON:

AES 暗号で暗号化します。

OFF:

RC4 暗号で暗号化します。

ただし、PDF-KEY128=ON を設定していない場合、このキーワードは無効になります。

例) PDF-AES=ON

省略時

OFF

特記事項

- ON、OFF 以外を指定した場合、エラーとなります。
- Adobe Acrobat 6.0 以前および Adobe Reader 6.0 以前では機能しません。Adobe Acrobat 7.0 以降または Adobe Reader 7.0 以降をお使いください。

PDF-ANOTATE

書式

PDF-ANOTATE=ON | OFF

説明

PDF のセキュリティ情報として、注釈、フォームフィールドの追加、変更の許可 / 不許可を設定します。

ON:

注釈、フォームフィールドの追加、変更を不許可とします。

OFF:

注釈、フォームフィールドの追加、変更を許可とします。

ただし、PDF-KEY128=ON を設定している場合、このキーワードは無効になります。注釈およびフォームフィールドのセキュリティ設定を行うには、PDF-MODIFY=ADDANNOT を設定してください。

例) PDF-ANOTATE=ON

省略時

OFF

特記事項

- ON、OFF 以外を指定した場合、エラーとなります。
- ON を指定するときは、必ず PDF-SECUPWD でセキュリティ情報の変更に必要なパスワードを設定してください。パスワードの設定を行わない場合、指定したセキュリティが有効にならないことがあります。

PDF-AUTHOR

書式

PDF-AUTHOR=< 改行コードを含む 256 バイト以内の文字列 >

説明

PDF の文書情報の作成者を記述します。

Acrobat Reader 4.0 の [ファイル] – [文書情報] – [一般] (Acrobat Reader 5.0 または Adobe Reader 6.0 以降の場合は、[ファイル] – [文書のプロパティ] – [概要]、Adobe Reader 8.0 以降の場合は、[ファイル] – [プロパティ] – [概要]) で参照が可能です。256 バイト以上の文字列を記述した場合、Adobe Reader でファイルが正しく開かない場合があります。

例) PDF-AUTHOR= ○○株式会社

省略時

作成者情報が空欄となります。

PDF-AUTOPRINT

書式

PDF-AUTOPRINT=OPN | OPN+CLS | OFF

説明

PDF ファイルに自動印刷方式を設定します。

OPN:

文書を開くと同時に印刷ダイアログボックスを表示して印刷を行うことができます。

OPN+CLS:

文書を開くと同時に自動印刷を行います（デフォルトプリンタに印刷されます）。

OFF:

自動印刷を行いません。

例) PDF-AUTOPRINT=OPN

省略時

OFF

特記事項

- OPN、OPN+CLS、OFF 以外を指定した場合、エラーとなります。
- JavaScript が実行不能の場合など、Adobe Reader の環境によっては機能しないことがあります。

PDF-BARBOX

書式

PDF-BARBOX=ON | OFF

説明

デフォルトのバーコード幅よりバーコード項目のサイズが小さい場合、バーコード項目のサイズに収まるように縮小して出力します。

ON:

バーコード項目のサイズに収まるように縮小して、バーコードを描画します。

OFF:

デフォルトのバーコード幅で、バーコードを描画します。

例) PDF-BARBOX=ON

省略時

OFF

特記事項

- ON、OFF 以外を指定した場合、エラーとなります。
- 以下のバーコードの場合、この機能は使用できません。
 - Code 3 of 9 (EIAJ 準拠)
 - カスタマバーコード
 - EAN-128 (コンビニエンスストア向け)

- U.S. POSTNET (Delivery Point Code)、U.S. POSTNET (ZIP+4 Code)、U.S. POSTNET (5-Digit ZIP Code)
- FIM A (U.S. Postal FIM)、FIM B (U.S. Postal FIM)、FIM C (U.S. Postal FIM)
- 最小モジュール幅を設定した場合、バーコード項目のサイズに収まらない場合があります。

PDF-CENTERWINDOW

書式

PDF-CENTERWINDOW=ON | OFF

説明

ON:

文書ウィンドウを画面の中央に表示します。

OFF:

文書ウィンドウの画面表示位置は、Adobe Reader の環境設定にしたがいます。

例) PDF-CENTERWINDOW=ON

省略時

OFF

特記事項

- ON、OFF 以外を指定した場合、エラーとなります。
- Web ブラウザ上で表示している場合など、Adobe Reader の環境によっては正しく機能しない場合があります。

PDF-DATADIR

書式

PDF-DATADIR=< 埋め込みファイル検索フォルダパス名 >

説明

PDF にファイルを埋め込むときに、そのファイルが存在するべきフォルダのパスを指定することができます。

検索したいフォルダが複数個（最大 10 個）ある場合、当キーワードを複数回使用することができます。その場合、ファイル検索は発行されたフォルダ順に行われます。

例)

- 帳票出力サーバが Windows の場合
PDF-DATAFILE=c:¥data
- 帳票出力サーバが UNIX 系 OS の場合
PDF-DATAFILE=/data

省略時

ファイル埋め込みのためのフォルダ検索は行われません。

特記事項

- 「PDF-DATAFILE」との順序関係は問いません。
- 当キーワードを誤って 11 回以上使用しても、10 個以上のフォルダ検索は行われません。

PDF-DATAFILE

書式

PDF-DATAFILE=< 埋め込みファイルパス名 >

説明

PDF ファイルに埋め込む任意のデータファイルのパス名を指定します。複数個のデータファイルを埋め込みたい場合は、当キーワードを複数回（最大 99 個）使用します。

例)

- 帳票出力サーバが Windows の場合
PDF-DATAFILE=c:\data\sample.doc
- 帳票出力サーバが UNIX 系 OS の場合
PDF-DATAFILE=/data/sample.doc

省略時

データファイルは埋め込まれません。

特記事項

- 同一データファイルを複数回指定してもエラーにならず、指定回数分の埋め込みが行われます。
- Acrobat 4.0、Acrobat Reader 4.0、および Acrobat Reader 5.0 では、埋め込みデータオブジェクトを抽出することはできません。Acrobat 5.0 以降または Adobe Reader 6.0 以降をお使いください。
- Acrobat 5.0 では、セキュリティオプションの設定や暗号化を使用した場合、埋め込みデータオブジェクトを抽出することはできません。
- 添付したファイルを抽出する方法については、以下を参照してください。
⇒“3.3.8 ファイル添付機能”

PDF-DIRCREATE**書式**

PDF-DIRCREATE=ON | OFF

説明

PDF 生成時に指定するディレクトリが存在しない場合、ディレクトリの作成を行うことができます。

ON:

ファイルを生成するファイルパスに記述されたディレクトリが存在しないときは、ディレクトリ生成を行います。

OFF:

ディレクトリの生成は行いません。指定されたディレクトリパスが存在しないときは、ファイルアクセスエラーとなります。

例) PDF-DIRCREATE=ON

省略時

OFF

特記事項

- ON、OFF 以外を指定した場合、エラーとなります。
- 作成するディレクトリの権限は、親ディレクトリの権限を引き継ぎます。

PDF-DOCTITLE**書式**

PDF-DOCTITLE=ON | OFF

説明

Adobe Reader のタイトルバーに表示する内容を指定することができます。

ON:
PDF-TITLE で指定されている文字列を Adobe Reader のタイトルバーに表示します。

OFF:
PDF のファイル名が Adobe Reader のタイトルバーに表示されます。

例) PDF-DOCTITLE=ON

省略時

OFF

特記事項

- ON、OFF 以外を指定した場合、エラーとなります。
- Acrobat 4.0 および Acrobat Reader 4.0 では機能しません。Acrobat 5.0 以降または Acrobat Reader 5.0 以降をお使いください。
- Web ブラウザ上で表示している場合など Adobe Reader の環境や、他のオプションの指定状況によっては機能しない場合があります。

PDF-EMBED

書式

PDF-EMBED=FONT | JEF | USER | FONT+JEF | FONT+USER | JEF+USER | ALL | NONE

説明

PDF ファイルのエンベッドする文字範囲を設定します。

和文書体において PDF ファイル内にエンベッドされる対象となる文字は、そのファイル内で使用された文字のみです。

欧文書体は使用された文字に関係なくフォントすべてをエンベッドします。

フォントをエンベッドすると、生成される PDF ファイルのサイズが大きくなります。

オペランド	意味
FONT	JIS 第一水準 / 第二水準の範囲内でエンベッドを行います。(*1)
JEF	富士通 JEF 拡張文字の範囲内でエンベッドを行います。(*2)
USER	利用者定義文字のエンベッドを行います。(*2)
FONT+JEF	JIS 第一水準 / 第二水準と JEF 拡張文字のエンベッドを行います。(*1)(*2)
FONT+USER	JIS 第一水準 / 第二水準と利用者定義文字のエンベッドを行います。 (*1)(*2)
JEF+USER	利用者定義文字と JEF 拡張文字のエンベッドを行います。(*2)
ALL	文書内で使用しているすべての文字のエンベッドを行います。(*1)(*2)
NONE	エンベッドを行いません。

*1 : 生成された PDF ファイルを日本語環境ではないクライアントに配信する場合に使用します。

*2 : JEF 拡張文字や利用者定義文字などを文書中に使用した場合は、必須です。

例) PDF-EMBED=FONT+JEF

省略時

NONE

特記事項

- FONT、JEF、USER、FONT+JEF、FONT+USER、JEF+USER、ALL、NONE 以外を指定した場合、エラーとなります。
- List Creator デザイナの帳票業務情報の編集画面では以下のエンベッド指定ができます。「すべてを埋め込む」を選択した場合は「ALL」、「利用者定義文字と JEF 拡張文字」を選

択した場合は「JEF+USER」、「埋め込まない」を選択した場合は、「NONE」と同様のエンベッドを行います。帳票定義体の新規作成時は「利用者定義文字と JEF 拡張文字」が指定されています。

帳票業務情報設定方法については、オンラインマニュアル“帳票設計編”を参照してください。

- 帳票設計時に選択したフォントを PDF 出力する場合、PDF 文書情報ファイルの PDF-EMBED のオペラントの値が、以下のとおりフォント登録時のエンベッド情報により変わります。

PDF フォント登録に関する詳細は以下を参照してください。

⇒ “2.1.2 帳票設計時のフォントを PDF 中に使用する”

- 1) PDF フォント登録時のエンベッド情報を「必須」にしたフォントの場合
エンベッドする文字の範囲は、和文の場合下記の表になります。
欧文の場合は、オペラントの値にかかわらず、必ずフォントをエンベッドします。

オペラント	意味
FONT	JIS 第一水準 / 第二水準と JEF 拡張文字のエンベッドを行います。(*1)(*2)
JEF	JIS 第一水準 / 第二水準と JEF 拡張文字のエンベッドを行います。(*1)(*2)
USER	文書内で使用している対象フォントについてすべての文字のエンベッドを行います。(*1)(*2)
FONT+JEF	JIS 第一水準 / 第二水準と JEF 拡張文字のエンベッドを行います。(*1)(*2)
FONT+USER	文書内で使用している対象フォントについてすべての文字のエンベッドを行います。(*1)(*2)
JEF+USER	文書内で使用している対象フォントについてすべての文字のエンベッドを行います。(*1)(*2)
ALL	文書内で使用している対象フォントについてすべての文字のエンベッドを行います。(*1)(*2)
NONE	JIS 第一水準 / 第二水準と JEF 拡張文字のエンベッドを行います。(*1)(*2)

*1：生成された PDF ファイルを日本語環境ではないクライアントに配信する場合に使用します。

*2：JEF 拡張文字や利用者定義文字などを文書中に使用した場合は、必須です。

- 2) PDF フォント登録時のエンベッド情報を「選択」にしたフォントの場合
エンベッドする文字の範囲は、和文の場合下記の表になります。
欧文の場合は、「NONE」と「USER」を指定した場合を除き、フォントをすべてエンベッドします。

オペラント	意味
FONT	文書内で使用している対象フォントについてすべての文字のエンベッドを行います。(*1)(*2)
JEF	文書内で使用している対象フォントについてすべての文字のエンベッドを行います。(*1)(*2)
USER	利用者定義文字のエンベッドを行います。(*2)
FONT+JEF	JIS 第一水準 / 第二水準と JEF 拡張文字のエンベッドを行います。(*1)(*2)
FONT+USER	文書内で使用している対象フォントについてすべての文字のエンベッドを行います。(*1)(*2)
JEF+USER	文書内で使用している対象フォントについてすべての文字のエンベッドを行います。(*1)(*2)
ALL	文書内で使用している対象フォントについてすべての文字のエンベッドを行います。(*1)(*2)
NONE	エンベッドを行いません。

*1：生成された PDF ファイルを日本語環境ではないクライアントに配信する場合に使用します。

*2：JEF 拡張文字や利用者定義文字などを文書中に使用した場合は、必須です。

- 3) PDF フォント登録時のエンベッド情報を「不可」にしたフォントの場合
エンベッドする文字の範囲は、和文の場合下記の表になります。
欧文の場合、フォントのエンベッドは行いません。

オペランド	意味
FONT	エンベッドを行いません。
JEF	エンベッドを行いません。
USER	利用者定義文字のエンベッドを行います。(*2)
FONT+JEF	エンベッドを行いません。
FONT+USER	利用者定義文字のエンベッドを行います。(*2)
JEF+USER	利用者定義文字のエンベッドを行います。(*2)
ALL	利用者定義文字のエンベッドを行います。(*2)
NONE	エンベッドを行いません。

*1：生成された PDF ファイルを日本語環境ではないクライアントに配信する場合に使用します。

*2：JEF 拡張文字や利用者定義文字などを文書中に使用した場合は、必須です。

PDF-FITWINDOW

書式

PDF-FITWINDOW=ON | OFF

説明

ON:

最初に表示されるページのサイズに適合するように文書ウィンドウのサイズを変更します。

OFF:

Adobe Reader の環境設定にしたがいます。

例) PDF-FITWINDOW=ON

省略時

OFF

特記事項

- ON、OFF 以外を指定した場合、エラーとなります。
- Web ブラウザ上で表示している場合など、Acrobat や Adobe Reader の環境によっては正しく機能しないことがあります。

PDF-FULLSCREEN

書式

PDF-FULLSCREEN=ON | OFF

説明

ファイルオープン時に Adobe Reader の表示をフルスクリーンモードにすることができます。

ON:

文書を開いたときに、Adobe Reader の表示をフルスクリーンモードにします。

OFF:

文書を開いたときに、Adobe Reader の環境設定で指定されている倍率で表示されます。

例) PDF-FULLSCREEN=ON

省略時

OFF

特記事項

- ON、OFF 以外を指定した場合、エラーとなります。
- Web ブラウザ上で表示している場合など、Acrobat や Adobe Reader の環境によっては機能しないことがあります。

PDF-HIDEMENUBAR

書式

PDF-HIDEMENUBAR=ON | OFF

説明

ファイルオープン時に Adobe Reader のメニューバーの表示 / 非表示を設定できます。

ON:

文書がアクティブなときに Adobe Reader のメニューバーを隠します。

OFF:

文書がアクティブなときに Adobe Reader のメニューバーを隠しません。

例) PDF-HIDEMENUBAR=ON

省略時

OFF

特記事項

- ON、OFF 以外を指定した場合、エラーとなります。
- Web ブラウザ上で表示している場合など、Acrobat や Adobe Reader の環境によっては、機能しないことがあります。

PDF-HIDETOOLBAR

書式

PDF-HIDETOOLBAR=ON | OFF

説明

ファイルオープン時に Adobe Reader のツールバーの表示 / 非表示を設定できます。

ON:

文書がアクティブなときに Adobe Reader のツールバーを隠します。

OFF:

文書がアクティブなときに Adobe Reader のツールバーを隠しません。

例) PDF-HIDETOOLBAR=ON

省略時

OFF

特記事項

- ON、OFF 以外を指定した場合、エラーとなります。

- Web ブラウザ上で表示した場合や Acrobat や Adobe Reader の環境などによって、正しく機能しない場合があります。

PDF-HIDEWINDOWUI

書式

PDF-HIDEWINDOWUI=ON | OFF

説明

ON:

文書ウィンドウのユーザインタフェース要素（スクロールバーやナビゲーション用コントロールなど）を隠し、文書の内容だけが表示されます。

OFF:

文書ウィンドウのユーザインタフェース要素を表示します。

例) PDF-HIDEWINDOWUI=ON

省略時

OFF

特記事項

- ON、OFF 以外を指定した場合、エラーとなります。
- Web ブラウザ上で表示した場合や Acrobat や Adobe Reader の環境などによって、正しく機能しない場合があります。

PDF-INITLAYOUT

書式

PDF-INITLAYOUT=SINGLE | ONECOLUMN | TWOCOLUMN | DEFAULT

説明

PDF 文書を開いたときのページレイアウトを設定します。

SINGLE:

単一でページを表示します。

ONECOLUMN:

連続でページを表示します。

TWOCOLUMN:

見開きでページを表示します。

DEFAULT:

Adobe Reader 環境設定のデフォルトで設定されたレイアウトで表示します。

例) PDF-INITLAYOUT=SINGLE

省略時

DEFAULT

特記事項

SINGLE、ONECOLUMN、TWOCOLUMN、DEFAULT 以外を指定した場合、エラーとなります。

PDF-INITPAGE

書式

PDF-INITPAGE=< ページ番号 >

説明

PDF 文書を開いたときに表示されるページを指定します。
 10 進の正値を半角の数字で指定します。
 最終ページよりも大きい値が指定されたときには、1 ページ目が表示されます。

例) PDF-INITPAGE=5

省略時

1 ページ目

PDF-INITZOOM**書式**

PDF-INITZOOM= 表示倍率 | FIT | FITH | FITBH | DEFAULT

説明

PDF 文書を開いたときの表示倍率を指定します。
 8 ~ 1600 までの 10 進の数値を半角で指定してください。
 上記範囲外の数値が指定された場合は、エラーとなります。
 倍率を数値で指定する以外に、以下の値を指定することもできます。

FIT:

ページ全体が水平方向と垂直方向の両方ともウィンドウ内に収まる倍率で表示します。必要な水平倍率と垂直倍率が異なる場合は、小さい方を採用し、もう一方の方向についてはウィンドウ内でページをセンタリングします。

FITH:

ページの幅全体がウィンドウ内に収まる倍率で表示します。

FITBH:

ページの境界ボックスの幅全体がウィンドウ内にちょうど収まる倍率で表示します。

DEFAULT :

Adobe Reader 環境設定のデフォルトとして設定された倍率で表示します。

例) PDF-INITZOOM=150.5、PDF-INITZOOM=FIT

省略時

DEFAULT

特記事項

表示倍率を表す数値、FIT、FITH、FITBH、DEFAULT 以外を指定した場合、エラーとなります。

PDF-JPEGMODE**書式**

PDF-JPEGMODE=CONVERT | LEAVE | PROGRCNV

説明

JPEG データの変換方法を設定します
 本設定により、JPEG データが入力された時の圧縮時の品質を設定することが可能です。

CONVERT:

PDF-JPEGQUALITY キーワードに従って、入力された JPEG データを内部変換して PDF に出力します。

LEAVE:

入力された JPEG データを内部変換せず、そのまま PDF に出力します。

PROGRECNV:

プログレッシブ JPEG データの場合、非プログレッシブ形式に変換を行いません。
それ以外の JPEG データは、内部変換せず、そのまま PDF に出力します。

例) PDF- JPEGMODE=LEAVE

省略時

CONVERT

特記事項

- CONVERT、LEAVE、PROGRECNV 以外を指定した場合、エラーとなります。
- LEAVE を指定しプログレッシブ JPEG データを使用した場合、Acrobat Reader 4.0 では参照できない場合があります。
- プログレッシブ JPEG データを使用し、長期保存による Acrobat / Adobe Reader の互換性が求められる場合、CONVERT または PROGRECNV を指定して非プログレッシブ形式に変換してください。

PDF-JPEGQUALITY**書式**

PDF-JPEGQUALITY=HIGH | MID | LOW | NONE

説明

JPEG 圧縮時の品質を設定します。

HIGH:

高画質ですが圧縮率は低くなります。

MID:

HIGH と LOW の中間の設定となります。

LOW:

画質の劣化は大きくなりますが、圧縮率は高くなります。

NONE:

画質劣化のない標準の圧縮方式となります。

例) PDF- JPEGQUALITY=MID

省略時

HIGH

特記事項

HIGH、MID、LOW、NONE 以外を指定した場合、エラーとなります。

PDF-KEY128**書式**

PDF-KEY128=ON | OFF

説明**ON:**

暗号化キー長を 128bit として PDF 変換を行います。
128bit では、「PDF-PRINT」、「PDF-MODIFY」、「PDF-SELECT」の拡張機能を使用することができます。

OFF:

暗号化キー長を 40 bit として PDF 変換を行います。

例) PDF-KEY128=ON

省略時

OFF (40bit 暗号化)

特記事項

- ON、OFF 以外を指定した場合、エラーとなります。
- Acrobat 4.0 および Acrobat Reader 4.0 では機能しません。Acrobat 5.0 以降または Acrobat Reader 5.0 以降をお使いください。
- 40bit 暗号化、128bit 暗号化のいずれの場合でも、ユーザーが指定するパスワード文字列の長さは、32 バイト以内となります。

PDF-LAYOUT

書式

PDF-LAYOUT=1 | 2 | 4 | 9

説明

PDF ファイルのページレイアウトを設定します。

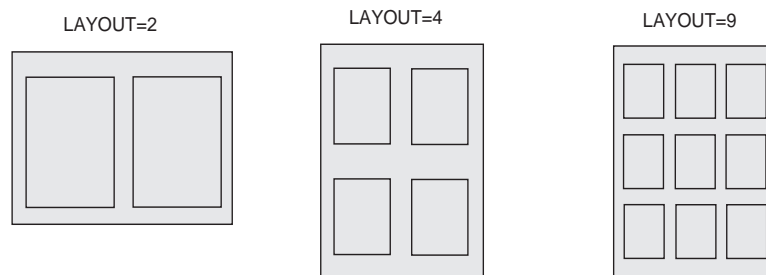
1:

レイアウトは行いません。

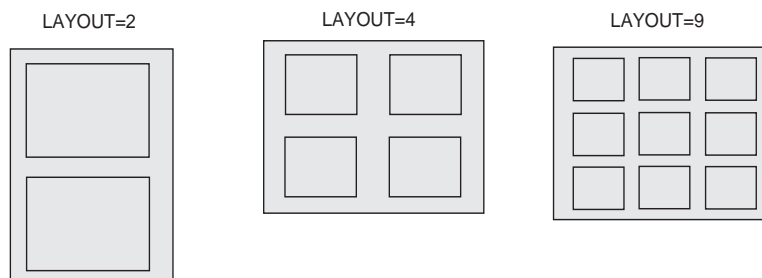
2、4、9:

1 ページ内にそれぞれのページ数が配置されます。

縦



横



例) PDF-LAYOUT=4

省略時

1

特記事項

1、2、4、9 以外を指定した場合、エラーとなります。

PDF-LIMITURI

書式

PDF-LIMITURI=< 改行コードを含む 512 バイト以内の文字列 >

説明

List Creator デザインによって URI 閲覧制限機能を設定した PDF ファイルの、閲覧を許可する URI を追加します。

設定した値が PDF 参照元の URI と前方一致で合致する場合に、PDF ファイルの閲覧が許可されます。

また、複数の URI を許可することができます。

例)

- フルパスでの URI 指定の例
PDF-LIMITURI=http://www.xxx.yyy.zzz.co.jp/sample.pdf
- ドメインまでの URI 指定の例
PDF-LIMITURI=http://www.xxx.yyy.zzz.co.jp/

省略時

List Creator デザインで閲覧を許可した URI が有効となります。

特記事項

- このキーワードの指定を有効にするには、List Creator デザインで必ず URI 閲覧制限機能を設定しておく必要があります。URI 閲覧制限機能の設定は、List Creator デザインの帳票業務情報のプロパティ画面の「ファイル」タブの文書情報設定画面で指定した閲覧制限の「URI による閲覧制限を行う」チェックボックスをチェックします。
List Creator デザインで URI 閲覧制限機能を設定せず、PDF 文書情報ファイルの記述だけを設定した場合、閲覧制限機能は有効となりません。
- PDF ファイルを開いた URI が閲覧可能なサイトかどうかの識別は、先頭からの文字列比較によって行われます。なお、アルファベットの大文字、小文字は区別されません。
- List Creator デザイン、および PDF 文書情報ファイルの両方で、閲覧可能なサイト (URI) を設定した場合、PDF 文書情報ファイルで指定した URI のみが有効となります。
- 複数の URI を許可する場合、このキーワードを複数回使用します。キーワードを複数回使用した場合、指定したすべての URI が有効となります。
なお、このキーワードは最大 99 個まで使用できます。
- 値にワイルドカード、および正規表現は指定できません。
- 値に使用できる文字は、半角英数字、記号、および半角空白です。なお、半角空白は「%20」と指定してください。以下に半角空白の使用例を示します。
 - ・ PDF-LIMITURI=http://www.xxx.yyy.zzz/xxxx dir/ と指定する場合
PDF-LIMITURI=http://www.xxx.yyy.zzz/xxxx%20dir/

PDF-LIMITURICANCEL

書式

PDF-LIMITURICANCEL=ON | OFF

説明

List Creator デザインによって設定した URI 閲覧制限機能を無効にします。

ON:

URI 閲覧制限機能の設定を無効にします。

OFF:

URI 閲覧制限機能の設定を無効にしません。

例) PDF-LIMITURICANCEL=ON

省略時

OFF

特記事項

- ON、OFF 以外を指定した場合、エラーとなります。
- このキーワードを複数回指定した場合、最後の指定のみ有効となります。

PDF-META**書式**

PDF-META=ON | OFF

説明

文書情報からメタデータを生成して、PDF ファイルに埋め込みます。

ON:

PDF ファイルにメタデータを埋め込みます。

OFF:

PDF ファイルにメタデータを埋め込みません。

例) PDF-META=ON

省略時

OFF

特記事項

- ON、OFF 以外を指定した場合、エラーとなります。
- このキーワードを複数回指定した場合、最後の指定のみ有効となります。

PDF-MMR**書式**

PDF-MMR=ON | OFF

説明

2 値データを MMR で圧縮します。

ON:

2 値データを MMR で圧縮します。

OFF:

標準の圧縮方式となります。

例) PDF-MMR=ON

省略時

OFF

特記事項

- ON、OFF 以外を指定した場合、エラーとなります。
- データによって標準の圧縮方式の方が、圧縮率が良くなる場合があります。

PDF-MODIFY**書式**

PDF-MODIFY=ON | OFF | ASMONLY | FFFILL | ADDANNOT

説明

Acrobat のセキュリティ情報として文書の変更の許可 / 不許可を設定します。

ON:

文書の変更を不許可とします。

OFF:

文書の変更を許可とします。

PDF-KEY128=ON 設定時はさらに以下の設定が有効になります。

ASMONLY :

文書アセンブリのみ許可します。

FFFILL :

フォームフィールドの入力または署名を許可します。

ADDANNOT :

注釈作成、フォームフィールドの入力または署名を許可します。

設定の様式は下表のようになります。

	文書の変更	注釈とフォーム フィールドの作成	フォームフィールド の入力または署名	文書アセンブリ
ON	×	×	×	×
OFF	○	○	○	○
ASMONLY	×	×	×	○
FFFILL	×	×	○	×
ADDANNOT	×	○	○	×

○ : 変更可

× : 変更不可

例) PDF-MODIFY=ON

省略時

OFF

特記事項

- ON、OFF、ASMONLY、FFFILL、ADDANNOT 以外を指定した場合、エラーとなります。さらに、PDF-KEY128=ON を設定していないときに、ASMONLY、FFFILL、ADDANNOT を指定するとエラーとなります。
- OFF 以外を指定するときは、必ず PDF-SECUPWD でセキュリティ情報の変更に必要なパスワードを設定してください。パスワードの設定を行わない場合、指定したセキュリティが有効にならないことがあります。
- Acrobat 4.0 および Acrobat Reader 4.0 では機能しません。Acrobat 5.0 以降または Acrobat Reader 5.0 以降をお使いください。

PDF-NOENCMETA

書式

PDF-NOENCMETA=ON | OFF

説明

PDF ファイルに文書情報から生成したメタデータを埋め込むときに、メタデータを暗号化するかどうかを指定します。

ON:

メタデータを暗号化しません。

OFF:
メタデータを暗号化します。

例) PDF-NOENCMETA=ON

省略時

OFF

特記事項

- ON、OFF 以外を指定した場合、エラーとなります。
- PDF-AES=ON を設定している、かつ、PDF-META=ON を設定している場合のみ有効となります。
- PDF-AES=ON が設定されていない、または、PDF-META=ON が設定されていない場合、このキーワードの指定は無視されます。

PDF-NOOCRБ

書式

PDF-NOOCRБ=ON | OFF

説明

ON:
PDF 中で使用される OCR-B フォントのエンベツドを行いません。

OFF:
OCR-B フォントが埋め込まれます。

例) PDF-NOOCRБ=ON

省略時

OFF

特記事項

- ON、OFF 以外を指定した場合、エラーとなります。
- クライアント環境に OCR-B 書体が存在する場合には、ON を指定してファイルサイズを削減することができます。
- ON を指定して、クライアントに OCR-B 書体が存在しない場合、フォントが代替されます。また、クライアントにインストールされている OCR-B 書体または代替書体によっては、文字が正しく表示されない場合があります。

PDF-OPENPWD

書式

PDF-OPENPWD=<32 バイト以内の文字列>

説明

Adobe Reader で PDF ファイルを開く際に必要なパスワードを記述します。
半角の英数字 / 記号以外を記述した場合 Adobe Reader でファイルが正しく開かない場合があります。

例) PDF-OPENPWD=abcdefg&12345

省略時

オープンパスワードが設定されません。

特記事項

- このキーワードと PDF-SECUPWD に同じパスワードを指定しないでください。同じパスワードを指定すると、セキュリティオプションの設定が変更される場合があります。
- PDF 文書情報ファイル上にパスワードがテキスト形式で可視化されてしまいますので、取り扱いには十分注意してください。

PDF-PAGEMODE**書式**

PDF-PAGEMODE=NONE | OUTLINES | THUMBS | AUTO

説明

PDF 文書を開くときのしおりやサムネイルイメージの表示方法を設定することができます。

NONE:

しおりもサムネイルイメージも表示しません。ナビゲーションパネルウィンドウは閉じた状態で表示されます。

OUTLINES:

しおりの有無にかかわらず、ナビゲーションパネルウィンドウの「しおり」タブが開いた状態で表示されます。

THUMBS:

ナビゲーションパネルウィンドウの「ページ」タブが開いた状態で表示されます。

AUTO:

しおりを作成した場合 : ナビゲーションパネルウィンドウの「しおり」タブが開いた状態で表示されます。

しおりを作成しない場合 : ナビゲーションパネルウィンドウは閉じた状態で表示されます。

例) PDF-PAGEMODE=NONE

省略時

AUTO

特記事項

- NONE、OUTLINES、THUMBS、AUTO 以外を指定した場合、エラーとなります。
- Web ブラウザ上で表示している場合など、Adobe Reader の環境によっては正しく機能しない場合があります。

PDF-PRINT**書式**

PDF-PRINT=ON | OFF | LOWRESO

説明

PDF のセキュリティ情報としてプリントの許可 / 不許可を設定します。

ON:

プリントを不許可とします。

OFF:

プリントを許可とします。

LOWRESO:

低解像度のみのプリントが許可されます (PDF-KEY128=ON 設定時のみ有効)。

例) PDF-PRINT=ON

省略時

OFF

特記事項

- ON、OFF、LOWRESO 以外を指定した場合、エラーとなります。
PDF-KEY128 = ON を設定していないときに、LOWRESO を指定すると、エラーとなります。
- OFF 以外を指定するときは、必ず PDF-SECUPWD でセキュリティ情報の変更に必要なパスワードを設定してください。パスワードの設定を行わない場合、指定したセキュリティが有効にならないことがあります。
- Acrobat 4.0 および Acrobat Reader 4.0 では機能しません。Acrobat 5.0 以降または Acrobat Reader 5.0 以降をお使いください。

PDF-RESOURCEPERPAGE

書式

PDF-RESOURCEPERPAGE=ON | OFF

説明

Resource 辞書の作成方法を設定します。

Resource 辞書には PDF ファイルで使用される組込みメディアやバーコードの情報が格納されています。PDF ファイルの各ページで多くの組込みメディアやバーコードを使用している場合、PDF ファイルを表示・印刷するアプリケーションやプリンタによっては表示・印刷に時間がかかる場合があります。Resource 辞書をページごとに作成することで、このような PDF ファイルの表示・印刷の性能が向上します。ただし、PDF ファイルのサイズが 1 ページあたり 100 ～ 200 バイト増加します。

ON:

PDF ファイルの Resource 辞書をページごとに作成します。

OFF:

Resource 辞書は PDF ファイルで 1 つのみ作成します。

例) PDF-RESOURCEPERPAGE=ON

省略時

OFF

特記事項

- ON、OFF 以外を指定した場合、エラーとなります。
- ON を指定した場合、PDF ファイルのサイズは増加します。
- 出力した PDF ファイルに組込みメディアやバーコードを多く使用していて、アプリケーションでの表示・印刷に時間がかかる場合のみ、ON を指定してください。

PDF-SECUPWD

書式

PDF-SECUPWD=<32 バイト以内の文字列>

説明

Acrobat でセキュリティ情報を変更する際に必要なパスワードを記述します。

半角の英数字 / 記号以外を記述した場合、Adobe Reader でファイルが正しく開かない場合があります。

アルファベットの大文字 / 小文字は区別されます。

例) PDF-SECUPWD=ABCDEFGH#67890

省略時

セキュリティ情報パスワードが設定されません。

特記事項

- このキーワードと PDF-OPENPWD に同じパスワードを指定しないでください。同じパスワードを指定すると、セキュリティオプションの設定が変更される場合があります。
- PDF 文書情報ファイル上にパスワードがテキスト形式で可視化されてしまいますので、取り扱いには十分注意してください。

PDF-SELECT

書式

PDF-SELECT=ON | OFF | ACCESSIBILITY | COPY+EXTRACT

説明

PDF のセキュリティ情報としてテキストとグラフィックスの選択の許可 / 不許可を設定します。

ON:

テキストとグラフィックスの選択を不許可とします。

OFF:

テキストとグラフィックスの選択を許可とします。

PDF-KEY128=ON 設定時はさらに以下の設定が有効になります。

ACCESSIBILITY :

アクセシビリティを許可します。

COPY+EXTRACT :

内容のコピー・抽出を許可します。

例) PDF-SELECT=ON

省略時

OFF

特記事項

- ON、OFF、ACCESSIBILITY、COPY+EXTRACT 以外を指定した場合、エラーとなります。さらに、PDF-KEY128=ON を設定していない場合、ACCESSIBILITY、COPY+EXTRACT を指定するとエラーとなります。
- OFF 以外を指定するときは、必ず PDF-SECUPWD でセキュリティ情報の変更に必要なパスワードを設定してください。パスワードの設定を行わない場合、指定したセキュリティが有効にならないことがあります。
- Acrobat 4.0 および Acrobat Reader 4.0 では機能しません。Acrobat 5.0 以降または Acrobat Reader 5.0 以降をお使いください。

PDF-SUBTITLE**書式**

PDF-SUBTITLE=< 改行コードを含む 256 バイト以内の文字列 >

説明

PDF の文書情報のサブタイトルを記述します。

Acrobat Reader 4.0 の [ファイル] – [文書情報] – [一般] (Acrobat Reader 5.0 または Adobe Reader 6.0 以降の場合は、[ファイル] – [文書のプロパティ] – [概要]、Adobe Reader 8.0 以降の場合は、[ファイル] – [プロパティ] – [概要]) で参照が可能です。

256 バイト以上の文字列を記述した場合、Adobe Reader でファイルが正しく開かない場合があります。

例) PDF-SUBTITLE= この文書はインストールに必要な情報です。

省略時

サブタイトル情報が空欄となります。

PDF-TITLE**書式**

PDF-TITLE=< 改行コードを含む 256 バイト以内の文字列 >

説明

PDF の文書情報のタイトルを記述します。

Acrobat Reader 4.0 の [ファイル] – [文書情報] – [一般] (Acrobat Reader 5.0 または Adobe Reader 6.0 以降の場合は、[ファイル] – [文書のプロパティ] – [概要]、Adobe Reader 8.0 以降の場合は、[ファイル] – [プロパティ] – [概要]) で参照が可能です。

256 バイト以上の文字列を記述した場合、Adobe Reader でファイルが正しく開かない場合があります。

例) PDF-TITLE=PDF 変換機能インストールガイド

省略時

タイトル情報が空欄となります。

PDF-YENNONADJUST**書式**

PDF-YENNONADJUST=ON | OFF

説明

PDF ファイル中で使用される文字コード (Unicode) 「0x005C」の変換方法を指定します。

ON:

「0x005C」を「0x00A5」に変換しません。

OFF:

「0x005C」を「0x00A5」に変換します。

Unicode では円記号 (¥) は「0x00A5」に割り当てられており、「0x005C」にはバックスラッシュ (\\) が割り当てられています。しかし、日本語の OS 環境ではバックスラッシュの代わりに円記号が指定されているため、「0x005C」でも円記号を出力したい場合があります。

そこで、List Creator では「0x005C」で指定された文字についても「0x00A5」に変換して、「0x005C」「0x00A5」とも円記号が出力されるようにしています。

「0x005C」でバックスラッシュを出力したい場合など、本来の文字コードで出力したい場合には ON を指定します。ON を指定した場合、「0x00A5」への変換を行いません。

例) PDF-YENNONADJUST=ON

省略時

OFF

特記事項

- ON、OFF 以外を指定した場合、エラーとなります。
- 使用するフォントによっては「0x005C」「0x00A5」とも円記号が割り当てられている場合があります。その場合、ON を指定してもバックスラッシュは出力されません。

2.2.5 帳票出力時に使用する PDF 文書情報ファイルの記述例

PDF 文書情報ファイルの記述例について、帳票出力時に使用する PDF 文書情報ファイルの記述例を説明します。

設定項目

PDF 文書情報ファイルに対して、以下のように定義します

- ① PDF の作成者名 : PDF Author
- ② PDF のタイトル名 : List Creator
- ③ PDF のサブタイトル名 : PDF 変換機能

- ④ 印刷 : 許可
- ⑤ フォントのエンベッド : 外字（利用者定義文字と JEF 拡張文字）をエンベッド

記述例

以下に、記述例を示します。

[MF-PDF]		
PDF-AUTHOR=PDF Author	①
PDF-TITLE=List Creator	②
PDF-SUBTITLE=PDF 変換機能	③
PDF-PRINT=OFF	④
PDF-EMBED=JEF+USER	⑤

2.2.6 PDF メール配信情報ファイル /PDF メール環境設定ファイルの指定方法

● List Creator での指定方法

List Creator の各インタフェースとして多くの機能が指定可能ですが、一部の機能は PDF メール配信情報ファイルに記述して、出力時に指定する必要があります。

また、PDF メール環境設定ファイルの必須設定項目も設定する必要があります。

“2.2.8 PDF メール配信情報ファイルのキーワード一覧” に、帳票出力インタフェースとの対応についても併記してあります。

● MeFt での指定方法

MeFt では、PDF 出力時にプリンタ情報ファイルとして出力先の情報を指定しますが、このプリンタ情報ファイルに PDF メール配信情報ファイルの記述を設定します。

また、PDF メール環境設定ファイルの必須設定項目も設定する必要があります。

● Server2000 ホスト連携プレミアムでの指定方法

PrintASSORT の仕分け情報定義体に、PDF メール配信情報ファイルの記述を設定します。

また、PDF メール環境設定ファイルの必須設定項目も設定する必要があります。

2.2.7 PDF メール配信情報ファイル /PDF メール環境設定ファイルの書式

PDF メール配信情報ファイル /PDF メール環境設定ファイルの書式は、以下のとおりです。

- PDF メール環境設定ファイルでは、半角英数字、および半角記号が使用できます。
なお、「MLF_FromFullName」のみ、上記に加えて、全角文字、および半角記号「ピリオド (.)」、「アンダーバー (_）」、「ハイフン (-)」、「半角空白」が使用できます。
- PDF メール配信情報ファイル /PDF メール環境設定ファイルに記述する文字コードは、以下のとおりです。
 - ・ 帳票出力サーバが Windows の場合
Shift-JIS コードで、改行コードは CR + LF (0x0d + 0x0a)
 - ・ 帳票出力サーバが Solaris の場合
Shift-JIS コード、EUC コード、または UNICODE (UTF8) コードで、改行コードは LF (0x0a)
 ユーザーアプリケーション実行時の文字コード系に合わせて以下のように記述します。

プラットフォーム	ロケール名	コード種別
Solaris	ja_JP.PCK	Shift-JIS
	ja/ja_JP.eucJP	EUC
	ja_JP.UTF-8	UNICODE (UTF8)

- ・ 帳票出力サーバが Linux の場合
EUC コードまたは UNICODE (UTF8) コードで、改行コードは LF (0x0a)
ユーザアプリケーション実行時の文字コード系に合わせて以下のように記述します。

プラットフォーム	ロケール名	コード種別
Linux	ja_JP.eucJP	EUC
	ja_JP.UTF-8	UNICODE (UTF8)

- [キーワード] + [=] + [値] + [改行コード] の順で、1つのコマンドを記述してください。使用できるキーワードについては、以下を参照してください。
⇒“2.2.9 PDF メール配信情報ファイルのキーワード説明”
⇒“2.2.10 PDF メール環境設定ファイルのキーワード一覧”
- 値は、「=」文字の次から改行コードまでを指します。さらに使用できる文字種は全角/半角、日本語 (JIS 第一水準/第二水準) と英数字です。外字 (利用者定義文字と JEF 拡張文字) を使用した場合、PDF メール配信機能がエラーとなることがあります。
- キーワードにない文字列は、コメントとみなします。
- 複数回指定できないキーワードを複数回設定すると、最後に指定したキーワード名 = 設定値が有効になります。
- 「#」を記述すると、以降の文字列はコメントとなります。
- 空白やタブは、無視されます。ファイルパス中の空白のみ有効になります。
- キーワード名は、大文字、小文字を区別しません。設定値は大文字、小文字を区別しません。
- 設定値を空にするとデフォルト値となります。デフォルト値を用いる場合は設定を省略できます。
- 必須のキーワード名と値が設定されていない場合エラーとなります。
- PDF メール環境設定ファイルの変更は、PDF メール配信サービスまたは PDF メール配信デーモンの再起動後に有効になります。
- PDF メール配信サービス、および PDF メール配信デーモンの再起動/起動/停止の各操作方法は以下のとおりです。

[PDF メール配信サービスの再起動方法]

- ・ 帳票出力サーバが Windows の場合
「ListCREATOR SendMaild Service」を起動します。
 - a) Administrators 権限を持つユーザでログオンし、[コントロールパネル] – [管理ツール] – [サービス] を選択します。
サービス一覧画面が表示されます。
 - b) 「ListCREATOR SendMaild Service」を選択します。
 - c) 「再起動」を選択してサービスを再起動します。
- ・ 帳票出力サーバが UNIX 系 OS の場合
システム管理者権限でログオンし、以下のコマンドを実行して、PDF メール配信デーモンを再起動します。
/opt/FJSVedoc/etc/SKFJSVedocmail restart

[PDF メール配信サービスの起動方法]

- ・ 帳票出力サーバが Windows の場合
「ListCREATOR SendMaild Service」を起動します。
 - a) Administrators 権限を持つユーザでログオンし、[コントロールパネル] – [管理ツール] – [サービス] を選択します。
サービス一覧画面が表示されます。
 - b) 「ListCREATOR SendMaild Service」を選択します。
 - c) 「起動」を選択してサービスを起動します。

- ・ 帳票出力サーバが UNIX 系 OS の場合
システム管理者権限でログオンし、以下のコマンドを実行して、PDF メール配信デーモンを起動します。
`/opt/FJSVedoc/etc/SKFJSVedocmail start`

[PDF メール配信サービスの停止方法]

以下の手順で PDF メール配信サービスを停止します。

- ・ 帳票出力サーバが Windows の場合
「ListCREATOR SendMaid Service」を起動します。
 - a) Administrators 権限を持つユーザでログオンし、[コントロールパネル] – [管理ツール] – [サービス] を選択します。
サービス一覧画面が表示されます。
 - b) 「ListCREATOR SendMaid Service」を選択します。
 - c) 「停止」を選択してサービスを停止します。
- ・ 帳票出力サーバが UNIX 系 OS の場合
システム管理者権限でログオンし、以下のコマンドを実行して、PDF メール配信デーモンを停止します。
`/opt/FJSVedoc/etc/SKFJSVedocmail stop`

2.2.8 PDF メール配信情報ファイルのキーワード一覧

以下に、PDF メール配信情報ファイルの各キーワードと List Creator の帳票出力インタフェースで指定可能なパラメタとの対応について示します。

表 2.2 PDF メール配信情報ファイルのキーワード一覧 (1 / 2)

セクション名	キーワード	説明	帳票出力インタフェースでの指定
[MLF_Message]	—	List Creator メールテンプレート変数定義の宣言です。	—

表 2.2 PDF メール配信情報ファイルのキーワード一覧 (2 / 2)

セクション名	キーワード	説明	帳票出力 インタ フェース での指定
[MLF_Mail]	–	PDF メール配信機能の宣言です。	–
	MLF_ToAddress	送信先メールアドレスを設定します。 S/MIME 形式で暗号化メールを送信する ためには「ニックネーム」を設定する必 要があります。	○
	MLF_CCAddress	カーボンコピー (CC) の送信先メールア ドレスを設定します。	–
	MLF_BCCAddress	ブラインドカーボンコピー (BCC) の送 信先メールアドレスを設定します。	–
	MLF_Attachments	生成した PDF ファイル以外に電子メール に添付するファイルのフルパスを設定し ます。	–
	MLF_SMTPServer	SMTP サーバセクション名を設定します。	○
	MLF_FromAddress	配信されるメールの From ヘッダに記載 されるアドレス名を設定します。	○
	MLF_FromFullName	配信されるメールの From ヘッダに記載 されるフルネームを設定します。	○
	MLF_EnvelopeFromAddress	メールの送信状況を通知するメールアド レスを設定します。	–
	MLF_EnvelopeID	メールの送信状況として、 MLF_EnvelopeFromAddress あてに配信 されるメールのヘッダ中に Original-Envelope-ID:< 設定値 > という フィールドが追加されます。	–
	MLF_FromNickname (帳票出 力サーバが Windows/Solaris の場合のみ)	署名機能を使用する際のユーザ認識情報 です。	–
	MLF_TextTemplate	PDF メールテンプレートファイルのパス を設定します。	–
	MLF_DeleteFile	メール送信後、PDF ファイル、PDF 文書 情報ファイルを削除するかどうか指定し ます。	–
	MLF_UseSecurePack	平文でメールを送信する場合は「0」を、 SecurePackage と連携して暗号化して メールを送信する場合には「1」を設定 します。	–
	MLF_SecurePackToGroupID	送り先グループ ID を指定します。	–
	MLF_SecurePackToUserID	送り先のユーザ ID を指定します。	–
[MLF_Mail]	MLF_SecurePackSubject	ファイル受信者がファイルを区別する用 途のために記述します。	–
	MLF_SecurePackComment	ファイル受信者が閲覧時に参照するコメ ントを記述します。	–

○：帳票出力インタフェースで指定可能

–：帳票出力インタフェースで指定不可

2.2.9 PDF メール配信情報ファイルのキーワード説明

[MLF_Message]

説明

List Creator メールテンプレート変数定義の宣言です。

PDF メールテンプレートを使用して変数を設定する場合、このキーワード以降の変数設定が有効になります。

省略時

PDF メールテンプレートを使用したメール配信は行われません。

特記事項

- このキーワードを複数回使用した場合は、最初の宣言以外は無視されます。
- このキーワード以降に、変数名 = 値 としてテンプレートで使用する変数を 1 変数 1 行 (4000 バイト以内) で設定してください。
- PDF メールテンプレートファイル中に定義していない変数名は無視されます。
- **MLF_TextTemplate** キーワードによって、PDF メールテンプレートファイルが設定されていないときには、変数設定は無視されます。
- PDF メールテンプレートファイル中に変数名を設定し、このキーワード以降に変数値を定義しなかった場合、送信されるメールの変数部分は文字列が挿入されません。

[MLF_Mail]

書式

[MLF_Mail]

説明

メール配信機能の宣言をします。

メール配信機能連携時は、このキーワード以降のコマンドが有効になります。メール配信機能のキーワードよりも先に宣言してください。

省略時

メール配信は行われません。

特記事項

- このキーワードを複数回使用した場合は、最初の宣言以外は無視されます。
- メール配信機能のキーワードは、「MLF_****」で始まるキーワードが対象です。

MLF_ToAddress

書式

MLF_ToAddress= メールアドレス [,...] またはメールアドレス <ニックネーム >

説明

送信先メールアドレスを設定します。

ニックネームを指定することで、メールを S/MIME 形式にして暗号化することができます。なお、ニックネームは帳票出力サーバが Windows/Solaris の場合のみ使用できます。

メールを暗号化するためには、以下の設定を行う必要があります。

- 証明書運用管理環境へのメール受信者証明書の登録

設定の詳細については、以下を参照してください。

⇒“2.1.5 セキュアなメール配信を行う”

⇒“2.4 証明書管理環境定義ファイル/証明書管理コマンド”

例) MLF_ToAddress=lcuser@xxx.yyy.zzz.co.jp<lcuser@xxx.yyy.zzz.co.jp>

省略時

エラーとなります。

特記事項

- すべてのメールアドレス、ニックネームを合わせて 4000 バイト以内で記述してください。ただし、ニックネーム部は半角英数字 80 バイト以内で記述してください。
- このコマンドが同一アドレスに対し複数定義された場合、宛先の重複が発生しないように送信されます。また、このコマンドを複数回指定すると「カンマ (,)」区切りで連結されます。
- メールアドレスは、「メールボックス名 @ ドメイン名」の形式で記述します。使用できる文字種は、半角英数字および半角記号「ピリオド (.)」、「アンダーバー (-)」、「ハイフン (-)」です。
- ニックネームを指定した場合、メールアドレスを複数指定することはできません。この場合、MLF_CCAddress、MLF_BCCAddress を指定しないでください。指定した場合、帳票出力時にエラーとなります。
- ニックネームはメールのアドレスの形式で指定してください。
- ニックネームは、帳票出力サーバが Windows/Solaris の場合のみ使用できます。

MLF_CCAddress**書式**

MLF_CCAddress= メールアドレス [...]

説明

カーボンコピー (CC) の送信先メールアドレスを設定します。

例) MLF_CCAddress=lcuser@xxx.yyy.zzz.co.jp

省略時

カーボンコピー (CC) によるメール配信は行われません。

特記事項

- すべてのメールアドレスを 4000 バイト以内で記述してください。
- このコマンドが複数定義された場合、宛先の重複が発生しないようにすべての宛先に送信されます。また、このコマンドを複数回指定すると「カンマ (,)」区切りで連結されます。
- メールアドレスは、「メールボックス名 @ ドメイン名」の形式で記述します。使用できる文字種は、半角英数字および半角記号「ピリオド (.)」、「アンダーバー (-)」、「ハイフン (-)」です。

MLF_BCCAddress**書式**

MLF_BCCAddress= メールアドレス [...]

説明

ブラインドカーボンコピー (BCC) の送信先メールアドレスを設定します。

例) MLF_BCCAddress=lcuser@xxx.yyy.zzz.co.jp

省略時

ブラインドカーボンコピー (BCC) によるメール配信は行われません。

特記事項

- すべてのメールアドレスを 4000 バイト以内で記述してください。

- このコマンドが複数定義された場合、宛先の重複が発生しないようにすべての宛先に送信されます。また、このコマンドを複数回指定すると「カンマ (,)」区切りで連結されます。
- メールアドレスは、「メールボックス名 @ ドメイン名」の形式で記述します。使用できる文字種は、半角英数字および半角記号「ピリオド (.)」、「アンダーバー (_)」、「ハイフン (-)」が使用です。

MLF_Attachments

書式

MLF_Attachments=<4000 バイト以内の文字列>

説明

生成した PDF ファイル以外に電子メールに添付するファイルのフルパスを設定します。

例)

- 帳票出力サーバが Windows の場合
MLF_Attachments=C:\sample.txt
- 帳票出力サーバが UNIX 系 OS の場合
MLF_Attachments=/home/user/sample.txt

省略時

生成した PDF ファイルのみ添付されます。

特記事項

- 複数のファイルを同時に送信する場合「カンマ (,)」で区切って指定してください。
- このコマンドが複数定義された場合、ファイルの重複が発生しないようにすべてのファイルが送信されます。また、このコマンドを複数回指定すると「カンマ (,)」区切りで連結されます。
- ファイルパス名に「カンマ (,)」を含んでいる場合、正しく送信されません。

MLF_SMTPServer

書式

MLF_SMTPServer=<4000 バイト以内の文字列>

説明

PDF メール環境設定ファイルの [MLF_SMTPServer- 設定名] セクションで設定した SMTP サーバセクション名を指定します。

指定した SMTP サーバを使用して PDF メール配信が行われます。

例) PDF メール環境設定ファイルで [MLF_SMTPServer- 設定名] セクションを、以下のように設定した場合

```
[MLF_SMTPServer-default]
MLF_SMTPServerAddress=LC_SMTPServer001.xxx.yyy.zzz.co.jp
[MLF_SMTPServer-LC_SMTPServer]
MLF_SMTPServerAddress=LC_SMTPServer.xxx.yyy.zzz.co.jp
```

[MLF_SMTPServer-LC_SMTPServer] セクションで指定した SMTP サーバを指定したい場合は、MLF_SMTPServer の設定は以下のように行います。

```
MLF_SMTPServer=LC_SMTPServer
```

省略時

PDF メール環境設定ファイルに設定した SMTP サーバとなります。

PDF メール環境設定ファイルの [MLF_SMTPServer- 設定名] セクションで SMTP サーバのアドレスを複数指定した場合、空いている SMTP サーバに対してメールを送信します。

特記事項

使用できる文字種は、半角英数字および半角記号「ピリオド (.)」、「アンダーバー (_)」、「ハイフン (-)」です。

MLF_FromAddress**書式**

MLF_FromAddress=<4000 バイト以内の文字列>

説明

配信されるメールの From ヘッダに記載されるアドレス名を設定します。

例) MLF_FromAddress=lowner@xxx.yyy.zzz.co.jp

省略時

キーワードを省略した場合、以下の優先順序でキーワードが使用されます。

1) の優先順序が一番高く、3) になるにしたがって優先順序が低くなります。

- 1) PDF メール配信情報ファイルに記述した MLF_EnvelopeFromAddress
- 2) PDF メール環境設定ファイルの MLF_FromAddress
- 3) PDF メール環境設定ファイルの MLF_EnvelopeFromAddress

特記事項

使用できる文字種は、半角英数字および半角記号「ピリオド (.)」、「アンダーバー (_)」、「ハイフン (-)」です。

MLF_FromFullName**書式**

MLF_FromFullName=<4000 バイト以内の文字列>

説明

配信されるメールの From ヘッダに記載されるフルネームを設定します。

例) MLF_FromFullName=Listcreator owner

省略時

キーワードを省略した場合、以下の優先順序でキーワードが使用されます。

1) の優先順序が一番高く、5) になるにしたがって優先順序が低くなります。

- 1) PDF メール環境設定ファイルの MLF_FromFullName
- 2) PDF メール配信情報ファイルに記述した MLF_FromAddress
- 3) PDF メール環境設定ファイルの MLF_FromAddress
- 4) PDF メール配信情報ファイルに記述した MLF_EnvelopeFromAddress
- 5) PDF メール環境設定ファイルの MLF_EnvelopeFromAddress

特記事項

使用できる文字種は、全角文字、半角英数字、および半角記号「ピリオド (.)」、「アンダーバー (_)」、「ハイフン (-)」、「半角空白」です。

MLF_EnvelopeFromAddress**書式**

MLF_EnvelopeFromAddress=<4000 バイト以内の文字列>

説明

メールの送信状況を通知するメールアドレスを設定します。

例) MLF_EnvelopeFromAddress=lowner@xxx.yyy.zzz.co.jp

省略時

PDF メール環境設定ファイルに定義された MLF_EnvelopeFromAddress が設定されます。

特記事項

- 以下のいずれかに必ず設定してください。
 - PDF メール配信情報ファイル
帳票配信ごとにメールの配信状況の通知先を変更する運用の場合は、PDF メール配信情報ファイルに記述してください。
 - PDF メール環境設定ファイル
メールの配信状況の通知先を帳票配信ごとに変える必要がない場合は、PDF メール環境設定ファイルに記述してください。

PDF メール環境設定ファイル、PDF メール配信情報ファイルともに設定がない場合は、エラーとなります。
- 使用できる文字種は、半角英数字および半角記号「ピリオド (.)」、「アンダーバー (_）」、「ハイフン (-)」です。

MLF_EnvelopeID**書式**

MLF_EnvelopeID=<4000 バイト以内の文字列>

説明

配信状況が通知されたとき、どの送信メールに対する配信状況かを判断するための ID を指定します。

例) MLF_EnvelopeID=ID0000123

省略時

PDF メール環境設定ファイルで設定されている MLF_EnvelopeID が設定されます。

PDF メール環境設定ファイルでも設定されていない場合は、メールヘッダに Envelope-ID フィールドは追加されません。

特記事項

- 配信状況が通知されたときに、送信時のオリジナルメッセージを特定するために使用します。
- 使用できる文字種は、半角英数字および半角記号「ピリオド (.)」、「アンダーバー (_）」、「ハイフン (-)」です。

MLF_FromNickname (帳票出力サーバが Windows/Solaris の場合のみ)**書式**

MLF_FromNickname=<4000 バイト以内の文字列>

説明

署名機能を使用するときに登録した送信者の証明書のニックネームを設定します。

MLF_FromNickname を指定することで、署名付きメールを送信できます。

例) MLF_FromNickname=Listcreator_PKI

省略時

署名機能は使用できません。

特記事項

- あらかじめ証明書管理環境に登録済みニックネームを設定してください。設定されていないニックネームが使用された場合、エラーとなります。
- 使用できる文字種は、半角英数字および半角記号です。

MLF_TextTemplate

書式

MLF_TextTemplate=<256 バイト以内の文字列>

説明

PDF メールテンプレートファイルのパスを設定します。

例)

- 帳票出力サーバが Windows の場合
MLF_TextTemplate=c:¥Listcreator¥mail¥template.txt
- 帳票出力サーバが UNIX 系 OS の場合
MLF_TextTemplate=/home/user/mail/template.txt

省略時

PDF メールテンプレートファイルを使用したメール配信は行われません。

特記事項

- ファイルパスは、フルパスで指定してください。
- [MLF_Message] キーワードの宣言以降に、PDF メールテンプレートファイル中に使用されている変数値を定義してください。
PDF メールテンプレートファイルの書式については、以下を参照してください。
⇒ “● PDF メール配信のメール subject、メール本文を作成する”

MLF_DeleteFile

書式

MLF_DeleteFile=0 | 1 | 2 | 3

説明

送信後、PDF ファイル、PDF 文書情報ファイルを削除するかどうか指定します。

0:

メール送信後、PDF ファイルを残します。

1:

メール送信後、PDF 文書情報ファイルを削除します。

2:

メール送信後、PDF ファイルを削除します。

3:

メール送信後、PDF 文書情報ファイル、および PDF ファイルを削除します。

例) MLF_DeleteFile=3

省略時

0

特記事項

List Creator の帳票出力インタフェースを使用した場合、本キーワードは無効となり、PDF 文書情報ファイルは削除されません。

MLF_UseSecurePack

書式

MLF_UseSecurePack=0 | 1

説明

0:

平文でメールを送信する場合に設定します。

1:

SecurePackage と連携して暗号化してメールを送信する場合に設定します。

例) MLF_UseSecurePack=1

省略時

0

特記事項

別途 SecurePackage V2.6 以降が必要となります。詳細については、“SecurePackage のマニュアル”を参照してください。

MLF_SecurePackToGroupID**書式**

MLF_SecurePackToGroupID=<64 バイト以内の半角英数字 >

説明

SecurePackage の送り先グループ ID を指定します。

例) MLF_SecurePackToGroupID=PDF_security

省略時

MLF_UseSecurePack=1 が設定されている場合、エラーとなります。

特記事項

- 使用できる文字種は、半角英数字および半角記号「ピリオド (.)」、「アンダーバー (_）」、「ハイフン (-)」です。
- MLF_UseSecurePack=1 が設定されていない場合、このコマンドは無効になります。

MLF_SecurePackToUserID**書式**

MLF_SecurePackToUserID=<64 バイト以内の半角英数字 >

説明

SecurePackage の送り先のユーザ ID を指定します。

例) MLF_SecurePackToUserID=PDF_security_user

省略時

MLF_UseSecurePack=1 が設定されている場合、エラーとなります。

特記事項

- 使用できる文字種は、半角英数字および半角記号「ピリオド (.)」、「アンダーバー (_）」、「ハイフン (-)」です。
- MLF_UseSecurePack=1 が設定されていない場合、このコマンドは無効になります。

MLF_SecurePackSubject**書式**

MLF_SecurePackSubject=<128 バイト以内の文字列 >

説明

ファイル受信者がファイルを区別できるように、SecurePackage ファイル配信の題名を記述します。

例) MLF_SecurePackSubject=PDF subject

省略時

MLF_UseSecurePack=1 が設定されている場合、エラーとなります。

特記事項

- 使用できる文字種は、半角英数字および半角記号「ピリオド (.)」、「アンダーバー (_）」、「ハイフン (-)」です。
- MLF_UseSecurePack=1 が設定されていない場合、このコマンドは無効になります。

MLF_SecurePackComment**書式**

MLF_SecurePackComment=<1024 バイト以内の文字列>

説明

ファイル受信者が閲覧時に参照するコメントを記述します。

例) MLF_SecurePackComment=*important PDF file*

省略時

MLF_UseSecurePack=1 が設定されている場合、エラーとなります。

特記事項

- 使用できる文字種は、全角/半角の日本語 (JIS 第一水準/第二水準)、英数字、および記号です。ただし、半角カナは全角カナに変換されます。
- 改行を含めて 1024 バイト以内で記述してください。
- MLF_UseSecurePack=1 が設定されていない場合、このコマンドは無効になります。

2.2.10 PDF メール環境設定ファイルのキーワード一覧

PDF メール環境設定ファイルのキーワードは、以下のとおりです。

表 2.3 PDF メール環境設定ファイルのキーワード一覧 ([MLF_FixedItem] セクション)

キーワード名	説明 (設定値)
MLF_QueueSavePath	送信キューの内容を保存するファイルへのパスを指定します。メールの添付ファイル (PDF) は、メールの送信が完了するまで、このパスに保存されます。

表 2.4 PDF メール環境設定ファイルのキーワード一覧 ([MLF_Default] セクション)

キーワード名	説明 (設定値)
MLF_FromAddress	From: ヘッダに記載されるアドレスを指定します。
MLF_FromFullName	ヘッダの From: フィールドに記載される名前を指定します。
MLF_EnvelopeFromAddress	メールの送信状況を通知するメールアドレスを指定します。
MLF_EnvelopeID	DSN 配信状況通知機能を利用する場合に、どの送信メールに対する配信状況かを判断するために ID を指定します。
MLF_FromNickname (帳票出力サーバが Windows/Solaris の場合のみ)	署名機能で用いられるユーザ認識情報です。MLF_FromNickname は省略可能ですが、省略すると署名機能を利用することができなくなります。
MLF_ReturnAddressFormat	送信メッセージ内の From: フィールドのフォーマットを指定します。
MLF_TextTemplate	PDF メールテンプレートファイルをフルパスで指定します。
MLF_DeleteFile	情報連携ファイル、添付ファイルを、メール送信後に削除するかどうか指定します。
MLF_DSNOption	DSN 配送状況の通知条件を DSN に設定します。
MLF_UseRFC2231	添付ファイル名の送信形式を指定します。
MLF_UseMDNotifications	配達証明を要求するかどうか指定します。このオプションを設定すると、RFC2298 に基づいたヘッダが付加されます。
MLF_SendPartialSize	メールを分割して送信する場合の、分割単位をキロバイト単位で指定します。
MLF_UseSecurePack	メールの添付ファイルを、SecurePackage を使用して送信するかどうか指定します。
MLF_SecurePackURL	SecurePackage を利用する場合に指定します。SecurePackage の PHP 格納ディレクトリへの URL を設定します。
MLF_SecurePackGroupID	SecurePackage を利用する場合に、送信者側のグループ ID (SecurePackage にログインするグループ ID) を指定します。
MLF_SecurePackUserID	SecurePackage を利用する場合に、送信者側のユーザ ID (SecurePackage にログインするユーザ ID) を指定します。
MLF_SecurePackPasswd	SecurePackage を利用する場合に、ログインパスワードを指定します。

表 2.5 PDF メール環境設定ファイルのキーワード一覧 ([MLF_SMTPServer- 設定名] セクション)

キーワード名	説明 (設定値)
MLF_SMTPServerAddress	SMTP サーバのアドレスを指定します。
MLF_SMTPPort	SMTP サービス (smtp) 用のポート番号を指定します。
MLF_SMTPTimeout	SMTP サーバのタイムアウト秒数を指定します。
MLF_ConnectionCacheNum	同時に開くことのできる接続数の最大値を指定します。
MLF_MDNSendAddress	配達証明を要求する場合に、アドレスが MAIL FROM コマンドに使用されるかどうかを指定します。

2.2.11 PDF メール環境設定ファイルの説明

PDF メール環境設定ファイルは、PDF メール送信時の基本設定を行うファイルです。このファイルでは半角英数字、および記号が使用できます。



備考

- PDF メール環境設定ファイルを変更した場合、PDF メール配信サービスおよび PDF メール配信デモンを再起動する必要があります。再起動の方法は、以下を参照してください。
⇒ ["2.2.7 PDF メール配信情報ファイル/PDF メール環境設定ファイルの書式"](#)

[MLF_FixedItem]

書式

[MLF_FixedItem]

説明

PDF メール配信機能のサーバ資源の設定を行うためのセクションの宣言です。

省略時

サーバ資源の設定が有効になりません。

特記事項

- PDF メール送信時の一時データを格納するディレクトリを設定するキーワード「MLF_QueueSavePath」は、[MLF_FixedItem] セクションの後に設定してください。

MLF_QueueSavePath

書式

MLF_QueueSavePath=<220 バイト以内の文字列>

説明

PDF メール送信時の一時データを格納するディレクトリをフルパスで指定します。

省略時

- 帳票出力サーバが Windows の場合
List Creator インストールディレクトリ ¥mailqueue
- 帳票出力サーバが UNIX 系 OS の場合
/var/opt/FJSVedoc/mailqueue

特記事項

使用できる文字種は、半角英数字および半角記号です。

[MLF_Default]

書式

[MLF_Default]

説明

PDF メール配信の基本設定を行うセクションの宣言です。

[MLF_Default] セクションのキーワードを使用する場合は、必ず [MLF_Default] の後に設定してください。

省略時

[MLF_Default] セクション内のキーワードが無効となります。

特記事項

このセクションで設定したコマンドより、PDF メール配信情報ファイル [MLF_Mail] セクションで設定されたコマンドが優先されます。

MLF_FromAddress

書式

MLF_FromAddress=<4000 バイト以内の文字列>

説明

配信されるメールのヘッダフィールド From に記載されるメールアドレスを指定します。

例) MLF_FromAddress=listCreator@xxx.yyy.zzz.co.jp

省略時

MLF_EnvelopeFromAddress の設定値がヘッダに記載されるメールアドレスになります。

特記事項

- 複数のメールアドレスを指定しないでください。
- 使用できる文字種は、半角英数字および半角記号「ピリオド (.)」、「アンダーバー (_）」、「ハイフン (-)」です。

MLF_FromFullName

書式

MLF_FromFullName=<4000 バイト以内の文字列>

説明

配信されるメールのヘッダフィールド From に記載される名前を指定します。

省略時

From フィールドに名前は表示されません。

特記事項

- 使用できる文字種は、全角文字、半角英数字、および半角記号「ピリオド (.)」、「アンダーバー (_）」、「ハイフン (-)」、「半角空白」です。
- 複数の名前を指定しないでください。

MLF_EnvelopeFromAddress

書式

MLF_EnvelopeFromAddress=<4000 バイト以内の文字列>

説明

メールの送信状況を通知するメールアドレスを指定します。

メールアドレスは、MTP の mail コマンドで示されるデータで指定します。From: ヘッダが失われている場合、このメールアドレスは From: ヘッダでも用いられます。エンベロープ中の送り手アドレスは、メッセージ伝送状況の通知 (DSN) の受け手として用いられ、また、Return-Path: ヘッダにも用いられます。

複数のメールアドレスを指定しないでください。

省略時

PDF 文書情報ファイル、または PDF メール配信情報ファイルで指定した MLF_EnvelopeFromAddress の値が設定されます。

特記事項

- 以下のいずれかに必ず設定してください。
 - PDF 文書情報ファイル、または PDF メール配信情報ファイル
帳票配信ごとにメールの配信状況の通知先を変更する運用の場合は、PDF 文書情報ファイル、または PDF メール配信情報ファイルに記述してください。
 - PDF メール環境設定ファイル
メールの配信状況の通知先を帳票配信ごとに変える必要がない場合は、PDF メール環境設定ファイルに記述してください。
- PDF メール環境設定ファイル、PDF 文書情報ファイル、または PDF メール配信情報ファイルともに設定がない場合は、エラーとなります。
- 使用できる文字種は、半角英数字および半角記号「ピリオド (.)」、「アンダーバー (_）」、「ハイフン (-)」です。

MLF_EnvelopeID

書式

MLF_EnvelopeID=<4000 バイト以内の文字列>

説明

配信状況が通知されたとき、どの送信メールに対する配信状況かを判断するための ID を指定します。

この項目を設定すると DSN 配送状況通知機能を利用する場合に、配送報告の中に Original-Envelope-ID:<設定値> フィールドが含まれます。メッセージごとに MLF_EnvelopeID を設定することによって、配送報告とオリジナルメッセージを結びつけることができるので、メッセージの再送信の自動化を行う場合などに利用できます。

例) MLF_EnvelopeID=ID0000123

省略時

配信されるメールヘッダに Original-Envelope-ID フィールドは追加されません。

特記事項

- 配信状況が通知された場合に、送信時のオリジナルメッセージを特定するために使用します。
- 使用できる文字種は、半角英数字および半角記号「ピリオド (.)」、「アンダーバー (_）」、「ハイフン (-)」です。

MLF_FromNickname (帳票出力サーバが Windows/Solaris の場合のみ)

書式

MLF_FromNickname=<4000 バイト以内の文字列>

説明

署名機能を使用する場合に、証明書のニックネームを指定します。

例) MLF_FromNickname=ListCreator@xxx.yyy.zzz.co.jp

省略時

署名機能は使用できません。

特記事項

- 証明書管理環境に登録したニックネームを指定してください。設定されていないニックネームが指定された場合、エラーとなります。
- 使用できる文字種は、半角英数字および半角記号「ピリオド (.)」、「アンダーバー (_）」、「ハイフン (-)」です。

MLF_ReturnAddressFormat**書式**

MLF_ReturnAddressFormat=%1<%2>

説明

配信されるメールのヘッダフィールド **From** の書式を設定します。%1、%2 はそれぞれ以下の値になります。

%1:

ヘッダフィールド **From** の名前で設定した値です。

%2:

ヘッダフィールド **From** のメールアドレスで設定した値です。

省略時

デフォルト値、%1<%2> が適用されます。

特記事項

使用できる文字種は、半角英数字および半角記号です。

MLF_TextTemplate**書式**

MLF_TextTemplate=<256 バイト以内の文字列>

説明

PDF メールテンプレートのパスをフルパスで指定します。

例) MLF_TextTemplate=C:¥ListCreator¥mail¥template.txt

省略時

以下の値が設定され、デフォルトのテンプレートが使用されます。

- 帳票出力サーバが Windows の場合
List Creator インストールディレクトリ ¥mail_template.txt
- 帳票出力サーバが Solaris の場合
/etc/opt/FJSVedoc/mail_template.txt

特記事項

- 使用できる文字種は、半角英数字および半角記号です。
- PDF メールテンプレートのパスには、PDF 文書情報ファイル、または PDF メール配信情報ファイルの [MLF_Message] セクションで指定した PDF メールテンプレートファイル中に使用されている変数値を設定してください。
PDF メールテンプレートファイルの書式については、以下を参照してください。
⇒ “● PDF メール配信のメール subject、メール本文を作成する”

MLF_DeleteFile

書式

MLF_DeleteFile=0 | 1 | 2 | 3

説明

PDF メール配信後、添付ファイル、PDF 文書情報ファイルを削除するか指定します。

0:

そのまま残します。

1:

PDF メール配信後、PDF 文書情報ファイルを削除します。

2:

PDF メール配信後、添付ファイルを削除します。

3:

PDF メール配信後、添付ファイル、および PDF 文書情報ファイルを削除します。

省略時

0

MLF_DSNOption**書式**

MLF_DSNOption=never,failure,success,delay

説明

DSN 配信状況の通知条件を設定します。MLF_EnvelopeFromAddress に設定したメールアドレスに通知されます。

各設定値は以下の意味を持ちます。

never:

何も通知しません。

failure:

PDF メール配信が失敗した場合に通知します。

success:

PDF メール配信が正常に行われた場合に通知します。

delay:

PDF メール配信に失敗したが、試行を継続する場合に通知します。

設定値を組み合わせを複数指定すると、複数の条件で DSN 配送状況の通知を設定することができます。

設定値を複数指定する場合は、「カンマ (,)」で区切ります。

例) MLF_DSNOption=failure,delay

省略時

DSN を使用したメール配信は行われません。

特記事項

- DSN 未対応の SMTP サーバを中継した場合、途中の SMTP サーバからの配送状況については、DSN 対応 / 未対応にかかわらず、配送状況は通知されません。
- never を他の設定値と組み合わせると、エラーとなります。
- never、failure、success、delay 以外の値を指定すると、エラーとなります。

MLF_UseRFC2231

書式

MLF_UseRFC2231=0 | 1

説明

添付ファイル名の送信形式を指定します。

0:

添付ファイル名を RFC2231 形式で送信しません。

1:

添付ファイル名を RFC2231 形式で送信します。

省略時

0

MLF_UseMDNotifications**書式**

MLF_UseMDNotifications=0 | 1

説明

配達証明を要求するか設定します。

0:

配達証明を無効にします。

1:

配達証明を有効にします。

省略時

0

特記事項

配達証明を有効にした場合、RFC2298 に基づいたヘッダが付加されます。

MLF_SendPartialSize**書式**

MLF_SendPartialSize=0 - 1024

説明

メールを分割して送信する場合の、分割単位をキロバイトで指定します。0 ~ 1024 の範囲で指定します。

省略時

0 (分割されません)

MLF_UseSecurePack**書式**

MLF_UseSecurePack=0 | 1

説明

PDF 変換機能で作成した PDF ファイルをどのように送信するかを指定します。

0:

PDF 変換機能で作成した PDF ファイルを、メールで送信する場合に指定します。

1:

PDF 変換機能で作成した PDF ファイルを、SecurePackage を使用して配信する場合に指定します。

例) MLF_UseSecurePack=1

省略時

0

特記事項

- 別途 SecurePackage V2.6 以降が必要になります。詳細については“SecurePackage のマニュアル”を参照してください。

MLF_SecurePackURL

書式

MLF_SecurePackURL=<4000 バイト以内の文字列>

説明

SecurePackage を利用する場合に指定します。SecurePackage の URL を指定します。

省略時

SecurePackage と連携した PDF メール配信が行えません。

また、「MLF_UseSecurePack=1」を設定してこのコマンドを省略すると、エラーとなります。

MLF_SecurePackGroupID

書式

MLF_SecurePackGroupID=<64 バイト以内の文字列>

説明

SecurePackage を利用する場合に、送信者側のグループ ID (SecurePackage にログインするグループ ID) を指定します。

省略時

SecurePackage と連携した PDF メール配信が行えません。

また、「MLF_UseSecurePack=1」を設定してこのコマンドを省略すると、エラーとなります。

特記事項

使用できる文字種は、半角英数字および半角記号「ピリオド (.)」、「アンダーバー (_)」、「ハイフン (-)」です。

MLF_SecurePackUserID

書式

MLF_SecurePackUserID=<64 バイト以内の文字列>

説明

SecurePackage を利用する場合に、送信者側のユーザ ID (SecurePackage にログインするユーザ ID) を指定します。

省略時

SecurePackage と連携した PDF メール配信が行えません。

また、「MLF_UseSecurePack=1」を設定してこのコマンドを省略すると、エラーとなります。

特記事項

使用できる文字種は、半角英数字および半角記号「ピリオド (.)」、「アンダーバー (_)」、「ハイフン (-)」です。

MLF_SecurePackPasswd

書式

MLF_SecurePackPasswd=<128 バイト以内の文字列>

説明

SecurePackage を利用する場合に、ログインパスワードを指定します。

省略時

SecurePackage と連携した PDF メール配信が行えません。

また、「MLF_UseSecurePack=1」を設定してこのコマンドを省略すると、エラーとなります。

特記事項

使用できる文字種は、半角英数字および半角記号「ピリオド (.)」、「アンダーバー (_)」、「ハイフン (-)」です。

[MLF_SMTPServer- 設定名]

書式

[MLF_SMTPServer-< 設定値 >]

説明

使用する SMTP サーバの宣言を行います。

異なる設定値を指定することで複数の SMTP サーバを指定することができます。

例) [MLF_SMTPServer-default]

MLF_SMTPServerAddress=LC_SMTPServer.xxx.yyy.zzz.co.jp

[MLF_SMTPServer-LCSMTPServer001]

MLF_SMTPServerAddress=LC_SMTPServer001.xxx.yyy.zzz.co.jp

[MLF_SMTPServer-LCSMTPServer002]

MLF_SMTPServerAddress=LC_SMTPServer002.xxx.yyy.zzz.co.jp

省略時

PDF メール配信時にエラーとなります。

特記事項

- 使用できる文字種は、半角英数字および半角記号「ピリオド (.)」、「アンダーバー (_)」、「ハイフン (-)」です。
- 複数の SMTP サーバを指定した場合の SMTP サーバの切り分けについては、以下を参照してください。
⇒ “2.2.9 PDF メール配信情報ファイルのキーワード説明” の [MLF_SMTPServer](#)

MLF_SMTPServerAddress

書式

MLF_SMTPServerAddress=FQDN 名 | IP アドレス

説明

PDF メール配信時に使用する SMTP サーバを、FQDN 名または IP アドレスで指定します。IPv4 のみ対応しています。

省略時

PDF メール配信時にエラーとなります。

特記事項

設定値が誤っている場合、ネットワークエラーとなり、再送処理が行われます。

MLF_SMTPPort

書式

MLF_SMTPPort=0-65535

説明

PDF メール配信で使用する SMTP サーバの SMTP サービス ポート番号を、0 ～ 65535 の間で指定します。

省略時

25

特記事項

設定値が誤っている場合、ネットワークエラーとなり、再送処理が行われます。

MLF_SMTPTimeout

書式

MLF_SMTPTimeout=30-1800

説明

SMTP サーバとのタイムアウト時間（秒）を、30 ～ 1800 の間で設定します。

省略時

60

MLF_ConnectionCacheNum

書式

MLF_ConnectionCacheNum=1-10

説明

「MLF_SMTPServerAddress」で指定した SMTP サーバとの、同時に開くことのできる接続数の最大値を、1 ～ 10 の間で設定します。1 より大きい値を設定した場合、その SMTP サーバに対して設定した値でメールを同時に送信します。

省略時

1

特記事項

[MLF_SMTPServer- 設定名] セクションを複数記述することで、異なる複数の SMTP サーバに同時にメールを送信することができます。「MLF_ConnectionCacheNum」は、[MLF_SMTPServer- 設定名] セクション内に同時に記述された「MLF_SMTPServerAddress」で設定された SMTP サーバの最大の接続数を設定します。

MLF_MDNSendAddress

書式

MLF_MDNSendAddress=0 | 1

説明

配達証明を要求する場合に、メールアドレスを MAIL FROM コマンドに使用するかどうかを指定します。

0:

メールアドレスを MAIL FROM コマンドに使用しません。

1:

メールアドレスを MAIL FROM コマンドに使用します。

省略時

0

特記事項

- メールループを防ぐために、RFC2298 では空白にしておくことを推奨しています。
- いくつかの SMTP サーバではスパム対策のために、MAIL FROM コマンドが空白である場合、送信を拒否します。

2.2.12 PDF メール配信情報ファイル /PDF メール環境設定ファイルの記述例

● PDF メール配信情報ファイル

PDF メール配信情報ファイルの記述例について説明します。

設定項目

PDF メール配信情報ファイルに対して、以下の定義を行います。

- ① PDF メール配信の宛先 : ListCreator-Reciever001@xxx.yyy.zzz.co.jp
- ② PDF メール配信のカーボンコピー (CC) の宛先 : ListCreator-Reciever002@xxx.yyy.zzz.co.jp
- ③ PDF メール配信のブラインドカーボンコピー (BCC) の宛先 : ListCreator-Reciever003@xxx.yyy.zzz.co.jp
- ④ PDF メール配信の送信者のメールアドレス : ListCreator@xxx.yyy.zzz.co.jp

記述例

以下に、記述例を示します。

[MLF_Mail]	
MLF_ToAddress=LC-Reciever001@xxx.yyy.zzz.co.jp	①
MLF_CCAddress=LC-Reciever002@xxx.yyy.zzz.co.jp	②
MLF_BCCAddress=LC-Reciever003@xxx.yyy.zzz.co.jp	③
MLF_EnvelopeFromAddress=lowner@xxx.yyy.zzz.co.jp	④

● PDF メール環境設定ファイル

PDF メール環境設定ファイルの記述例について説明します。

設定項目

PDF メール環境設定ファイルに対して、以下の定義を行います。

- ① PDF メール配信の送信者のメールアドレス : lowner@xxx.yyy.zzz.co.jp
- ② PDF メール配信時に使用する SMTP サーバの FQDN 名 : lcserver.xxx.yyy.zzz.co.jp

記述例

以下に、記述例を示します。

[MLF_Default]	
MLF_EnvelopeFromAddress=lowner@xxx.yyy.zzz.co.jp	①
[MLF_SMTPServer- default]	
MLF_SMTPServerAddress=lcserver.xxx.yyy.zzz.co.jp	②

2.3 PDF ファイル操作コマンド

List Creator で生成した PDF ファイルに対し、ファイルの結合やページ抽出などの操作が行えるコマンドです。

以下の操作が可能です

- ・複数の PDF ファイルを結合し1つの PDF ファイルを生成する
- ・PDF ファイルから指定したページを抽出し、新たな PDF ファイルを生成する
- ・PDF ファイルの文書情報（タイトル等）を取得したり、文書情報の設定をする
- ・PDF ファイルに設定されているセキュリティ情報を取得したり、新たにセキュリティ情報を設定する
- ・PDF ファイルの総ページ数を取得する
- ・PDF ファイルの添付ファイルを抽出したり、添付ファイルの一覧を取得する

PDF 操作コマンドで取得/設定する情報を PDF 文書情報ファイルの形式で記述します。書式については、以下を参照してください。

⇒“2.2.2 PDF 文書情報ファイルの書式”

PDF 操作コマンドで記述可能なキーワードについては、以下を参照してください。

⇒“2.3.8 PDF 操作コマンドで使用する PDF 文書情報ファイルのキーワード一覧”

● PDF ファイル操作コマンドの一覧

PDF ファイル操作コマンドの一覧を以下に示します。

表 2.6 PDF ファイル操作コマンドの一覧

種類	コマンド名	用途
PDF ファイル結合 コマンド	pmfmerge	複数の PDF ファイルを1つの PDF ファイルに結合します。
ページ抽出 コマンド	pmfsplit	複数ページの PDF ファイルから所定のページを抽出し新たな PDF ファイルを生成します。
文書情報操作 コマンド	pmdocinf	既存の PDF ファイルの文書情報（タイトル/サブタイトル/作成日付等）の取得/設定を行います。
セキュリティ情報操 作コマンド	pmsecinf	既存の PDF ファイルに対してセキュリティオプションの取得/設定を行います。
ページ数取得 コマンド	pmpagcnt	既存の PDF ファイルの総ページ数を取得します。
添付ファイル操作 コマンド	pmexteff	既存の PDF ファイルの添付ファイルの抽出や添付ファイル一覧の取得を行います。



- List Creator で生成した PDF ファイルのみサポートしています。

注意

● PDF ファイル操作コマンドの格納場所

PDF ファイル操作コマンドの格納場所は以下のとおりです。

Windows	List Creator インストールディレクトリ
UNIX 系 OS	/opt/FJSVedoc/bin

● PDF ファイル操作コマンドの記述について

- 本コマンドで指定されるオプションとパラメタ全体の最大文字列長は、オペレーティングシステムによって異なります。
 - ・ Windows Server 2003 : 8,191 文字以内
 - ・ Windows Server 2008 : 32,767 文字以内

- UNIX 系 OS : シェルによって最大文字列長が異なりますので、使用するシェルのマニュアルを参照してください。
- 本コマンドで指定可能なファイル名は以下のとおりです。
これ以外の文字を使用した場合、正しくファイルが読み込めなかったり、正しくファイルが生成できない可能性があります。
- 半角数字、半角英字、半角記号
ただし、下記記号そのものをファイル名、ディレクトリ名として使用することはできません。
Windows : ¥、/、:、?、*、”、<、>、|、(NULL)、(制御記号)
UNIX 系 OS : ”、'、|、\、:、\$、*、?、など。シェルによって異なりますので、詳細は使用するシェルのマニュアルを参照してください。
- JIS 第一 / 第二水準漢字

2.3.1 pmfmerge (PDF ファイルの結合)

機能説明

pmfmerge コマンドは、List Creator で生成した複数の PDF ファイルを一つの PDF ファイルに結合することができるコマンドです。

- パスワードによって保護されている PDF ファイルも結合可能です。
- 既存の PDF ファイルに、別の複数の PDF ファイルを結合することや、新たな PDF ファイルを生成して、複数の PDF ファイルを結合することも可能です。
- 結合する PDF ファイルは、ファイル単位で指定し全ページ結合されます。

記述形式

コマンド	オプション
pmfmerge 既存の PDF ファイルに入力 PDF ファイルを結合する場合	-i 結合先 PDF ファイル [-o 結合先 PDF ファイル] [[-w パスワード]...] 入力 PDF ファイル 1 [入力 PDF ファイル 2 ...] ([] は省略することができます)
pmfmerge 新たな PDF ファイルに入力 PDF ファイルを結合する場合	-o 結合先 PDF ファイル [[-w パスワード]...] 入力 PDF ファイル 1 [入力 PDF ファイル 2 ...] ([] は省略することができます)

オプション

-i 結合先 (既存 PDF) ファイル :

本オプションで指定した既存の PDF ファイルの最終ページ以降に入力 PDF ファイルを指定した順番に結合します。PDF ファイルは入力 PDF ファイル名の記述順に結合されます。

結合された PDF ファイルのセキュリティオプションと文書情報は、本オプションで指定した既存の PDF ファイルの情報が引き継がれます。

-o オプションを併用した場合、-i で指定した PDF ファイルのセキュリティオプションと文書情報を引き継いだ、新たな PDF ファイルを -o オプションで指定した新規 PDF ファイル名で生成します。

本オプションを複数指定した場合は、パラメタエラーとなります。

本オプションで指定した結合先 PDF ファイルに以下のセキュリティオプションが設定されている場合、-w オプションで指定するパスワードにセキュリティオプション変更パスワードを指定してください。

- PDF 文書情報キーワード 「PDF-MODIFY=ON」 または
帳票定義情報の設定で「文書変更の許可：許可しない」

- PDF 文書情報キーワード 「PDF-MODIFY=ASMONLY」 または
帳票定義情報の設定で「文書変更の許可：文書アセンブリのみ許可する」
- PDF 文書情報キーワード 「PDF-MODIFY=FFFILL」 または
帳票定義情報の設定で「文書変更の許可：フォームフィールドの入力と署名を許可する」
- PDF 文書情報キーワード 「PDF-MODIFY=ADDANNOT」 または
帳票定義情報の設定で「文書変更の許可：注釈作成、フォームフィールドの入力と署名を許可する」

-o 結合先 (新規 PDF) ファイル：

本オプションで指定した新たな PDF ファイルに、入力 PDF ファイルを指定した順番に結合します。PDF ファイルは入力 PDF ファイルの記述順に結合されます。

-i オプションが併用されていない場合、結合された PDF ファイルのセキュリティオプションと文書情報は、設定されません。セキュリティオプションや文書情報の設定が必要な場合には、本コマンド終了後、`pmsecinf` または `pmdocinf` コマンドにて設定してください。

本オプションを複数指定した場合は、パラメタエラーとなります。

指定した結合先ファイル名と同一名ファイルが存在している場合、上書き保存されます。ただし、ファイルを上書きする権限がない場合には、エラーとなります。

-w パスワード：

入力 PDF ファイルや -i オプションで指定する結合先ファイルにパスワードが設定されている場合、本オプションによりパスワードを記述してください。入力 PDF ファイルごとに異なるパスワードが設定されている場合は、順不同でパスワードの種類分記述してください。

入力 PDF ファイルや -i オプションで指定する結合先ファイルに設定されているセキュリティオプションの種類に応じて、権限の高いセキュリティオプション変更パスワードを指定してください。

指定されたパスワードが合致せず PDF ファイルを開くことができなかった場合、その他のエラー (`invalid password.`) となります。

入力 PDF ファイル：【必須】

結合を行う PDF ファイルを結合する順番に指定します。

入力 PDF ファイルが1つも存在しない場合、または指定したファイルが存在しない場合には、パラメタエラーとなります。

入力 PDF ファイルに以下のセキュリティオプションが設定されている場合、-w オプションで指定するパスワードに、セキュリティオプション変更パスワードを指定してください。

- PDF 文書情報キーワード 「PDF-SELECT=ON」 または
帳票定義情報の設定で「テキストとグラフィックスの選択：不許可」
- PDF 文書情報キーワード 「PDF-SELECT=ACCESSIBILITY」 または
帳票定義情報の設定で「テキストとグラフィックスの選択：アクセシビリティを許可する」

復帰値

0：

正常終了

1：

異常終了 (パラメタエラー)

標準エラー出力に下記エラーメッセージが出力されます。

```
Usage: pmfmerge -i basePDF [-o outputPDF] [[-w password]...] inputPDF1 [inputPDF2 ...]
       pmfmerge -o outputPDF [[-w password]...] inputPDF1 [inputPDF2 ...]
```

2：

異常終了 (その他のエラー)

標準エラー出力に出力されるエラーメッセージは、以下を参照してください。

⇒ “表 2.8 PDF 操作コマンド共通エラーメッセージ”

⇒ “表 2.9 PDF 操作コマンド (`pmfmerge`) エラーメッセージ”

参照

pmsecinf、pmdocinf

実行に必要な権限

コマンド実行ユーザーには、PDF ファイルまたは PDF 文書情報ファイルの読み取り / 書き込み権限が必要です。

注意事項

- `-i` オプションで結合先ファイルを指定した場合、" 結合先ファイル名 "+".bak" という名称でバックアップファイルが `-i` オプションで指定したファイルと同一ディレクトリに作成されます。
本バックアップファイルは、正常終了時に削除されますが、PDF ファイルの書き出し中にエラーが発生したときには残存します。エラー発生時には、" 結合先ファイル "+".bak" ファイルの名前を変更するか、削除してください。
- すべてのファイル単位 (全ページ) で結合されます。



注意

- `-i` オプションで " 結合先ファイル " を指定した場合、" 結合先ファイル "+".bak" というファイルが `-i` オプションで指定したファイルと同一ディレクトリに既に存在していると、エラーとなります。

使用例 1

既存の PDF ファイル "original.pdf" に 2 つの PDF ファイル (mydata1.pdf, mydata2.pdf) を順番に結合する場合。

```
pmfmerge -i original.pdf mydata1.pdf mydata2.pdf
```

使用例 2

2 つの PDF ファイル (mydata1.pdf, mydata2.pdf) を順番に結合し、新たな "newfile.pdf" を作成する。さらに入力 PDF ファイル (mydata2.pdf) にはパスワード "abcd" が設定されている場合

```
pmfmerge -o newfile.pdf -w abcd mydata1.pdf mydata2.pdf
```

実行結果 / 出力形式

異常終了時には、コマンドエラーメッセージとイベントログまたはシステムログに異常終了に関する情報を出力します。コマンドエラーメッセージについては、以下を参照してください。

⇒ [“2.3.11 PDF 操作コマンドエラーメッセージ一覧”](#)

イベントログまたはシステムログに出力されるメッセージについては、オンラインマニュアル“トラブルシューティング・メッセージ集”を参照してください。

2.3.2 pmfsplit (PDF ファイルからページの抽出)

機能説明

pmfsplit コマンドは、List Creator で生成した PDF ファイルから指定したページを抽出し、新たな PDF ファイルを生成することができるコマンドです。

- パスワードによって保護されている PDF ファイルからページの抽出が可能です。
- 抽出するページの範囲指定や単一ページを複数指定することが可能です。

記述形式

コマンド	オプション
pmfsplit 指定した抽出ページをまとめて複数ページの PDF ファイルを1つ生成	-i 入力 PDF ファイル [-w パスワード] -r 抽出ページ指定 -o 出力 PDF ファイル ([] は省略することができます)
pmfsplit 指定した抽出ページごとに1ページの PDF ファイルを生成	-i 入力 PDF ファイル [-w パスワード] -g 抽出ページ指定 -n 出力 PDF ファイル名プレフィックス ([] は省略することができます)
pmfsplit 既定の規則に従って、1ページの PDF ファイルを生成	-i 入力 PDF ファイル [-w パスワード] -x 抽出ページ規則指定 -n 出力 PDF ファイル名プレフィックス ([] は省略することができます)

オプション

-i 入力 PDF ファイル：【必須】

ページを抽出する PDF ファイルを指定します。
 本オプションを複数指定した場合や省略した場合は、パラメタエラーとなります。
 入力 PDF ファイルに以下のセキュリティオプションが設定されている場合、-w オプションで指定するパスワードに、セキュリティオプション変更パスワードを指定してください。
 - PDF 文書情報キーワード 「PDF-SELECT=ON」 または
 帳票定義情報の設定で「テキストとグラフィックスの選択：不許可」
 - PDF 文書情報キーワード 「PDF-SELECT=ACCESSIBILITY」 または
 帳票定義情報の設定で「テキストとグラフィックスの選択：アクセシビリティを許可する」

-o 出力 PDF ファイル：

出力先の PDF ファイルを指定します。-r オプション指定時は必須です。
 本オプションを複数指定した場合や -r オプション指定時に省略した場合は、パラメタエラーとなります。
 指定した PDF ファイル名と同一名ファイルが存在している場合、上書き保存されます。ただし、ファイルを上書きする権限がない場合には、エラーとなります。

-w パスワード：

入力 PDF ファイルにパスワードが設定されている場合、本オプションを使用してパスワードを記述してください。
 -i オプションで指定する入力 PDF ファイルに設定されているセキュリティオプションの種類に応じて、権限の高いセキュリティオプション変更パスワードを指定してください。
 指定されたパスワードが合致せず PDF ファイルを開くことができなかった場合、その他のエラー (invalid password.) となります。
 本オプションを複数使用した場合エラーとなります。

-n 出力 PDF ファイル名プレフィックス：

出力先のディレクトリパスを含めたファイル名のプレフィックスを指定します。
 -g および -x オプション指定時は必須です。
 以下の規則で出力 PDF ファイル名が設定されます。
 ・ " 出力 PDF ファイル名プレフィックス "+" ページ番号 "+".pdf"
 ページ番号部は、入力 PDF ファイルの総ページ数の桁数で、0 補完されます。
 例) 100 ページの PDF ファイルを抽出し、出力 PDF ファイル名プレフィックスを
 "C:\User¥mydocument" とした場合、3 ページ目のファイル名は以下の通りになります。

す。

C:\User¥mydocument003.pdf

セキュリティオプションや文書情報の設定が必要な場合には、本コマンド終了後、`pmsecinf` または `pmdocinf` コマンドにて設定してください。

本オプションを複数指定した場合や `-g` および `-x` オプション指定時に省略した場合は、パラメタエラーとなります。

指定した PDF ファイル名と同一名ファイルが存在している場合、上書き保存されます。ただし、ファイルを上書きする権限がない場合には、エラーとなります。

-r 抽出ページ指定 :

抽出するページをひとつにまとめて 1 つの PDF ファイルを生成する場合に指定します。抽出するページの指定方法は、カンマ区切りによるページ番号の列挙とコロンを使用したページ範囲指定が可能です。ページは、1 以上で入力 PDF ファイルの最大ページ数以下の数値を指定します。

- 単一ページ指定方法 : `n1,n2,n3,...`

例) 1,5,3 (1 ページ目、5 ページ目、3 ページ目の順で抽出)

- ページ範囲指定方法 : `x:y`

例) 6:10 (6 ページ目 ~ 10 ページ目の範囲を抽出)

- 単一ページ指定とページ範囲指定を併用した指定方法 : `n1,n2,...,z:y,m1,..m2`

例) 1,3,5,8:10,12 (1,3,5 ページ目 ,8 ~ 10 ページ目 ,12 ページ目を抽出)

ページ範囲指定の場合、コロンの前に指定するページ数は、コロンの後に指定するページ数より小さくなくてはなりません。(x:y の場合、 $x > y$ となる場合パラメタエラーとなります)

抽出するページが重複した場合、エラーとなります。

指定したページが入力 PDF に存在しない場合、エラーとなります。入力 PDF ファイルの総ページ数が不明な場合、あらかじめ `pmpagcnt` コマンドにて総ページ数を取得してください。

指定した PDF ファイル名と同一名ファイルが存在している場合、上書き保存されます。ただし、ファイルを上書きする権限がない場合には、エラーとなります。

-g 抽出ページ指定 :

抽出するページを単一ページの PDF ファイルとして生成する場合に指定します。

抽出するページの指定方法は、カンマ区切りによるページ番号の列挙とコロンを使用したページ範囲指定が可能です。ページは、1 以上で入力 PDF ファイルの最大ページ数以下の数値を指定します。

- 単一ページ指定方法 : `n1,n2,n3,...`

例) 1,5,3 (1 ページ目、5 ページ目、3 ページ目の順で抽出)

- ページ範囲指定方法 : `x:y`

例) 6:10 (6 ページ目 ~ 10 ページ目の範囲を抽出)

- 単一ページ指定とページ範囲指定を併用した指定方法 : `n1,n2,...,z:y,m1,..m2`

例) 1,3,5,8:10,12 (1,3,5 ページ目 ,8 ~ 10 ページ目 ,12 ページ目を抽出)

ページ範囲指定の場合、コロンの前に指定するページ数は、コロンの後に指定するページ数より小さくなくてはなりません。(x:y の場合、 $x > y$ となる場合パラメタエラーとなります)

抽出するページが重複した場合、エラーとなります。

指定したページが入力 PDF に存在しない場合、エラーとなります。入力 PDF ファイルの総ページ数が不明な場合、あらかじめ `pmpagcnt` コマンドにて総ページ数を取得してください。

指定した PDF ファイル名と同一名ファイルが存在している場合、上書き保存されます。ただし、ファイルを上書きする権限がない場合には、エラーとなります。

-x 抽出ページ規則指定 :

抽出するページを別々の単一ページの PDF ファイルとして生成する場合に指定します。

抽出するページの指定方法は、以下の規則が指定可能です。

- 全ページを抽出 : `-x all`
- 最終ページのみ抽出 : `-x last`
- 偶数ページのみ抽出 : `-x even`
- 奇数ページのみ抽出 : `-x odd`

本オプションを複数使用した場合エラーとなります。
 指定した PDF ファイル名と同一名ファイルが存在している場合、上書き保存されます。ただし、ファイルを上書きする権限がない場合には、エラーとなります。

復帰値

- 0 :
 正常終了
- 1 :
 異常終了 (パラメタエラー)
 標準エラー出力に下記エラーメッセージが出力されます。
 Usage: pmfsplit -i inputPDF [-w openpwd] -r pagenostr -o outputPDF
 pmfsplit -i inputPDF [-w openpwd] -g pagenostr -n outputPDFprefix
 pmfsplit -i inputPDF [-w openpwd] -x defstr -n outputPDFprefix
- 2 :
 異常終了 (その他のエラー)
 標準エラー出力に出力されるエラーメッセージは、以下を参照してください。
 ⇒ “表 2.8 PDF 操作コマンド共通エラーメッセージ”
 ⇒ “表 2.10 PDF 操作コマンド (pmfsplit) エラーメッセージ”

参照

pmsecinf、pmdocinf、pmpagcnt

実行に必要な権限

コマンド実行ユーザーには、PDF ファイルまたは PDF 文書情報ファイルの読み取り / 書き込み権限が必要です。

使用例 1

既存の PDF ファイル "original.pdf" から 5～9 ページ目を抽出し、ひとまとめにして "result.pdf" を生成する場合。
 pmfsplit -i original.pdf -r 5:9 -o result.pdf

使用例 2

既存の PDF ファイル "original.pdf" (全 10 ページ) から 2 ページ目と 5～9 ページ目を抽出し 1 ページずつ別々のファイルに分割し、ファイル名のプレフィックスを result としてファイルを生成する場合。
 pmfsplit -i original.pdf -g 2,5:9 -n result
 出力される PDF ファイル名 : result02.pdf, result05.pdf, ..., result09.pdf

使用例 3

既存の PDF ファイル "original.pdf" (全 100 ページ) を 1 ページずつ別々のファイルに分割し、ファイル名のプレフィックスを result としてファイルを生成します。さらに入力 PDF ファイル (original.pdf) にはパスワード "abcd" が設定されている場合。
 pmfsplit -i original.pdf -w abcd -x all -n result
 出力される PDF ファイル名 : result001.pdf, result002.pdf, ..., result100.pdf

実行結果 / 出力形式

異常終了時には、コマンドエラーメッセージとイベントログまたはシステムログに異常終了に関する情報を出力します。コマンドエラーメッセージについては、以下を参照してください。
 ⇒ “2.3.11 PDF 操作コマンドエラーメッセージ一覧”
 イベントログまたはシステムログに出力されるメッセージについては、オンラインマニュアル “トラブルシューティング・メッセージ集” を参照してください。

2.3.3 pmdocinf (PDF ファイルの文書情報操作)

機能説明

pmdocinf コマンドは、List Creator で生成した PDF ファイルの文書情報 (タイトル、サブタイトル、作成者、作成日付など) を取得したり、設定 / 変更することができるコマンドです。

- パスワードによって保護されている PDF ファイルも操作可能です。
- 操作対象の文書情報は以下のとおりです。
 - ・ タイトル (PDF-TITLE)
 - ・ サブタイトル (PDF-SUBTITLE)
 - ・ 作成者 (PDF-AUTHOR)
 - ・ 文書作成アプリケーション名 (PDF-CREATOR) [取得のみ]
 - ・ PDF 作成アプリケーション名 (PDF-PRODUCER) [取得のみ]
 - ・ PDF 作成日付 (PDF-CREATIONDATE) [取得のみ]
 - ・ PDF 更新日付 (PDF-MODDATE) [取得のみ]
- 文書情報の取得 / 設定は、“2.2.2 PDF 文書情報ファイルの書式” の形式で行います。

記述形式

コマンド	オプション
pmdocinf PDF ファイルの文書情報を取得する	-i 入力 PDF ファイル [-w パスワード] -O 出力 PDF 文書情報ファイル ([] は省略することができます)
pmdocinf PDF ファイルに文書情報を設定 / 変更する	-i 入力 PDF ファイル [-w パスワード] -I 入力 PDF 文書情報ファイル [-o 出力 PDF ファイル] [-m] ([] は省略することができます)

オプション

-i 入力 PDF ファイル: 【必須】

- 文書情報を取得もしくは設定を行う入力 PDF ファイルを指定します。
- 本オプションで指定した入力 PDF ファイルに以下のセキュリティオプションが設定されており、-I オプションで文書情報を設定 / 変更を行う場合、-w オプションで指定するパスワードにセキュリティオプション変更パスワードを指定してください。
- PDF 文書情報キーワード 「PDF-MODIFY=ON」 または
帳票定義情報の設定で「文書変更の許可: 許可しない」
 - PDF 文書情報キーワード 「PDF-MODIFY=ASMONLY」 または
帳票定義情報の設定で「文書変更の許可: 文書アセンブリのみ許可する」
 - PDF 文書情報キーワード 「PDF-MODIFY=FFFILL」 または
帳票定義情報の設定で「文書変更の許可: フォームフィールドの入力と署名を許可する」
 - PDF 文書情報キーワード 「PDF-MODIFY=ADDANNOT」 または
帳票定義情報の設定で「文書変更の許可: 注釈作成、フォームフィールドの入力と署名を許可する」
- 本オプションを複数指定した場合は、パラメタエラーとなります。

-o 出力 PDF ファイル:

- 文書情報を設定 / 変更を行い、新しいファイルとして保存する場合に PDF ファイル名を指定します。
- 本オプションを複数指定した場合は、パラメタエラーとなります。
- 指定した PDF ファイル名と同一名ファイルが存在している場合、上書き保存されます。ただし、ファイルを上書きする権限がない場合には、エラーとなります。

本オプションを省略した場合、`-i` で指定した入力 PDF ファイルを上書き保存します。この際、"入力 PDF ファイル"+"bak" という名称でバックアップファイルが `-i` オプションで指定したファイルと同一ディレクトリに作成されます。本バックアップファイルは、正常終了時に削除されますが、PDF ファイルの書き出し中にエラーが発生したときには残存します。エラー発生時には、"入力 PDF ファイル"+"bak" ファイルの名前を変更するか、削除してください。



注意

`-o` オプションを指定せず、入力 PDF ファイルを上書き保存する場合、"入力 PDF ファイル"+"bak" というファイルが `-i` オプションで指定したファイルと同一ディレクトリに存在する場合、エラーとなります。

-O 出力 PDF 文書情報ファイル :

入力 PDF ファイルに設定されている文書情報を、本オプションで指定した PDF 文書情報ファイルとして出力します。PDF 文書情報ファイルの書式やキーワードについては、以下を参照してください。

⇒“2.2.2 PDF 文書情報ファイルの書式”

本オプションを複数指定した場合は、パラメタエラーとなります。

指定した PDF 文書情報ファイル名と同一名ファイルが存在している場合、上書き保存されます。ただし、ファイルを上書きする権限がない場合には、エラーとなります。

-I 入力 PDF 文書情報ファイル :

設定 / 変更する文書情報を、本オプションで指定した PDF 文書情報ファイル形式で指定します。PDF 文書情報ファイルの書式やキーワードについては、以下を参照してください。

⇒“2.2.2 PDF 文書情報ファイルの書式”

文書情報以外の PDF 文書情報ファイルのキーワードは無視されます。

PDF 文書情報ファイルの記述に誤りがある場合や、指定された PDF 文書情報ファイルが存在しない場合はエラーとなります。

本オプションを複数指定した場合は、パラメタエラーとなります。

-w パスワード :

入力 PDF ファイルにパスワードが設定されている場合、本オプションによりパスワードを記述してください。

`-i` オプションで指定する入力 PDF ファイルに設定されているセキュリティオプションの種類に応じて、権限の高いセキュリティオプション変更パスワードを指定してください。

指定されたパスワードが合致せず PDF ファイルを開くことができなかった場合、その他のエラー (invalid password.) となります。

本オプションを複数指定した場合は、パラメタエラーとなります。

-m :

文書情報のメタデータを生成して PDF ファイル に追加する場合に指定してください。PDF ファイルにセキュリティ情報が設定されている場合、メタデータは暗号化されます。

入力 PDF ファイル が文書情報のメタデータを含む場合、`-m` オプションの指定に関わらず、メタデータは更新されます。この際、入力 PDF ファイルにセキュリティ情報が設定されている場合、メタデータは暗号化されます。

`-m` オプションが指定されない場合、メタデータは PDF ファイルに追加されません。

本オプションを複数指定した場合は、パラメタエラーとなります。

復帰値

0 :

正常終了

1 :

異常終了 (パラメタエラー)

標準エラー出力に下記エラーメッセージが出力されます。

```
Usage: pmdocinf -i inputPDF [-w openpwd] -O infile
       pmdocinf -i inputPDF [-w openpwd] -I infile [-o outputPDF] [-m]
```

2:

異常終了（その他のエラー）
標準エラー出力に出力されるエラーメッセージは、以下を参照してください。
⇒“表 2.8 PDF 操作コマンド共通エラーメッセージ”

実行に必要な権限

コマンド実行ユーザーには、PDF ファイルまたは PDF 文書情報ファイルの読み取り / 書き込み権限が必要です。

使用例 1

既存の PDF ファイル "original.pdf" に設定されている文書情報を PDF 文書情報ファイル "docout.inf" へ出力する場合

```
pmdocinf -i original.pdf -O docout.inf
```

使用例 2

既存の PDF ファイル "original.pdf" に設定されている文書情報を PDF 文書情報ファイル "docsetting.inf" で指定したセキュリティ情報に変更し、新たな "newdoc.pdf" を出力する場合。入力 PDF ファイル "original.pdf" にはパスワード "abcd" が設定されている

```
pmdocinf -i original.pdf -w abcd -l docsetting.inf -o newdoc.pdf
```

実行結果 / 出力形式

異常終了時には、コマンドエラーメッセージとイベントログまたはシステムログに異常終了に関する情報を出力します。コマンドエラーメッセージについては、以下を参照してください。

⇒“2.3.11 PDF 操作コマンドエラーメッセージ一覧”

イベントログまたはシステムログに出力されるメッセージについては、オンラインマニュアル“トラブルシューティング・メッセージ集”を参照してください。

2.3.4 pmsecinf (PDF ファイルのセキュリティ操作)

機能説明

pmsecinf コマンドは、既存の PDF ファイルのセキュリティ情報を取得したり、新たにセキュリティ情報を付加したり、セキュリティ情報を解除することが可能です。

- 操作対象のセキュリティ情報は以下のとおりです。
 - オープンパスワード (PDF-OPENPWD) [設定のみ]
 - セキュリティオプション変更パスワード (PDF-SECUPWD) [設定のみ]
 - 注釈、フォームフィールドの追加、変更の許可 / 不許可 (PDF-ANOTATE)
 - 文書の変更の許可 / 不許可 (PDF-MODIFY)
 - 印刷の許可 / 不許可 (PDF-PRINT)
 - テキストとグラフィックスの選択の許可 / 不許可 (PDF-SELECT)
 - 128bit 暗号化の設定 (PDF-KEY128)
 - AES 暗号化の設定 (PDF-AES)
 - メタデータの暗号化 / 非暗号化の設定 (PDF-NOENCMETA)
- セキュリティ情報の取得 / 設定は、“2.2.2 PDF 文書情報ファイルの書式”の形式で行います。

記述形式

コマンド	オプション
pmsecinf PDF ファイルのセキュリティ情報を取得する	-i 入力 PDF ファイル [-w パスワード] -O 出力 PDF 文書情報ファイル ([] は省略することができます)
pmsecinf PDF ファイルにセキュリティ情報を設定 / 変更する	-i 入力 PDF ファイル [-w パスワード] -I 入力 PDF 文書情報ファイル [-o 出力 PDF ファイル] ([] は省略することができます)
pmsecinf PDF ファイルのセキュリティ情報を解除する	-i 入力 PDF ファイル [-w パスワード] -D [-o 出力 PDF ファイル] ([] は省略することができます)

オプション

-i 入力 PDF ファイル : 【必須】

セキュリティ情報を取得 / 設定 / 解除を行う入力 PDF ファイルを指定します。
本オプションを省略した場合や、複数指定した場合は、パラメタエラーとなります。

-o 出力 PDF ファイル :

セキュリティ情報を設定 / 変更 / 解除を行い新しいファイルとして保存する場合に PDF ファイル名を指定します。

本オプションを複数指定した場合は、パラメタエラーとなります。

指定した PDF ファイル名と同一名ファイルが存在している場合、上書き保存されます。ただし、ファイルを上書きする権限がない場合には、エラーとなります。

本オプションを省略した場合、-i で指定した入力 PDF ファイルを上書き保存します。この際、" 入力 PDF ファイル"+"bak" という名称でバックアップファイルが -i オプションで指定したファイルと同一ディレクトリに作成されます。

本バックアップファイルは、正常終了時に削除されますが、PDF ファイルの書き出し中にエラーが発生したときには残存します。エラー発生時には、" 入力 PDF ファイル"+"bak" ファイルの名前を変更するか、削除してください。



注意 - -o オプションを指定せず、入力 PDF ファイルを上書き保存する場合、
" 入力 PDF ファイル"+"bak" というファイルが -i オプションで指定したファイルと同一ディレクトリに存在する場合、エラーとなります。

-O 出力 PDF 文書情報ファイル :

入力 PDF ファイルに設定されているセキュリティ情報を、本オプションで指定した PDF 文書情報ファイルとして出力します。PDF 文書情報ファイルの書式やキーワードについては、以下を参照してください。

⇒ [“2.2.2 PDF 文書情報ファイルの書式”](#)

本オプションを複数指定した場合は、パラメタエラーとなります。

指定した PDF 文書情報ファイル名と同一名ファイルが存在している場合、上書き保存されます。ただし、ファイルを上書きする権限がない場合には、エラーとなります。

-I 入力 PDF 文書情報ファイル :

設定 / 変更するセキュリティ情報を、本オプションで指定した PDF 文書情報ファイル形式で指定します。PDF 文書情報ファイルの書式やキーワードについては、以下を参照してください。

⇒ [“2.2.2 PDF 文書情報ファイルの書式”](#)

セキュリティ情報以外の PDF 文書情報ファイルのキーワードは無視されます。

PDF 文書情報ファイルの記述に誤りがある場合や、指定された PDF 文書情報ファイルが存在しない場合はエラーとなります。

本オプションを複数指定した場合は、パラメタエラーとなります。

-w パスワード :

入力 PDF ファイルにパスワードが設定されている場合、本オプションによりパスワードを記述してください。

セキュリティ情報を付加する際に指定するパスワードは、"セキュリティオプション変更パスワード" を指定してください。入力 PDF ファイルにセキュリティオプション変更パスワードが設定されていない場合には、"PDFファイルを開くパスワード"を指定してください。

指定されたパスワードが合致せず PDF ファイルを開くことができなかつた場合、その他のエラー (*invalid password.*) となります。

本オプションを複数指定した場合は、パラメタエラーとなります。

-D :

入力 PDF ファイルのセキュリティ情報を解除する場合に指定します。

本オプションを複数指定した場合は、パラメタエラーとなります。

復帰値

0 :

正常終了

1 :

異常終了 (パラメタエラー)

標準エラー出力に下記エラーメッセージが出力されます。

```
Usage: pmsecinf -i inputPDF [-w openpwd] -O infile
       pmsecinf -i inputPDF [-w openpwd] -I infile [-o outputPDF]
       pmsecinf -i inputPDF [-w openpwd] -D [-o outputPDF]
```

2 :

異常終了 (その他のエラー)

標準エラー出力に出力されるエラーメッセージは、以下を参照してください。

⇒ “表 2.8 PDF 操作コマンド共通エラーメッセージ”

⇒ “表 2.11 PDF 操作コマンド (pmsecinf) エラーメッセージ”

実行に必要な権限

コマンド実行ユーザーには、PDF ファイルまたは PDF 文書情報ファイルの読み取り / 書き込み権限が必要です。

使用例 1

既存の PDF ファイル "original.pdf" に設定されているセキュリティ情報を PDF 文書情報ファイル "secout.inf" へ出力する場合

```
pmsecinf -i original.pdf -O secout.inf
```

使用例 2

既存の PDF ファイル "original.pdf" に設定されているセキュリティ情報を PDF 文書情報ファイル "secsetting.inf" で指定したセキュリティ情報に変更し、新たな "newsec.pdf" を出力する場合。入力 PDF ファイル "original.pdf" にはパスワード "abcd" が設定されている

```
pmsecinf -i original.pdf -w abcd -I secsetting.inf -o newsec.pdf
```

使用例 3

既存の PDF ファイル "original.pdf" に設定されているセキュリティ情報を解除し、新たな "newsec.pdf" を出力する場合。入力 PDF ファイル "original.pdf" にはパスワード "abcd" が設定されている

```
pmsecinf -i original.pdf -w abcd -D -o newsec.pdf
```

実行結果 / 出力形式

異常終了時には、コマンドエラーメッセージとイベントログまたはシステムログに異常終了に関する情報を出力します。コマンドエラーメッセージについては、以下を参照してください。

⇒“2.3.11 PDF 操作コマンドエラーメッセージ一覧”

イベントログまたはシステムログに出力されるメッセージについては、オンラインマニュアル“トラブルシューティング・メッセージ集”を参照してください。

2.3.5 pmpagcnt (PDF ファイルのページ数取得)**機能説明**

pmpagcnt コマンドは、List Creator で生成した PDF ファイルの総ページ数を取得することができるコマンドです。

- パスワードによって保護されている PDF ファイルも取得可能です。
- ページ数の取得結果は、PDF 文書情報ファイル形式で出力、もしくは標準出力に出力します。

記述形式

コマンド	オプション
pmpagcnt 既存の PDF ファイルの総ページ数を取得する	-i 入力 PDF ファイル [-w パスワード] [-O 出力 PDF 文書情報ファイル] ([] は省略することができます)

オプション**-i 入力 PDF ファイル : 【必須】**

ページ数の取得を行う入力 PDF ファイルを指定します。

本オプションを省略した場合や、複数指定した場合は、パラメタエラーとなります。

-w パスワード :

入力 PDF ファイルにパスワードが設定されている場合、本オプションによりパスワードを記述してください。指定するパスワードは、“PDF ファイルを開くパスワード”、“セキュリティオプション変更パスワード”どちらのパスワードでも使用可能です。

指定されたパスワードが合致せず PDF ファイルを開くことができなかった場合、その他のエラー (invalid password.) となります。

本オプションを複数指定した場合は、パラメタエラーとなります。

-O 出力 PDF 文書情報ファイル :

入力 PDF ファイルの総ページ数を、本オプションで指定した PDF 文書情報ファイルとして出力します。出力される PDF 文書情報ファイルのキーワードは「PDF-PAGECNT」のみです。PDF 文書情報ファイルの書式やキーワードについては、以下を参照してください。

⇒“2.2.2 PDF 文書情報ファイルの書式”

本オプションを省略した場合、標準出力に総ページ数のみ 10 進数で出力されます。

本オプションを複数指定した場合は、パラメタエラーとなります。

指定した PDF 文書情報ファイル名と同一名ファイルが存在している場合、上書き保存されません。ただし、ファイルを上書きする権限がない場合には、エラーとなります。

復帰値

- 0 : 正常終了
- 1 : 異常終了 (パラメタエラー)

標準エラー出力に下記エラーメッセージが出力されます。
Usage: pmpagcnt -i inputPDF [-w openpwd] [-O outinfile]

2 :

異常終了 (その他のエラー)

標準エラー出力に出力されるエラーメッセージは、以下を参照してください。

⇒ “表 2.8 PDF 操作コマンド共通エラーメッセージ”

実行に必要な権限

コマンド実行ユーザーには、PDF ファイルまたは PDF 文書情報ファイルの読み取り / 書き込み権限が必要です。

使用例 1

既存の PDF ファイル "original.pdf" から総ページ数を取得し、結果を PDF 文書情報ファイル "paginf.inf" に出力する場合。

```
pmpagcnt -i original.pdf -O paginf.inf
```

PDF 文書情報ファイル "paginf.inf" の出力例

```
[PM-PDF]
PDF-PAGECNT=10
```

使用例 2

既存の PDF ファイル "original.pdf" から総ページ数を取得し、結果を標準出力に出力する場合。

```
pmpagcnt -i original.pdf
```

```
> 10
```

実行結果 / 出力形式

異常終了時には、コマンドエラーメッセージとイベントログまたはシステムログに異常終了に関する情報を出力します。コマンドエラーメッセージについては、以下を参照してください。

⇒ “2.3.11 PDF 操作コマンドエラーメッセージ一覧”

イベントログまたはシステムログに出力されるメッセージについては、オンラインマニュアル “トラブルシューティング・メッセージ集” を参照してください。

2.3.6 pmexteff (PDF ファイルの添付ファイル操作)

機能説明

pmexteff コマンドは、List Creator で生成した PDF ファイルにファイル添付機能にて添付されたファイルの一覧を取得したり、抽出することができるコマンドです。

- パスワードによって保護されている PDF ファイルも操作可能です。
- 添付されているファイルの一覧を取得できます。
- 添付されているファイルを全て抽出できます。
- 添付されているファイルを一覧に表示された名前、または、番号で取得できます。

記述形式

コマンド	オプション
pmxteff 添付ファイルの一覧を取得する	-i 入力 PDF ファイル [-w パスワード] -L [-v] ([] は省略することができます)
pmxteff 添付ファイルを全て抽出する	-i 入力 PDF ファイル [-w パスワード] -A -d 出力先ディレクトリ [-R] [-v] ([] は省略することができます)
pmxteff 添付ファイルをインデックス番号で抽出する	-i 入力 PDF ファイル [-w パスワード] -X インデックス番号 -o 出力 PDF ファイル -d 出力先ディレクトリ ([] は省略することができます)
pmxteff 添付ファイルをファイル名で抽出	-i 入力 PDF ファイル [-w パスワード] -F 添付ファイル名 -o 出力 PDF ファイル -d 出力先ディレクトリ ([] は省略することができます)

オプション

-i 入力 PDF ファイル : 【必須】

添付ファイルの一覧を取得もしくは抽出を行う入力 PDF ファイルを指定します。
本オプションを複数指定した場合は、パラメタエラーとなります。

-w パスワード :

入力 PDF ファイルにパスワードが設定されている場合、本オプションによりパスワードを記述してください。

-i オプションで指定する入力 PDF ファイルに設定されているセキュリティオプションの種類に応じて、権限の高いセキュリティオプション変更パスワードを指定してください。
指定されたパスワードが合致せず PDF ファイルを開くことができなかつた場合、その他のエラー (invalid password.) となります。

本オプションを複数指定した場合は、パラメタエラーとなります。

-L :

添付ファイルの一覧を表示する場合に指定してください。

同一のファイル名の添付ファイルが複数存在する場合、一覧にはファイル名が複数回表示されます。

システムにおいて利用できないファイル名の添付ファイルが存在する場合、一覧にはファイル名が表示されません。後述の -v オプションを同時に指定して、詳細な一覧を表示してください。

-L オプションは、-A、-X、-F オプションと同時に指定できません。

本オプションを複数指定した場合は、パラメタエラーとなります。

-v :

添付ファイルの詳細な一覧を表示する場合に指定してください。

-L オプションと同時に指定した場合、詳細な一覧では、インデックス番号、ファイル名、サイズ、更新日時、埋め込み種別、ファイルの種類順で、カンマ区切りで表示します。先頭行には固定で見出しを出力します。

-R オプションと同時に指定した場合、詳細な一覧では、埋め込み(元)ファイル名、出力ファイル名、サイズ、更新日時、埋め込み種別、結果の順で、カンマ区切りで表示します。先頭行には固定で見出しを出力します。

ファイル名はダブルクォーテーションで囲んで表示されます。
埋め込み種別は埋め込みデータオブジェクトの場合は「EF」、注釈ファイルの場合は「PP」で表示されます。

-v オプションは、必ず -L オプション、または、-R オプションと同時に指定してください。
本オプションを複数指定した場合は、パラメタエラーとなります。

-A :

添付ファイルを全て抽出する場合に指定してください。
抽出できない添付ファイルがあった場合、そのファイルはスキップされます。抽出するファイル名にシステムにおいて利用できないファイル名が使用されていた場合、以下のようにファイル名が変更されます。

ファイル名 : **eff** を使用します。

拡張子 : ファイルの種類に合わせた拡張子を使用します。

なお、ファイル名を変更した結果、同じファイル名の抽出した他のファイルが存在する場合は、ファイル名の拡張子を除いた部分に「_ (連番)」を付加した形式でファイル名が重ならないように変更します。

-A オプションは、必ず -d オプションと同時に指定してください。

-A オプションは、-L、-X、-F オプションと同時に指定できません。

本オプションを複数指定した場合は、パラメタエラーとなります。

-d 出力先ディレクトリ :

添付ファイルを出力する先のディレクトリを指定します。

指定されたディレクトリが存在しない場合、新規に作成します。なお、添付ファイルを抽出する際にエラーが発生した場合でも、作成したディレクトリは削除されません。

出力先ディレクトリにすでに抽出するファイル名と同じファイル名が存在する場合、上書きされます。

本オプションを複数指定した場合は、パラメタエラーとなります。

-R :

添付ファイルを全て抽出した際、抽出した結果のファイル名の一覧を表示する場合に指定してください。

本オプションを複数指定した場合は、パラメタエラーとなります。

-X インデックス番号 :

添付ファイルをインデックス番号を指定して抽出する場合に指定してください。

抽出できない添付ファイルであった場合、エラーとなります。抽出するファイル名にシステムにおいて利用できないファイル名が使用されていた場合、以下のようにファイル名が変更されます。

ファイル名 : **eff** を使用します。

拡張子 : ファイルの種類に合わせた拡張子を使用します。

存在しないインデックス番号を指定した場合はエラーとなります。

-X オプションは、必ず -d オプション、または、-o オプションと同時に指定してください。

-X オプションは、-L、-A、-F オプションと同時に指定できません。

本オプションを複数指定した場合は、パラメタエラーとなります。

-o 出力 PDF ファイル :

抽出する添付ファイルを、新しいファイルとして保存する場合にファイル名を指定します。

本オプションを複数指定した場合は、パラメタエラーとなります。

指定したファイル名と同一名ファイルが存在している場合、上書き保存されます。ただし、ファイルを上書きする権限がない場合には、エラーとなります。

-F 添付ファイル名 :

添付ファイルをファイル名を指定して抽出する場合に指定してください。

同一のファイル名の添付ファイルが複数存在する場合、インデックス番号の小さい方のファイルが抽出されます。

存在しない添付ファイル名を指定した場合はエラーとなります。

-F オプションは、必ず -d オプション、または、-o オプションと同時に指定してください。

-F オプションは、-L、-A、-X オプションと同時に指定できません。

本オプションを複数指定した場合は、パラメタエラーとなります。

復帰値

- 0 :
正常終了
- 1 :
異常終了 (パラメタエラー)
標準エラー出力に下記エラーメッセージが出力されます。
Usage: pmxteff -i inputPDF [-w openpwd] -L[-v]
 pmxteff -i inputPDF [-w openpwd] -A -d outputdirname [-R[-v]]
 pmxteff -i inputPDF [-w openpwd] -X index [-o outputfilename] | [-d outputdirname]
 pmxteff -i inputPDF [-w openpwd] -F orgname [-o outputfilename] | [-d outputdirname]
- 2 :
異常終了 (その他のエラー)
標準エラー出力に出力されるエラーメッセージは、以下を参照してください。
⇒ “表 2.8 PDF 操作コマンド共通エラーメッセージ”
⇒ “表 2.12 PDF 操作コマンド (pmxteff) エラーメッセージ”

実行に必要な権限

コマンド実行ユーザーには、PDF ファイルの読み取り権限が必要です。

使用例 1

PDF ファイル "original.pdf" の添付ファイルの一覧をファイル名のみ表示する場合
pmxteff -i original.pdf -L

使用例 2

PDF ファイル "original.pdf" の添付ファイルの一覧を詳細に表示する場合
pmxteff -i original.pdf -L -v

使用例 3

PDF ファイル "original.pdf" の添付ファイルを全てカレントディレクトリに出力し、抽出した結果を表示する場合
pmxteff -i original.pdf -A -d . -R

使用例 4

PDF ファイル "original.pdf" のインデックス番号 1 の添付ファイルを「attach.txt」として抽出する場合
pmxteff -i original.pdf -X 1 -o attach.txt

使用例 5

PDF ファイル "original.pdf" の添付ファイル「abc.xml」を「output」ディレクトリに出力する場合
pmxteff -i original.pdf -F abc.xml -d output

実行結果 / 出力形式

異常終了時には、コマンドエラーメッセージとイベントログまたはシステムログに異常終了に関する情報を出力します。コマンドエラーメッセージについては、以下を参照してください。

⇒ “2.3.11 PDF 操作コマンドエラーメッセージ一覧”

イベントログまたはシステムログに出力されるメッセージについては、オンラインマニュアル“トラブルシューティング・メッセージ集”を参照してください。

2.3.7 PDF 操作コマンドで使用する PDF 文書情報ファイル

PDF 操作コマンドを使用して、文書情報 (タイトル/サブタイトル等) やセキュリティオプションの設定などを、PDF 文書情報ファイルの形式で定義することができます。

さらに、既存の PDF ファイルの文書情報 (タイトル/サブタイトル等) やページ数の取得を行うことができます。

PDF 操作コマンドで使用する PDF 文書情報ファイルの書式は、以下を参照してください。

⇒ “2.2.2 PDF 文書情報ファイルの書式”

PDF 操作コマンドで使用する PDF 文書情報ファイルのキーワードの一覧は、以下を参照してください。

⇒ “2.3.8 PDF 操作コマンドで使用する PDF 文書情報ファイルのキーワード一覧”

PDF 操作コマンドで使用する PDF 文書情報ファイルのキーワードの説明は、以下を参照してください。

⇒ “2.3.9 PDF 操作コマンドで使用する PDF 文書情報ファイルのキーワード説明”

2.3.8 PDF 操作コマンドで使用する PDF 文書情報ファイルのキーワード一覧

以下に、PDF 操作コマンドのパラメタとして設定 / 取得が可能な PDF 文書情報ファイルの各キーワードと関連する PDF 操作コマンドでの設定 / 取得種別の対応について示します。

表 2.7 PDF 操作コマンドで使用する PDF 文書情報ファイルのキーワード一覧 (1 / 2)

分類	キーワード名	説明	設定 / 取得
宣言	[PM-PDF]	PDF 操作コマンド用 PDF 文書情報ファイルの宣言です。	
文書情報 (*1)	PDF-AUTHOR	PDF ファイルの文書情報の作成者の設定と取得が行えます。	設定と取得が可能
	PDF-CREATIONDATE	PDF ファイルを作成した日時を取得します。	取得のみ可能
	PDF-CREATOR	ドキュメントを作成したアプリケーション名を取得します。	取得のみ可能
	PDF-MODDATE	PDF ファイルを更新した日時を取得します。	取得のみ可能
	PDF-PRODUCER	PDF ファイルを変換したアプリケーション名を取得します。	取得のみ可能
	PDF-SUBTITLE	PDF ファイルの文書情報のサブタイトルの設定と取得が行えます。	設定と取得が可能
	PDF-TITLE	PDF ファイルの文書情報のタイトルの設定と取得が行えます。	設定と取得が可能

表 2.7 PDF 操作コマンドで使用する PDF 文書情報ファイルのキーワード一覧 (2 / 2)

分類	キーワード名	説明	設定 / 取得
セキュリティ 情報 (*2)	PDF-AES	PDF ファイルを AES 暗号で暗号化します。	設定と取得が可能
	PDF-ANOTATE	PDF ファイルのセキュリティオプションとして、注釈、フォームフィールドの追加、変更の許可 / 不許可を設定します。	設定と取得が可能
	PDF-KEY128	暗号化キー長を 128bit として PDF 変換を行います。	設定と取得が可能
	PDF-MODIFY	PDF ファイルのセキュリティオプションとして文書の変更の許可 / 不許可を設定します。	設定と取得が可能
	PDF-NOENCMETA	PDF ファイルに埋め込むメタデータを、暗号化せずに埋め込みます。	設定と取得が可能
	PDF-OPENPWD	Adobe Reader で PDF ファイルを開く際に必要なパスワードを記述します。	設定のみ可能
	PDF-PRINT	PDF ファイルのセキュリティ情報として印刷の許可 / 不許可を設定します。	設定と取得が可能
	PDF-SECUPWD	Acrobat で PDF ファイルのセキュリティオプションを変更する際に必要なパスワード (セキュリティオプション変更パスワード) を記述します。	設定のみ可能
	PDF-SELECT	PDF ファイルのセキュリティオプションとしてテキストとグラフィックスの選択の許可 / 不許可を設定します。	設定と取得が可能
ページ数 (*3)	PDF-PAGECNT	PDF ファイルの総ページ数を取得します。	取得のみ可能

*1 : pmdocinf コマンドで使用可能なキーワードです。

*2 : pmsecinf コマンドで使用可能なキーワードです。

*3 : pmpagcnt コマンドで使用可能なキーワードです。

2.3.9 PDF 操作コマンドで使用する PDF 文書情報ファイルのキーワード説明

[PM-PDF]

書式

[PM-PDF]

説明

PDF 操作コマンド用 PDF 文書情報ファイルの宣言です。
この宣言以降のキーワードとその定義が有効になります。したがって、PDF 操作を行ういずれのキーワードよりも先に宣言してください。

省略時

省略できません。

特記事項

このキーワードを複数回使用した場合は、最初の宣言以外は無効となります。
このキーワードは PDF 操作コマンドでのみ使用可能です。
このキーワードを帳票出力用時に使用する PDF 文書情報ファイルに使用しても無効となります。

PDF-AES

書式

PDF-AES=ON | OFF

説明

PDF を AES 暗号で暗号化します。

ON:

AES 暗号で暗号化します。

OFF:

RC4 暗号で暗号化します。

ただし、PDF-KEY128=ON を設定していない場合、このキーワードは無効になります。

例) PDF-AES=ON

省略時

OFF

特記事項

- ON、OFF 以外を指定した場合、エラーとなります。
- Adobe Acrobat 6.0 以前および Adobe Reader 6.0 以前では機能しません。Adobe Acrobat 7.0 以降または Adobe Reader 7.0 以降をお使いください。

PDF-ANOTATE

書式

PDF-ANOTATE=ON | OFF

説明

PDF のセキュリティ情報として、注釈、フォームフィールドの追加、変更の許可 / 不許可を設定 / 取得します。

ON:

注釈、フォームフィールドの追加、変更を不許可とします。

OFF:

注釈、フォームフィールドの追加、変更を許可とします。

ただし、PDF-KEY128=ON を設定している場合、このキーワードは無効になります。注釈およびフォームフィールドのセキュリティ設定を行うには、PDF-MODIFY=ADDANNOT を設定してください。

例) PDF-ANOTATE=ON

省略時

設定時：セキュリティ情報設定時に本キーワードを省略した場合、元の PDF ファイルと同じ設定となります。

取得時：PDF ファイルにセキュリティが設定されていない場合、PDF-ANOTATE=OFF と出力されます。

特記事項

- 本キーワードは設定と取得が可能です。
- セキュリティ情報設定時に ON、OFF 以外を指定した場合、エラーとなります。

- ON を指定するときは、必ず PDF-SECUPWD でセキュリティ情報の変更に必要なパスワードを設定してください。パスワードの設定を行わない場合、指定したセキュリティが有効にならないことがあります。

PDF-AUTHOR

書式

PDF-AUTHOR=< 改行コードを含む 256 バイト以内の文字列 >

説明

PDF の文書情報の作成者を記述します。

PDF 操作コマンドで本キーワードを使用した場合、作成者の設定と取得が行えます。

Acrobat Reader 4.0 の [ファイル] - [文書情報] - [一般] (Acrobat Reader 5.0 または Adobe Reader 6.0 以降の場合は、[ファイル] - [文書のプロパティ] - [概要]、Adobe Reader 8.0 以降の場合は、[ファイル] - [プロパティ] - [概要]) で参照が可能です。256 バイト以上の文字列を記述した場合、Adobe Reader でファイルが正しく開かない場合があります。

例) PDF-AUTHOR= ○○株式会社

省略時

設定時：文書情報設定時に本キーワードを省略した場合、元の PDF ファイルと同じ設定となります。

取得時：PDF ファイルに作成者が設定されていない場合、[値] が設定されません。

例) PDF-AUTHOR=

特記事項

- 本キーワードは設定と取得が可能です。

PDF-CREATIONDATE

書式

PDF-CREATIONDATE=YYYYMMDDHHmmSSOHH'mm'

説明

YYYY: 年

PDF 作成環境のローカル時間で、作成 "年" を出力します。

MM: 月

PDF 作成環境のローカル時間で、作成 "月" を出力します。

DD: 日

PDF 作成環境のローカル時間で、作成 "日" を出力します。

HH: 時

PDF 作成環境のローカル時間で、作成 "時" を出力します。

mm: 分

PDF 作成環境のローカル時間で、作成 "分" を出力します。

SS: 秒

PDF 作成環境のローカル時間で、作成 "秒" を出力します。

O: 世界時 (UT : Universal Time) に対する関係

+ : PDF 作成環境のローカル時間が世界時に対して+の時差であることを示します。

- : PDF 作成環境のローカル時間が世界時に対して-の時差であることを示します。

Z : PDF 作成環境のローカル時間と世界時との時差がないことを示します。

HH'mm':UT から時差の絶対値

PDF 作成環境のローカル時間と UT との時差の絶対値を " 時間 " と " 分 " で出力します。

例) 作成日時が日本時間の 2008 年 3 月 21 日の正午の場合
PDF-CREATIONDATE=20080321120000+09'00'

特記事項

- 本キーワードは取得のみで設定は行えません。文書情報設定時に本キーワードが使用されていても無効となります。
- PDF ファイルが新規に生成された時間が設定されます。
pmfmerge コマンドの -o オプション、pmsecinf コマンドの -o オプション、pmdocinf コマンドの -o オプション、pmfsplit コマンド使用時に設定した出力 PDF ファイルに対しても、各コマンドで PDF ファイルが新規に生成された時間が設定されます。

PDF-CREATOR

書式

PDF-CREATOR=< 改行コードを含む 256 バイト以内の文字列 >

説明

PDF ファイルを作成した文書作成アプリケーション名を出力します。

例) PDF-CREATOR=List Designer

特記事項

- 本キーワードは取得のみで設定は行えません。文書情報設定時に本キーワードが使用されていても無効となります。
- 入力した PDF に文書作成アプリケーション名が設定されていない場合、[値] が設定されません。
例) PDF-CREATOR=
- List Creator の帳票出力インタフェースを使用して作成した PDF ファイルには、文書作成アプリケーション名は設定されていません。

PDF-KEY128

書式

PDF-KEY128=ON | OFF

説明

ON:

暗号化キー長を 128bit として暗号化を行います。
128bit では、「PDF-PRINT」、「PDF-MODIFY」、「PDF-SELECT」の拡張機能を使用することができます。

OFF:

暗号化キー長を 40 bit として暗号化を行います。

例) PDF-KEY128=ON

省略時

設定時：セキュリティ情報設定時には省略できません。

取得時：セキュリティが設定されていない場合、本キーワードは出力されません。

特記事項

- 本キーワードは設定と取得が可能です。
- ON、OFF 以外を指定した場合、エラーとなります。

- Acrobat 4.0 および Acrobat Reader 4.0 では機能しません。Acrobat 5.0 以降または Acrobat Reader 5.0 以降をお使いください。
- 40bit 暗号化、128bit 暗号化のいずれの場合でも、ユーザーが指定するパスワード文字列の長さは、32 バイト以内となります。

PDF-MODDATE

書式

PDF-MODDATE=YYYYMMDDHHmmSSOHH'mm'

説明

YYYY: 年

PDF 操作環境のローカル時間で、更新 " 年 " を出力します。

MM: 月

PDF 操作環境のローカル時間で、更新 " 月 " を出力します。

DD: 日

PDF 操作環境のローカル時間で、更新 " 日 " を出力します。

HH: 時

PDF 操作環境のローカル時間で、更新 " 時 " を出力します。

mm: 分

PDF 操作環境のローカル時間で、更新 " 分 " を出力します。

SS: 秒

PDF 操作環境のローカル時間で、更新 " 秒 " を出力します。

O: 世界時 (UT : Universal Time) に対する関係

+ : PDF 操作環境のローカル時間が世界時に対して+の時差であることを示します。

- : PDF 操作環境のローカル時間が世界時に対して-の時差であることを示します。

Z : PDF 操作環境のローカル時間と世界時との時差がないことを示します。

HH'mm':UT から時差の絶対値

PDF 操作環境のローカル時間と UT との時差の絶対値を " 時間 " と " 分 " で出力します。

例) 更新日時が日本時間の 2008 年 3 月 21 日の正午の場合

PDF-MODDATE=20080321120000+09'00'

特記事項

- 本キーワードは取得のみで設定は行えません。文書情報設定時に本キーワードが使用されていても無効となります。
- 入力した PDF に更新日付が設定されていない場合、[値] が設定されません。
例) PDF-MODDATE=
- List Creator の帳票出力インタフェースと PDF 操作コマンドを使用して作成した PDF ファイルには、更新日時は設定されていません。

PDF-MODIFY

書式

PDF-MODIFY=ON | OFF | ASMONLY | FFFILL | ADDANNOT

説明

Acrobat のセキュリティ情報として文書の変更の許可 / 不許可を設定 / 取得します。

ON:

文書の変更を不許可とします。

OFF:

文書の変更を許可とします。

PDF-KEY128=ON 設定時はさらに以下の設定が有効になります。

ASMONLY :

文書アセンブリのみ許可します。

FFFILL :

フォームフィールドの入力または署名を許可します。

ADDANNOT :

注釈作成、フォームフィールドの入力または署名を許可します。

設定の様式は下表のようになります。

	文書の変更	注釈とフォーム フィールドの作成	フォームフィールド の入力または署名	文書アセンブリ
ON	×	×	×	×
OFF	○	○	○	○
ASMONLY	×	×	×	○
FFFILL	×	×	○	×
ADDANNOT	×	○	○	×

○ : 変更可

× : 変更不可

例) PDF-MODIFY=ON

省略時

設定時：セキュリティ情報設定時に本キーワードを省略した場合、元の PDF ファイルと同じ設定となります。

取得時：PDF ファイルにセキュリティが設定されていない場合、PDF-MODIFY=OFF と出力されます。

特記事項

- 本キーワードは設定と取得が可能です。
- ON、OFF、ASMONLY、FFFILL、ADDANNOT 以外を指定した場合、エラーとなります。さらに、PDF-KEY128=ON を設定していないときに、ASMONLY、FFFILL、ADDANNOT を指定するとエラーとなります。
- OFF 以外を指定するときは、必ず PDF-SECUPWD でセキュリティ情報の変更に必要なパスワードを設定してください。パスワードの設定を行わない場合、指定したセキュリティが有効にならないことがあります。
- Acrobat 4.0 および Acrobat Reader 4.0 では機能しません。Acrobat 5.0 以降または Acrobat Reader 5.0 以降をお使いください。

PDF-NOENCMETA

書式

PDF-NOENCMETA=ON | OFF

説明

PDF ファイルに文書情報から生成したメタデータを埋め込むときに、メタデータを暗号化するかどうかを指定します。

ON:

メタデータを暗号化しません。

OFF:

メタデータを暗号化します。

例) PDF-NOENCMETA=ON

省略時

OFF

特記事項

- ON、OFF 以外を指定した場合、エラーとなります。
- PDF-KEY128=ON を設定している、かつ、PDF ファイルがメタデータを含む場合のみ有効となります。
- PDF-KEY128=ON が設定されていない、または、PDF ファイルがメタデータを含まない場合、このキーワードの指定は無視されます。

PDF-OPENPWD**書式**

PDF-OPENPWD=<32 バイト以内の文字列>

説明

Adobe Reader で PDF ファイルを開く際に必要なパスワードを記述します。

半角の英数字 / 記号以外を記述した場合 Adobe Reader でファイルが正しく開かない場合があります。

例) PDF-OPENPWD=abcdefg&12345

省略時

オープンパスワードが設定されません。

特記事項

- 本キーワードは設定のみで取得は行えません。セキュリティ情報取得時には、本キーワードは出力されません。
- セキュリティ情報設定時に、このキーワードと PDF-SECUPWD に同じパスワードを指定しないでください。同じパスワードを指定すると、セキュリティオプションの設定が変更される場合があります。
- セキュリティ情報設定時に [値] を省略した場合、エラーとなります。

PDF-PAGECNT**書式**

PDF-PAGECNT=< 総ページ数 >

説明

PDF 文書の総ページ数を出力します。

10 進の正値を半角の数字で出力します。

例) PDF-PAGECNT=5

特記事項

- 本キーワードは取得のみで設定は行えません。文書情報設定時に本キーワードが使用されていても無効となります。

PDF-PRINT

書式

PDF-PRINT=ON | OFF | LOWRESO

説明

PDF のセキュリティ情報としてプリントの許可 / 不許可を設定 / 取得します。

ON:

プリントを不許可とします。

OFF:

プリントを許可とします。

LOWRESO:

低解像度でのみのプリントが許可されます (PDF-KEY128=ON 設定時のみ有効)。

例) PDF-PRINT=ON

省略時

設定時：セキュリティ情報設定時に本キーワードを省略した場合、元の PDF ファイルと同じ設定となります。

取得時：PDF ファイルにセキュリティが設定されていない場合、PDF-PRINT=OFF と出力されます。

特記事項

- 本キーワードは設定と取得が可能です。
- ON、OFF、LOWRESO 以外を指定した場合、エラーとなります。
PDF-KEY128 = ON を設定していないときに、LOWRESO を指定すると、エラーとなります。
- OFF 以外を指定するときは、必ず PDF-SECUPWD でセキュリティ情報の変更に必要なパスワードを設定してください。パスワードの設定を行わない場合、指定したセキュリティが有効にならないことがあります。
- Acrobat 4.0 および Acrobat Reader 4.0 では機能しません。Acrobat 5.0 以降または Acrobat Reader 5.0 以降をお使いください。

PDF-PRODUCER

書式

PDF-PRODUCER=< 改行コードを含む 256 バイト以内の文字列 >

説明

PDF ファイルを変換したアプリケーション名を出力します。

例) PDF-PRODUCER=List Creator

特記事項

- 本キーワードは取得のみで設定は行えません。文書情報設定時に本キーワードが使用されていても無効となります。
- List Creator の帳票出カインタフェースを使用して作成した PDF ファイルを参照した場合、PDF-PRODUCER=List Creator と出力されます。
- PDF 操作コマンドにて新たに生成した PDF ファイルを参照した場合、PDF-PRODUCER=PDFManipulator と出力されます。

PDF-SECUPWD

書式

PDF-SECUPWD=<32 バイト以内の文字列>

説明

Acrobat でセキュリティ情報を変更する際に必要なパスワードを記述します。
半角の英数字 / 記号以外を記述した場合、Adobe Reader でファイルが正しく開かない場合があります。
アルファベットの大文字 / 小文字は区別されます。

例) PDF-SECUPWD=ABCDEFGH#67890

省略時

セキュリティ情報パスワードが設定されません。

特記事項

- 本キーワードは設定のみで取得は行えません。セキュリティ情報取得時には、本キーワードは出力されません。
- セキュリティ情報設定時に、このキーワードと PDF-OPENPWD に同じパスワードを指定しないでください。同じパスワードを指定すると、セキュリティオプションの設定が変更される場合があります。
- セキュリティ情報設定時に [値] を省略した場合、エラーとなります。

PDF-SELECT

書式

PDF-SELECT=ON | OFF | ACCESSIBILITY | COPY+EXTRACT

説明

PDF のセキュリティ情報としてテキストとグラフィックスの選択の許可 / 不許可を設定します。

ON:

テキストとグラフィックスの選択を不許可とします。

OFF:

テキストとグラフィックスの選択を許可とします。

PDF-KEY128=ON 設定時はさらに以下の設定が有効になります。

ACCESSIBILITY :

アクセシビリティを許可します。

COPY+EXTRACT :

内容のコピー・抽出を許可します。

例) PDF-SELECT=ON

省略時

設定時：セキュリティ情報設定時に本キーワードを省略した場合、元の PDF ファイルと同じ設定となります。

取得時：PDF ファイルにセキュリティが設定されていない場合、PDF-SELECT=OFF と出力されます。

特記事項

- 本キーワードは設定と取得が可能です。

- ON、OFF、ACCESSIBILITY、COPY+EXTRACT 以外を指定した場合、エラーとなります。
さらに、PDF-KEY128=ON を設定していない場合、ACCESSIBILITY、COPY+EXTRACT を指定するとエラーとなります。
- OFF 以外を指定するときは、必ず PDF-SECUPWD でセキュリティ情報の変更に必要なパスワードを設定してください。パスワードの設定を行わない場合、指定したセキュリティが有効にならないことがあります。
- Acrobat 4.0 および Acrobat Reader 4.0 では機能しません。Acrobat 5.0 以降または Acrobat Reader 5.0 以降をお使いください。

PDF-SUBTITLE

書式

PDF-SUBTITLE=< 改行コードを含む 256 バイト以内の文字列 >

説明

PDF の文書情報のサブタイトルを記述します。

PDF 操作コマンドで本キーワードを使用した場合、サブタイトルの設定と取得が行えます。

Acrobat Reader 4.0 の [ファイル] – [文書情報] – [一般] (Acrobat Reader 5.0 または Adobe Reader 6.0 以降の場合は、[ファイル] – [文書のプロパティ] – [概要]、Adobe Reader 8.0 以降の場合は、[ファイル] – [プロパティ] – [概要]) で参照が可能です。

256 バイト以上の文字列を記述した場合、Adobe Reader でファイルが正しく開かない場合があります。

例) PDF-SUBTITLE= この文書はインストールに必要な情報です。

省略時

文書情報設定時に本キーワードを省略した場合、元の PDF ファイルと同じ設定となります。

特記事項

- 本キーワードは設定と取得が可能です。
- 入力した PDF にサブタイトルが設定されていない場合、[値] が設定されません。

例) PDF-SUBTITLE=

PDF-TITLE

書式

PDF-TITLE=< 改行コードを含む 256 バイト以内の文字列 >

説明

PDF の文書情報のタイトルを記述します。

PDF 操作コマンドで本キーワードを使用した場合、タイトルの設定と取得が行えます。

Acrobat Reader 4.0 の [ファイル] – [文書情報] – [一般] (Acrobat Reader 5.0 または Adobe Reader 6.0 以降の場合は、[ファイル] – [文書のプロパティ] – [概要]、Adobe Reader 8.0 以降の場合は、[ファイル] – [プロパティ] – [概要]) で参照が可能です。

256 バイト以上の文字列を記述した場合、Adobe Reader でファイルが正しく開かない場合があります。

例) PDF-TITLE=PDF 変換機能インストールガイド

省略時

文書情報設定時に本キーワードを省略した場合、元の PDF ファイルと同じ設定となります。

特記事項

- 本キーワードは設定と取得が可能です。
- 入力した PDF にタイトルが設定されていない場合、[値] が設定されません。

例) PDF-TITLE=

2.3.10 PDF 操作コマンドで使用する PDF 文書情報ファイルの記述例

PDF 操作コマンドを使用して、PDF ファイルに所定の文書情報 (タイトル/サブタイトル等) を設定するための PDF 文書情報ファイルの記述例と、PDF ファイルから文書情報を取得した際に出力される PDF 文書情報ファイル形式の出力例を示します。

2.3.10.1 PDF 操作コマンドで設定を行う PDF 文書情報ファイルの記述例

PDF 文書情報ファイルの記述例について、PDF 操作コマンドで使用する PDF 文書情報ファイルの記述例を説明します。

設定項目

PDF 文書情報ファイルに対して、以下のように定義します

- | | |
|----------------|----------------|
| ① PDF の作成者名 | : PDF Author |
| ② PDF のタイトル名 | : List Creator |
| ③ PDF のサブタイトル名 | : PDF 操作コマンド |
| ④ 印刷 | : 許可 |
| ⑤ 128bit 暗号化 | : 40bit 暗号化 |

記述例

以下に、記述例を示します。

```
[PM-PDF]
PDF-AUTHOR=PDF Author ..... ①
PDF-TITLE=List Creator ..... ②
PDF-SUBTITLE=PDF 操作コマンド ..... ③
PDF-PRINT=OFF ..... ④
PDF-KEY128=OFF ..... ⑤
```

2.3.10.2 PDF 操作コマンドで取得した PDF 文書情報ファイルの出力例

取得項目

PDF 操作コマンドにて、文書情報の取得 (pmdocinf コマンド) を行った例を示します。

出力例

以下に、出力例を示します。

```
[PM-PDF]
PDF-TITLE=PDF sample ..... ①
PDF-SUBTITLE=PDF 操作サンプル ..... ②
PDF-AUTHOR= ..... ③
PDF-CREATOR= ..... ④
PDF-PRODUCER=List Creator ..... ⑤
PDF-CREATIONDATE=D:20080317161429+09'00' .... ⑥
PDF-MODDATE= ..... ⑦
```

- | | |
|--------------------|--------------|
| ① PDF のタイトル名 | : PDF sample |
| ② PDF のサブタイトル名 | : PDF 操作サンプル |
| ③ PDF の作成者名 | : 設定されていません |
| ④ ドキュメント作成アプリケーション | : 設定されていません |

- ⑤ PDF 変換アプリケーション : List Creator
- ⑥ PDF 作成日時 : 2008 年 3 月 17 日 16 時 14 分 29 秒 (UT との時差 +9 時間)
- ⑦ PDF 更新日時 : 設定されていません

2.3.11 PDF 操作コマンドエラーメッセージ一覧

以下に、PDF 操作コマンドを使用した際に標準エラー出力に表示されるエラーメッセージを示します。

● PDF 操作コマンド共通エラーメッセージ

表 2.8 は、全ての PDF 操作コマンド共通に出力されるエラーメッセージです。

表 2.8 PDF 操作コマンド共通エラーメッセージ (1 / 3)

メッセージ本文	意味	原因と対処方法
data error. for details see system log.	入力ファイルに誤りがあります。	入力ファイルとして指定した、PDF ファイルまたは、PDF 文書情報ファイルに誤りがあります。入力ファイルの内容を確認してください。エラーの詳細についてはイベントログまたはシステムログに出力されています。
not enough memory. for details see system log.	メモリ資源の確保に失敗しました。	メモリ資源が枯渇したと考えられます。他のアプリケーションを終了させ、再度実行してください。エラーの詳細についてはイベントログまたはシステムログに出力されています。
file access error. for details see system log.	入出力ファイルの操作に失敗しました。	入出力ファイルとして指定した、PDF ファイルへアクセスすることができません。以下の原因が考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> ・入力ファイルに、存在しないファイル名が指定された。 ・ファイル/ディレクトリへのアクセス権限がない。 ・別のプロセスまたは他のユーザーが同名のファイルを排他使用中である ・ディスク装置の異常によって、出力先の PDF ファイルの出力に失敗した。 ・ディスク装置の異常によって、作業ファイル領域への出力に失敗した。 ・ネットワーク共有されているファイルへのアクセスが中断された。 ・ファイル名が長すぎる。 エラーの詳細についてはイベントログまたはシステムログに出力されている場合があります。
argument error. for details see system log.	プログラムの内部異常が発生しました。	当メッセージとイベントログまたはシステムログに出力されているメッセージ、操作内容を記録し当社技術員まで連絡してください。
disk full error. for details see system log.	ファイル出力時、ディスクに空き容量がありません。	ディスクの空き容量が不足してファイルが出力できません。 <ul style="list-style-type: none"> ・出力先の PDF ファイルまたは、PDF 文書情報ファイルの出力先の容量が不足している。 ・作業ファイル領域の容量が不足している。 十分なディスク容量を確保してください。エラーの詳細についてはイベントログまたはシステムログに出力されています。
invalid password.	指定した入力 PDF ファイルのパスワードが正しくありません。	指定したパスワードに誤りがあることが考えられます。正しい "PDF ファイルを開くパスワード" または、"セキュリティオプション変更パスワード" を指定してください。パスワードを確認し、再度指定しなおしてください。
memory allocation error.	メモリ資源の確保に失敗しました。	メモリ資源が枯渇したと考えられます。他のアプリケーションを終了させ、再度実行してください。それでも同様のエラーが発生する場合は、システム資源の再見直しを行ってください。

表 2.8 PDF 操作コマンド共通エラーメッセージ (2 / 3)

メッセージ本文	意味	原因と対処方法
operation is not permitted. specify security password.	セキュリティにより操作が許可されないパスワードです。	"セキュリティオプション変更パスワード"ではなく、"PDF ファイルを開くパスワード"が指定されている可能性が考えられます。 "セキュリティオプション変更パスワード"を指定してください。
file open error :%1 :%2	ファイルのオープンに失敗しました。(%1 にはシステムエラーメッセージ、 %2 にはファイル名が表示されます。)	入出力ファイルとして指定した、PDF 文書情報ファイルのオープンに失敗したことが考えられます。 ・オープンしようとしたファイルが存在しなかった ・オープンしようとしたファイルにアクセス権がなかった ・別のプロセスまたは他のユーザーが同名のファイルを排他使用中である ・ファイル名が長すぎる 以下の対処を行ってください。 ・PDF ファイルまたは、PDF 文書情報ファイルが存在しているかを確認する ・PDF ファイルまたは、PDF 文書情報ファイルが存在するディレクトリのアクセス権を確認する
file read error :%1 :%2	ファイルの読み込みに失敗しました。(%1 にはシステムエラーメッセージ、 %2 にはファイル名が表示されます。)	入力ファイルとして指定した、PDF 文書情報ファイルの読み込みに失敗したことが考えられます。 ・ネットワーク共有されているファイルへのアクセスが中断された。 PDF 文書情報ファイルがネットワーク共有されている場合、アクセスが可能か確認してください。
file write error :%1 :%2	ファイルの書き込みに失敗しました。(%1 にはシステムエラーメッセージ、 %2 にはファイル名が表示されます。)	出力ファイルとして指定した、PDF 文書情報ファイルの書き込みに失敗したことが考えられます。 ・ディスク容量不足 ・ネットワークで共有されているディスクへのアクセスが中断された 以下の対処を行ってください。 ・ディスクへのアクセスが可能かを確認する
file close error :%1 :%2	ファイルのクローズに失敗しました。(%1 にはシステムエラーメッセージ、 %2 にはファイル名が表示されます。)	入出力ファイルとして指定した、PDF 文書情報ファイルの書き込みに失敗したことが考えられます。 ・ディスク容量不足 ・ネットワークで共有されているディスクへのアクセスが中断された 以下の対処を行ってください。 ・ディスクへのアクセスが可能かを確認する
operation was successful, but backup file removal failed.	PDF 操作処理は正常に終了しましたが、バックアップファイルの削除に失敗しました。	PDF 操作処理を正常に終了したのち、"出力先ファイル"+"bak"というバックアップファイルが、別のプロセスまたは他のユーザーが同名のファイルを排他使用中であったり、アクセス権が変更されていないか確認してください。
backup file creation error. (already exists)	バックアップファイルが既に存在しているため、バックアップファイルの作成に失敗しました。	"出力先ファイル"+"bak"というバックアップファイルが既に存在していることが考えられます。 上記ファイルを削除もしくは変名してください。
backup file creation error. (Permission denied)	別のプロセスまたは他のユーザーが同名のファイルを出力しているため、バックアップファイルの作成に失敗しました。	バックアップファイルの作成に失敗したことが考えられます。 ・別のプロセスまたは他のユーザーが同名のファイルを排他使用中である ・出力先ディレクトリ、ファイルのアクセス権がない 以下の対処を行ってください。 ・出力先ディレクトリ、ファイルのアクセス権を確認する
backup file creation error. (No such file or directory)	出力先ファイル"+"bak"というバックアップファイルの作成に失敗しました。	出力先ファイル"+"bak"というバックアップファイルの作成に失敗したことが考えられます。 ・バックアップファイル名が長すぎる ・出力先ファイルが他者によって移動または削除されてしまった 以下の対処を行ってください。 ・出力ファイル名 / ファイルパスを確認する ・出力先ファイルが他者によって移動または削除されていないかを確認する
invalid PDF info file ([PM-PDF])	PDF 文書情報ファイルの宣言が正しくありません。	指定された PDF 文書情報ファイル内に宣言 " [PM-PDF] " が記述されていないことが考えられます。 PDF 操作コマンドで使用可能な PDF 文書情報ファイルを確認してください。

表 2.8 PDF 操作コマンド共通エラーメッセージ (3 / 3)

メッセージ本文	意味	原因と対処方法
invalid PDF info file (%1)	PDF 文書情報ファイルの記述に誤りがあります。 (%1 には該当のキーワード名が表示されます。)	指定された PDF 文書情報ファイル記述に誤りがあることが考えられます。 ・キーワードの形式が誤っている。 ・キーワードの値に、不正なものが指定されている。 ・文字コードが正しくない PDF 操作コマンドで使用可能な PDF 文書情報ファイルを確認してください。

● PDF 操作コマンド (pmfmerge) エラーメッセージ

表 2.9 に pmfmerge コマンドを使用した時に出力される固有のエラーメッセージを示します。

表 2.8 の PDF 操作コマンド共通エラーメッセージと併せて確認してください。

表 2.9 PDF 操作コマンド (pmfmerge) エラーメッセージ

メッセージ本文	意味	原因と対処方法
invalid file name :%1 :%2	PDF ファイル結合時に指定したファイルに誤りがあります。 (%1 にはシステムエラーメッセージ、%2 にはファイル名が表示されます。)	指定されたファイルもしくはディレクトリが参照できませんでした。以下の原因が考えられます。 ・結合先 PDF ファイルまたは、入力 PDF ファイルが存在していない ・ディレクトリへのアクセス権限がない ・ファイル名が長すぎる 以下の対処を行ってください。 ・入出力ファイル名 / ファイルパスを確認する。 ・ディレクトリへのアクセス権を確認する。

● PDF 操作コマンド (pmfsplit) エラーメッセージ

表 2.10 に pmfsplit コマンドを使用した時に出力される固有のエラーメッセージを示します。

表 2.8 の PDF 操作コマンド共通エラーメッセージと併せて確認してください。

表 2.10 PDF 操作コマンド (pmfsplit) エラーメッセージ

メッセージ本文	意味	原因と対処方法
page number %1 is not exist.	入力 PDF ファイルには存在しないページが指定されました。 (%1 にはページ番号が表示されます。)	入力 PDF ファイルの総ページ数を超えた数値を指定した場合に表示されます。 pmfsplit コマンドに指定したページ範囲を見直してください。
invalid extraction page.	抽出ページ範囲に重複したページが指定されました。	-g または -r 指定時、重複するページを指定したことが考えられます。抽出ページ範囲が重複しないよう pmfsplit コマンドのパラメータを見直してください。

● PDF 操作コマンド (pmsecinf) エラーメッセージ

表 2.11 に pmsecinf コマンドを使用した時に出力される固有のエラーメッセージを示します。

表 2.8 の PDF 操作コマンド共通エラーメッセージと併せて確認してください。

表 2.11 PDF 操作コマンド (pmsecinf) エラーメッセージ

メッセージ本文	意味	原因と対処方法
PDF file without security cannot be made.	セキュリティが設定されない PDF を出力しようとしてしました。	暗号化処理が施されない PDF ファイルを出力する指定となっています。 PDF 文書情報ファイルの内容を見直してください。
It is necessary to specify the keyword PDF-KEY128.	セキュリティオプション設定で必要なキーワードが指定されていません。	PDF 文書情報ファイル内にセキュリティオプション設定で必要なキーワード "PDF-KEY128" が記述されていないことが考えられます。 "PDF-KEY128=ON" または "PDF-KEY128=OFF" を追加してください。

● PDF 操作コマンド (pmxteff) エラーメッセージ

表 2.12 に pmxteff コマンドを使用した時に出力される固有のエラーメッセージを示します。

表 2.8 の PDF 操作コマンド共通エラーメッセージと併せて確認してください。

表 2.12 PDF 操作コマンド (pmxteff) エラーメッセージ

メッセージ本文	意味	原因と対処方法
directory creation error.	ディレクトリの作成に失敗しました。	指定されたディレクトリ名とファイル名を合わせた絶対パスが長すぎる考えられます。指定されたディレクトリのドライブが無効、または、存在しないことが考えられます。ディレクトリ名を見直してください。
output file removal failed.	異常が発生した抽出ファイルの削除に失敗しました。	抽出した添付ファイルを別のプロセス、または、他のユーザが参照していることが考えられます。添付ファイルの抽出を行っている間は、指定した出力ディレクトリ、または、出力ファイルを他のプロセスやユーザで参照しないようにしてください。
update date of attached file is abnormal.	抽出する添付ファイルの更新日時に異常があります。	更新日時が、1970年1月1日の0時以前、または、世界協定時刻 (UTC) の2038年1月19日03時14分07秒以降であることが考えられます。
file #%1 has no available name, saved as "%2"	抽出する添付ファイル (%1) が、利用できないファイル名のため、%2 に変名します。 (%1 にはインデックス番号、%2 には変名後のファイル名が表示されます)	抽出する添付ファイルが、利用できないファイル名だったため、出力ファイル名が変更します。 (全抽出、または、番号指定抽出時)

2.4 証明書管理環境定義ファイル / 証明書管理コマンド

ここでは、証明書管理環境作成時に使用する、証明書管理環境定義ファイル、および証明書管理コマンドについて説明します。

2.4.1 証明書管理環境定義ファイルのキーワード一覧

ファイル名

任意 (*.*)

使用用途

証明書管理環境作成コマンド (lcsetenv コマンド) の -f オプションで指定する証明書管理環境の定義ファイルです。

格納場所

帳票出力サーバ	格納場所
Windows	List Creator インストールディレクトリ ¥
Solaris	/opt/FJSVedoc/

ファイル形式

表 2.13 証明書管理環境定義ファイルのキーワード一覧 (1 / 3)

セクション名	キー名	属性	説明
ENV	OWN-CERTTYPE	任意 (ただし、自分自身の証明書として PKCS#12 形式のファイルを使用する場合は必須)	自分自身の証明書として PKCS#12 形式のファイルを使用する場合に 1 を指定します。
	PATH	任意	証明書運用管理ディレクトリ名を指定します。クラスタシステム上で設定する場合は、共用ディスク上のディレクトリを指定してください。指定がない場合は以下のディレクトリとなります。 [帳票出力サーバが Windows の場合] List Creator インストールディレクトリ ¥crtmgr¥cmidir [帳票出力サーバが Solaris の場合] /opt/FJSVedoc/cmidir
	CERT	任意	有効証明書ディレクトリ名を指定します。クラスタシステム上で設定する場合は、共用ディスク上のディレクトリを指定してください。指定がない場合は、以下のディレクトリとなります。 [帳票出力サーバが Windows の場合] 証明書運用管理ディレクトリ ¥certdir [帳票出力サーバが Solaris の場合] 証明書運用管理ディレクトリ /certdir

表 2.13 証明書管理環境定義ファイルのキーワード一覧 (2 / 3)

セクション名	キー名	属性	説明
ENV	CRL	任意	CRL ディレクトリ名を指定します (CRL とは、有効期間が切れた証明書の一覧のことです)。クラスタシステム上で設定する場合は、共用ディスク上のディレクトリを指定してください。指定がない場合は、以下のディレクトリとなります。 [帳票出力サーバが Windows の場合] 証明書運用管理ディレクトリ %crlidir [帳票出力サーバが Solaris の場合] 証明書運用管理ディレクトリ /crlidir
	SLOT	任意	スロット情報ディレクトリ名を指定します (スロットとは、暗号装置を装着する物理的な口をソフトウェアで抽象化したものです)。クラスタシステム上で設定する場合は、共用ディスク上のディレクトリを指定してください。指定がない場合は、以下のディレクトリとなります。 [帳票出力サーバが Windows の場合] List Creator インストールディレクトリ %crtmgr%slotdir [帳票出力サーバが Solaris の場合] /opt/FJSVedoc/slotdir
	TOKENLABEL	任意	トークンラベルを指定します (トークンとは、スロットに装着する暗号装置をソフトウェアで抽象化したものです)。指定がない場合、または空文字列が指定された場合は、デフォルト値 (lcrtmgr) となります。
	KEYLABEL	任意	鍵ラベルを指定します。指定がない場合、または空文字列が指定された場合は、デフォルト値 (lcrtmgr) となります。PRIVATE-KEY セクションの FILENAME 指定がある場合にのみ有効です。
PRIVATE-KEY	FILENAME	任意	秘密鍵のファイル名を指定します。 [ENV セクションの OWN-CERTTYPE キーに 1 を指定した場合] 指定する必要はありません。 [ENV セクションの OWN-CERTTYPE キーを指定していない場合] lcsetenv コマンドで、-s オプションを指定した場合は必須です。-s オプションを指定しない場合は必要ありません。逆に、この指定をした場合、lcsetenv コマンドでは、-s オプションが必須となります。

表 2.13 証明書管理環境定義ファイルのキーワード一覧 (3 / 3)

セクション名	キー名	属性	説明
PASSWORD	SLOTPASS	任意	スロットを作成するときに使用するパスワードを指定します (注)。セキュリティ上、パスワードをファイルに書いたまま保存しておくことは好ましくないため、設定が終了したらこのキーは削除してください。指定がない場合、または空文字列が指定された場合は、デフォルトのパスワードを使用します。
	SOPIN	任意	トークン情報を変更するときに使用するパスワードを指定します (注)。セキュリティ上、パスワードをファイルに書いたまま保存しておくことは好ましくないため、設定が終了したらこのキーは削除してください。指定がない場合、または空文字列が指定された場合は、デフォルトのパスワードを使用します。
	USERPIN	任意	トークン自身を変更するときに使用するパスワードを指定します (注)。セキュリティ上、パスワードをファイルに書いたまま保存しておくことは好ましくないため、設定が終了したらこのキーは削除してください。指定がない場合、または空文字列が指定された場合は、デフォルトのパスワードを使用します。
OWN-CERTFILE	NICKNAME	任意 (ただし、「署名付きメール」、または「署名付き暗号化メール」の場合は必須)	自分自身の証明書のニックネームをメールアドレスで指定します。
	FILENAME	任意 (ただし、「署名付きメール」、または「署名付き暗号化メール」の場合は必須)	自分自身の証明書のファイル名を指定します。
	FILETYPE	任意 (ただし、自分自身の証明書として PKCS#12 形式のファイルを使用する場合は必須)	自分自身の証明書として PKCS#12 形式のファイルを使用する場合は 1 を指定します。DER 形式の証明書を使用する場合は、このキーを指定する必要はありません。この指定をした場合、lcsetenv コマンドでは、-s オプションが必須となります。
CA-CERTFILE-XXXX	NICKNAME	任意 (ただし、「暗号化メール」、または「署名付き暗号化メール」の場合は必須)	CA 局証明書のニックネームをメールアドレスで指定します。
	FILENAME	任意 (ただし、「暗号化メール」、または「署名付き暗号化メール」の場合は必須)	CA 局証明書のファイル名を指定します。
CERTFILE-XXXX	NICKNAME	任意	相手の証明書のニックネームをメールアドレスで指定します。
	FILENAME	任意	相手の証明書のファイル名を指定します。

注) パスワードは 6 ~ 63 文字で指定してください。

ディレクトリ名、ファイル名はフルパスで指定してください。

使用できる文字は、英数字、空白と以下の記号のみです。
!"#\$%&'()*+,-./:;<=>?[¥]^_`{|}~

参照

lcsetenv

注意事項

行の先頭に“#”を指定した場合は、コメント行とみなします。CA-CERTFILE セクション、CERTFILE セクションの XXXX には一意となるよう数字を指定してください。同じセクション名、キー名が 2 つある場合は、それぞれ先に記述した方が有効となります。

使用例 1：メール送信者の証明書を添付しない設定例

```
[ENV]
#PATH=
#CERT=
#SLOT=
#CRL=
#TOKENLABEL=xxxxxxxx
#KEYLABEL=xxxxxxxx
[PRIVATE-KEY]
FILENAME=c:¥aaa¥pkcskey
[OWN-CERTFILE]
NICKNAME=lowner@xxx.yyy.zzz.co.jp
FILENAME=c:¥aaa¥lowner.cer
[CA-CERTFILE-0001]
NICKNAME=ca-cert0001@xxx.yyy.zzz.co.jp
FILENAME=c:¥aaa¥ca-cert0001.cer
[CA-CERTFILE-0002]
NICKNAME=ca-cert0002@xxx.yyy.zzz.co.jp
FILENAME=c:¥aaa¥ca-cert0002.cer
[CERTFILE-0001]
NICKNAME=lreceiver-0001@xxx.yyy.zzz.co.jp
FILENAME=c:¥aaa¥lreceiver-0001.cer
[CERTFILE-0002]
NICKNAME=lreceiver-0002@xxx.yyy.zzz.co.jp
FILENAME=c:¥aaa¥lreceiver-0002.cer
```

使用例 2：メール送信者の証明書ファイル（PKCS#12 形式）を添付する設定例

```
[ENV]
OWN-CERTTYPE=1
[OWN-CERTFILE]
NICKNAME=lowner@xxx.yyy.zzz.co.jp
FILENAME=c:¥bbb¥lowner.pfx
FILETYPE=1
[CA-CERTFILE-0001]
NICKNAME=ca-cert0001@xxx.yyy.zzz.co.jp
FILENAME=c:¥bbb¥ca-cert0001.cer
[CERTFILE-0001]
NICKNAME=lreceiver-0001@xxx.yyy.zzz.co.jp
FILENAME=c:¥bbb¥lreceiver-0001.cer
[CERTFILE-0002]
NICKNAME=lreceiver-0002@xxx.yyy.zzz.co.jp
FILENAME=c:¥bbb¥lreceiver-0002.cer
```

2.4.2 証明書管理コマンドの一覧

証明書管理のコマンド一覧を以下に示します。

表 2.14 証明書管理コマンドの一覧

種類	コマンド名	用途
証明書管理環境作成コマンド	<code>lcsetenv</code>	List Creator で、S/MIME を使用するための証明書の管理環境を作成します。
証明書管理環境削除コマンド	<code>lcrmenv</code>	S/MIME で使用している証明書の管理環境を削除します。
証明書追加コマンド	<code>lcaddcert</code>	S/MIME で使用する証明書を管理環境に追加登録します。
証明書削除コマンド	<code>lcrmcert</code>	S/MIME で使用する証明書を管理環境から削除します。
CA 局証明書一覧表示コマンド	<code>lclistcacert</code>	登録した証明書の一覧を表示します。
証明書パスワード変更コマンド	<code>lchgpasswd</code>	パスワード（トークンパスワード、トークン情報操作パスワード）を変更します。



- 帳票出力サーバが Windows の場合、Administrators 権限を持つユーザで実行してください。
- 注意 - 帳票出力サーバが Solaris の場合、システム管理者権限で実行してください。

2.4.3 証明書管理コマンドの説明

2.4.3.1 lcsetenv（証明書管理環境作成コマンド）

機能説明

`lcsetenv` コマンドは、“証明書管理環境定義ファイル (`lccrtmgr.def`) ” の情報をもとに、List Creator で、S/MIME を使用するための証明書の管理環境を作成します。作成する環境について説明します。

- 証明書運用管理環境を作成します。
- 証明書運用管理情報を設定します。
- 鍵環境にスロットを作成します。
- 鍵環境にトークンを作成します。
- 証明書運用管理環境に証明書を登録します。
- トークンに秘密鍵を登録します。
- List Creator 用の環境を設定します。
- List Creator 用に証明書を登録します。

記述形式

コマンド	オプション
<code>lcsetenv</code>	<code>[-s [password]]</code> <code>[-f filename]</code> ([] は省略することができます。)

オプション

`-s [password]` :

通常は指定します。秘密鍵が不用な場合のみ、指定する必要はありません。password には、秘密鍵のパスワードを指定します。パスワードを画面に表示したくない場合は、password の指定を省略します。この場合、コマンド実行後、秘密鍵のパスワードを問い合わせます。

-f filename :

定義ファイル名を指定します。指定がない場合は、カレントディレクトリにある lcrtmgr.def を定義ファイルとして使用します。

復帰値

0 :
正常終了

0 以外 :
異常終了

参照

lcrtmgr.def、lcchgpasswd、lcaddcert、lcrmcert、lcrmenv

コマンド格納場所

Windows	List Creator インストールディレクトリ ¥bin
Solaris	/opt/FJSVedoc/bin

実行に必要な権限

帳票出力サーバが Windows の場合は、Administrators 権限が必要です。
帳票出力サーバが Solaris の場合、システム管理者権限が必要です。

注意事項

- 証明書管理環境定義ファイル (lcrtmgr.def) に、以下の情報を入力してから実行してください。
 - ・ 自分の証明書のニックネームとファイル名
 - ・ CA 局証明書のニックネームとファイル名 (複数ある場合は複数)
 - ・ 相手の証明書のニックネームとファイル名 (複数ある場合は複数) (任意)
 - ・ 秘密鍵のファイル名 (-s 指定時のみ)
- 自分や相手の証明書を登録する場合は、証明書の発行元の CA 局証明書も合わせて登録する必要があります。CA 局証明書として指定した証明書と同一の証明書を自分の証明書として指定することはできません。
- 証明書運用管理ディレクトリ、有効証明書ディレクトリ、スロット情報ディレクトリ、CRL ディレクトリの作成先は、以下のとおりです。
 - ・ 定義ファイル (lcrtmgr.def) に指定がない場合は、それぞれデフォルトのディレクトリとなります。lcrtmgr.def のファイル形式を参照してください。
 - ・ 証明書の管理環境の作成先を変更したい場合は、lcrtmgr.def に指定してください。詳細については、以下を参照してください。
⇒“2.4.1 証明書管理環境定義ファイルのキーワード一覧”
 - ・ lcrtmgr.def にディレクトリを指定する場合は、存在しないディレクトリ (同名のディレクトリ、ファイルが存在しない) を指定してください。

使用例 1

証明書管理環境を作成します。定義ファイルは、カレントディレクトリにある “lcrtmgr.def” ファイルを使用します。
lcsetenv -s password

使用例 2

秘密鍵のパスワードは、コマンド実行後、問い合わせてきます。定義ファイルは、“a ドライブのルートディレクトリにある lcrtmgr.def” ファイルを使用します。
lcsetenv -s -f a:¥lcrtmgr.def

実行結果 / 出力形式

標準出力に、メッセージが出力されます。

正常終了時、異常終了時によって、それぞれ以下のようにログファイルに結果を出力します。

- 帳票出力サーバが Windows の場合

正常終了時 : 証明書管理環境の作成が終了した旨のメッセージとともに、作成環境の情報を表示します。また、以下のファイルに、作成環境についての情報が上書きされます。

List Creator インストールディレクトリ ¥crtmgr¥lccrtsetenv.dat

異常終了時 : 異常終了した場合は、以下のファイルに、異常終了に関する情報が上書きされます。

コマンド実行ユーザのテンポラリディレクトリ ¥mpcrtsetenv.log

- 帳票出力サーバが Solaris の場合

正常終了時 : 証明書管理環境の作成が終了した旨のメッセージとともに、作成環境の情報を表示します。また、以下のファイルに、作成環境についての情報が上書きされます。

/var/opt/FJSVedoc/data/lccrtmgr.dat

異常終了時 : 異常終了した場合は、以下のファイルに、異常終了に関する情報が上書きされます。

/var/opt/FJSVedoc/log/mpcrtsetenv.log

2.4.3.2 lcrmenv (証明書管理環境削除コマンド)**機能説明**

作成してある証明書管理環境をいったん削除して、新しく証明書管理環境を作成し直したい場合に使用します。

記述形式

コマンド	オプション
lcrmenv	なし

復帰値

0 :
正常終了

0 以外 :
異常終了

参照

lcsetenv

コマンド格納場所

Windows	List Creator インストールディレクトリ ¥bin
Solaris	/opt/FJSVedoc/bin

実行に必要な権限

帳票出力サーバが Windows の場合は、Administrators 権限が必要です。

帳票出力サーバが Solaris の場合、システム管理者権限が必要です。

使用例

現在使用している証明書管理環境を削除します。

lcrmenv

実行結果 / 出力形式

標準出力に、メッセージが出力されます。

正常終了時 :

以下のメッセージが表示されます。

```
lcrmenv
```

```
Directory 'c:\win32app\listcreator\crtmgr\slotdir'
```

```
Directory 'c:\win32app\listcreator\crtmgr\cmidir\crlidir'
```

```
Directory 'c:\win32app\listcreator\crtmgr\cmidir\certdir'
```

```
Directory 'c:\win32app\listcreator\crtmgr\cmidir'
```

```
is going to be removed. OK? y(yes) | n(no) > y
```

```
Certificate management environment was removed.
```

異常終了時 :

証明書管理環境の削除が失敗した旨のメッセージが表示されます。

2.4.3.3 lcaddcert (証明書追加コマンド)**機能説明**

lcaddcert コマンドは、S/MIME で使用する証明書を管理環境に追加登録します。

証明書の管理環境がすでに作成しており、使用したい証明書が増えたため、証明書を追加登録したい場合にこのコマンドを使用します。

記述形式

コマンド	オプション
lcaddcert	-c -o -n nickname -f filename

オプション

-c :

CA 局証明書を登録する場合に指定します。

-o :

相手の証明書を登録する場合に指定します。

-n nickname :

証明書のニックネームをメールアドレスで指定します。

-f filename :

証明書のファイル名を指定します。

復帰値

0 :

正常終了

0 以外 :

異常終了

参照

lcsetenv、lcrmcert

コマンド格納場所

Windows	List Creator インストールディレクトリ ¥bin
Solaris	/opt/FJSVedoc/bin

実行に必要な権限

Windows の場合、Administrators 権限を持つユーザで実行してください。

Solaris の場合、システム管理者権限で実行してください。

使用例

“lccert@xxx.yyy.zzz.co.jp” というニックネームの CA 局証明書ファイル
 “c:¥cert¥lccert.der” を追加登録します。
 lcaddcert -c -n lccert@xxx.yyy.zzz.co.jp -f c:¥cert¥lccert.der

実行結果 / 出力形式

標準出力に、メッセージが出力されます。

正常終了時 :

証明書の登録が終了した旨のメッセージが表示されます。

異常終了時 :

証明書の登録が失敗した旨のメッセージが表示されます。

2.4.3.4 lcrmcert (証明書削除コマンド)**機能説明**

使用していた証明書が必要なくなったため、証明書を管理環境から削除したい場合にこのコマンドを使用します。

記述形式

コマンド	オプション
lcrmcert	nickname [nickname...] ([] は省略することができます。)

オプション**nickname :**

証明書のニックネームをメールアドレスで指定します。

復帰値**0 :**

正常終了

0 以外 :

異常終了

参照

lcsetenv、lcaddcert

コマンド格納場所

Windows	List Creator インストールディレクトリ ¥bin
Solaris	/opt/FJSVedoc/bin

実行に必要な権限

帳票出力サーバが Windows の場合は、Administrators 権限を持つユーザで実行してください。

帳票出力サーバが Solaris の場合、システム管理者権限で実行してください。

使用例

“lccert@xxx.yyy.zzz.co.jp” というニックネームの証明書を管理環境から削除します。
 lcrmcert lccert@xxx.yyy.zzz.co.jp

実行結果 / 出力形式

標準出力に、メッセージが出力されます。

正常終了時：

証明書の削除が終了した旨のメッセージが表示されます。

異常終了時：

証明書の削除が失敗した旨のメッセージが表示されます。

2.4.3.5 lclistcacert (CA 局証明書一覧表示コマンド)

機能説明

登録されている CA 局証明書を確認するときに、このコマンドを使用します。

記述形式

コマンド	オプション
lclistcacert	なし

復帰値

0：

正常終了

0 以外：

異常終了

参照

lcsetenv、lcaddcert、lcrmcert、lcrmenv

コマンド格納場所

Windows	List Creator インストールディレクトリ ¥bin
Solaris	/opt/FJSVedoc/bin

実行に必要な権限

帳票出力サーバが Windows の場合は、Administrators 権限を持つユーザで実行してください。

帳票出力サーバが Solaris の場合、システム管理者権限で実行してください。

使用例

CA 局証明書の一覧を表示します。

```
lclistcacert
```

実行結果 / 出力形式

正常終了時：

登録された CA 局証明書の一覧が表示されます。

異常終了時：

CA 局証明書の情報取得に失敗した旨のメッセージが表示されます。

2.4.3.6 lcchgpasswd (証明書パスワード変更コマンド)

機能説明

証明書の管理環境作成時に使用しているトークンパスワード、トークン情報操作パスワードを変更したい場合に使用します。

記述形式

コマンド	オプション
lcchgpasswd	-u -s [-o old-password] -n [new-password] ([] は省略することができます。)

オプション

-u :

トークンのパスワードを変更します。環境作成時 (lcsetenv コマンド実行時) にトークンのパスワードを明に指定したり (ファイル lcrtmgr.def の説明参照)、すでにこのコマンドで変更したことがある場合は、その際に指定したパスワードを **-o** オプションで指定する必要があります (パラメタ **new-password** は省略可)。

-s :

トークン情報操作パスワードを変更します。環境作成時 (lcsetenv コマンド実行時) にトークン情報操作のパスワードを明に指定したり (ファイル lcrtmgr.def の説明参照)、すでにこのコマンドで変更したことがある場合は、その際に指定したパスワードを **-o** オプションで指定する必要があります (パラメタ **old-password** は省略可)。

-o [old-password] :

定義ファイル (lcrtmgr.def) の **PASSWORD** セクションで、**USERPIN** や **SOPIN** キーに文字列を明に設定した場合は、その文字列を指定しなければなりません。また、すでにこのコマンドでパスワードを変更したことがある場合も、その際に変更したパスワードを指定してください。パラメタ (**old-password**) を省略した場合は、パスワードを問い合わせます。パスワードは下記の “注意事項” の条件を満たすものでなければなりません。なお、このパラメタは必要がないとき (このコマンド実行前に、明にパスワードを指定したことがない場合) に指定されても無視されます。

-n [new-password] :

変更後のパスワードを指定します。パラメタ (**new-password**) を省略した場合は、パスワードを問い合わせます。パスワードは下記の “注意事項” の条件を満たすものでなければなりません。

復帰値

0 :

正常終了

0 以外 :

異常終了

参照

lcsetenv、lcrtmgr.def

コマンド格納場所

Windows	List Creator インストールディレクトリ ¥bin
Solaris	/opt/FJSVedoc/bin

実行に必要な権限

帳票出力サーバが **Windows** の場合は、**Administrators** 権限を持つユーザで実行してください。
帳票出力サーバが **Solaris** の場合、システム管理者権限で実行してください。

注意事項

パスワードとして設定できるのは、6～63文字で、使用できる文字は、以下に示すのだけです。なお、記号の‘¥’は、コード 0x5c に該当する文字であり、表示する環境によっては「バックslash (\) 」となります。

カテゴリ	文字
英字	ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
数字	0123456789
記号	!"#\$%&'()*+,-./:;<=>[¥]^_`{ }~
空白	' ' (半角)

使用例 1

トークンパスワードを“userpinpasswd”に変更します。トークンパスワードを明に指定したことは一度もありません。入力するパスワードを画面に表示しません。

```
lcchgpasswd -u -n
```

```
New UserPIN: ← userpinpasswd と入力します (エコーバックされません)
```

```
Retype:      ← userpinpasswd と入力します (エコーバックされません)
```

使用例 2

トークンパスワードを“newuserpinpasswd”に変更します。lcsetenv コマンド実行時に、定義ファイルでトークンパスワードを“userpinpasswd”と指定しました。

```
lcchgpasswd -u -n
```

```
Old UserPIN: ← userpinpasswd と入力します (エコーバックされません)
```

```
New UserPIN: ← newuserpinpasswd と入力します (エコーバックされません)
```

```
Retype:      ← newuserpinpasswd と入力します (エコーバックされません)
```

使用例 3

トークン情報操作パスワードを“newsopinpasswd”に変更します。トークン情報操作パスワードを明に指定したことは一度もありません。

```
lcchgpasswd -s -n newsopinpasswd
```

使用例 4

トークン情報操作パスワードを“newsopinpasswd”に変更します。以前、lcchgpasswd コマンドを使って、トークン情報操作パスワードを“sopinpasswd”に変更しました。新しいパスワードを表示しません。

```
lcchgpasswd -s -o sopinpasswd -n
```

```
New SO-PIN: ← newsopinpasswd と入力します (エコーバックされません)
```

```
Retype:      ← newsopinpasswd と入力します (エコーバックされません)
```

実行結果 / 出力形式

標準出力に、メッセージが出力されます。

正常終了時 :

メッセージは表示されません。

異常終了時 :

パスワードの設定が失敗した旨のメッセージが表示されます。

2.5 PDF 手元非表示印刷の環境設定

ここでは、PDF 手元非表示印刷を行うための Web サーバと Web クライアントの環境設定と、Web ブラウザに PDF ファイルをダウンロードさせるしくみについて説明します。

2.5.1 PDF 手元非表示印刷の環境設定概要

PDF 手元非表示印刷を行うための、環境設定の概要について説明します。

PDF 手元非表示印刷は、Web ブラウザが Web サーバからダウンロードした PDF ファイルを、ファイル名の拡張子（MIME タイプ）に基づき、印刷方法に対応した方法で、Adobe Acrobat または Adobe Reader を起動することによって実行されます。これを実現させるためには、Web サーバと Web クライアントに環境設定する必要があります。

Web サーバ、および Web クライアントに設定する項目は、以下のとおりです。

- Web サーバ
ファイルの拡張子と、対応する MIME タイプの関連付けの定義
- Web クライアント
ファイルの拡張子に対応する、拡張子のファイルを開くときのコマンドライン定義

環境設定の詳細については、以下を参照してください。

⇒ [“2.5.2 Web サーバの環境設定”](#)

⇒ [“2.5.3 Web クライアントの環境設定”](#)

なお、これらの節では、以下を前提として説明しています。

- ファイルの拡張子
印刷方法と、対応する PDF ファイル名の拡張子の対応が以下であるとします。

印刷方法	拡張子
サイレント印刷	.pd1
プリンタ選択ダイアログ表示印刷	.pd2



- ファイル名の拡張子については、ここで説明した値をそのまま使用してください。

2.5.2 Web サーバの環境設定

ここでは、Web サーバに設定する項目について説明します。



- ここで設定する内容は、“[2.5.1 PDF 手元非表示印刷の環境設定概要](#)”で説明したことを前提としています。

Web サーバには、ファイルの拡張子と、対応する MIME タイプの関連付けを設定する必要があります。設定が必要な、拡張子と対応する MIME タイプは、以下のとおりです。

拡張子	MIME タイプ	備考
.pd1	application/x-f3happ-f3s	サイレント印刷用定義
.pd2	application/x-f3happ-f3d	プリンタ選択ダイアログ表示印刷用定義

設定方法については、ご使用の Web サーバのマニュアルなどを参照してください。

2.5.3 Web クライアントの環境設定

ここでは、Web クライアントの環境設定手順を説明します。



備考

- ここで設定する内容は、“2.5.1 PDF 手元非表示印刷の環境設定概要”で説明したことを前提としています。

環境設定プログラムを使用して、Web クライアントの環境設定を行う場合の詳細については、以下を参照してください。

⇒ “2.5.3.2 PDF 手元非表示印刷クライアント環境設定プログラムの設定”

2.5.3.1 PDF 手元非表示印刷クライアント環境設定プログラムのインストール

PDF 手元非表示印刷クライアント環境設定プログラムは、ファイルの拡張子と対応するコマンドライン定義設定を行うプログラムです。このツールを Web クライアントに適用すると、PDF 手元非表示印刷に必要な情報を、オペレーティングシステムに登録します。

このプログラムはインストーラ (setup.exe) として提供されており、このプログラムをインストールし、環境設定することによって、クライアントの環境設定を行います。

このプログラムは、List Creator の製品媒体 (CD-ROM) 内の ¥acrolo フォルダに、setup.exe として収められています。



注意

- インストールには Administrators 権限が必要です。

[機能]

このプログラムを Web クライアントにインストールすることによって、PDF ファイルを Web ブラウザから非表示で印刷するための、Web クライアントの環境設定を行います。

印刷方法と、対応する PDF ファイル名の拡張子の対応が、以下の対応となるように設定します。

印刷方法	拡張子
サイレント印刷	.pd1
プリンタ選択ダイアログ表示印刷	.pd2

2.5.3.2 PDF 手元非表示印刷クライアント環境設定プログラムの設定

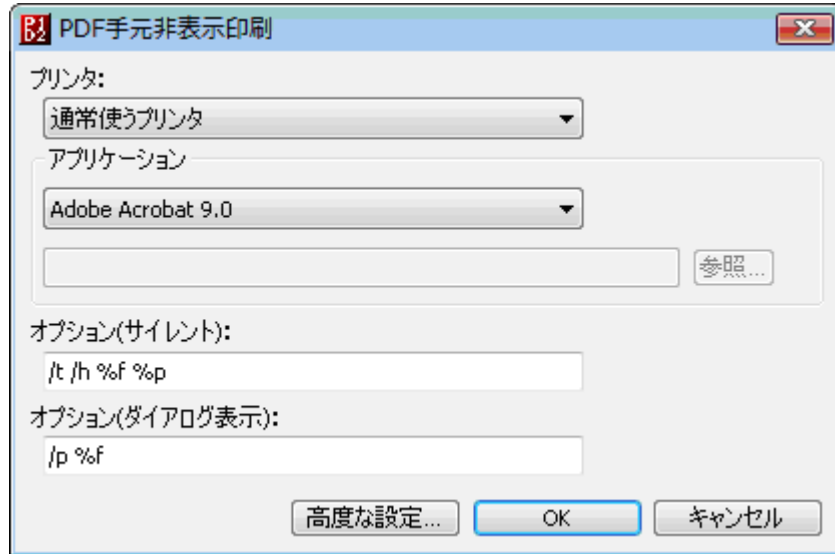
PDF 手元非表示印刷クライアント環境設定プログラムでは、サイレント印刷のときに使用されるプリンタの指定や、PDF の印刷に使用するアプリケーションの選択を行うことができます。

このツールで環境設定を変更する場合は、「スタートメニュー」→「すべてのプログラム」→「PDF 手元非表示印刷」から行います。



注意

- この操作には Administrators 権限が必要です。



プリンタ

サイレント印刷で使用するプリンタを選択します。「通常使うプリンタ」を選択した場合は、クライアントで通常使うプリンタに設定されているプリンタで出力されます。インストール時の設定は「通常使うプリンタ」です。

アプリケーション

印刷で使用する Adobe Acrobat または Adobe Reader を選択します。それ以外のアプリケーションを使用する場合は、「その他」を選択し、アプリケーションのフルパスを入力してください。

インストール時の設定は、Adobe Acrobat がインストールされている場合は「Acrobat」、Adobe Reader がインストールされている場合は「Adobe Reader」、どちらもインストールされていない場合は「その他」となります。

注意 - Adobe Acrobat 7.0 以降または Adobe Reader 7.0 以降がインストールされていない場合は、リストボックスに表示されません。

オプション

指定したアプリケーションを実行する際のオプションを指定します。

インストール時の設定は、[アプリケーション] で選択されたアプリケーションに従って自動的に設定されます。

アプリケーション	サイレント印刷	ダイアログ表示
Adobe Acrobat	/t /h %f %p	/p %f
Adobe Reader	/t /h %f %p	/p %f
その他	なし	なし

置き換え文字列	対象
%f	印刷する PDF ファイル
%p	プリンタ



- Adobe Acrobat または Adobe Reader の場合、オプションの指定は変更しないでください。

注意

高度な設定

手元非表示印刷の詳細な設定を行います。

- 印刷後の待機時間
印刷終了後、次の印刷までの待機時間を設定する場合に指定してください。単位はミリ秒で、0～600000 の間で指定してください。インストール時の設定は 0 です。
- アプリケーションの事前起動
指定したアプリケーションを、印刷開始前にあらかじめ起動しておく場合に指定してください。なお、Adobe Acrobat または Adobe Reader の場合は必ず指定してください。インストール時の設定はチェックありです。

2.5.4 Web ブラウザに PDF ファイルをダウンロードさせるしくみ

PDF 手元非表示印刷を使用するとき、Web ブラウザに手元非表示印刷対象の PDF ファイルをダウンロードさせるしくみを検討する必要があります。

しくみとして、以下の 2 方式を説明します。

- PDF 手元非表示印刷する PDF ファイルへのリンクを持った HTML ファイルを作成する
- Web サーバ上のアプリケーションが Web ブラウザに PDF ファイルの URL を復帰する

● PDF 手元非表示印刷する PDF ファイルへのリンクを持った HTML ファイルを作成する

手元非表示印刷の対象となる PDF ファイルへのリンクを持った HTML ファイルを作成し、その HTML ファイルを Web ブラウザで開き、ユーザがリンクをクリックすることで PDF 手元非表示印刷を実行します。

以下のサンプル HTML を Web ブラウザで開き、画面に表示されるリンクをクリックすると、リンク先ファイル名の拡張子に対応した PDF 手元非表示印刷が実行されます。

```
<HTML>
<BODY>
<A HREF="http://somehost/report.pd1"> サイレント印刷 </A><BR>
<A HREF="http://somehost/report.pd2"> プリント選択ダイアログ表示印刷 </A><BR>
</BODY>
</HTML>
```

PDF ファイルの URL は、システムに応じた値に変更してください。

● Web サーバ上のアプリケーションが Web ブラウザに PDF ファイルの URL を復帰する

Web ブラウザで、表示している HTML 中に定義された <FORM> タグ内のボタンをクリックすることで Web サーバ上のアプリケーションを呼び出し、Web サーバ上のアプリケーションが Web ブラウザに手元非表示印刷対象の PDF ファイルの URL を復帰する方式です。

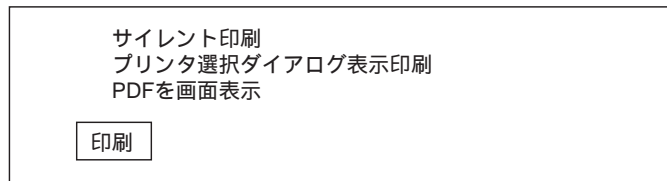
具体的には、HTTP プロトコルの“Location ヘッダ”を、手元非表示印刷対象の PDF ファイルの URL と共にブラウザに復帰します。Location ヘッダを受け取った Web ブラウザは、その中で指定された URL の PDF ファイルを Web サーバからダウンロードします。PDF ファイルをダウンロードすると、ファイル名の拡張子によって指定された方式で、PDF 手元非表示印刷を実行します。

Location ヘッダの復帰方法は、Web アプリケーションサーバの環境、および使用するプログラミング言語によって異なります。具体的な方法については、Web アプリケーションサーバのマニュアルなどを参照してください。

以下に、Location ヘッダを復帰するサンプルを示します。

サンプルについて

- このサンプルでは、List Creator Enterprise Edition を使用して PDF ファイルを動的に生成し、サイレント印刷、プリンタ選択ダイアログ表示印刷、および PDF のブラウザ画面表示を実行できます。
- サンプルは、HTML サンプルと、プログラムソースの2つで構成されています。HTML サンプルを Web ブラウザで読み込むと、以下のような画面が表示されます。



上の3つの選択肢から、実行する処理を選び、下の [印刷] ボタンをクリックすると、Web サーバのプログラムが呼び出され、指定した処理が実行されます。

- Web サーバのサンプルがあります。サンプルは実行環境に合わせて修正して使用してください。それぞれの方式の動作に必要なディレクトリ作成やファイル配置などの環境設定については、サンプルにコメントとして記載していますので、参照してください。サンプルの詳細については、以下を参照してください。

→ “付録 B PDF 手元非表示印刷機能 Web サーバサンプルプログラム”

なお、各方式で使用している、List Creator が提供するインタフェースの意味については、オンラインマニュアル“アプリケーション作成ガイド”を参照してください。

注意 - サンプルの動作には、それぞれのインタフェースに応じた実行環境が必要です。実行環境のセットアップについては、各実行環境のマニュアルなどを参照してください。

2.5.5 注意事項

PDF 手元非表示印刷を使用する際に、PDF 手元非表示印刷クライアント環境設定プログラム、Web ブラウザ、Adobe Acrobat および Adobe Reader の仕様によって、以下の注意事項があります。

● PDF 手元非表示印刷クライアント環境設定プログラムの注意事項

- PDF 手元非表示印刷クライアントの環境設定で指定した内容はユーザごとではなくシステム全体で共通になります。環境設定で指定したプリンタに対して PDF 手元非表示印刷を行なうユーザが印刷する権限がない場合、印刷は失敗します。環境設定で「通常使うプリンタ」を指定することで PDF 手元非表示印刷を行なうユーザごとに別のプリンタを使うことが可能です。
- 設定を行なう Administrators 権限を持つユーザが印刷する権限を持たないプリンタは、一覧に表示されません。

● Web ブラウザの注意事項

- Internet Explorer をお使いの場合、手元非表示印刷を行うために、Web クライアントの環境設定を行った後、手元非表示印刷用 PDF ファイルをダウンロードすると「ファイルのダ

ダウンロード」ダイアログボックスが表示される場合があります。この場合は、以下のよう
にダイアログボックスの値を設定後、[OK] ボタンをクリックしてください。

- ・「このファイルの処理方法」は「このファイルを上記の場所から開く」を選択する。
- ・「この種類のファイルであれば常に警告する」のチェックをオフにする。

● Adobe Reader の仕様による注意事項

(a) Adobe Reader がすでに起動している場合の注意事項

PDF 手元非表示印刷は、以下の状態での実行は推奨しません。

- Adobe Reader アプリケーションが起動している
- PDF ファイルをブラウザウィンドウで表示している

これらの状態のとき、以下の現象が発生します。

Adobe Reader アプリケーションが起動している場合

- ・ PDF 手元非表示印刷を実行すると、Adobe Reader アプリケーションのウィンドウが最
前面に表示されます（Adobe Reader アプリケーションのウィンドウが最小化されてい
る場合を除く）。
- ・ Adobe Reader アプリケーションで、ダイアログボックス（検索ダイアログを除く）を
表示している、または Adobe Reader アプリケーションが印刷を実行している場合は、
PDF 手元非表示印刷に失敗します。

PDF ファイルをブラウザウィンドウで表示している場合

- ・ PDF 手元非表示印刷を実行中に、ブラウザウィンドウで表示している PDF ファイルを
操作（スクロールさせるなど）すると、印刷中の PDF 手元非表示印刷が中断します。
- ・ プリンタ選択ダイアログ表示印刷を実行すると、印刷完了後に Adobe Reader アプリ
ケーションのウィンドウが最前面に表示されます。
- ・ PDF ファイルを表示しているブラウザウィンドウで、ダイアログボックスを表示して
いる、または印刷を実行している場合は、PDF 手元非表示印刷に失敗します（Acrobat
Reader 5.0、または Adobe Reader 6.0 以降の場合、プリンタ選択ダイアログボックスを
表示している状態を除く）。

(b) Acrobat Reader 4.0 をご使用の場合の注意事項

Acrobat Reader 4.0 をご使用の場合は、PDF 手元非表示印刷を多重に実行すると、最初の印刷以外は実
行されません。

(c) Acrobat Reader 5.0、または Adobe Reader 6.0 以降をご使用の場合の注意事項

Acrobat Reader 5.0、または Adobe Reader 6.0 以降をご使用の場合は、PDF 手元非表示印刷を実行後、
Adobe Reader アプリケーションが終了しません。Adobe Reader アプリケーションの [ファイル] – [終
了] を選択して、Adobe Reader アプリケーションを終了させてください。なお、PDF ファイルをブラウ
ザウィンドウで表示している場合は、Adobe Reader アプリケーションを終了させないでください。終了
させると、PDF ファイルを表示しているブラウザウィンドウがクリアされ、PDF ファイルが表示されな
くなります。

(d) Acrobat Reader 5.0、Adobe Reader 6.0、Adobe Reader 7.0、または Adobe Reader 8.0 をご使用の場合 の注意事項

Acrobat Reader 5.0、Adobe Reader 6.0、Adobe Reader 7.0、または Adobe Reader 8.0 をご使用の場合は、
PDF 手元非表示印刷を多重または連続で実行すると、正しく印刷が行われない場合があります。また、
連続して印刷を実行する場合には、手元非表示印刷機能と呼び出し元のアプリケーションに復帰した直
後でも、Adobe Reader が印刷処理を行っている場合があります。



注意

- 連続して PDF 手元非表示印刷を行う場合には、Adobe Reader の印刷処理が完
了する十分な間隔をおいて次の PDF 手元非表示印刷を実行してください。

2.6 PDF リモート印刷の環境設定

ここでは、PDF リモート印刷を行うための環境設定について説明します。

2.6.1 PDF リモート印刷の環境設定概要

PDF リモート印刷を行うための、環境設定の概要について説明します。

PDF リモート印刷では、クライアントにおいて帳票出力サーバから配信される PDF ファイルを格納するためのフォルダを設定します。このフォルダは、クライアント上に作成して帳票出力サーバから共有できるように設定する、または、帳票出力サーバ上に作成して PDF リモート印刷を行うクライアントから共有できるように設定します。

クライアントにインストールされた PDF リモート印刷プログラムでは、この PDF ファイルが格納されるフォルダを監視し、PDF ファイルが格納されると指定されたプリンタに対して印刷を行います。

フォルダごとに印刷するプリンタを変えることができるため、格納先を変更することで出力するプリンタを切り替えることができます。

なお、印刷するためにはクライアントに Adobe Acrobat9.0 以降または Adobe Reader9.0 以降が必要です。

2.6.2 クライアントの環境設定


ここでは、クライアントの環境設定手順を説明します。

2.6.2.1 PDF リモート印刷プログラムのインストール

PDF リモート印刷プログラムはインストーラ (setup.exe) として提供されています。

このプログラムをインストールし、環境設定することによって、クライアントの環境設定を行います。

このプログラムは、List Creator の製品媒体 (CD-ROM) 内の ¥pdfmrprt フォルダに、setup.exe として収められています。

 注意	- インストールには Administrators 権限が必要です。
--	------------------------------------

2.6.2.2 PDF リモート印刷プログラムの設定手順

PDF リモート印刷プログラムでは、監視する対象となる PDF ファイルが格納されるフォルダを設定します。

この設定は、「スタートメニュー」→「すべてのプログラム」→「PDF リモート印刷機能」から行います。

- 1) PDF リモート印刷プログラムを起動します。
- 2) メニューから [ファイル] - [監視設定の新規登録] を選択します。
- 3) 「監視フォルダ設定画面」で、各項目を設定します。
設定方法については、以下を参照してください。
⇒ [“2.6.2.5 PDF リモート印刷プログラムの監視フォルダ設定画面”](#)
- 4) 登録した監視設定を選択し、メニューから [ファイル] - [監視開始] を選択します。

2.6.2.3 PDF リモート印刷プログラムの監視フォルダ構成

PDF リモート印刷プログラムで監視する対象に登録したフォルダには、その配下に 3 つのフォルダが作成されます。

- Drop フォルダ (監視)
印刷を行う PDF ファイルを格納するフォルダです。
- Print フォルダ (印刷)
印刷が完了した PDF ファイルは、Drop フォルダから Print フォルダに移動されます。
- Error フォルダ (エラー)

印刷時にエラーがあった場合、PDF ファイルは Drop フォルダから Error フォルダに移動されます。

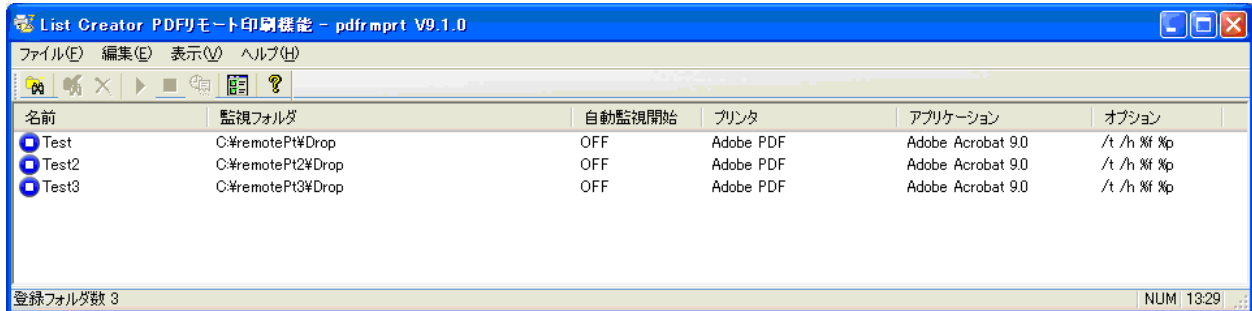


注意

- 印刷する PDF ファイルは、監視する対象として登録したフォルダの直下に配置しても印刷されません。印刷する PDF ファイルは、監視する対象として登録したフォルダの配下にある Drop フォルダに格納してください。

2.6.2.4 PDF リモート印刷プログラムの監視画面

PDF リモート印刷プログラムの監視画面について説明します。



PDF リモート印刷プログラムでは、メニューまたはツールバーより操作を行います。

●表示項目

監視画面の一覧に表示される内容について説明します。

名前

「監視フォルダ設定画面」で指定した監視設定名が表示されます。

監視フォルダ

PDF を格納する監視フォルダのパスが表示されます。

自動監視開始

PDF リモート印刷を起動した際に、自動的に監視を開始するかどうかが表示されます。

「OFF」となっている場合、PDF リモート印刷を起動しても自動的に監視を開始しません。監視設定を選択して、監視開始を行う必要があります。

プリンタ

PDF ファイルを印刷するプリンタが表示されます。

アプリケーション

PDF ファイルを印刷する際に使用するアプリケーションが表示されます。

オプション

指定したアプリケーションを実行する際のオプションが表示されます。

●メニュー

監視画面のメニューバーより実行できる機能について説明します。

[ファイル]メニューの一覧

監視設定の新規登録

「監視フォルダ設定画面」を呼び出し、新しい監視対象のフォルダを登録します。

監視開始

選択されている監視フォルダの監視を開始します。

監視終了

選択されている監視フォルダの監視を終了します。

保存期間を過ぎたファイルの削除

印刷が完了した PDF ファイルは、監視フォルダ配下の Print フォルダに保存されます。保存期間を設定している場合、この Print フォルダにある保存期間を過ぎた PDF ファイルを削除します。

**注意**

- 監視設定において保存期間を「0」と指定した場合は無効となり、自動的に削除されません。正しく印刷されたことを確認した上で、削除してください。

アプリケーションの終了

PDF リモート印刷プログラムを終了します。

[編集]メニューの一覧**監視設定の編集**

「監視フォルダ設定画面」を呼び出し、選択されている監視設定の変更ができます。

監視設定の削除

選択されている監視設定を削除します。

環境設定

「環境設定画面」を呼び出し、環境設定を行います。

[表示]メニューの一覧**ツールバー**

ツールバーの表示 / 非表示を切り替えます。

ステータスバー

ステータスバーの表示 / 非表示を切り替えます。

[ヘルプ]メニューの一覧**PDF リモート印刷機能について**

PDF リモート印刷機能のバージョン情報を表示します。

● ツールバー

監視画面のツールバーより実行できる機能について説明します。機能の内容については、メニューを参照してください。

[監視設定の新規登録](#)

[監視設定の編集](#)

[監視設定の削除](#)

[監視開始](#)

[監視終了](#)

[保存期間を過ぎたファイルの削除](#)

[環境設定](#)

[PDF リモート印刷機能について](#)

2.6.2.5 PDF リモート印刷プログラムの監視フォルダ設定画面

PDF リモート印刷プログラムの監視フォルダ設定画面について説明します。

名前

監視フォルダの設定名を指定します。他の設定で使用されている名前は指定できません。設定名は半角数字、半角英字、半角記号と JIS 第一 / 第二水準漢字で 256 文字までです。

フォルダ

ルートフォルダのパスを「参照」ボタンから指定します。他の設定で使用されているフォルダは指定できません。指定できるフォルダは、半角数字、半角英字、半角記号と JIS 第一 / 第二水準漢字でフルパスが 230 文字までのフォルダです。ドライブのルートフォルダ (C:\ など) を指定することはできません。ネットワーク上のフォルダを指定することは推奨しません。注意事項については、以下を参照してください。

⇒ “2.6.2.7 PDF リモート印刷プログラムの注意事項”

ルートフォルダを指定すると、監視・印刷・エラーの各フォルダは自動的に決定されます。各フォルダの構成については、以下を参照してください。

⇒ “2.6.2.3 PDF リモート印刷プログラムの監視フォルダ構成”

自動監視開始

PDF リモート印刷プログラム起動時に、自動で監視を開始する場合に指定します。デフォルトはチェックなしです。

監視停止条件

印刷に失敗した PDF ファイルが一定数を越えた場合に監視を停止することができます。

監視を停止する条件となる、「Error」フォルダに蓄積された PDF ファイル数を指定します。0～999 の範囲で指定してください。なお、0 を指定した場合は監視停止を行いません。デフォルトは0です。

プリンタ

印刷先のプリンタを指定します。



注意

- PDF リモート印刷機能では、ネットワークプリンタを指定できません。
- オペレーティングシステムに登録されているプリンタに、実行するユーザが印刷するための権限がないと一覧に表示されません。

アプリケーション

印刷で使用する Adobe Acrobat または Adobe Reader を選択します。それ以外のアプリケーションを使用する場合は、「その他」を選択し、アプリケーションのフルパスを入力してください。

「その他」を選択した場合、アプリケーションのフルパスは半角数字、半角英字、半角記号と JIS 第一 / 第二水準漢字で 256 文字までで指定してください。



注意

- Adobe Acrobat 9.0 以降または Adobe Reader 9.0 以降がインストールされていない場合は、リストボックスに表示されません。

オプション

指定したアプリケーションを実行する際のオプションを指定します。

アプリケーション	オプション
Adobe Acrobat	/t /h %f %p
Adobe Reader	/t /h %f %p
その他	なし

置き換え文字列	対象
%f	印刷する PDF ファイル
%p	プリンタ



注意

- Adobe Acrobat または Adobe Reader の場合、オプションの指定は変更しないでください。

保存期間

印刷が終了した PDF ファイルを「Print」フォルダに保存する日数を指定します。日数は0～365 の範囲で指定してください。0 を指定した場合には削除の対象となりません。

指定された保存期間を過ぎたファイルは、「保存期間を過ぎたファイルを削除」を実行することで削除されます。デフォルトは7です。

起動時刻

監視を実行している間に保存期間を過ぎたファイルの削除を開始する時刻を指定します。00:00～23:59の範囲で指定してください。

なお、監視が停止されている場合は、起動時刻となっても保存期間を過ぎたファイルの削除は実行されません。デフォルトは00:00です。



注意

- PDF リモート印刷機能では、保存期間を設定しなかった場合は印刷が完了したPDF ファイルは自動で削除しません。保存期間を設定して定期的に「保存期間を過ぎたファイルを削除」を実行するなどして、ディスク容量を圧迫することがないようにチェックしてください。

高度な設定

PDF リモート印刷プログラムの詳細な設定を行います。

- 監視間隔
フォルダを監視する監視間隔を指定します。即時の出力が求められない場合や、PDF ファイルが格納される回数が少ない場合などに、大きい値を指定することでシステムの負荷を軽減できます。単位はミリ秒で、1～600000の間で指定してください。デフォルトは1000です。
- 印刷後の待機時間
印刷終了後、次の印刷までの待機時間を設定する場合に指定してください。単位はミリ秒で、0～600000の間で指定してください。デフォルトは0です。
- アプリケーションの事前起動
指定したアプリケーションを、印刷開始前にあらかじめ起動しておく場合に指定してください。なお、Adobe Acrobat または Adobe Reader の場合は必ず指定してください。デフォルトはチェックありです。

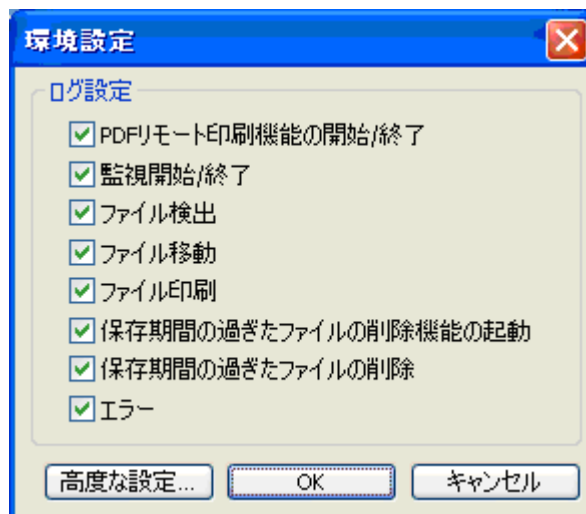
2.6.2.6 PDF リモート印刷プログラムの環境設定画面

PDF リモート印刷プログラムの環境設定画面について説明します。

この画面では、PDF リモート印刷プログラムがイベントログに出力するメッセージを選択します。運用目的に合わせて出力するメッセージを絞り込むことができます。

イベントログに出力するメッセージの詳細については、以下を参照してください。

⇒“2.6.2.8 PDF リモート印刷プログラムのエラーメッセージ”



PDF リモート印刷機能の開始 / 終了

PDF リモート印刷プログラムの開始と終了をイベントログに出力する際にチェックします。デフォルトはチェックありです。

監視開始 / 終了

監視フォルダの開始と終了をイベントログに出力する際にチェックします。監視フォルダが複数存在する場合は、監視開始する監視フォルダの数だけメッセージが出力されます。デフォルトはチェックありです。

ファイル検出

監視フォルダで PDF ファイルを検出した時にイベントログに出力する際にチェックします。監視フォルダに複数の PDF ファイルが存在する場合は、PDF ファイルを処理するごとにメッセージが出力されます。デフォルトはチェックありです。

ファイル移動

監視フォルダで PDF ファイルを移動した時にイベントログに出力する際にチェックします。監視フォルダでは、印刷が完了した際の Print フォルダへ、印刷がエラーとなった場合には Error フォルダへ移動します。監視フォルダに複数の PDF ファイルが存在する場合は、PDF ファイルを処理するごとにメッセージが出力されます。デフォルトはチェックありです。

ファイル印刷

監視フォルダで PDF ファイルを印刷した時にイベントログに出力する際にチェックします。監視フォルダに複数の PDF ファイルが存在する場合は、PDF ファイルを処理するごとにメッセージが出力されます。デフォルトはチェックありです。

保存期間を過ぎたファイルの削除機能の起動

保存期間を過ぎたファイルの削除機能が起動された時にイベントログに出力する際にチェックします。保存期間を過ぎたファイルの削除機能は、それぞれの監視フォルダに設定した時刻や、メニューからの手動で実行されます。メッセージは、保存期間を過ぎたファイルの削除機能が起動した監視フォルダごとに出力されます。デフォルトはチェックありです。

保存期間を過ぎたファイルの削除

保存期間を過ぎたファイルが削除された時にイベントログに出力する際にチェックします。削除の対象となる PDF ファイルが複数存在する場合は、PDF ファイルを処理するごとにメッセージが出力されます。デフォルトはチェックありです。

エラー

エラーが発生した時にイベントログに出力する際にチェックします。デフォルトはチェックありです。

高度な設定

PDF リモート印刷プログラムの詳細な環境設定を行います。

- ログ設定
デバッグメッセージをイベントログに出力する場合に指定します。トラブルが発生した場合など、特別な理由がない場合以外は指定しないでください。デフォルトはチェックなしです。
- 印刷の直列化
「全体」を指定した場合、それぞれの監視フォルダを順にチェックし、PDF ファイルの印刷が完了してから次のチェックを行います。
「監視フォルダ毎」を指定した場合、監視フォルダごとに独立してチェックを行います。そのため、複数の監視フォルダに同時に PDF ファイルが格納された場合、PDF ファイルの印刷が同時に実行されます。PDF ファイルを印刷するアプリケーションによっては、同時に印刷が実行されると正常に印刷が行えない場合がありますので、特別な理由がない場合以外は「全体」を指定してください。デフォルトは「全体」です。
- 保存期間を過ぎたファイルの削除設定

「完全に削除」を選択した場合、保存期限を過ぎたファイルは完全に削除されます。保存期限を過ぎたファイルをごみ箱へ移動したい場合には「ごみ箱へ移動」を選択します。デフォルトは「完全に削除」です。

2.6.2.7 PDF リモート印刷プログラムの注意事項

PDF リモート印刷プログラムの注意事項について説明します。

- 印刷を実行するアプリケーションの起動に成功した時点で印刷成功と判断をするため、「Print」フォルダにファイルが残留していても、印刷が完了していません。印刷を完了するには、ファイルを再度「Drop」フォルダに移動するか、手動で再印刷を行ってください。
- PDF ではないファイルを「Drop」フォルダに検出した場合、「Error」フォルダに移動します。
- 未完成の PDF と思われるファイルを「Drop」フォルダに検出した場合、印刷開始、あるいはエラー扱いとせず、残りの部分が送信されるまで待ちます。残りの部分の送信が再開される見込みがない場合は、手動で削除する必要があります。
- PDF リモート印刷機能を起動中は、監視設定で指定したアプリケーションの操作は行わないでください。
- Adobe Acrobat および Adobe Reader の自動アップデートや初回起動時のライセンス確認などでダイアログが自動表示されていると印刷に失敗するため、事前に表示されないように設定をしてください。
- 監視設定でアプリケーションを登録する際に、Adobe Acrobat と Adobe Reader を同時に指定することはできません。Adobe Acrobat を登録すると、他の監視設定で登録されている Adobe Reader は、全て Adobe Acrobat に変更されます。Adobe Reader を登録する場合も同様に、Adobe Acrobat は Adobe Reader に変更されます。
- 監視設定を複数登録する場合、同時に監視開始しているフォルダ数は 20 フォルダまでとすることを推奨します。20 フォルダを超えるフォルダを同時に監視開始している場合、クライアントのシステムリソースの利用状況をチェックし、運用上問題ないことを確認した上で運用してください。
- 260 文字を超えるパス名のファイルを「Drop」フォルダに検出した場合、該当フォルダの監視を停止します。削除または、変名を行い監視を再開してください。
- 「Print」または「Error」フォルダに投入ファイルの移動を行なう際に、既に移動先に同名ファイルが存在する場合は、上書きしないように pdfmprint%d (%d は 10 桁以内の数字) という名前に変名を行いません。「Drop」フォルダで検出したファイルのフルパスが 258 文字、または、259 文字の場合も、そのままの名前では「Print」フォルダへの移動や削除ができないため同じ規則での変名を行いません。
- ネットワーク上のフォルダを監視フォルダに指定した場合、監視開始を行なう際にネットワークの状況によっては監視開始に失敗することがあります。その際はネットワークの問題を解消した上で、監視開始を行なうようにしてください。監視中に切断、サーバダウン、ネットワーク障害などのネットワーク上のフォルダに問題が発生した場合は、監視停止せずに回復を待ち続けます。その際は、監視巡回ごとにエラーログを出力し続けますので、ネットワーク環境が良好でない環境では監視間隔を大きめにする、または、イベントログの最大ログサイズを大きくするなどしてログファイルが溢れないよう注意してください。

2.6.2.8 PDF リモート印刷プログラムのエラーメッセージ

PDF リモート印刷プログラムのエラーメッセージの原因と対処について説明します。

PDF リモート印刷プログラムでは、エラーが発生した場合にイベントログで通知します。イベントログのソースは「ListCREATOR pdfmprint」となります。

表 2.15 ListCREATOR pdfmprint のイベントログ

イベント ID	メッセージ本文	原因と対処
1	pdfmprint is started.	PDF リモート印刷プログラムが起動しました。
2	pdfmprint is stopped.	PDF リモート印刷プログラムが終了しました。
3	[%1] Watch is started.(%4)	監視フォルダの監視を開始しました。 %1 には、監視名が入ります。 %4 には、自動起動の場合には「Auto」、メニューなどから実行した場合には「Manual」が入ります。
4	[%1] Watch is stopped.(%4)	監視フォルダの監視を終了しました。 %1 には、監視名が入ります。 %4 には、自動起動の場合には「Auto」、メニューなどから実行した場合には「Manual」が入ります。
5	[%1] File is detected.(%2)	PDF ファイルが検出されました。 %1 には、監視名が入ります。 %2 には、PDF ファイルのフルパスが入ります。
6	[%1] "%2" is moved to the %3 folder. [%1] "%2" is moved to the %3 folder.(as %4)	PDF ファイルを移動しました。 %1 には、監視名が入ります。 %2 には、PDF ファイル名が入ります。 %3 には、移動先のフォルダが入ります。印刷の場合は「Print」、エラーの場合は「Error」となります。 %4 には、移動の際にファイル名が変更された場合に、変更後のファイル名が入ります。
7	[%1] "%2" is printed.	PDF ファイルが印刷されました。 %1 には、監視名が入ります。 %2 には、印刷された PDF ファイル名が入ります。
8	[%1] Deleting expired files is started.(%4)	保管期間を過ぎたファイルの削除が開始されました。 %1 には、監視名が入ります。 %4 には、監視設定による時刻で自動的に実行された場合は「Auto」、メニューなどから実行された場合は「Manual」が入ります。
9	[%1] "%2" is deleted.	保管期間を過ぎたファイルの削除により、ファイルが削除されました。 %1 には、監視名が入ります。 %2 には、PDF ファイル名が入ります。
10	[%1] %2[FILE LINE]	PDF ファイルをアプリケーションで印刷した際にエラーとなりました。 %1 には、監視名が入ります。 %2 には、詳細メッセージが入ります。 以下の詳細メッセージに応じて対処してください。 ・ "File access error.(%s)" : ファイルのアクセス権を確認してください。 ・ "Print error.(%s)" : プリンタでエラーが発生していないか、確認してください。 ・ "Folder is being watched." : 別の PDF リモート印刷プログラムによって監視されていないか、確認してください。 ・ "File is not PDF.(%s)" : 格納されたファイルが正しい PDF ファイルであるか、確認してください。 ・ "Too long file name.(%s)" : PDF ファイルのパス名が長すぎます。削除または、変名を行い監視を再開してください。

表 2.15 ListCREATOR pdfmprt のイベントログ

イベント ID	メッセージ本文	原因と対処
11	Debug: %2	デバッグメッセージが出力されます。 %2には、詳細メッセージが入ります。 当メッセージと操作内容を記録し、当社技術員に連絡してください。

第 3 章

運用上の注意

ここでは、PDF 変換機能の運用上の注意について説明します。

3.1 帳票設計時の注意事項

3.1.1 帳票様式情報設計時の注意事項

PDF 変換機能を使用して帳票を PDF ファイルに変換し、ファイル保存する場合は、以下の点に注意して帳票を設計してください。

- 用紙サイズに「任意」を指定した場合、用紙名の指定の有無にかかわらず、指定した任意用紙サイズで PDF ファイルに保存されます。
- 印刷範囲は指定しても無効となります。
- とじしろは指定しても無効となります。
- 段組み印刷は、「2 段」または「4 段横」を指定した場合だけ有効になります。「4 段縦」を指定した場合、帳票は元のサイズで PDF ファイルに保存されます。
- フォントは、フォントの登録の有無にかかわらず、List Creator で以下のようにマッピングします。

MS 明朝 : MS 明朝 (エンベッド時: FUJ 明朝体)

MS ゴシック : MS ゴシック (エンベッド時: FUJ ゴシック体)

@MS 明朝 : @MS 明朝 (エンベッド時: @FUJ 明朝体)

@MS ゴシック : @MS ゴシック (エンベッド時: @FUJ ゴシック体)

上記以外のフォントを登録せずに使用した場合、以下のように出力されます。また、上記以外のフォントを登録しても PDF ファイルに文字を埋め込まないと、帳票で定義した位置に正しく出力されません。

日本語文字 : MS 明朝 (エンベッド時: FUJ 明朝体)

日本語文字 (縦書き) : MS 明朝 (エンベッド時: FUJ 明朝体)

ただし、オーバーレイ文字は、以下のとおりになります。

- ・ フォント名称に「ゴシック」を含む場合
@MS ゴシック (エンベッド時: @FUJ ゴシック体)
- ・ それ以外の場合
@MS 明朝 (エンベッド時: @FUJ 明朝体)

半角英数字文字 : 帳票出力サーバが Windows の場合

MS 明朝 (エンベッド時: FUJ 明朝体)

帳票出力サーバが UNIX 系 OS の場合

MS ゴシック (エンベッド時: FUJ ゴシック体)

フォントの登録方法や出力結果については、以下を参照してください。

⇒ [“2.1.2 帳票設計時のフォントを PDF 中に使用する”](#)

- 縦書きフォント (@ 付きフォント) を指定する場合、半角文字は使用しないでください。使用した場合の文字の出力結果は保証されません。
- オーバレイ罫線・枠、パーティション罫線・枠の線種に実線以外が指定されている場合、間隔などのパターンが定義時と異なります。
- オーバレイ罫線・枠、パーティション罫線・枠の線種に二重線、波線が指定されている場合、実線になります。
- オーバレイ罫線、パーティション罫線の線端に平面を指定しても、PDF ファイルでは四角になる場合があります。
- オーバレイ枠・パーティション枠に網がけを指定した場合、網がけではなく、領域が塗りつぶされます。複数の網がけを重ねる場合は、出力結果を確認してください。
- 「文字の向き」タブの「文字の向き」で文字列方向が右向き (左から右) 以外を指定した場合、または縦書きフォント (@ 付きフォント) を指定した場合、下線を指定しても出力されません。
- 矩形オーバーレイ文字は使用できません。使用した場合、矩形オーバーレイ文字の領域には、何も出力されません。

- 帳票出力サーバが Windows/UNIX 系 OS の場合、組込みメディア項目は、以下のデータが出力できます。
 - ・ ビットマップデータ
 - ・ JPEG データ
 - ・ TIFF データ
 - ・ PNG データ (V7.0L10 以降)

なお、OLE2 オブジェクトを指定した場合、エラーになります。

- 組込みメディア項目に「クリッピング」を指定した場合、メディアデータの解像度で出力するか、プリンタの解像度で出力するか選択できます。プリンタの解像度で出力する場合、印刷時と出力結果が異なります。必ず出力結果を確認してください。
- 以下の種別のバーコードが出力できます。右側は、指定可能なバーコードの項目長（入力データの長さ）です。

・ JAN 標準	: 12
・ JAN 短縮	: 7
・ Code 3 of 9	: 1 ~ 128 の範囲
・ Code 3 of 9 (EIAJ 準拠)	: 1 ~ 128 の範囲
・ Industrial 2 of 5	: 1 ~ 128 の範囲
・ Interleaved 2 of 5	: 1 ~ 128 の範囲
・ NW-7	: 3 ~ 34 の範囲
・ カスタマバーコード	: 20
・ CODE128	: 1 ~ 127 の範囲
・ EAN-128	: 1 ~ 127 の範囲
・ EAN-128 (コンビニエンスストア向け)	: 44
・ EAN-13	: 12
・ UPC バージョン A	: 11
・ UPC バージョン E	: 6
・ U.S. POSTNET (Delivery Point Code)	: 11
・ U.S. POSTNET (ZIP+4 Code)	: 9
・ U.S. POSTNET (5-Digit ZIP Code)	: 5
・ QR Code (モデル 1)	: 1 ~ 1167 の範囲
・ QR Code (モデル 2)	: 1 ~ 7089 の範囲
・ QR Code (マイクロ QR)	: 1 ~ 999 の範囲
・ PDF417	: 1 ~ 9999 の範囲
・ MaxiCode	: 1 ~ 999 の範囲
・ Intelligent Mail Barcode	: 20、25、29、31
・ GS1 DataBar Omnidirectional	: 13
・ GS1 DataBar Truncated	: 13
・ GS1 DataBar Stacked	: 13
・ GS1 DataBar Stacked Omnidirectional	: 13
・ GS1 DataBar Limited	: 13
・ GS1 DataBar Expanded	: 数字のみ 74、英数字 41
・ GS1 DataBar Expanded Stacked	: 数字のみ 74、英数字 41

上記以外の種別のバーコードを指定した場合、および指定可能なバーコードの項目長を超えて指定した場合、帳票を PDF ファイルに保存するときにエラーになります。

- 以下の種別のバーコードでは、分割数の指定は無効となります。指定しても、分割されず、1 つで出力されます。
 - ・ QR Code (モデル 1)
 - ・ QR Code (モデル 2)
- バーコード項目の「印刷方向」に「90°」または「270°」を指定した場合、印刷時と出力結果が異なります。「90°」または「270°」を指定する場合は、帳票様式定義画面で領域を出力イメージと同じになるよう縦長で定義してください。また、必ず出力結果を確認してください。
- バーコード種別がカスタマバーコードで、「印刷方向」に「180°」を指定した場合、「0°」が指定されたものとして出力されます。また、「270°」を指定した場合、「90°」が指定されたものとして出力されます。

- バーコードは、JIS や EAN などの規格にしたがったサイズで出力されます。そのため、指定された範囲よりも大きくまたは小さく出力される場合があります。
- 定義した矩形内に収めるためには、List Creator デザイナの帳票業務情報のプロパティ画面の [ファイル] タブの文書情報設定画面で指定した文書管理の「バーコード描画」で、「バーコードを項目のサイズに収まるように出力する」を指定してください。ただし、カスタマバーコードに対しては本機能は使用できません。
また、Code 3 of 9 (EIAJ 準拠) の場合、バーコード項目の [バーコード種別] タブの EIAJ 詳細設定画面で設定された細エレメント幅を使用してバーコード出力を行います。
- JAN 標準バーコードおよび EAN-13 は、「フラグキャラクタを下に印刷」を指定しない場合でも、バーコードの下にフラグキャラクタが出力されます。
- バーコード項目に「文字印刷」を指定した場合、バーコードの下に出力されるデータの位置は、印刷時と異なります。
- カスタマバーコード、U.S. POSTNET には、「文字印刷」を指定しないでください。指定しても文字は印刷されません。
- バーコードは、指定した範囲よりも大きく、または小さく出力される場合があります。
バーコードは、用紙、リーダ、出力装置の解像度、および状態で精度が変わるため、実際の運用を行う前に、バーコードを出力し、読み込めることを確認してから使用してください。
- 組合せフォーム出力時、以下の項目には組合せフォーム名が設定されます。なお、しおりは組合せフォーム名が切り替わったタイミングで挿入されます。
 - ・ PDF のタイトル
 - ・ PDF のしおりの名前
- 帳票出力サーバが UNIX 系 OS の場合、以下の点に注意して帳票を設計してください。
 - ・ 「集団印刷」の印刷文字には、必ず 1 バイト文字を指定してください。
 - ・ 数字項目の編集形式の「分類」に「日付」を指定する場合、「区切り」文字には、必ず 1 バイト文字を指定してください。また、必ず「年月日」以外を指定してください。
 - ・ 郵便番号項目は指定しないでください。指定した場合、正しく出力されません。

3.1.2 帳票業務情報設定時の注意事項

帳票を PDF ファイル保存する場合、次の点に留意して、帳票業務情報を設定してください。

- タイトル（帳票の出力時にタイトルを省略した場合は帳票名）、サブタイトル、作成者は、日本語（JIS 非漢字 / 第一水準漢字 / 第二水準漢字）または英数字で指定してください。その他の文字を指定した場合、PDF ファイルの文書情報（一般）で正しく表示されないことがあります。
- 帳票出力サーバが UNIX 系 OS の場合、帳票のプロパティで指定する格納先ファイル名の区切り文字には「円マーク (¥)」を入力してください。保管フォルダパス名中の「円マーク (¥)」は、UNIX 系 OS 上では「スラッシュ (/)」で解釈されます。なお、格納先ファイル名を帳票の出力時に指定する場合は、「スラッシュ (/)」で指定してください。
- 指定されたフォルダが存在しない場合、フォルダが自動生成されます。フォルダには、親フォルダと同じアクセス権が設定されます。アクセス権がない場合は、エラーになります。
- PDF ファイルには、帳票を出力したユーザのアクセス権が設定されます。
- 同一名ファイルがすでに存在する場合は、アクセス権があれば新しいファイルに置き換えられます。アクセス権がない場合は、エラーになります。
- 同一名ファイルがすでに存在するときに PDF ファイル保存に失敗した場合は、元の PDF ファイルも削除されることがあります。
- PDF ファイルを開くときのパスワードは、半角の英数字または記号（ASCII コードの文字範囲）で指定してください。その他の文字を指定した場合、PDF ファイルを表示できない場合があります。
- PDF ファイルのセキュリティオプションを変更するときのパスワードは、半角の英数字または記号（ASCII コードの文字範囲）で指定してください。その他の文字を指定した場合、PDF ファイルを表示できない場合があります。
- PDF ファイルを開くときのパスワードとセキュリティオプションを変更するときのパスワードに同じパスワードを指定した場合、すべてのセキュリティが解除されます（PDF ファイルのセキュリティオプションを変更するときのパスワードの指定が無効になります）。
- 利用者定義文字を出力する場合は、帳票出力サーバに Charset Manager をインストールしておく必要があります。詳細については、以下を参照してください。

⇒ “2.1.9 外字を使用した PDF の出力方法”

- 利用者定義文字や JEF 拡張文字を使用する場合は、文字を PDF ファイルに埋め込んでください。PDF ファイルに埋め込まない場合、PDF ファイルを表示するシステムによっては、見え方が異なったり、正しく表示されなかったりすることがあります。
- 縦書きフォント (@ 付きフォント) を PDF ファイルに埋め込まない場合、一部出力される向きや位置が異なる文字があります。
- テキスト項目、固定リテラル項目などの項目に、太字や斜体などの文字修飾を指定した場合、印刷時と比較して若干字形が異なる場合があります。
- PDF フォント登録機能で登録されたフォントによっては、下線や文字の描画位置が印刷時と比較して若干ずれる場合があります。
- PDF ファイル生成時に作業ファイルを作成します。以下のディレクトリのディスク容量とアクセス権がない場合、正しく PDF 生成されません。
 - ・ 帳票出力サーバが Windows の場合
(List Creator インストールディレクトリ) %Temp 配下
 - ・ 帳票出力サーバが UNIX 系 OS の場合
/var/tmp 配下
- PDF メール配信時に作業ファイルを作成します。以下のディレクトリのディスク容量とアクセス権がない場合、正しく PDF が生成されません。
 - ・ 帳票出力サーバが Windows の場合
(List Creator インストールディレクトリ) %mailqueue 配下
 - ・ 帳票出力サーバが UNIX 系 OS の場合
/var/opt/FJSVedoc/mailqueue 配下

正常時は、一時ファイルは自動削除されますが、エラー発生時には作業ファイルが残ります。リトライ可能なエラーの場合は、30 秒おきに再送信を最大 60 回まで行い、エラー要因が解除された時点で作業ファイルは削除されます。

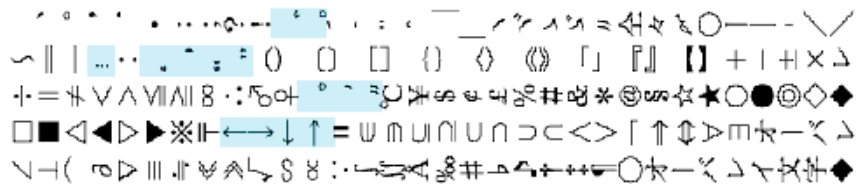
メールの宛先が誤っている場合は、作業ファイルが残るため、削除する必要があります。

3.2 アプリケーション作成時の注意事項

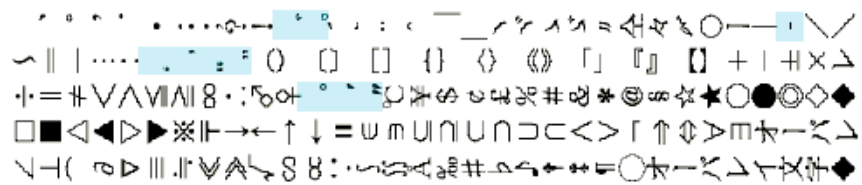
3.2.1 文字の表示

- PDF にフォントをエンベッドしない場合には、クライアントシステムの環境によっては見え方が異なったり、または正しく表示されない場合があります。
- 太字の文字修飾を行った場合、Acrobat 上での拡大表示や印刷時に文字がきれいに出力されない場合があります。この場合、フォントをエンベッドすることで正しく出力することができます。
- 外字（利用者定義文字と JEF 拡張文字）を使用した PDF ファイルを生成する場合、PDF 文書情報ファイルの設定または List Creator デザイナの帳票業務情報、または帳票出力時にフォントのエンベッドを行わないと、PDF ファイルが正しく表示されません。
- @文字（縦書き）を使用した場合、Windows および Macintosh でそれぞれ、エンベッドしたときとしないときで、以下の網がけで示した文字に関して、向きや位置が横書きのフォントと異なります。

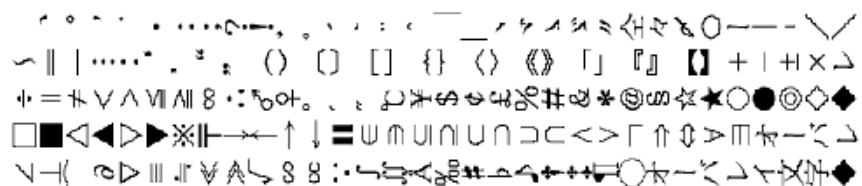
- ・ エンベッドせずに Windows で表示した場合
例)



- ・ エンベッドせずに Macintosh で表示した場合
例)



- ・ エンベッドして Windows および Macintosh で表示した場合
例)



- フォントをエンベッドすることで、フォントデータを PDF ファイルに埋め込むため、埋め込みを行った文字数分のファイルサイズが肥大化します。
- 帳票出力サーバが Solaris で、入力データに EUC (U90) を使用して、83 年度 JIS で字体変更された旧字体を新字体で出力する場合、Charset Manager の文字コード変換表カスタマイズ機能を使用することで新字体での文字出力が可能となります。
例えば、EUC (U90) の旧字体を 83 年度 JIS の新字体に対応付けすることにより、新字体を出力することができます。

3.2.2 作業ファイルの生成

PDF 生成時に作業ファイルを作成します。作成する作業ファイルのサイズは、出力する帳票によって異なりますが、通常最終的に生成される PDF ファイルサイズの 2～4 倍の大きさとなります。作業ファ

イルは、PDF 生成後に削除されます。

以下のフォルダのディスク容量とアクセス権がない場合は、正しく PDF が生成されません。

- List Creator 帳票出力インタフェースを使用する場合
帳票出力サーバが Windows の場合: List Creator インストールディレクトリ ¥TEMP
帳票出力サーバが UNIX 系 OS の場合: /var/tmp
- COBOL アプリケーション連携機能を使用する場合
帳票出力サーバが Windows の場合: 帳票出力サーバの環境変数 TEMP に設定されているディレクトリ

PDF メール配信時は、以下を合わせて参照してください。

⇒ “3.6 PDF メール配信時の注意事項”

3.2.3 フルスクリーン表示

フルスクリーン表示を設定 (PDF-FULLSCREEN=ON) した場合、ツールバー非表示機能 (PDF-HIDETOOLBAR) およびメニューバー非表示機能 (PDF-HIDEMENUBAR) の設定にかかわらず、ツールバー、メニューバーとも表示されません。

このため、フルスクリーン表示した PDF を Acrobat で閉じるためには、以下のいずれかで閉じることが可能になります。

- Acrobat7.0 の環境設定で [編集] - [環境設定] - [一般] - [全画面表示] (Acrobat 8.0 以降の場合、[編集] - [環境設定] - [フルスクリーンモード]) の “Esc キーで取り消し” になっていれば ESC キーを入力するとタイトルバーが表示されます。
- Ctl+L (Macintosh では Command+L) で、フルスクリーン表示を解除することができます。

3.3 Adobe Reader の注意事項

3.3.1 Adobe Reader の版数

- PDF 変換機能によって生成される PDF ファイルは、以下の仕様に基づいています。
 - ・ Portable Document Format Reference Manual Version 1.4 (Adobe Systems Incorporated 発行)
- PDF ファイルを表示する Adobe Acrobat または Adobe Reader の版数によって、PDF 変換機能に制限がある場合があります。

表 3.1 Adobe Reader の版数による制限

制限のある PDF 変換機能	Acrobat4.0 または Acrobat Reader4.0	Acrobat5.0 または Acrobat Reader5.0	Adobe Acrobat6.0 または Adobe Reader6.0	Adobe Acrobat7.0 または Adobe Reader7.0	Adobe Acrobat8.0 または Adobe Reader8.0	Adobe Acrobat9.0 または Adobe Reader9.0
128bit 暗号化	×	○	○	○	○	○
AES 暗号化	×	×	×	○	○	○
閲覧制限機能	△	△	○	○	○	○
PDF 自動印刷機能	○	○	○	○	△	△
PDF 手元非表示印刷機能	△	△	△	△	△	△

- 128 bit 暗号化を行った PDF ファイルを表示する場合は、Acrobat 5.0 または Acrobat Reader 5.0 以降を使用してください。それ以外（40bit 暗号化）の場合、Acrobat 4.0 または Acrobat Reader 4.0 以降を使用してください。
- Acrobat 5.0 または Acrobat Reader 5.0 以降で大量ページの帳票を表示させる場合、表示性能が遅くなる場合があります。
- Acrobat 5.0 または Acrobat Reader 5.0 以前では、閲覧制限を設定した PDF の制限を解除することができません。
- Adobe Acrobat 8.1.3 または Adobe Reader 8.1.3 以降では、PDF 自動印刷を実行する際に必ず印刷ダイアログが表示されます。
- Adobe Acrobat 8.1.3 または Adobe Reader 8.1.3 以前では、同時に PDF 手元非表示印刷を実行すると、PDF ファイルが正しく印刷されない場合があります。
- Adobe Acrobat 7.0 ~ Adobe Acrobat 7.0.4、Adobe Reader 7.0 ~ Adobe Reader 7.0.4、Adobe Acrobat 8.1.3 および Adobe Reader 8.1.3 以降では、PDF 手元非表示印刷時に Adobe Acrobat や Adobe Reader のブラウザ画面が表示されてしまう場合があります。
- Adobe Reader 7.0 ~ Adobe Reader 7.0.4 では、セキュリティオプションが有効とならない場合があるため、Adobe Reader 7.0.5 以降を使用するとともに、PDF ファイルのセキュリティオプション変更パスワードを設定してください。
PDF ファイルのセキュリティオプション変更パスワードの詳細については、以下を参照してください。
 - ・ “2.2.3 帳票出力時に使用する PDF 文書情報ファイルのキーワード一覧”
 - ・ オンラインマニュアル“アプリケーション作成ガイド”

3.3.2 PDF ファイルの制限

PDF 言語仕様によって、以下を超えた場合、Acrobat で正しく表示されない可能性があります。

PDF ファイルの最大ページ数	約 8,000 [ページ] (オーバーレイなし)
座標値の有効範囲	約 -32,000 ~ +32,000 [ポイント]
最大文字列長	約 4,095 [文字]

3.3.3 PDF ファイルの検索

PDF ファイルを Adobe Reader の検索機能で使用する場合、半角英数字の文字列が正しく検索できない場合があります。

List Creator の PDF 変換機能や List Works 連携機能で生成した PDF ファイルを、Adobe Acrobat や Adobe Reader などの Adobe 社製品の PDF ビューアで表示させた場合、以下のような現象が発生する場合があります。

- 検索時に、半角英数字の文字列が正しく検索できない。
(半角英数字の間に空白を挿入して検索すると、検索できる)
- 文字列をコピーした場合、半角英数字の文字間に空白が挿入された状態でコピーされる

これは、Adobe Acrobat/Adobe Reader の内部処理による現象です。以下のような回避策が有効な場合があります。

- 帳票定義情報の対象文字列の含まれる項目のプロパティで、[フォント] タブの「ピッチ」のチェックを外して PDF を生成する、または、半角文字を全角文字に変更して PDF を生成する
- 他の PDF ビューアや、Adobe 社製以外の Acrobat 用の全文検索プラグインを利用する

3.3.4 網がけパターン

図形描画に網がけパターンを使用した場合、Adobe Reader の表示倍率によって、モアレが発生する場合があります。

3.3.5 破線パターン

図形描画に破線パターンを使用した場合、Adobe Reader の表示倍率によって、パターンが不規則に表示される場合があります。

Acrobat Reader 5.0、または Adobe Reader 6.0 以降では、破線パターンの開始位置が不ぞろいとなる場合があります。

3.3.6 Acrobat による文書情報の表示

- Adobe Reader では、「文書の変更」、「注釈とフォームフィールドの追加と変更」は、無条件に「許可しない」となります。
- PDF ファイルを開く際に使用するパスワードと PDF ファイルのセキュリティレベルの変更を行うパスワードは、32 バイトしか有効なりません。また、ASCII の文字範囲以外を使用した場合、正しく機能しない場合があります。
- PDF ファイルの文書情報として設定できる以下の文字列に日本語 (JIS 第一水準 / 第二水準、JIS 非漢字を含む) と英数字以外を使用した場合、正しく表示されない場合があります。
 - ・ タイトル
 - ・ サブタイトル
 - ・ 作成者

3.3.7 PDF ファイルの印刷

- PDF ファイルを印刷する場合、環境によっては、Acrobat で画面に表示されたイメージどおりに印刷されない場合があります。この場合、[ファイル] - [印刷] - [画像として印刷] (Acrobat 8.0 以降の場合、[ファイル] - [印刷] - [詳細設定] - [画像として印刷]) を指定することで回避することができます。
- Acrobat の [ファイル] - [印刷] - [用紙サイズに合わせる] が設定されている場合、描画結果が拡大/縮小されて、PDF ファイル作成時のイメージどおりに印刷されない可能性があります。
- Adobe Reader からの印刷は、Adobe Reader の仕様に基づき、[ファイル] - [ページの設定] (Adobe Reader 8.0 以降の場合、[ファイル] - [印刷設定]) で設定されているプリンタ (デフォルトは、通常使うプリンタ) の用紙サイズで出力されます。
したがって、印刷時の用紙サイズを変更したい場合は、Adobe Reader の [ファイル] - [ページの設定] (Adobe Reader 8.0 以降の場合、[ファイル] - [印刷設定]) 画面で用紙サイズを変更してください。
PDF 手元非表示印刷を行う場合など、動的に用紙サイズ変更できない場合、Windows のプリンタ設定画面にて印刷するプリンタを通常使うプリンタに設定し、そのプリンタの [印刷設定] メニューで用紙サイズを変更してください。

3.3.8 ファイル添付機能

ファイル添付機能を使用して作成した PDF ファイルから添付されたファイルを抽出する場合、Acrobat 5.0 以降を使用してください。Acrobat 4.0 や Acrobat Reader 4.0、Acrobat Reader 5.0 では、抽出は行えません。

添付したファイルの抽出は、以下の手順で行います。

Acrobat 5.0 の場合

- 1) Acrobat のメニューから [ファイル] - [文書のプロパティ] - [埋め込みデータオブジェクト] を選択します。
- 2) 「文書埋め込みデータオブジェクト」ダイアログボックスで、抽出したいファイルを選択して、[書き出し] ボタンをクリックします。
- 3) 保存先を指定します。

Acrobat 6.0 または Adobe Reader 6.0 の場合

- 1) Acrobat のメニューから [文書] - [添付ファイル] を選択します。
- 2) 「添付ファイル」ダイアログボックスで、抽出したいファイルを選択して、[書き出し] ボタンをクリックします。
- 3) 保存先を指定します。

Acrobat 7.0 または Adobe Reader 7.0 の場合

- 1) Acrobat のメニューから [表示] - [ナビゲーションタブ] - [添付ファイル] を選択します。
- 2) 「添付ファイル」タブで、抽出したいファイルを選択して、[保存] ボタンをクリックします。
- 3) 保存先を指定します。

Acrobat 8.0 以降または Adobe Reader 8.0 以降の場合

- 1) Acrobat のメニューから [表示] - [ナビゲーションパネル] - [添付ファイル] を選択します。
- 2) 「添付ファイルパネル」で、抽出したいファイルを選択して、[保存] ボタンをクリックします。

- 3) 保存先を指定します。



- ファイル添付機能を使用する PDF ファイルには、セキュリティの付加や暗号化を行わないでください。セキュリティの付加や暗号化を行うと、添付したファイルが Acrobat で抽出できない可能性があります。

3.3.9 イメージ透過機能

- モノクロ 2 値イメージデータをマスクする場合、正しいマスク結果が得られない場合があります。多値データとしてイメージデータを保存し直すことで回避できます。
- List Creator デザイナで作成した帳票を出力する場合、組込みメディア項目の透過機能は RGB でカラーを表現している 2 色のビットマップデータ、TIFF データ、または PNG データのみをサポートしています。未サポートのイメージを使用した場合は、以下のエラーが発生する、またはイメージの透過がされないという現象が発生します。

「PDF 出力時にエラーが発生しました。PDF 変換機能のログ情報でエラーの詳細を確認してください。詳細コード：[9M]」

3.3.10 Acrobat JavaScript の設定

PDF 自動印刷機能、および PDF 閲覧制限機能を使用する場合、Acrobat の Acrobat JavaScript を有効にする設定をしておく必要があります。

Acrobat JavaScript が有効になっているかの確認方法を、以下に示します。

なお、ここでは、Acrobat 7.0、Acrobat 8.0 および Acrobat 9.0 の場合の手順を示します。

- 1) Acrobat を起動します。
- 2) [編集] - [環境設定] を選択します。
⇒環境設定画面が表示されます。
- 3) 環境設定画面の左側の「分類」で「JavaScript」を選択します。
- 4) 環境設定画面の右側の「Acrobat JavaScript を使用」チェックボックスがチェックされているかを確認します。
チェックがはずれている場合は、チェックボックスをチェックしてください。

3.3.11 帳票業務情報と Acrobat 製品画面の対応

List Creator で定義した帳票業務情報および帳票出力時に指定した情報は、関連ソフトウェア製品に引き継がれます。

ここでは、List Creator で定義した帳票業務情報が、関連ソフトウェア製品のどの画面のどの項目として表示されるかを示します。

PDF ファイル保存する場合は、以下を参照してください。

- ⇒ “表 3.2 Acrobat/Adobe Reader の文書情報（一般）画面”
- ⇒ “表 3.3 Acrobat/Adobe Reader の文書情報（セキュリティ）画面”
- ⇒ “表 3.4 Acrobat 5.0 の文書情報（埋め込みデータオブジェクト）画面”
- ⇒ “表 3.5 Acrobat 6.0/7.0/8.0/9.0 の文書情報（添付ファイル）画面”

表 3.2 Acrobat/Adobe Reader の文書情報（一般）画面

ファイルの情報	List Creator の帳票業務情報 / 帳票出力時の指定
タイトル	1) 帳票の出力時に指定した帳票のタイトル 2) 帳票名
サブタイトル	1) 帳票の出力時に指定した PDF ファイルのサブタイトル 2) [ファイル] タブの文書情報設定画面で指定した概要の「サブタイトル」
作成者	1) 帳票の出力時に指定した PDF ファイルの作成者 2) [ファイル] タブの文書情報設定画面で指定した概要の「作成者」

表 3.3 Acrobat/Adobe Reader の文書情報（セキュリティ）画面

ファイルの情報	List Creator の帳票業務情報 / 帳票出力時の指定
文書パスワード	帳票の出力時に指定した PDF ファイルを開くパスワード
セキュリティパスワード	帳票の出力時に指定したセキュリティオプション変更パスワード
印刷	1) 帳票の出力時に指定した PDF ファイルの印刷許可指定
	2) 文書情報設定画面で指定したセキュリティの「印刷の許可」設定
文書の変更	1) 帳票の出力時に指定した PDF ファイルの変更許可指定
	2) 文書情報設定画面で指定したセキュリティの「文書変更の許可」設定
内容のコピーと抽出	1) 帳票の出力時に指定した PDF ファイルのテキストとグラフィックスの選択許可指定
	2) 文書情報設定画面で指定したセキュリティの「互換性のある形式」で「Acrobat 5.0 およびそれ以降」を選択した場合の「テキストとグラフィックスの選択の許可」設定
注釈	1) 帳票の出力時に指定した PDF ファイルの変更許可指定
	2) 文書情報設定画面で指定したセキュリティの「互換性のある形式」で「Acrobat 5.0 およびそれ以降」を選択した場合の「文書変更の許可」設定
フォームフィールドの入力と署名	1) 帳票の出力時に指定した PDF ファイルの変更許可指定
	2) 文書情報設定画面で指定したセキュリティの「互換性のある形式」で「Acrobat 5.0 およびそれ以降」を選択した場合の「文書変更の許可」設定
アクセシビリティを有効にする	1) 帳票の出力時に指定した PDF ファイルのテキストとグラフィックスの選択許可指定
	2) 文書情報設定画面で指定したセキュリティの「互換性のある形式」で「Acrobat 5.0 およびそれ以降」を選択した場合の「テキストとグラフィックスの選択の許可」設定
文書アセンブリ	1) 帳票の出力時に指定した PDF ファイルの変更許可指定
	2) 文書情報設定画面で指定したセキュリティの「互換性のある形式」で「Acrobat 5.0 およびそれ以降」を選択した場合の「文書変更の許可」設定
テキストとグラフィックスの選択	1) 帳票の出力時に指定した PDF ファイルのテキストとグラフィックスの選択許可指定
	2) 文書情報設定画面で指定したセキュリティの「互換性のある形式」で「Acrobat 4.0 およびそれ以降」を選択した場合の「テキストとグラフィックスの選択の許可」設定
注釈とフォームフィールドの追加と変更	1) 帳票の出力時に指定した PDF ファイルの注釈とフォームフィールドの追加と変更許可指定
	2) 文書情報設定画面で指定したセキュリティの「互換性のある形式」で「Acrobat 4.0 およびそれ以降」を選択した場合の「注釈とフォームフィールドの追加と変更の許可」設定

表 3.4 Acrobat 5.0 の文書情報（埋め込みデータオブジェクト）画面

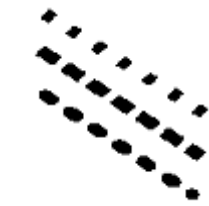
ファイルの情報	List Creator の帳票業務情報 / 帳票出力時の指定
埋め込みデータオブジェクト	1) 帳票の出力時に指定した PDF ファイルに添付する任意のファイル
	2) 文書情報設定画面で指定した文書管理の「PDF ファイルに添付するファイル名」設定

表 3.5 Acrobat 6.0/7.0/8.0/9.0 の文書情報（添付ファイル）画面

ファイルの情報	List Creator の帳票業務情報 / 帳票出力時の指定
添付ファイル	1) 帳票の出力時に指定した PDF ファイルに添付する任意のファイル 2) 文書情報設定画面で指定した文書管理の「PDF ファイルに添付するファイル名」設定

3.4 オーバレイに関する注意事項

- List Creator デザイナや MeFt 連携時に使用する FORM で作成した KOL6 形式オーバレイにおいて、斜線の端点が無条件に直角となります。

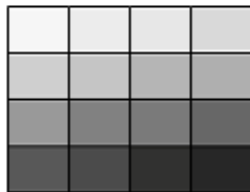


Acrobat での表示 / 印刷結果

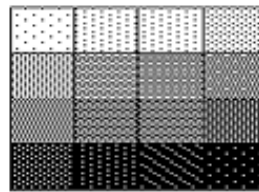
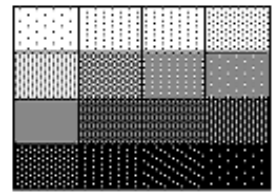
List Creator デザイナおよび
FORM での表示 / 印刷結果List Creator および MeFt
での印刷結果

- List Creator デザイナや FORM で作成した KOL5/KOL6 形式オーバレイにおいて、二値イメージデータは使用できません。Adobe Reader から印刷した場合、白黒が逆転する場合があります。

対処方法： Adobe Reader から印刷する場合は、多値イメージデータを使用する。
List Creator デザイナや FORM で作成した KOL5/KOL6 形式オーバレイにおいて、網がけパターンが指定と異なります。ただし濃度値の指定は有効となります。



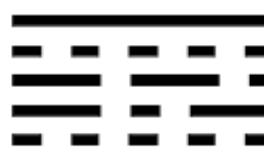
Acrobat での表示 / 印刷結果

List Creator デザイナおよび
FORM での表示 / 印刷結果List Creator および MeFt
での印刷結果

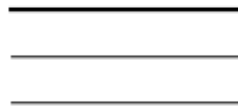
- List Creator デザイナや FORM で作成した KOL5/KOL6 形式オーバレイにおいて、実線以外の線種を指定した場合、間隔などのパターンが異なります。



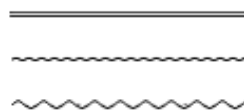
Acrobat での表示 / 印刷結果

List Creator デザイナおよび
FORM での表示 / 印刷結果List Creator および MeFt
での印刷結果

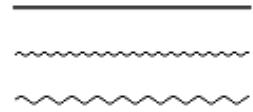
- List Creator デザイナや FORM で作成した KOL6 形式オーバーレイにおいて、波線 / 二重線は未サポートのため、実線に置き換えられます。



Adobe Reader での
表示 / 印刷結果



List Creator デザイナおよび
FORM での表示 / 印刷結果



List Creator および MeFt
での印刷結果

- List Creator デザイナや FORM で作成した KOL6 形式オーバーレイにおいて、矩形オーバーレイ文字は未サポートのため、表示されません。
- List Creator デザイナや FORM で作成した KOL6 形式オーバーレイにおいて、作成時に使用したフォントが List Creator の動作環境にインストールされており、フォントの登録処理がなされていない場合、フォント名称に「ゴシック」を含んでいないフォントは、明朝体に代替されます。また、テキスト項目で使用したフォントがインストールされていない場合には、すべて明朝体に代替されます。
- List Creator デザイナや FORM で作成した KOL6 形式オーバーレイにおいて、PDF フォント登録機能によって登録されたフォントによっては、下線の位置や文字の描画位置が印刷時と比較して若干ずれることがあります。

3.5 バーコードに関する注意事項

- カスタマバーコード、U.S. POSTNET には、バーコードの文字印刷を指定することはできません。帳票設計時にはバーコード項目の文字印刷を無効にしてください。
 - QR コードの分割は無効になります。
 - バーコードを使用した PDF ファイルを印刷する場合には 600dpi 以上の解像度のプリンタを使用してください。
 - バーコードは、用紙、リーダ、出力装置の解像度、および状態で精度が変わるため、実際の運用を行う前にバーコードを印刷し、読み込めることを確認してから使用してください。
 - Code 128 を出力する場合、項目長は 128 以内としてください。128 より大きい項目長を指定した場合は、帳票出力エラーとなります。
 - PDF 生成時、デフォルトでは、JIS や EAN などの規格として定められている細エレメント幅で出力します。また、細エレメント幅が定められていないコード種では、細エレメント幅を 0.264mm としてバーコードを出力させるため、帳票設計時に指定したバーコード項目のサイズで出力されない場合があります。
指定したバーコード項目のサイズで出力するためには、PDF 文書情報ファイル (“2.2.4 帳票出力時に使用する PDF 文書情報ファイルのキーワード説明”) の PDF-BARBOX=ON と指定するか、または List Creator デザイナの帳票業務情報のプロパティ画面の [ファイル] タブの文書情報設定画面で「バーコードを項目のサイズに収まるように出力する」の指定を行ってください。
上記操作によって、白バー/黒バーの幅、細エレメント幅、またはキャラクタ間ギャップなどが JIS 規格で定められているサイズより小さくなってしまう場合があります。お使いになるプリンタとバーコードリーダであらかじめ読み取り確認を行ってください。
なお、以下のバーコードの場合、「バーコードを項目のサイズに収まるように出力する」の指定は無効となります。
 - Code 3 of 9 (EIAJ 準拠) (*1)
 - カスタマバーコード
 - EAN-128 (コンビニエンスストア向け)
 - U.S. POSTNET (Delivery Point Code)、U.S. POSTNET (ZIP+4 Code)、U.S. POSTNET (5-Digit ZIP Code)
 - FIM A (U.S. Postal FIM)、FIM B (U.S. Postal FIM)、FIM C (U.S. Postal FIM)
- *1) Code 3 of 9 (EIAJ 準拠) は、List Creator デザイナのバーコード項目のプロパティの「EIAJ 詳細設定」画面上で指定する設定値が有効となります。
- バーコードの文字印刷部分の文字間隔は均等となりません。
 - バーコードの文字印刷部分の文字サイズは、バーコードの幅に比例した大きさを描画されます。
 - PDF417 バーコードは、簡易 PDF-417 (Truncated PDF417)、マイクロ PDF417 (Micro PDF417) 形式には対応していません。
 - JAN 標準バーコードのクワイエットゾーンは、左右同じ 11 モジュールで描画されます。



Acrobat での表示 / 印刷結果



List Creator および MeFt での印刷結果

3.6 PDF メール配信時の注意事項

3.6.1 作業ファイルの作成について

メール配信時には、以下の作業ファイルが作成されます。

帳票出力サーバが Windows の場合 : (List Creator インストールディレクトリ) ¥mailqueue 配下

帳票出力サーバが UNIX 系 OS の場合 : /var/opt/FJSVedoc/mailqueue 配下

正常時は、一時ファイルは自動削除されますが、エラー発生時には作業ファイルが残ります。

リトライ可能なエラーの場合は 30 秒おきに再送信を最大 60 回まで行い、エラー要因が解除された時点で作業ファイルは削除されます。

メールの宛先が誤っている場合は、作業ファイルが残るため、削除する必要があります。

3.6.2 帳票業務情報と電子メールソフトウェア機能の対応

List Creator で定義した帳票業務情報および帳票出力時に指定した情報は、関連ソフトウェア製品に引き継がれます。

ここでは、List Creator で定義した帳票業務情報が、関連ソフトウェア製品のどの画面のどの項目として表示されるかを示します。

PDF メール配信する場合は、以下を参照してください。

⇒“表 3.6 電子メールソフトウェア”

表 3.6 電子メールソフトウェア

メールの情報	List Creator の帳票業務情報 / 帳票出力時の指定
メールの宛先	1) 帳票の出力時に指定した PDF メール配信時の送信先メールアドレス 2) 帳票の出力時に指定した PDF メール配信情報ファイルで指定した送信先メールアドレス
メールの送信者 (アドレス)	1) 帳票の出力時に指定した PDF メール配信時の送信元メールアドレス 2) 帳票の出力時に指定した PDF メール配信情報ファイルの送信元メールアドレス ([MLF_Mail] セクション配下にある MLF_FromAddress キーワード) 3) 帳票の出力時に指定した PDF メール配信情報ファイルの送信元メールアドレス ([MLF_Mail] セクション配下にある MLF_EnvelopeFromAddress キーワード) 4) PDF メール配信環境設定ファイルの送信元メールアドレス ([MLF_Default] セクション配下にある MLF_FromAddress キーワード) 5) PDF メール配信環境設定ファイルの送信元メールアドレス ([MLF_Default] セクション配下にある MLF_EnvelopeFromAddress キーワード)
メールの送信者 (名前)	1) PDF メール配信時の送信元名 2) 帳票の出力時に指定した PDF メール配信情報ファイルの送信元名 ([MLF_Mail] セクション配下にある MLF_FromFullName キーワード) 3) PDF メール配信環境設定ファイルの送信元名 ([MLF_Default] セクション配下にある MLF_FromFullName キーワード)

付録 A

PDF 変換機能一覧

ここでは、PDF 変換を行う機能範囲について説明します。

A.1 ListCreator デザイナーによる帳票設計時のサポート一覧

A.1.1 帳票様式情報のサポート一覧

PDF ファイル保存を行う場合の帳票様式情報のサポート状況を示します。

表 A.1 帳票様式情報のサポート一覧 (1 / 8)

分類		対応	備考
用紙種別	連帳	×	
	単票	×	
用紙サイズ	A3	○	
	A4	○	
	A5	○	
	A6	○	
	B4	○	
	B5	○	
	はがき	○	
	Letter	○	
	Legal	○	
	任意	用紙名指定なし	○
用紙名指定あり		×	用紙名の指定の有無にかかわらず、帳票で指定した任意用紙サイズで出力されます。
用紙方向	縦	○	
	横	○	
行ピッチ	6LPI	○	
	8LPI	○	
	12LPI	○	
	任意	○	
区切り編集		○	
文字下線幅を自動調整する		○	
Unicode の文字を使用する		○	
互換	LP 縮刷	○	【Linux for x86 版】では未サポートです。
印刷範囲		×	
拡大 / 縮小印刷	拡大 / 縮小指定	○	
段組み印刷	2 段	○	
	4 段横	○	
	4 段縦	×	指定しても元のサイズで出力されます。
余白	とじしろ	左	×
		上	×
	用紙からの位置		×
オーバーレイ	オーバーレイを印刷する	○	

表 A.1 帳票様式情報のサポート一覧 (2 / 8)

分類		対応	備考	
バーコード情報	EAN-128 バーコードの AIコード規格	1996年規格	○	【Linux for x86 版】では未サポートです。
		2005年規格	○	
	キャラクタ間ギャップ幅		○	
	細太エレメント比		○	
	クワイエットゾーンの描画方法		○	
	ファンクションキャラクタ「FNC1」		×	
	制御コードの代替文字列指定		○	【Linux for x86 版】では未サポートです。
	入力データ長が項目長に満たない場合、 空白で埋める		○	【Linux for x86 版】では未サポートです。
禁則処理	禁則文字を指定する		○	
テキスト項目	入力データに ハイパーリンク情報を付加する		○	【Linux for x86 版】では未サポートです。
数字項目 テキスト項目 矩形テキスト項目 OCR-B 項目	集団印刷		△	数字項目の場合、集団印刷の印刷文字には、必ず 1バイト文字を指定してください。
固定リテラル項目 数字項目 テキスト項目 日付項目 時刻項目	フォント	日本語フォント	○	
		英文フォント	○	
		縦書きフォント	○	
		利用者定義文字	○	
	スタイル	標準	○	
		太字	○	
		斜体	○	
		太字斜体	○	
	サイズ	日本語フォント	○	
		英文フォント	○	
	横幅		○	
	ピッチ	日本語	○	
		英文	○	
	1.5ピッチ		○	数字項目では指定できません。
	文字を反時計回りに 90° 回転 (*1)		○	*1 : 【Linux for x86 版】では未サポートです。
	下線		○	
抹消線		○		
色		○		
数字項目	編集形式	数値	○	
		通貨	○	
		区切り	○	
		日付	△	「区切り」文字には、必ず 1 バイト文字を指定し てください。
		小数点抑止	○	
		小数部編集形式	○	

表 A.1 帳票様式情報のサポート一覧 (3 / 8)

分類		対応	備考	
テキスト項目	編集形式	標準	○	
		郵便	○	
固定リテラル項目 数字項目 テキスト項目 日付項目 時刻項目	文字配置	指定なし	○	
		両端揃え	○	
		均等配置	○	
		中央配置	○	
		圧縮	○	
		逆配置	○	
		前空白データを削除しない	○	
	領域内にデータが収まらない場合の対処	はみ出した部分は出力しない	○	【Linux for x86 版】では未サポートです。 *1: 数字項目、テキスト項目でのみ指定できます。
		文字などを詰めて全データを出力する	○	
		代替文字で出力する	○ (*1)	
	文字の向き	左から右	○	
		右から左	○	
		上から下	○	
		下から上	○	
	繰返し		○	日付項目、時刻項目では指定できません。
数字項目 テキスト項目 矩形テキスト項目	条件指定	○		
矩形固定リテラル項目 矩形テキスト項目	フォント	日本語フォント	○	
		英文フォント	○	
		縦書きフォント	○	
		利用者定義文字	○	
	スタイル	標準	○	
		太字	○	
		斜体	○	
		太字斜体	○	
	サイズ	日本語フォント	○	
		英文フォント	○	
	横幅		○	
	ピッチ	日本語	○	
		英文	○	
	下線		○	
	抹消線		○	
	色		○	
	繰返し		○	
行の高さ		○		
余白		○		

表 A.1 帳票様式情報のサポート一覧 (4 / 8)

分類		対応	備考	
矩形固定リテラル項目 矩形テキスト項目	配置	上揃え	○	
		下揃え	○	
	縦幅を拡張して出力		○	矩形テキスト項目でのみ指定できます。
	文字ピッチなどを縮小して出力	文字ピッチを先に縮小	○	
		行の高さを先に縮小	○	
矩形テキスト項目	項目内の配置	縦方向の配置	○	
	禁則処理	句読点のぶら下げ	○	
		ワードラップ	○	
		行頭／行末禁則	○	
		追い出し後の両端揃え	○	
		折返し後の行頭空白抑止	○	
OCR-B 項目		×	OCR-B 文字の読み取りについては保証していません。	
ラジオボタン項目		○		
チェックボックス項目		○		

表 A.1 帳票様式情報のサポート一覧 (5 / 8)

分類		対応	備考	
バーコード項目	バーコード種別	JAN 標準	○ (*1)	指定された範囲よりも大きくまたは小さく出力される場合があります。 *1:「フラグキャラクタを下に印刷する」を指定しなくてもバーコードの下にフラグキャラクタが出力されます。
		JAN 短縮	○	
		Code 3 of 9	○	
		Code 3 of 9 (EIAJ 準拠)	○	
		Industrial 2 of 5	○	
		Interleaved 2 of 5 (ITF)	○	
		NW-7	○	指定された範囲よりも大きくまたは小さく出力される場合があります。 *1:「文字印刷」を指定しないでください。指定しても文字は印刷されません。
		カスタマバーコード	○ (*1)	
		Code 128	○	
		EAN-128	○	
		EAN-128 (コンビニエンスストア向け)	○	
		UPC バージョン A	○	
		UPC バージョン E	○	
		EAN-13	○ (*1)	指定された範囲よりも大きくまたは小さく出力される場合があります。 *1:「フラグキャラクタを下に印刷する」を指定しなくてもバーコードの下にフラグキャラクタが出力されます。
		U.S. POSTNET (Delivery Point Code)	○ (*1)	*1:「文字印刷」を指定しないでください。指定しても文字は印刷されません。
		U.S. POSTNET (ZIP+4 Code)	○ (*1)	
		U.S. POSTNET (5-Digit ZIP Code)	○ (*1)	
		QR Code (モデル 1)	○	
		QR Code (モデル 2)	○	
		QR Code (マイクロ QR)	○	【Linux for x86 版】では未サポートです。
		PDF417	○	【Linux for x86 版】では未サポートです。
		MaxiCode	○	【Linux for x86 版】では未サポートです。
		FIM A (U.S. Postal FIM)	○	
FIM B (U.S. Postal FIM)	○			
FIM C (U.S. Postal FIM)	○			
Intelligent Mail Barcode	○			
GS1 DataBar Omnidirectional	○			

表 A.1 帳票様式情報のサポート一覧 (6 / 8)

分類		対応	備考	
バーコード項目	バーコード種別	GS1 DataBar Truncated	○	
		GS1 DataBar Stacked	○	
		GS1 DataBar Stacked Omnidirectional	○	
		GS1 DataBar Limited	○	
		GS1 DataBar Expanded	○	
		GS1 DataBar Expanded Stacked	○	
	印刷方向	0°	○	*1: 印刷時と出力結果が異なります。帳票様式定義画面で領域を出力イメージと同じになるよう縦長で定義してください。また、必ず出力結果を確認してください。 *2: カスタマバーコードの場合、「印刷方向」に「180°」を指定した場合、「0°」が指定されたものとして出力されます。また、「270°」を指定した場合、「90°」が指定されたものとして出力されます。
		90°	△ (*1)	
		180°	△ (*2)	
		270°	△ (*1) (*2)	
	文字印刷		○	バーコードの下に出力されるデータの位置は印刷時と異なります。
	チェックキャラクタ		○	
	チェックキャラクタ (文字) の印字抑止		○	【Linux for x86 版】では未サポートです。
	フラグキャラクタ		○	
	QR Code 詳細設定	誤り訂正比率	○	
		分割方向	○	
		分割数	×	指定は無効となります。指定しても分割されず、1つで出力されます。
	MaxiCode 詳細設定	誤り訂正レベル	○	【Linux for x86 版】では未サポートです。
	GS1 DataBar Expanded Stacked 詳細設定	段数	○	
	詳細設定	指定範囲に収まるように出力する	○	【Linux for x86 版】では未サポートです。
		項目の範囲内での配置位置	○	
		細エレメント幅	○	
		モジュール幅	○	
		バーの高さ	○	
		細太エレメント比	○	
		キャラクタ間ギャップ幅	○	
	クワイエットゾーンの描画方法	○		
繰返し		○		

表 A.1 帳票様式情報のサポート一覧 (7 / 8)

分類		対応	備考	
組込みメディア項目	メディア種	ビットマップ	○ Windows BMP 形式が扱えます。	
		JPEG	○ デジタル静止画像圧縮形式 (JPEG 形式) の基本 DCT 方式 (ベースライン JPEG)、および拡張 DCT 方式 (プログレッシブ JPEG) が扱えます。	
		TIFF	○ TIFF6.0 形式が扱えます。	
		OLE2	× 指定すると帳票の出力時にエラーになります。	
		PNG	○	
		グラフデータ	○ グラフデータの詳細については、オンラインマニュアル“帳票設計編”を参照してください。	
	クリッピング		○ (*1)	印刷時と出力結果が異なります。必ず出力結果を確認してください。 *1: クリッピングと中央表示を同時に指定すると、正しい大きさをクリッピングされず、表示場所も中央になりません。
		メディアデータの解像度で出力する	○	
	中央表示	○ (*1)	*1: クリッピングと中央表示を同時に指定すると、正しい大きさをクリッピングされず、表示場所も中央になりません。	
	透過	○		
繰返し	○			
日付項目		○		
時刻項目		○		
郵便番号項目		×	正しく出力されません。	
パーティション罫線	線種	実線、点線、破線、一点鎖線、長破線、長鎖線、長二点鎖線、任意線	○	
		二重線、波線 1、波線 2	×	実線で出力されます。
	線端	平面	△	四角で出力される場合があります。
		四角	○	
		円	○	
	線幅	○		
	線色	○		
	丸め	○		
	網がけ	○	領域が塗りつぶされます。複数の網がけを重ねる場合は、出力結果を確認してください。	
パターン	○			

表 A.1 帳票様式情報のサポート一覧 (8 / 8)

分類		対応	備考	
オーバーレイ文字 (KOL6)	フォント	日本語フォント	○	
		英文フォント	○	
		縦書きフォント	○	
		利用者定義文字	○	
	スタイル	標準	○	
		太字	○	
		斜体	○	
太字斜体		○		
オーバーレイ文字 (KOL6)	サイズ	○		
	横幅	○		
	文字間隔	○		
	下線	○		
	色	○		
	文字配置	指定なし	○	
		両端揃え	○	
		中央配置	○	
		右揃え	○	
		文字幅の自動調整	○	
		文字範囲	○	
	文字の向き	左から右	○	
		右から左	○	
上から下		○		
下から上		○		
矩形オーバーレイ文字 (KOL6)		×	指定しても出力されません。	
直線 / 枠 / 円 / 楕円 (KOL6)	線種	実線、点線、破線、 一点鎖線、長破線、 長鎖線、任意線、 長二点鎖線、	○	
		二重線、 波線 1、波線 2	×	実線で出力されます。
	線幅		○	
	線色		○	
	線端	平面、四角、円	△	平面を指定しても四角で出力される場合があります。
	網がけ	(枠、円、楕円)	○	領域が塗りつぶされます。複数の網がけを重ねる場合は、出力結果を確認してください。
	丸め	(枠)	○	
	位置、サイズ、 パターン	(枠)	○	
	中心、半径	(円、楕円)	○	
	開始位置、 終了位置	(直線)	○	
イメージ (KOL6)		○	Windows BMP 形式が扱えます。	

- ：定義が有効となる項目
 △：条件付きで定義が有効となる項目
 ×：定義が無効となる項目

A.1.2 帳票業務情報のサポート一覧

PDF ファイル保存を行う場合の帳票業務情報のサポート状況を示します。

表 A.2 帳票業務情報のサポート一覧 (1 / 2)

分類		対応	備考		
格納先ファイル名		○			
バーコード補正情報		○			
文書情報	概要	サブタイトル	○		
		作成者	○		
	セキュリティ	互換性のある形式	○	【Linux for x86 版】では未サポートです。	
		暗号化レベル	○	- 「互換性のある形式」で Acrobat のバージョンを指定すると暗号化レベルが表示されます。 - Acrobat のバージョンによって暗号化レベルは異なります。 - 【Linux for x86 版】では未サポートです。	
		印刷の許可指定	○		
		文書変更の許可指定	○		
		テキストとグラフィックスの選択許可指定	○		
		注釈とフォームフィールドの追加と変更の許可指定	○		
	閲覧制限	URI による閲覧制限を行う	閲覧可能なサイト	○	【Linux for x86 版】では未サポートです。
			URI による閲覧制限時に表示されるメッセージ	○	
		期間による閲覧制限を行う	開始日時、終了日時による閲覧制限を行う	○	
			日数による閲覧制限を行う	○	
			期間による閲覧制限時に表示するメッセージ	○	
	文書管理	文字の埋め込み		○	
JPEG 圧縮時の品質		○			
PDF ファイルに添付するファイル名		○			
バーコードを項目のサイズに収まるよう出力する		○			

表 A.2 帳票業務情報のサポート一覧 (2 / 2)

分類		対応	備考		
文書情報	動作	ツールバーを表示する	○		
		メニューバーを表示する	○		
		全画面で表示する	○		
		PDF ファイルの自動印刷を行う	文書を開くと同時に印刷ダイアログを表示する	△	閲覧制限が設定されている場合は、無効となります。
			文書を開くと同時に印刷する	△	
		閲覧制限時の動作	文書を閉じる	○	【Linux for x86 版】では未サポートです。
			ページをマスクする	○	

○ : 定義が有効となる項目

△ : 条件付きで定義が有効となる項目

A.1.3 出力できる文字について

PDF ファイル保存できる文字コードについて説明します。

A.1.3.1 帳票に指定できる文字

Unicode の文字を使用できる帳票定義情報を設計する場合、Unicode の範囲の文字を指定できます。

Unicode の文字を使用しない帳票定義情報を設計する場合、帳票設計時に指定できる文字は、Shift-JIS (Windows で表示できる文字) の範囲です。

以下に、Unicode の文字を使用しない帳票定義情報を設計する場合に、帳票に指定できる文字を示します。

表 A.3 帳票設計時に指定できる文字 (1 / 2)

文字種	文字コード範囲 (16 進)	対応 状況	備考
JIS 非漢字	8140 ~ 84FC	◎	—
JIS 第一水準漢字	889F ~ 989E	◎	- 83 年度 JIS で字体変更された文字は、新字体で出力されます。 詳細については、オンラインマニュアル“環境設定・帳票運用編”を参照してください。
JIS 第二水準漢字	989F ~ EAFC	◎	

表 A.3 帳票設計時に指定できる文字 (2 / 2)

文字種	文字コード範囲 (16進)	対応 状況	備考
他社文字 NEC 特殊文字 (①、罫など)	8740 ~ 879E	△	<ul style="list-style-type: none"> - 入力データの文字コード系により以下のように異なります。 <ul style="list-style-type: none"> ・ Shift-JIS : すべての文字が出力できます。 ・ EUC (U90) : オーバレイ文字以外は Shift-JIS コード系で出力できない NEC 特殊文字の 14 文字は出力できません。オーバレイ文字は、すべての文字が出力できます。
IBM 拡張文字	FA40 ~ FCFC	△	
NEC/IBM 選定文字	ED40 ~ EEFC	△	
利用者定義文字	F040 ~ F9FC	○	<ul style="list-style-type: none"> - 入力データが EUC (S90) の場合、オーバレイ文字以外は出力できません。

◎ : 出力可能

○ : Charset Manager をインストールすることで出力可能

△ : 出力可能だが、一部出力不可能

A.1.3.2 帳票の文字コード変換

入力データの文字コード系が EUC の場合は、帳票を作成する Windows 上で帳票の文字コード変換を行い、あらかじめ EUC コード系にしておく必要があります。

入力データの文字コード系が UNICODE (UTF8) の場合は、帳票を作成する Windows 上で帳票の文字コード変換を行い、あらかじめ UNICODE (UTF8) コード系にしておく必要があります。

なお、入力データが EUC (S90) の場合は、帳票を文字コード変換する Windows 上に Charset Manager をインストールして、文字コード変換する必要があります。

帳票の文字コード変換については、オンラインマニュアル“環境設定・帳票運用編”を参照してください。

A.1.3.3 入力データに指定できる文字

●入力データが Shift-JIS の場合

入力データが Shift-JIS の場合に指定できる文字は次のとおりです。

表 A.4 入力データが Shift-JIS のときに指定できる文字 (1 / 2)

文字種	文字コード範囲 (16進)	対応 状況	備考
JIS 非漢字	8140 ~ 84FC	◎	—
JIS 第一水準漢字	889F ~ 989E	◎	<ul style="list-style-type: none"> - 83 年度 JIS で字体変更された文字は、新字体で出力されます。 詳細については、オンラインマニュアル“環境設定・帳票運用編”を参照してください。
JIS 第二水準漢字	989F ~ EAFC	◎	

表 A.4 入力データが Shift-JIS のときに指定できる文字 (2 / 2)

文字種	文字コード範囲 (16進)	対応 状況	備考	
他社文字	NEC 特殊文字 (①、㊦など)	8740 ~ 879E	◎	—
	IBM 拡張文字	FA40 ~ FCFC	◎	—
	NEC/IBM 選定文字	ED40 ~ EEFC	◎	—
利用者定義文字	F040 ~ F9FC	○	—	

◎ : 出力可能

○ : Charset Manager をインストールすることで出力可能

● 入力データが EUC (U90) の場合

入力データが EUC (U90) の場合に指定できる文字は次のとおりです。

表 A.5 入力データが EUC (U90) のときに指定できる文字

文字種	文字コード範囲 (16進)	対応 状況	備考
JIS 非漢字	A1A1 ~ A8FE	◎	—
JIS 第一水準漢字	B0A1 ~ CFFE	△	- 83 年度 JIS で字体変更された文字は、一部の旧字体で出力され、その他は () に置き換わります。 詳細については、オンラインマニュアル“環境設定・帳票運用編”を参照してください。
JIS 第二水準漢字	D0A1 ~ F4FE	△	出力されない旧字体は、Charset Manager の文字コード変換表カスタマイズ機能を使用することで、例えば EUC(U90) の旧字体を 83 年度 JIS の新字体に対応付けを行うことで、新字体で出力することができます。
OASYS 拡張文字	F7A1 ~ FDFE	△	- UNICODE に存在する文字は出力されます。UNICODE に存在しない文字は、() に置き換わります (PDF ファイル保存時に UNICODE に変換されるためです)。
JEF 拡張漢字	8FA1A1 ~ 8FD0FE	△	
JEF 拡張非漢字	8FD1A1 ~ 8FDCFE	△	
利用者定義文字	8FDDA1 ~ 8FFDFE	○	—

◎ : 出力可能

○ : Charset Manager をインストールすることで出力可能

△ : 出力可能だが、一部出力不可能

●入力データが EUC (S90) の場合

入力データが EUC (S90) の場合に指定できる文字は次のとおりです。

表 A.6 入力データが EUC (S90) のときに指定できる文字

文字種	文字コード範囲 (16 進)	対応 状況	備考
JIS 非漢字	A1A1 ~ A8FE	◎	—
JIS 第一水準漢字	B0A1 ~ CFFE	◎	- 83 年度 JIS で字体変更された文字は、新字体で出力されます。 詳細については、オンラインマニュアル“環境設定・帳票運用編”を参照してください。
JIS 第二水準漢字	D0A1 ~ F4FE	◎	
他社文字 NEC 特殊文字 (①、㊿など)	ADA1 ~ ADFC	◎	—
利用者定義文字	F5A1 ~ FEFE	○	—

◎：出力可能

○：Charset Manager をインストールすることで出力可能



- EUC (S90) の場合、IBM 拡張文字および NEC/IBM 選定文字は使用できません。
注意 - CharsetMGR-A 5.0 以前を使用する場合、NEC 特殊文字は使用できません。

●入力データが UNICODE (UTF8) の場合

UNICODE (UTF8) の文字コード系で作成した入力データを PDF ファイル保存する場合、すべての文字が出力できます。

なお、利用者定義文字は、Charset Manager をインストールすることで出力できます。

利用者定義文字の出力方法については、以下を参照してください。

⇒“2.1.9 外字を使用した PDF の出力方法”

A.1.4 その他の留意事項

帳票様式情報設計時

- 入力データが EUC コード系で、半角カナを使用する場合、項目長に「実際に出力する文字数×2」の長さを指定してください。また、入力データが UNICODE (UTF8) コード系で、日本語文字（半角カタカナを含む）を使用する場合、項目長に「実際に出力する文字数×3」の長さを指定してください。
項目長が短い場合、文字列が途中で切れて出力される場合があります。
項目長は、帳票様式定義画面で、該当する項目を選択し、[書式] - [プロパティ] を選択して表示されるプロパティ画面で設定します。

A.2 PDF 変換機能一覧

ここでは、PDF 変換を行う機能範囲について説明します。

表 A.7 PDF 変換機能一覧

印刷サイズ	任意		
用紙方向	縦		
	横		
印刷範囲	任意		
レイアウト	2 UP		
	4 UP		
	9 UP		
フォント	日本語フォント (PDF フォント未登録時)	明朝体	エンベッド時 : FUJ 明朝体
			非エンベッド時 : MS 明朝
		P 明朝体プロ ポーションナル	エンベッド時 : FUJ 明朝体
			非エンベッド時 : MS 明朝
		ゴシック体	エンベッド時 : FUJ ゴシック体
			非エンベッド時 : MS ゴシック
		P ゴシック体プロ ポーションナル	エンベッド時 : FUJ 明朝体
			非エンベッド時 : MS 明朝
	縦書きフォント (PDF フォント未登録時)	明朝体	エンベッド時 : @FUJ 明朝体
			非エンベッド時 : @MS 明朝
		P 明朝体プロ ポーションナル	エンベッド時 : FUJ 明朝体
			非エンベッド時 : MS 明朝
		ゴシック体	エンベッド時 : @FUJ ゴシック体
			非エンベッド時 : @MS ゴシック
		P ゴシック体プロ ポーションナル	エンベッド時 : FUJ 明朝体
			非エンベッド時 : MS 明朝
PDF フォント登録	任意の TrueType フォントを使用することができます。		
バーコード用フォント	OCRB/MS ゴシック (Code 3 of 9 (EIAJ 準拠) のみ)		
スタイル	標準		
	太字		
	斜体		
	太字斜体		
サイズ	任意		
色	約 1,670 万色		
文字列方向	○		
JIS X0213:2004	△	JIS X 0208:1990 から JIS X 0213:2004 にて追加された文字は未対応 ⇒ “2.1.2 帳票設計時のフォントを PDF 中に使用する”	

イメージ	種 別	ビットマップ	○	Windows BMP 形式
		JPEG	○	ベースライン、プログレッシブ形式
		TIFF	○	TIFF6.0 形式
		OLE2 オブジェクト	×	
		PNG	○	
		グラフデータ	○	
		透過機能	○	⇒ “3.3.9 イメージ透過機能”
		メディアデータの解像度で出力	○	
線 種	種 別	実 線	○	
		点 線	○	
		破 線	○	
		一点鎖線	○	
		長破線	○	
		長鎖線	○	
		長二点鎖線	○	
		任意線	○	
		二重線	×	実線に代替
		波 線	×	実線に代替
	線 端	バット	○	
		ラウンド	○	
		スクエア	○	
	線 幅	任 意		
	線 色	約 1,670 万色に加え、42 種類の網がけパターン		
	円 弧	線 色	約 1,670 万色に加え、42 種類の網がけパターン	
	だ円弧	線 色	約 1,670 万色に加え、42 種類の網がけパターン	
	弓 形	線 色	約 1,670 万色に加え、42 種類の網がけパターン	
	矩 形	線 色	約 1,670 万色に加え、42 種類の網がけパターン	
	多角形	線 色	約 1,670 万色に加え、42 種類の網がけパターン	
自由曲線	○			

バーコード	種 別	標準物流		
		拡張物流		
		JAN 標準		
		JAN 短縮		
		Code 3 of 9		
		Code 3 of 9 (EIAJ 準拠)		
		Industrial 2 of 5		
		Interleaved 2 of 5 (ITF)		
		NW-7		
		カスタマバーコード		
		Code 128		
		EAN-128		
		EAN-128 (コンビニエンスストア向け)		
		UPC バージョン A		
		UPC バージョン E		
		EAN-13		
		U.S. POSTNET (Delivery Point Code)		
		U.S. POSTNET (ZIP+4 Code)		
		U.S. POSTNET (5-Digit ZIP Code)		
		QR Code (モデル 1)		
		QR Code (モデル 2)		
		QR Code (マイクロ QR)		
		PDF417		
		MaxiCode		
		FIM A (U.S. Postal FIM)		
		FIM B (U.S. Postal FIM)		
		FIM C (U.S. Postal FIM)		
		Intelligent Mail Barcode		
		GS1 DataBar Omnidirectional		
		GS1 DataBar Truncated		
		GS1 DataBar Stacked		
		GS1 DataBar Stacked Omnidirectional		
		GS1 DataBar Limited		
	GS1 DataBar Expanded			
	GS1 DataBar Expanded Stacked			
	配置方向		0 度	
			90 度	
			180 度	
			270 度	
	文字印刷		△	カスタマバーコード、U.S. POSTNET、QR Code、PDF417、MaxiCode は不可
	チェックキャラクタ		△	帳票定義情報設計時、チェックキャラクタの有無が設定できないバーコード種別があります

バーコード	EAN-128 (コンビニエンスストア向け) 補正機能	○		
オーバーレイ (KOL1)	ファイル形式 (イメージデータ)	富士通オーバーレイ形式 (KOL1)		
オーバーレイ (KOL5)	ファイル形式	富士通オーバーレイ形式 (KOL5)		
		文 字	日本語 フォント	明朝体
	ゴシック体		エンベッド時 : FUJ ゴシック体 非エンベッド時 : MS ゴシック	
	外 字	○	Charset Manager 連携	
	スタイル	標 準	○	
		斜 体	○	
		長 体	△	文字間隔を設定したとき、オーバーレイ定義と異なる場合があります
		平 体	△	文字間隔を設定したとき、オーバーレイ定義と異なる場合があります
		半 角	○	
		倍 角	○	
		文字間隔	△	長体 / 平体のとき、オーバーレイ定義時と異なる場合があります
		サイズ	任 意	
		色	○	
	文字列 方向	位 置	○	
		文字列	○	
		右	○	
		左	○	
		上	○	
		下	○	
	図 形	線 種	実 線	○
			点 線	○
			破 線	○
			一点鎖線	○
任意線			○	
線 端		○	⇒ “3.4 オーバレイに関する注意事項”	
線 幅		任 意		
線 色		○		
網がけ		○		
角丸め		○		

オーバレイ (KOL6)	ファイル形式		富士通オーバレイ形式 (KOL6)		
	文字	日本語 フォント	明朝体	エンベッド時 : FUJ 明朝体	非エンベッド時 : MS 明朝
			P 明朝体	エンベッド時 : FUJ 明朝体	非エンベッド時 : MS 明朝
			ゴシック体	エンベッド時 : FUJ ゴシック体	非エンベッド時 : MS ゴシック
			P ゴシック体	エンベッド時 : FUJ ゴシック体	非エンベッド時 : MS ゴシック
			その他	⇒ “3.4 オーバレイに関する注意事項”	
			縦書き フォント	明朝体	エンベッド時 : @FUJ 明朝体
		P 明朝体	エンベッド時 : @FUJ 明朝体	非エンベッド時 : @MS 明朝	
		ゴシック体	エンベッド時 : @FUJ ゴシック体	非エンベッド時 : @MS ゴシック	
		P ゴシック体	エンベッド時 : @FUJ ゴシック体	非エンベッド時 : @MS ゴシック	
		欧文	明朝 / ゴシック体に代替		
		外字	○	Charset Manager 連携	
		スタイル	標準	○	
	太字		○		
	斜体		○		
	太字斜体		○		
	サイズ		任意		
	下線		△	横書き文字かつ文字列方向 “右” 以外は不可	
	色		約 1,670 万色		
	文字列 方向	位置	○		
		文字列	○		
		右	○		
		左	○		
		上	○		
		下	○		
	矩形オーバレイ文字		×		
	図形	線種	実線	○	
点線			○		
破線			○		
一点鎖線			○		
長破線			○		
長鎖線			○		
長二点鎖線			○		
任意線			○		
二重線			×	実線に代替	
波線			×	実線に代替	

オーバレイ (KOL6)	図形	線端	バット	○	⇒ “3.4 オーバレイに関する注意事項”	
			ラウンド	○		
			スクエア	○		
	文字	線幅		任意		
		線色		約 1,670 万色		
		網がけ		△	濃度階調で表現	
	イメージ	ビットマップ		○	Windows BMP 形式	
		JPEG		○	ベースライン、プログレッシブ形式	
		TIFF		○	TIFF6.0 形式	
		OLE2 オブジェクト		×		
PNG		○				
PDF 操作コマンド				△	Windows のみサポート	
連携製品	List Works		△	Windows/Solaris/ Linux for Itanium のみサポート		
	MeFt		○			
	Charset Manager		△	印刷資源管理での外字連携は、 Windows/Solaris のみサポート		
	Server 2000 ホスト連携プレミアム		△	Windows/Solaris のみサポート		
	SecurePackage		△	Windows のみサポート		

○：サポート

△：一部、未サポート

×：未サポート

表 A.8 PDF メール配信機能一覧

メールメッセージの配信時変更	○	
メールテンプレートによる定型メール送信	○	
From ヘッダへのアドレス記載	○	
From ヘッダフィールドへの名前記載	○	
カーボンコピー (CC) 送信先指定	○	
ブラインドカーボンコピー (CC) 送信先指定	○	
分割メール送信	○	
署名機能	△	Windows/Solaris のみサポート
S/MIME 形式の暗号メール機能	△	Windows/Solaris のみサポート
SecurePackage 連携	△	Windows のみサポート
認証が必要な SMTP サーバ	×	
複数の SMTP サーバ	○	10 多重まで可能
DSN 配信状況の通知	△	送信経路で中継される全ての SMTP サーバが DSN 対応している 場合のみ

○：サポート

△：一部、未サポート

×：未サポート

付録 B

PDF 手元非表示印刷機能 Web サーバサンプルプログラム

ここでは、PDF 手元非表示印刷機能 Web サーバサンプルプログラムについて説明します。

B.1 Java インタフェース版サンプルプログラム

● HTML サンプルプログラム

```
<HTML>
<H2>Listcreator PDF 手元非表示印刷プログラムサンプル (Java)</H2>

<!-- フォームデータを送信して、Web サーバサイドの Java Servlet を起動します。-->
<!-- 注意 : 「somehost:8100」の部分は、ご使用の Web サーバ、および Servlet のポート番号に合わせて変更ください -->
<FORM METHOD="POST" ACTION="http://somehost:8100/servlet/sample">
<INPUT TYPE="RADIO" NAME="printWay" VALUE="silent" CHECKED> サイレント印刷 <BR>
<INPUT TYPE="RADIO" NAME="printWay" VALUE="dialog"> プリンタ選択ダイアログ表示印刷
<BR>
<INPUT TYPE="RADIO" NAME="printWay" VALUE="showpdf">PDF を画面表示 <BR>
<BR>
<INPUT TYPE="SUBMIT" VALUE="印刷">
</FORM>

</HTML>
```

● Java サンプルプログラム

```

/*
 * PDF 手元非表示印刷サンプル (Java Servlet 版)
 *
 * Copyright (c) 2001-2008 PFU LIMITED, Fujitsu LIMITED. All rights reserved
 *
 *
 **
 ** 本サンプルは、Listcreator EE 版に添付されたサンプル「URIAGE」を
 ** 使って、PDF ファイルを動的に生成し、ブラウザに復帰します。
 ** ブラウザに PDF ファイルを復帰するとき、パラメタで指定された印刷方法に
 ** 従って、PDF ファイル名の拡張子を以下のように変更します。
 ** サイレント印刷          .pd1
 ** プリンタ選択ダイアログ表示印刷 .pd2
 ** PDF ファイルを画面表示      .pdf
 ** PDF 手元非表示印刷を実行するには、Web サーバと Web ブラウザの環境設定を
 ** あらかじめ行ってください。設定内容については、本サンプルが掲載された
 ** マニュアルを参照ください。
 **
 **
 ** 本サンプルを動作させるには、あらかじめ以下の設定が必要です。
 ** ? ディレクトリ名や、ファイルの配置ディレクトリについては、
 **   ご使用の環境に合わせて変更ください。
 **   ・ディレクトリの作成
 **   以下の構成でディレクトリの作成とファイルの配置を行います
 **   sample¥                サンプル用ディレクトリ
 **   +----pdfout¥           PDF ファイルの出力先
 **   ・「/local/sample」ディレクトリを、「/sample」仮想ディレクトリに
 **     設定する。
 **   ・本ソースをコンパイルした .class ファイルを、/servlet/sample で
 **     呼び出せるように、servlet 環境の設定、および .class ファイルの
 **     配置を行う。
 **   ・「/local/sample/pdfout」ディレクトリに、全てのユーザに書込権を与える。
 **   ・「/opt/FJSVoast/Samples」ディレクトリに帳票を配置する。
 **
 */

import java.io.*;
import javax.servlet.*;
import javax.servlet.http.*;
import com.fujitsu.systemwalker.outputassist.connector.*;

public class sample extends HttpServlet
{
    public void doPost(HttpServletRequest request,
        HttpServletResponse response ) throws IOException {
        Forms form = null;          /* Forms クラス */
        String sAssets;            /* 帳票格納ディレクトリ名 */
        String sPdfDir;           /* PDF ファイル格納ディレクトリ名 */
        String sPdfLocation;      /* PDF 格納先 URL */

        sAssets = "/opt/FJSVoast/Samples";
        sPdfDir = "/local/sample/pdfout";
        sPdfLocation = "/sample/pdfout";

        try{
            /* 帳票名を設定する */
            String sFormName = "URIAGE";

```

(続く)

```

/* Forms クラスを作成する */
form = new Forms( sFormName, sAssets );

/* 入力データを指定します */
form.pushRecord("2118588| 神奈川県川崎市中原区 | 上小田中 X-X-X| △△△△電気
|20031221|03101|005|0020| カラーテレビ |3|120000|1234567890");
form.pushRecord("2118588| 神奈川県川崎市中原区 | 上小田中 X-X-X| △△△△電気
|20031221|03101|005|0022| カラオケセット |1|82000|1234567890");
form.pushRecord("2118588| 神奈川県川崎市中原区 | 上小田中 X-X-X| △△△△電気
|20031221|03101|005|0100| 電気掃除機 |2|23000|1234567890");
form.pushRecord("2118588| 神奈川県川崎市中原区 | 上小田中 X-X-X| △△△△電気
|20031221|03101|005|0001| 電気スタンド |7|10000|1234567890");
form.pushRecord("1008211| 東京都千代田区 | 丸の内 Y-Y-Y| ○○○○電気
|20031221|03102|005|0100| 電気掃除機 |2|23000|1234567890");
form.pushRecord("1008211| 東京都千代田区 | 丸の内 Y-Y-Y| ○○○○電気
|20031221|03102|005|0110| 冷蔵庫 |2|125000|1234567890");
form.pushRecord("1008211| 東京都千代田区 | 丸の内 Y-Y-Y| ○○○○電気
|20031221|03102|005|0201| 電気カーペット |5|10000|1234567890");
form.pushRecord("1008211| 東京都千代田区 | 丸の内 Y-Y-Y| ○○○○電気
|20031221|03102|005|0211| 電気ストーブ |3|5000|1234567890");
form.pushRecord("1008211| 東京都千代田区 | 丸の内 Y-Y-Y| ○○○○電気
|20031221|03102|005|0221| 電気ごたつ |3|7800|1234567890");

/*---PrintProperties を設定する -----*/
File filepdf = null; /* 作成する PDF ファイルの File オブジェクト */

/* PrintProperties オブジェクトを構築する */
PrintProperties prop = new PrintProperties();

/* 印刷方法に応じて、ブラウザに復帰する PDF ファイルの
  拡張子を変更する */
String printWay = request.getParameter( "printWay" );
String ext;
if(printWay.equals("silent")) {
    ext = ".pd1";
}
else if(printWay.equals("dialog")) {
    ext = ".pd2";
}
else {
    ext = ".pdf";
}

/* 出力方法を指定する (PDF ファイル) */
prop.setProperty( PrintProperties.ID_DIRECTMETHOD,
PrintProperties.OUTPUTMODE_PDF );
/* PDF ファイル名を生成する */
filepdf = File.createTempFile( "tmp", ext, new File(sPdfDir) );
/* プロパティ指定 (PDF ファイル名) を行う */
prop.setProperty( PrintProperties.ID_KEEPPDF,filepdf.getPath() );

/*--- 帳票を出力する -----*/

/* PrintForm オブジェクトを作成する */
PrintForm pform = new PrintForm();

/* 帳票を出力する */
pform.PrintOut( form, prop );

String sHost = request.getHeader("Host");
int i;

```

```
/* 作成された PDF ファイルの URL を構築する */
/* ホスト名にポート番号が付加されている場合は、削除する */
i = sHost.lastIndexOf(':');
if(i >= 0) {
    sHost = sHost.substring(0,i);
}
String sUrl = "http://" + sHost + sPdfLocation
             + "/" + filepdf.getName();

/* PDF ファイルをブラウザに復帰する */
if(printWay.equals("showpdf")) {
    /* PDF を表示する場合 */
    /* コンテンツタイプを設定する */
    response.setContentType( "text/html" );

    /* PrintWriter オブジェクトを取得する */
    PrintWriter out = response.getWriter();

    /* 取得した PrintWriter オブジェクトを使って HTML を
       テキスト送信する */
    out.println( "<HTML><HEAD>" );
    out.println( "<META HTTP-EQUIV=¥\"Refresh¥\" CONTENT=¥\"0;URL=" + sUrl + "¥>" );
    out.println( "</HEAD></HTML>" );

    /* ストリームをクローズする */
    out.close();
}
else {
    /* PDF を手元非表示印刷する場合 */
    response.sendRedirect(sUrl); /* Location ヘッダを復帰する */
}
}catch ( ConnectorException e ){
    /* Java インタフェース使用時に発生する例外 */
    response.setContentType( "text/plain" );
    PrintWriter out = response.getWriter();
    out.println( "ERROR: " + e.getCode() );
    e.printStackTrace( out );
    out.close();
}catch ( Exception e ){
    response.setContentType( "text/plain" );
    PrintWriter out = response.getWriter();
    e.printStackTrace( out );
    out.close();
}finally {
    try{
        /* Java インタフェースが使用している資源を解放する */
        if ( form != null ){
            form.cleanup();
        }
    }catch ( Exception e ){
        e.printStackTrace();
    }
}
}
```


B.2 CFX カスタムタグインタフェース (ColdFusion MX) 版のサンプル

● HTML サンプルプログラム

```
<HTML>
<H2>Listcreator PDF 手元非表示印刷プログラムサンプル (CFX)</H2>

<!-- フォームデータを送信して、Web サーバサイドの ColdFusion アプリファイルを起動します。-->
<FORM METHOD="POST" ACTION="sample.cfm">
<INPUT TYPE="RADIO" NAME="printWay" VALUE="silent" CHECKED> サイレント印刷 <BR>
<INPUT TYPE="RADIO" NAME="printWay" VALUE="dialog"> プリンタ選択ダイアログ表示印刷
<BR>
<INPUT TYPE="RADIO" NAME="printWay" VALUE="showpdf">PDF を画面表示 <BR>
<BR>
<INPUT TYPE="SUBMIT" VALUE="印刷">
</FORM>

</HTML>
```

● ColdFusion サンプルプログラム

```

<!--
* PDF 手元非表示印刷サンプル (CFX 版)
*
* Copyright (c) 2001-2008 PFU LIMITED, Fujitsu LIMITED. All rights reserved
*
*
**
** 本サンプルは、Listcreator EE 版に添付されたサンプル「売上傳票」を
** 使って、PDF ファイルを動的に生成し、ブラウザに復帰します。
** ブラウザに PDF ファイルを復帰するとき、パラメタで指定された印刷方法に
** 従って、PDF ファイル名の拡張子を以下のように変更します。
** サイレント印刷 .pd1
** プリント選択ダイアログ表示印刷 .pd2
** PDF ファイルを画面表示 .pdf
** PDF 手元非表示印刷を実行するには、Web サーバと Web ブラウザの環境設定を
** あらかじめ行ってください。設定内容については、本サンプルが掲載された
** マニュアルを参照ください。
**
**
** 本サンプルを動作させるには、あらかじめ以下の設定が必要です。
** ? ディレクトリ名や、ファイルの配置ディレクトリについては、
** ご使用の環境に合わせて変更ください。
** ・ディレクトリの作成
** 以下の構成でディレクトリの作成とファイルの配置を行います
** D:¥pub¥sample¥          サンプル用ディレクトリ
**   +----cfx¥             HTML と ColdFusion
**                       ソースを格納する
**   +----pdfout¥         PDF ファイルの出力先
** ・「D:¥pub¥sample」ディレクトリを、「/sample」仮想ディレクトリに
** 割り当てる。
** ・「D:¥pub¥sample¥cfx」ディレクトリに実行可能権を与える
** ・「D:¥pub¥sample¥pdfout」ディレクトリに、全てのユーザに書込権を与える。
** ・Listcreator EE を、D:¥Listcreator ディレクトリにインストールする
**
--->

<!-- 帳票出力を行うための環境を設定する --->
<cfset method = "PDF">
<cfset assetsdir = "D:¥Listcreator¥Samples">
<cfset tmpdir = "D:¥Pub¥sample¥pdfout¥">
<cfset tmpdir_url = "/sample/pdfout/">

<!--PDF ファイルの出カクエリを作成する --->
<CFX_OAST_CONNECT
  ACTION="CREATE"
  NAME="PDF 出カクエリ "
  ASSETSDIRECTORY="#assetsdir#"
  FORMNAME=" 売上傳票 "
>  EE : Enterprise Edition

<!-- 帳票 (売上傳票) にレコードを設定する --->
<CFX_OAST_CONNECT
  ACTION="SETDATA"
  QUERY="PDF 出カクエリ "
  DATA="2118588| 神奈川県川崎市中原区 | 上小田中 X-X-X| △△△△ 電気
|20031221|03101|005|0020| カラーテレビ |3|120000|1234567890"
>

```

```

<CFX_OAST_CONNECT
  ACTION="SETDATA"
  QUERY="PDF 出カクエリ "
  DATA="2118588|神奈川県川崎市中原区|上小田中 X-X-X|△△△△電気
|20031221|03101|005|0022|カラオケセット |1|82000|1234567890"
>
<CFX_OAST_CONNECT
  ACTION="SETDATA"
  QUERY="PDF 出カクエリ "
  DATA="2118588|神奈川県川崎市中原区|上小田中 X-X-X|△△△△電気
|20031221|03101|005|0100|電気掃除機 |2|23000|1234567890"
>
<CFX_OAST_CONNECT
  ACTION="SETDATA"
  QUERY="PDF 出カクエリ "
  DATA="2118588|神奈川県川崎市中原区|上小田中 X-X-X|△△△△電気
|20031221|03101|005|0001|電気スタンド |7|10000|1234567890"
>

<!-- 印刷方法に応じて、ブラウザに復帰する PDF ファイルの拡張子を変更する --->
<cfif #printWay# EQ "silent">
  <cfset ext = ".pd1">      <!-- サイレント印刷 --->
<cfelseif #printWay# EQ "dialog">
  <cfset ext = ".pd2">      <!-- プリンタ選択ダイアログ表示印刷 --->
<cfelse>
  <cfset ext = ".pdf">      <!-- PDF ファイルを画面表示 --->
</cfif>

<!-- PDF ファイル名と URL を生成する --->
<cfset randval = #RandRange(100000,999999)#>
<cfset pdffile = #tmpdir# & "tmp" & #randval# & #ext#>
<cfset pdffile_url = "#tmpdir_url##GetFileFromPath(pdffile)#">

<!-- Listcreator で帳票を出力する --->
<CFX_OAST_CONNECT
  ACTION="OUTPUT"
  QUERY="PDF 出カクエリ "
  METHOD="#method#"
  PDF_KEEPFILE="#pdffile#"
>

<!-- 作成したクエリを破棄する --->
<CFX_OAST_CONNECT
  ACTION="DELETE"
  QUERY="PDF 出カクエリ "
>

<!-- PDF ファイルをブラウザに復帰する --->
<cfif #printWay# EQ "showpdf">
  <cfoutput>
    <HTML><META HTTP-EQUIV=Refresh CONTENT=0;URL="#pdffile_url#"></HTML>
  </cfoutput>
<cfelse>
  <cflocation URL="#pdffile_url#"> <!-- Location ヘッダを復帰する --->
</cfif>

```

付録 C

V9.0.1 以前の PDF 手元非表示印刷クライアント環境設定ツール

ここでは、V9.0.1 以前の PDF 手元非表示印刷クライアント環境設定ツールについて説明します。

C.1 V9.0.1 以前の PDF 手元非表示印刷を行う

PDF 変換機能を使って出力した PDF ファイルを、Web クライアントで自動的に印刷することが可能です。次の 2 種類の印刷を行うことができます。

- サイレント印刷
Web クライアントで通常使うプリンタとして定義されたプリンタに非表示で印刷します。
- プリンタ選択ダイアログ表示印刷
印刷実行前にプリンタ選択ダイアログボックスを表示し、ユーザが出力先プリンタを選択してから印刷を実行します。

以下の手順で V9.0.1 以前の PDF 手元非表示印刷の設定を行います。

- 1) Web サーバの環境設定
 - ・ MIME タイプの関連付けを行います。
設定の詳細については、以下を参照してください。
⇒“C.2.2 Web サーバの環境設定”
- 2) Web クライアントの環境設定
 - ・ オペレーティングシステムに PDF 手元非表示印刷用のファイルタイプの設定を行います。
設定の詳細については、以下を参照してください。
⇒“C.2.4.1 ファイルタイプの設定”
 - ・ Web ブラウザの設定を行います。
設定の詳細については、以下を参照してください。
⇒“C.2.3 V9.0.1 以前の PDF 手元非表示印刷クライアント環境設定ツール”

C.2 V9.0.1 以前の PDF 手元非表示印刷の環境設定

ここでは、V9.0.1 以前の PDF 手元非表示印刷を行うための Web サーバと Web クライアントの環境設定と、Web ブラウザに PDF ファイルをダウンロードさせるしくみについて説明します。

C.2.1 V9.0.1 以前の PDF 手元非表示印刷の環境設定概要

V9.0.1 以前の PDF 手元非表示印刷を行うための、環境設定の概要について説明します。

PDF 手元非表示印刷は、Web ブラウザが Web サーバからダウンロードした PDF ファイルを、ファイル名の拡張子 (MIME タイプ) に基づき、印刷方法に対応した方法で、Adobe Reader を起動することによって実行されます。これを実現させるためには、Web サーバと Web クライアントに環境設定する必要があります。

Web サーバ、および Web クライアントに設定する項目は、以下のとおりです。

- Web サーバ
ファイルの拡張子と、対応する MIME タイプの関連付けの定義
- Web クライアント
ファイルの拡張子に対応する、拡張子のファイルを開くときのコマンドライン定義

環境設定の詳細については、以下を参照してください。

⇒“C.2.2 Web サーバの環境設定”

⇒“C.2.4 Web クライアントの環境設定”

なお、これらの節では、以下を前提として説明しています。

- ファイルの拡張子

印刷方法と、対応する PDF ファイル名の拡張子の対応が以下であるとしてします。

印刷方法	拡張子
サイレント印刷	.pd1
プリンタ選択ダイアログ表示印刷	.pd2



注意

- ファイル名の拡張子については、ここで説明した値をそのまま使用してください。
- すでにシステムでこれらの拡張子が使用されている場合のみ、変更してください。

環境設定ツールを使用して、Web クライアントの環境設定を行う場合の詳細については、以下を参照してください。

⇒ [“C.2.3 V9.0.1 以前の PDF 手元非表示印刷クライアント環境設定ツール”](#)

Web クライアントの環境設定方法は、クライアントのオペレーティングシステムによって異なります。

オペレーティングシステム	V9.0.1 以前の PDF 手元非表示印刷クライアント環境設定ツール	Web クライアントの環境設定手順
Windows XP	○	○
Windows Server 2003	○	○
Windows Vista	○	×
Windows Server 2008	○	×

○ : 対応 × : 未対応

C.2.2 Web サーバの環境設定

ここでは、Web サーバに設定する項目について説明します。



備考

- ここで設定する内容は、“[C.2.1 V9.0.1 以前の PDF 手元非表示印刷の環境設定概要](#)” で説明したことを前提としています。

Web サーバには、ファイルの拡張子と、対応する MIME タイプの関連付けを設定する必要があります。設定が必要な、拡張子と対応する MIME タイプは、以下のとおりです。

拡張子	MIME タイプ	備考
.pd1	application/x-f3happ-f3s	サイレント印刷用定義
.pd2	application/x-f3happ-f3d	プリンタ選択ダイアログ表示印刷用定義

設定方法については、ご使用の Web サーバのマニュアルなどを参照してください。

C.2.3 V9.0.1 以前の PDF 手元非表示印刷クライアント環境設定ツール

V9.0.1 以前の PDF 手元非表示印刷クライアント環境設定ツールは、“[C.2.4 Web クライアントの環境設定](#)” で説明する環境設定と、同等の設定を行うツールです。このツールを Web クライアントに適用すると、PDF 手元非表示印刷に必要な情報を、オペレーティングシステムに登録します。

このツールはコマンド (setup.exe) として提供されており、このコマンドを実行することによって、クライアントの環境設定を行います。

このツールは、List Creator の製品媒体（CD-ROM）内の ¥PDFprint フォルダに、setup.exe として収められています。

[機能]

このコマンドを Web クライアントで実行することによって、PDF ファイルを Web ブラウザから非表示で印刷するための、Web クライアントの環境設定を行います。

[記述形式]

コマンドの記述形式を、以下に示します。

[] は、省略できることを示します。

```

setup.exe  [-a]
           [-sp サイレント印刷の拡張子]
           [-cp プリンタ選択ダイアログ表示印刷の拡張子]
           [-ui]

```

オプションについて説明します。

-a

以下に説明するオプション（-sp, -cp, -ui）を指定する場合に、このオプションを最初のオプションとして指定してください。このオプションの指定がない場合、またはこのオプションより前に指定されたオプションの指定は、無効となります。

-sp サイレント印刷の拡張子

このオプションは、サイレント印刷を実行するファイルの拡張子を指定します。3 バイトの文字列を指定してください。

指定可能な文字種は、半角英文字（a～z、A～Z）、または半角数字（0～9）です。文字に英大文字が指定された場合は、英小文字が指定されたとみなします。

このオプションが省略された場合は、サイレント印刷の拡張子として「pd1」が指定されたとみなします。

-cp プリンタ選択ダイアログ表示印刷の拡張子

このオプションは、プリンタ選択ダイアログ表示印刷を実行するファイルの拡張子を指定します。3 バイトの文字列を指定してください。

指定可能な文字種は、半角英文字（a～z、A～Z）、または半角数字（0～9）です。文字に英大文字が指定された場合は、英小文字が指定されたとみなします。

このオプションが省略された場合は、プリンタ選択ダイアログ表示印刷の拡張子として「pd2」が指定されたとみなします。

-ui

このツールを使用して設定した、PDF 手元非表示印刷に必要な情報を削除します。

このオプションは、他のオプションと同時に指定することはできません。

[実行結果の確認]

実行結果は、下記に示すログファイルに出力されます。

- ログファイル：(Windows のシステムフォルダ)¥Temp¥sw_f3happp.log

このログファイルの [ResponseResult] セクション内の “DetailCode” の値で、実行結果を確認できます。“DetailCode” の意味および対処方法は、以下のとおりです。

DetailCode	意味	対処方法
0	正常終了	—

DetailCode	意味	対処方法
-1	環境設定中に異常が発生し、セットアップを中断しました。	<ul style="list-style-type: none"> - ログファイルの Message1 ~ n に示す内容を確認してください。 - エラー原因を取り除き、再度ツールを実行してください。

なお、ログファイルへの書き込みに失敗した場合は、エラーを示すダイアログボックスが画面に表示されます。

[実行可能なプラットフォーム]

このコマンドは、Windows で実行可能です。

[注意事項]

- このコマンドを Acrobat Reader 4.0 以降がインストールされていない Web クライアントで実行することはできません。あらかじめ、Web クライアントに Acrobat Reader 4.0 以降をインストールしてから、このコマンドを実行してください。
- Internet Explorer が起動している場合は、これらのアプリケーションを終了させてから、このコマンドを実行してください。
- Web クライアントの再セットアップを行う場合は、必ず「-ui」オプションを指定してこのコマンドを実行し、いったん環境を削除してから、再セットアップを行ってください。
- このツールで定義するサイレント印刷、またはプリンタ選択ダイアログ表示印刷と同じ拡張子が、Web クライアントにすでに定義されている場合は、その拡張子に対応するファイルタイプ定義は、このツールの定義で置き換えられます（このツールで Web クライアントに拡張子を定義した場合を除く）。
- Windows でこのコマンドを実行する場合は、Administrators 権限をもつユーザのアカウントで実行してください。
- このコマンドを複数同時に実行すると、環境設定が正しく完了しません。複数同時実行は行わないようにしてください。
- Windows のシステムファイルの一部が壊れている場合、または削除されている場合は、このコマンドの実行に失敗することがあります。この場合は、Internet Explorer 5.0 以降を再度インストールしてください。
- このコマンドを Windows Vista で実行すると、「ユーザーアカウント制御 不明なプログラムがお使いのコンピュータへのアクセスを要求しています」という警告が画面に表示されることがあります。この場合は、「許可」をクリックして、インストールを継続してください。

C.2.4 Web クライアントの環境設定

ここでは、Web クライアントの環境設定手順を説明します。



備考

- ここで設定する内容は、“C.2.1 V9.0.1 以前の PDF 手元非表示印刷の環境設定概要”で説明したことを前提としています。

環境設定ツールを使用して、Web クライアントの環境設定を行う場合の詳細については、以下を参照してください。

⇒ “C.2.3 V9.0.1 以前の PDF 手元非表示印刷クライアント環境設定ツール”



注意

- オペレーティングシステムが Windows Vista の場合は、PDF 手元非表示印刷クライアント環境設定ツールを使用して Web クライアントの環境設定を行ってください。

C.2.4.1 ファイルタイプの設定

ファイルタイプの設定方法は、クライアントオペレーティングシステムによって手順が異なります。以下に、クライアントオペレーティングシステムごとに手順を説明します。

●クライアントオペレーティングシステムが、Windows XP、Windows Server 2003 の場合

- 1) Windows XP/Windows Server 2003 の場合は、Administrators 権限をもつユーザでログオンします。
- 2) Windows XP の場合は、[スタート] メニューで右ボタンをクリックして、[エクスプローラ (X)] を選択してください。
それ以外のオペレーティングシステムでは、[スタート] メニューから [プログラム (P)] - [アクセサリ] - [エクスプローラ] を選択します。
- 3) 「エクスプローラ」が起動します。起動したエクスプローラの [ツール (V)] - [フォルダオプション (O)...] を選択します。
- 4) 「フォルダオプション」ダイアログボックスが表示されます。「ファイルの種類」を選択します (Windows Server 2003 の場合は、「ファイルタイプ」を選択します)。

【サイレント印刷用の設定】

- 5) [新規 (N)] ボタンをクリックすると、「新しい拡張子の作成」ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスのファイルの拡張子に以下を設定します。

項目名	設定値
ファイルの拡張子 (F)	pd1

入力が終わったら [OK] ボタンをクリックしてダイアログボックスを閉じます。

- 6) 新しく追加した拡張子を選択し、「フォルダオプション」ダイアログボックスの [詳細設定] ボタンをクリックします。
- 7) 「ファイルの種類編集」ダイアログボックスが表示されます (Windows Server2003 の場合は、「ファイルタイプの編集」ダイアログボックスが表示されます)。このダイアログボックスの [アイコンの変更 (I) ...] ボタンの左側にあるテキストボックスに「PDF 手元非表示印刷定義 (サイレント印刷)」と入力します。
- 8) [新規 (N)...] ボタンをクリックします。
- 9) 「新しいアクション」ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスで以下を設定します。

項目名	設定値
アクション (A)	open
アクションを実行するアプリケーション (L)(*)	"《Adobe Reader コマンドのフルパス名》" /p /h "%1"

また「DDE を使用する」のチェックをオフにし、[OK] ボタンをクリックしてください。
(*) 《Adobe Reader コマンドのフルパス名》には、Adobe Reader コマンド (AcroRd32.exe) のフルパス名を指定します。
「新しいファイルの種類追加」ダイアログボックスが表示されたら、[OK] ボタンをクリックしてください。

【プリンタ選択ダイアログ表示印刷用の設定】

- 10) [新規 (N)] ボタンをクリックすると、「新しい拡張子の作成」ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスのファイルの拡張子に以下を設定します。

項目名	設定値
ファイルの拡張子 (F)	pd2

入力が終わったら [OK] ボタンをクリックしてダイアログボックスを閉じます。

- 11) 新しく追加した拡張子を選択し、「フォルダオプション」ダイアログボックスの「詳細設定」ボタンをクリックします。
- 12) 「ファイルの種類編集」ダイアログボックスが表示されます (Windows Server 2003 の場合は、「ファイルタイプの編集」ダイアログボックスが表示されます)。このダイアログボックスの「アイコンの変更 (I) ...」ボタンの左側にあるテキストボックスに「PDF 手元非表示印刷定義 (ダイアログ印刷)」と入力します。
- 13) 「新規 (N)...」ボタンをクリックします。
- 14) 「新しいアクション」ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスで以下を設定します。

項目名	設定値
アクション (A)	open
アクションを実行するアプリケーション (L)(*)	"《Adobe Reader コマンドのフルパス名》" /p "%1"

また「DDE を使用する」のチェックをオフにし、[OK] ボタンをクリックしてください。
 (*) 《Adobe Reader コマンドのフルパス名》には、Adobe Reader コマンド (AcroRd32.exe) のフルパス名を指定します。

- 15) 「ファイルタイプの編集」ダイアログボックスの [OK] ボタンをクリックして「ファイルタイプの編集」ダイアログボックスを閉じます。
- 16) 「フォルダオプション」ダイアログボックスが表示されたら、[閉じる] ボタンをクリックして、「フォルダオプション」ダイアログボックスを閉じます。

C.2.5 Web ブラウザに PDF ファイルをダウンロードさせるしくみ

PDF 手元非表示印刷を使用するとき、Web ブラウザに手元非表示印刷対象の PDF ファイルをダウンロードさせるしくみを検討する必要があります。
 しくみとして、以下の 2 方式を説明します。

- PDF 手元非表示印刷する PDF ファイルへのリンクを持った HTML ファイルを作成する
- Web サーバ上のアプリケーションが Web ブラウザに PDF ファイルの URL を復帰する

● PDF 手元非表示印刷する PDF ファイルへのリンクを持った HTML ファイルを作成する

手元非表示印刷の対象となる PDF ファイルへのリンクを持った HTML ファイルを作成し、その HTML ファイルを Web ブラウザで開き、ユーザがリンクをクリックすることで PDF 手元非表示印刷を実行します。

以下のサンプル HTML を Web ブラウザで開き、画面に表示されるリンクをクリックすると、リンク先ファイル名の拡張子に対応した PDF 手元非表示印刷が実行されます。

```
<HTML>
<BODY>
<A HREF="http://somehost/report.pd1"> サイレント印刷 </A><BR>
<A HREF="http://somehost/report.pd2"> プリント選択ダイアログ表示印刷 </A><BR>
</BODY>
</HTML>
```

PDF ファイルの URL は、システムに応じた値に変更してください。

● Web サーバ上のアプリケーションが Web ブラウザに PDF ファイルの URL を復帰する

Web ブラウザで、表示している HTML 中に定義された <FORM> タグ内のボタンをクリックすることで Web サーバ上のアプリケーションを呼び出し、Web サーバ上のアプリケーションが Web ブラウザに手元非表示印刷対象の PDF ファイルの URL を復帰する方式です。

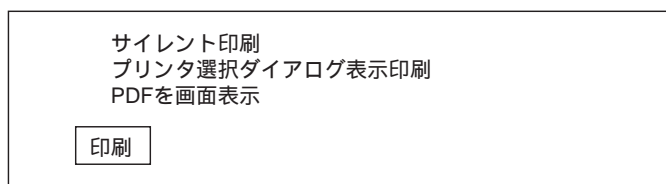
具体的には、HTTP プロトコルの“Location ヘッダ”を、手元非表示印刷対象の PDF ファイルの URL と共にブラウザに復帰します。Location ヘッダを受け取った Web ブラウザは、その中で指定された URL の PDF ファイルを Web サーバからダウンロードします。PDF ファイルをダウンロードすると、ファイル名の拡張子によって指定された方式で、PDF 手元非表示印刷を実行します。

Location ヘッダの復帰方法は、Web アプリケーションサーバの環境、および使用するプログラミング言語によって異なります。具体的な方法については、Web アプリケーションサーバのマニュアルなどを参照してください。

以下に、Location ヘッダを復帰するサンプルを示します。

サンプルについて

- このサンプルでは、List Creator Enterprise Edition を使用して PDF ファイルを動的に生成し、サイレント印刷、プリンタ選択ダイアログ表示印刷、および PDF のブラウザ画面表示を実行できます。
- サンプルは、HTML サンプルと、プログラムソースの 2 つで構成されています。HTML サンプルを Web ブラウザで読み込むと、以下のような画面が表示されます。



上の 3 つの選択肢から、実行する処理を選び、下の [印刷] ボタンをクリックすると、Web サーバのプログラムが呼び出され、指定した処理が実行されます。

- Web サーバのサンプルがあります。サンプルは実行環境に合わせて修正して使用してください。それぞれの方式の動作に必要なディレクトリ作成やファイル配置などの環境設定については、サンプルにコメントとして記載していますので、参照してください。サンプルの詳細については、以下を参照してください。
⇒“付録 B PDF 手元非表示印刷機能 Web サーバサンプルプログラム”

なお、各方式で使用している、List Creator が提供するインタフェースの意味については、オンラインマニュアル“アプリケーション作成ガイド”を参照してください。

注意 - サンプルの動作には、それぞれのインタフェースに応じた実行環境が必要です。実行環境のセットアップについては、各実行環境のマニュアルなどを参照してください。

C.2.6 注意事項

PDF 手元非表示印刷を使用する際に、Web ブラウザ、および Adobe Reader の仕様によって、以下の注意事項があります。

● Web ブラウザの注意事項

- Internet Explorer をお使いの場合、手元非表示印刷を行うために、Web クライアントの環境設定を行った後、手元非表示印刷用 PDF ファイルをダウンロードすると「ファイルのダ

ウンロード」ダイアログボックスが表示される場合があります。この場合は、以下のよう
にダイアログボックスの値を設定後、[OK] ボタンをクリックしてください。

- ・「このファイルの処理方法」は「このファイルを上記の場所から開く」を選択する。
- ・「この種類のファイルであれば常に警告する」のチェックをオフにする。

● Adobe Reader の仕様による注意事項

(a) Adobe Reader がすでに起動している場合の注意事項

PDF 手元非表示印刷は、以下の状態での実行は推奨しません。

- Adobe Reader アプリケーションが起動している
- PDF ファイルをブラウザウィンドウで表示している

これらの状態のとき、以下の現象が発生します。

Adobe Reader アプリケーションが起動している場合

- ・ PDF 手元非表示印刷を実行すると、Adobe Reader アプリケーションのウィンドウが最
前面に表示されます（Adobe Reader アプリケーションのウィンドウが最小化されてい
る場合を除く）。
- ・ Adobe Reader アプリケーションで、ダイアログボックス（検索ダイアログを除く）を
表示している、または Adobe Reader アプリケーションが印刷を実行している場合は、
PDF 手元非表示印刷に失敗します。

PDF ファイルをブラウザウィンドウで表示している場合

- ・ PDF 手元非表示印刷を実行中に、ブラウザウィンドウで表示している PDF ファイルを
操作（スクロールさせるなど）すると、印刷中の PDF 手元非表示印刷が中断します。
- ・ プリンタ選択ダイアログ表示印刷を実行すると、印刷完了後に Adobe Reader アプリ
ケーションのウィンドウが最前面に表示されます。
- ・ PDF ファイルを表示しているブラウザウィンドウで、ダイアログボックスを表示して
いる、または印刷を実行している場合は、PDF 手元非表示印刷に失敗します（Acrobat
Reader 5.0、または Adobe Reader 6.0 以降の場合、プリンタ選択ダイアログボックスを
表示している状態を除く）。

(b) Acrobat Reader 4.0 をご使用の場合の注意事項

Acrobat Reader 4.0 をご使用の場合は、PDF 手元非表示印刷を多重に実行すると、最初の印刷以外は実
行されません。

(c) Acrobat Reader 5.0、または Adobe Reader 6.0 以降をご使用の場合の注意事項

Acrobat Reader 5.0、または Adobe Reader 6.0 以降をご使用の場合は、PDF 手元非表示印刷を実行後、
Adobe Reader アプリケーションが終了しません。Adobe Reader アプリケーションの
[ファイル] ー [終了] を選択して、Adobe Reader アプリケーションを終了させてください。なお、PDF
ファイルをブラウザウィンドウで表示している場合は、Adobe Reader アプリケーションを終了させない
でください。終了させると、PDF ファイルを表示しているブラウザウィンドウがクリアされ、PDF ファ
イルが表示されなくなります。

PDF 手元非表示印刷を多重または連続で実行すると、正しく印刷が行われない場合があります。また、
連続して印刷を実行する場合には、手元非表示印刷機能が呼び出し元のアプリケーションに復帰した直
後でも、Adobe Reader が印刷処理を行っている場合があります。



注意

- 連続して PDF 手元非表示印刷を行う場合には、Adobe Reader の印刷処理が完
了する十分な間隔をおいて次の PDF 手元非表示印刷を実行してください。

索引

A

Acrobat JavaScript の設定	176
Acrobat による文書情報の表示に関する 注意事項	171
Adobe Reader の注意事項	173
Adobe Reader の版数に関する注意事項	173

L

lcaddcert	145
lcchgpasswd	147
lclistcert	147
lcrmcert	146
lcrmenu	144
lcsetenv	142
List Creator 単体での PDF ファイルの出力	30
List Works と連携した PDF ファイルの出力	50

M

Meft と連携した PDF ファイルの出力	48
------------------------------	----

P

PDF 操作コマンドで使用する PDF 文書情報ファイルの記述例	133
PDF 操作コマンドで使用する PDF 文書情報ファイルのキーワード一覧	122
PDF 手元非表示印刷	14
PDF 手元非表示印刷クライアント環境設定 プログラム	151
PDF 手元非表示印刷の環境設定の概要	150
PDF 手元非表示印刷の注意事項	154
PDF 手元非表示印刷	42
PDF ファイル操作コマンド	105
PDF ファイル出力	30
PDF ファイルの検索	174
PDF ファイルの暗号化機能	12
PDF ファイルの印刷に関する注意事項	175
PDF ファイルの制限に関する注意事項	174
PDF ファイルのセキュリティ機能	12

PDF 文書情報ファイル	55, 122
PDF 文書情報ファイルのキーワード一覧	57
PDF 文書情報ファイルの記述例	80
PDF 文書情報ファイルの指定方法	55
PDF 文書情報ファイルの書式	56
PDF 変換機能一覧	184
PDF 変換機能とは	7
PDF 変換機能の動作環境	27
PDF メール環境設定ファイル	55
PDF メール環境設定ファイルのキーワード 一覧	93
PDF メール環境設定ファイルの記述例	104
PDF メール環境設定ファイルの書式	81
PDF メール配信	20, 31
PDF メール配信時の注意事項	183
PDF メール配信情報ファイル	55
PDF メール配信情報ファイルのキーワード 一覧	83
PDF メール配信情報ファイルの記述例	104
PDF メール配信情報ファイルの指定方法	81
PDF メール配信情報ファイルの書式	81
PDF リモート印刷	42
PDF リモート印刷の環境設定	156
pmdocinf	112
pmxteff	118
pmfmerge	106
pmfsplit	108
pmpagcnt	117
pmsecinf	114

S

SecurePackage を使用したファイル配信	46
---------------------------------	----

U

URI 閲覧制限設定	12
------------------	----

W

Web クライアントの環境設定	151
Web サーバの環境設定	150
Web ブラウザに PDF ファイルをダウンロード させるしくみについて	153

あ	
アプリケーション作成時の注意事項	171
網がけパターンに関する注意事項	174
暗号化	12
い	
印刷資源管理での運用	53
う	
運用上の注意	166
え	
閲覧期間設定	13
閲覧期限設定	13
エンベッド（貼り付け）	36, 51
お	
オーバーレイに関する注意事項	179
か	
外字のエンベッド（貼り付け）	51
外字を使用した PDF の出力方法	51
き	
機能概要	8
基本運用形態	30
こ	
高精度なバーコード生成機能	11
さ	
作業ファイルの生成に関する注意事項	171
し	
出力できる文字について	
(PDF ファイル保存時)	194
証明書管理環境定義ファイル	138
証明書管理環境定義ファイルのキーワード一覧	138
証明書管理コマンド	138
証明書管理コマンドの一覧	142
せ	
セキュアなメール配信	43
セキュリティ	12
ち	
帳票業務情報設定時の留意事項 (PDF ファイル保存時)	169
帳票業務情報のサポート一覧 (PDF ファイル保存時)	193
帳票設計時のフォントの使用	36
帳票に指定できる文字 (PDF ファイル保存時)	194
帳票の文字コード変換 (PDF ファイル保存時)	195
帳票様式情報設計時の留意事項 (PDF ファイル保存時)	167
に	
日本語資源管理から直接登録する運用	52
入力データに指定できる文字 (PDF ファイル保存時)	195
は	
バーコード生成	11
バーコードに関する注意事項	181
破線パターンに関する注意事項	174
ふ	
ファイルタイプの設定	151
フォントのエンベッド（貼り付け）	36, 51
フルスクリーン表示に関する注意事項	172
へ	
ページマスク機能	13

も

文字の表示に関する注意事項171

ろ

ログイングループ ID46
ログインユーザ ID46